

# 目次

## 文化言語学部 文化言語学科

### 教養教育科目

文化言語入門	1
スタディスキルⅠ	2
スタディスキルⅡ	3
日本伝統文化Ⅰ：華道・能楽	4
日本伝統文化Ⅱ：着付・茶道	5
熊本学	6
西洋史	7
東アジア史	7
心理学	8
海外語学研修（中国語）	9
海外語学研修（韓国語）	9
メディア学入門	10
ジェンダー論	10
人権論	11
日本国憲法	12
図書館概論	13
生涯学習概論	14
特別支援教育概論	15
情報処理総論	15
情報処理実務Ⅰ	16
情報処理実務Ⅱ	16
文書処理応用	17
表計算応用	17
体育Ⅰ	18
体育Ⅱ	18
英語ⅠA：竹下	19
英語ⅠA：柚木	20
英語ⅠB：竹下	21
英語ⅠB：柚木	22
中国語Ⅰ	23
中国語Ⅱ	23
韓国語Ⅰ	24
韓国語Ⅱ	24
キャリア形成入門	25
キャリアデザインⅠ	26
日本文化論	27
日本史	27
生涯発達心理学	28
臨床心理学	29
情報と社会	29
児童サービス論	30
環境の科学	31
基礎数学	31
応用数学	32
英語ⅡA	33

英語ⅡB	34
キャリアデザインⅡ	35
インターンシップ	35
ビジネスマナー	36
コミュニケーション論	36
社会心理学	37
読書と豊かな人間性	38

### 専門教育科目

日本文学概論	41
創作鑑賞Ⅰ	41
日本古典文学史Ⅰ	42
日本古典文学史Ⅱ	42
日本近現代文学史Ⅰ	43
中国文学概説Ⅰ	43
日本語史	44
日本語学概説	44
文章表現	45
音声言語	45
書学概論Ⅰ	46
仮名書法	46
楷書法	47
行書法	47
漢字古典研究	48
書写・書道概論	48
書写・書道Ⅰ	49
書写・書道Ⅱ	49
社会学概説	50
地域社会論	50
中国事情	51
韓国事情	52
国際日本学	53
ボランティア論	54
サービスラーニング入門Ⅰ	54
サービスラーニング入門Ⅱ	55
課題探求プロジェクト演習	56
海外フィールドワーク	56
日本語表現論Ⅰ	57
日本語表現論Ⅱ	57
英語基礎Ⅰ：田口	58
英語基礎Ⅰ：竹下	58
英語基礎Ⅱ：田口	59
英語基礎Ⅱ：竹下	59
中国語基礎Ⅰ	60
中国語基礎Ⅱ	60
韓国語基礎Ⅰ	61
韓国語基礎Ⅱ	61

文学研究概論	62	コミュニケーション中国語Ⅱ	91
創作鑑賞Ⅱ	63	検定中国語	91
専門基礎演習Ⅰ：武田	63	韓国語中級Ⅰ	92
専門基礎演習Ⅱ：宮崎	64	韓国語中級Ⅱ	92
専門基礎演習Ⅲ：福永	64	コミュニケーション韓国語Ⅰ	93
専門基礎演習Ⅳ：畠山	65	コミュニケーション韓国語Ⅱ	93
日本古典文学講義Ⅰ	65	検定韓国語	94
日本古典文学講読Ⅰ	66	日本古典文学講義Ⅱ	94
日本古典文学講読Ⅱ	66	日本古典文学演習Ⅰ	95
日本近現代文学史Ⅱ	67	日本古典文学演習Ⅱ	95
日本近現代文学講義Ⅰ	68	日本近現代文学講義Ⅱ	96
日本近現代文学講読Ⅰ	68	日本近現代文学演習Ⅰ	96
日本近現代文学講読Ⅱ	69	日本近現代文学演習Ⅱ	97
中国文学概説Ⅱ	69	漢文学講義Ⅱ	97
漢文学講義Ⅰ	70	漢文学演習Ⅰ	98
漢文学講読Ⅰ	70	漢文学演習Ⅱ	98
漢文学講読Ⅱ	71	日本語教育文法概論	99
日本語文法	71	日本語教授法概論	99
談話分析	72	日本語学演習Ⅰ	100
言語心理学	72	日本語学演習Ⅱ	100
書学概論Ⅱ	73	刻字	101
草書法	73	書道史Ⅰ	101
篆書法	74	書道史Ⅱ	102
隸書法	74	名跡鑑賞	102
漢字仮名交じり書	75	書論研究	103
仮名古典研究	75	創作研究Ⅰ	103
篆刻	76	創作研究Ⅱ	104
書式研究	76	アート表現研究	104
専門基礎演習：J C	77	水墨画研究	105
地域振興論	77	熊本国際交流史	105
地域政策論	78	現代コミュニケーション演習Ⅰ：中川	106
現代社会論	78	現代コミュニケーション演習Ⅰ：北口	106
社会調査法	79	現代コミュニケーション演習Ⅰ：所	107
異文化理解	79	現代コミュニケーション演習Ⅰ：田口	107
アメリカ事情	80	現代コミュニケーション演習Ⅱ：中川	108
東アジア近現代史	80	現代コミュニケーション演習Ⅱ：北口	108
NPO論	81	現代コミュニケーション演習Ⅱ：所	109
サービスマーケティング演習Ⅰ	82	現代コミュニケーション演習Ⅱ：田口	109
サービスマーケティング演習Ⅱ	83	データベース論	110
地域プロジェクトワーク	83	簿記演習	110
海外プロジェクトワーク	84	会計学	111
専門基礎演習：M C	85	秘書総論	111
情報技術特論	86	秘書実務	112
消費行動論	86	ビジネス実務総論	112
英語演習Ⅰ	87	ビジネス実務演習	113
英語演習Ⅱ	87	児童英語	113
TOEIC PreparationⅠ	88	TOEIC PreparationⅡ	114
英会話Ⅰ	88	英語プレゼンテーション	114
英会話Ⅱ	89	ビジネス中国語	115
中国語中級Ⅰ	89	中国語翻訳・通訳演習Ⅰ	116
中国語中級Ⅱ	90	ビジネス韓国語	117
コミュニケーション中国語Ⅰ	90	韓国語翻訳・通訳演習Ⅰ	117

韓国語翻訳・通訳演習Ⅱ	118
日本古典文学演習Ⅲ	118
日本近現代文学演習Ⅲ	119
漢文学演習Ⅲ	119
日本語教育実習	120
観光英語応用	120
観光中国語応用	121
観光韓国語応用	122
旅行業法規	122

図書・図書館史	158
図書館情報資源特論	159
図書館基礎特論	160
図書館実習	161

## 司書教諭に関する科目

学校経営と学校図書館	165
学習指導と学校図書館	166

## 卒業研究・卒業作品研究

卒業研究：JL	125
卒業研究：JC	126
卒業研究：AA	127
卒業研究：LC	127
卒業作品研究：JC	128

## 教職に関する科目

教職論	131
教育原理（教育課程を含む）	132
教育方法論	133
教育制度	134
国語科教育法Ⅰ	135
国語科教育法Ⅱ	136
書道科教育法Ⅰ	136
道徳教育の研究	137
特別活動の研究	138
教育心理学	138
国語科教育法Ⅲ	139
国語科教育法Ⅳ	139
書道科教育法Ⅱ	140
生徒指導論（進路指導を含む）	141
教育相談（カウンセリングを含む）	142
教育実践研究	143
教職実践演習（中・高）	144

## 司書に関する科目

図書館情報技術論	147
図書館制度・経営論	148
図書館サービス概論	149
情報サービス論	150
情報サービス演習（A）	151
情報サービス演習（B）	152
図書館情報資源概論	153
情報資源組織論	154
情報資源組織演習（A）	155
情報資源組織演習（B）	156
情報メディアの活用	157



# 文化言語学部

---

文化言語学科・教養教育科目



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文化言語入門		1	専任教員	1年	前期	演習	必修
授業概要	文化言語入門では、大学に入学したばかりの皆さんが大学生活をよりスムーズに始められるようにサポートし、建学の精神や本学の歴史から始まり、授業履修の方法、図書館活用の方法、学生生活をよりよく送るための基礎知識を習得します。また武蔵ヶ丘キャンパス地域周辺と大学の地域性を学習するために、講義と探索をグループで協力して武蔵ヶ丘マップを作成します。						
キーワード	建学の精神、尚綱の理念、履修登録指導、学生支援講座、図書館案内、学外研修、PROG テスト、キャリア指導						
到達目標	学生が初年時に円滑な学生生活ができるような基本生活や基本学習のスキルを身につける。						
受講生に望む事	遅刻や欠席をせずに、学生間のコミュニケーションを心がけること。						
事前・事後学習	講義等で気になった用語等を調べて理解すること。						
評価方法	受講姿勢(60%)、学期末感想文(20%)、セミナー行事への積極的参加姿勢(20%)とする。欠席回数が前回数分の3分の1を超えた場合、単位認定は行わない。						
回	授業計画						
1	建学の精神と図書館利用(1)	建学の精神と図書館利用方法					学部長・担当教員、図書館
2	RPOGテスト(1)	学生の基礎力測定					教務委員会/就職委員会
3	学生支援講座(1)	カウンセラー指導・保健指導講座					学生支援課
4	地域社会と大学	大学と地域とのつながりとグループ学習					外部講師等
5	武蔵ヶ丘アクティブマップの作成(1)	マップ作成のグループ分けマップの説明					専任教員
6	武蔵ヶ丘アクティブマップの作成(2)	マップ作成のための散策					専任教員
7	武蔵ヶ丘アクティブマップの作成(3)	マップの作成					専任教員
8	RPOGテスト(2)	RPOGテストの分析結果の配布と解説会					教務委員会
9	図書館利用案内(2)	図書館や情報処理室での書籍・論文検索					図書館
10	学生支援講座(2)	薬物乱用防止講座(熊本県福祉課)					学生支援課
11	学生支援講座(3)	消費者教育講座					学生支援課
12	学生支援講座(4)	防犯対策講座					学生支援課
13	武蔵ヶ丘アクティブマップの作成(4)	作成したマップの発表会					専任教員
14	就職支援講座	キャリア指導					就職課
15	履修指導	試験と夏季休業等について					学部長・教務委員会・コース主任
関連科目	教養科目及び専門科目全般						
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先							
オフィスアワー	担当が回ごとに変わるため、授業の前後で質問を受け付ける。						
備考	文化言語入門の日程は担当講師の都合により日程が変更となる場合がある。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキル I	1	いしば 稲葉 浩一	1年	前期	講義	必修
授業概要	<p>「大学の勉強は中学や高校と違う」。そう聞いたことがあるひとは多いだろう。ではどう違うのだろうか？たとえば中学や高校でみなさんがやってきた勉強は、おそらく板書を写したり、教科書やプリントのなかの重要（≒テストに出る可能性の高い）とされる単語や文に線を引いたりとしたことが主だっただろう。それは「覚えるための技術＝ラーニングスキル」といえるかもしれない。</p> <p>だがこういった技術は、一言でいえば「覚えるべき知識（情報）を覚える」ことに重きがおかれている。いわば「答え覚え」と「答え合わせ」のための勉強の技術だ。もちろんこういったことは大学の勉強でも重要なのだが、知識（情報）をただテストに出るからと暗記しただけでは（ましてや写したり線を引いただけでは）ほとんど意味をなさない。</p> <p>それでは大学では何が求められているのだろうか？それは、最終的には「答え探し（作り）」や「問題探し（作り）」ができるようになることである。授業ではさまざまな言葉や文が提示される。それをただ写したり、線を引いただけで喜んでいてはいけない。その背後にある、その授業で伝えられようとしている「考え」や「世界」を理解し、与えられた言葉を自分のものにしていく。そこから「答え探し（作り）」や「問題探し（作り）」が始まるのだ。</p> <p>この授業ではまさにその「はじめの一步」となる、「探究するための技術＝スタディスキル」の基礎の基礎を習得することが目指されている。</p>					
キーワード	スタディスキル、探究的学習					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における探究的学習の基礎となる学習方法の基礎を習得する。</li> <li>・大学の学習活動において必要となる基本的なソーシャルスキルを獲得する。</li> </ul>					
受講生に望む事	これは大学4年間を通じてのことだが、「どれがテストに出るのか」といった態度からいったん離れて、「この授業では何が伝えられようとしているのか」という姿勢で取り組んでほしい。					
事前・事後学修	「スキル」とは特技である。特技は反復することなしに身につかない。よって授業で行ったトレーニングを各自が積極的に反復し、自分のものにする努力が求められる。					
評価方法	授業内で提示する課題・提出物（70%）、平常点（30%）とする。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション：スタディスキルとは何か					
2	大学とはどういうところか？					
3	学びを支えるソーシャルスキル					
4	講義はどのように受けるものなのか？					
5	演習とはどういった授業なのか？					
6	レポート・レジュメの作成について①：「大学生らしい」文章の書き方					
7	レポート・レジュメの作成について②：「丸写し作文」からの脱却に向けて					
8	まとめと補論					
関連科目	スタディスキルII					
資格						
教科書	吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠，2011，『スタディスキルズ・トレーニング』実教出版。					
参考資料	戸田山和久，2002，『論文の教室』NHK出版 ほか適宜授業内で紹介する。					
連絡先	e-mail. kinaba@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
スタディスキルⅡ	1	専任教員	1	後期	演習	必修
授業概要	スタディスキルⅠで学んだことを実践する授業である。少人数で評論文等を講読することで、「本の読み方」、「要約の方法」、「情報検索・収集の仕方」等を実践的に学ぶ。また、レジュメの作成やプレゼンテーション、ディスカッションなどの基礎を体験し、論文について理解し文書作成の基礎知識を習得する。					
キーワード	評論文、レポート、卒業論文					
到達目標	本の読み方、要約の方法、情報検索・収集の仕方等を実践的に学習し、レポート・論文を作成するための基礎を身につける。					
受講生に望む事	欠席や遅刻をせずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識をもって取り組んでほしい。					
事前・事後学修	指定された評論文や教科書を事前に読んでおくこと。 授業中の課題の復習やレポートを作成すること。					
評価方法	まとめのレポート、ディスカッション等(70%)、平常点(30%)とする。具体的には各教員が指示する。					
回	授業計画					
1	各ゼミにてオリエンテーション					
2	みんなで「評論文」を読もう1					
3	みんなで「評論文」を読もう2					
4	みんなで「評論文」を読もう3					
5	みんなで「評論文」を読もう4					
6	みんなで「評論文」を読もう5					
7	みんなで「評論文」を読もう6					
8	まとめ(レポート or ディスカッション or ディベート)					
9	個別指導					
10	個別指導					
11	個別指導					
12	個別指導					
13	個別指導					
14	個別指導					
15	各ゼミでまとめ					
関連科目	スタディスキルⅠ					
資格						
教科書	スタディスキルズ・トレーニング 実教出版					
参考資料						
連絡先						
オフィスアワー	担当によりオフィスアワーの時間が異なるので、担当講師より初回講義日に通知する。					
備考	個別指導は初回に配布するスタディスキルⅡ担当一覧の先生により授業内容をレジュメ等で指示する。(宇野)熊本地方裁判所の裁判傍聴などの学外学修(1回)を10回目に予定している。その場合の交通費等は自己負担とする。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本伝統文化Ⅰ：華道・能楽		2	坂田 弘子 飯富 章宏	1年	前期	講義 実技	必修
授業概要	<p>[華道：坂田全8回] 日本の伝統文化である華道の、歴史的な成り立ちから現代までの流れについて学ぶ。華道について実技を交えて学習し、基本の形を習得する。</p> <p>[能楽：飯富全8回] 能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能を学んでいく。実技体験やビデオ学習も併用し、その後の日本文化の理解にもつながることを目指す。</p>						
キーワード	<p>[華道] パワーポイントによる作品鑑賞、実技（一人一作生花をいける。場合によりグループ制作もある。）</p> <p>[能楽] 伝統芸能、芸能史、能楽、世阿弥、熊本の能楽、夏目漱石</p>						
到達目標	<p>[華道] 日本の伝統文化である華道について、基礎的事項（歴史的経緯、現代的意義）の理解・小原流挿花の基礎花型（たてるかたち、かたむけるかたち）習得・小原流いけばな初等科修了書授与（希望者）</p> <p>[能楽] 古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。能楽はじめ諸々の日本伝統芸能の理解を深めることも望ましい。</p>						
受講生に望む事	<p>[華道] 伝統文化であるいけばなを楽しんでください。国内148支部、世界各国（57支部22支所）でいけばなを学んでいる人々がいます。大学で学べるこの機会を大切に是非基本を身に付けてください。</p> <p>[能楽] 講義中に映像や実技なども多用するしっかり鑑賞してもらいたい。レポートを課すが、簡潔にして、主旨を明瞭に述べることを求める。礼儀をわきまえた真面目な受講を求む。</p>						
事前・事後学修	<p>[華道] 歴史の流れに沿った学習であるので、次に続くよう必ず前回の復習をし、講義に臨むこと。</p> <p>[能楽] 本年は、漱石没後百年の年にあたる。漱石と能楽の関係を理解するために「草枕」を最終日までに読む事。</p>						
評価方法	<p>[華道] 実技とレポートにより評価する。実技（技能習得）50% レポート提出50%</p> <p>[能楽] 授業出席を重視する。授業態度の良くない学生には退出を命じる。レポートも課す。</p>						
<b>授業計画</b>							
	[華道]					[能楽]	
1	基礎的ないけばなの鑑賞・現代のいけばな・実技（小さな器に生ける）	1	オリエンテーション 能楽を知ろう。能楽の源流。『翁猿楽』「式三番」				
2	華道の歴史Ⅰ（はじまり～平安時代）・基礎花型の練習（たてるかたち）	2	古代から能楽以前の日本芸能				
3	華道の歴史Ⅱ（～室町時代）・基礎花型の練習（たてるかたち）	3	神能「高砂」				
4	華道の歴史Ⅲ（～江戸時代）・基礎花型の練習（かたむけるかたち）	4	修羅能「清経」				
5	華道の歴史Ⅳ（～明治時代）・基礎花型の練習（かたむけるかたち）	5	髪物能「井筒」				
6	華道の歴史Ⅴ（～現代）・基礎花型の練習（たてるかたち・かたむけるかたち）	6	現在物能「隅田川」				
7	基礎花型の練習・応用型（ならぶかたち・ひらくかたち）	7	切能「船弁慶」				
8	基本のかたちの確認（実技テスト）（たてるかたち・かたむけるかたち）	8	近世以降の伝統芸能への影響。まとめ、評価、質疑応答。				
関連科目	日本伝統文化Ⅱ						
資格	希望によりいけばな小原流初等科修了書（免許状）						
教科書	<p>[華道] 授業時に説明を行います。（実技のテキストは希望者のみ購入可）</p> <p>[能楽] なし。資料は講義中に配布する。</p>						
参考資料	[能楽] 参考図書として「図解日本音楽史」田中健次／東京出版、「マンガ能百番」渡辺睦子／新潮社						
連絡先	教務課						
オフィスアワー							
備考	<p>[華道] 花代は学生の負担となります。（1回200円程度）</p> <p>※授業グループについて</p> <p>Aグループ：能楽終了後、華道の授業となります。 Bグループ：華道終了後、能楽の授業となります。</p>						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本伝統文化Ⅱ：着付・茶道		2	よしだ ゆみこ 吉田 裕美子 しもじょうかおる 下城 香	1年	後期	講義	選択
授業概要	(吉田：1～8回) 着物の基礎知識(着物の部位の説明、着物の種類とTPO)を習得する。・帯の基礎知識(帯の種類とTPO)を習得する。・和装に必要な小物の説明と前準備・実践、自分の着付の手順を体得 (下城：9～10回)「茶の湯とは？」精神と技法を、講義と実践を通して学ぶ。茶の湯が日本文化に与えた影響は大きいものがあります。茶の湯は、日本人の暮らしと共にあり、現在も私達に、心の豊かさ、楽しみをもたらしています。						
キーワード	・和装 器具を使用しない昔ながらの紐のみで着付けと帯結び 礼儀作法 ・おいしいお茶とはどんなものを言うのか、味覚だけに止まらず、茶席の趣向、季節、ふるまいの美しさや語りの奥ゆかしさ、心づかいを味わってみる。						
到達目標	・自分の着付(着物・帯)の基礎的な手順を習得し、実践できるようになる。 ・茶の湯の歴史や精神に触れ、茶の湯が私達の日常生活に、身近な日本文化であることを理解する。						
受講生に望む事	・遅刻しないようにすること。私語は慎むこと。忘れ物のないようにすること。 ・一服のお茶が、受講生の琴線に触れ、日本の美しい豊かな心、日本文化のしとやかさ、素晴らしさの再発見に繋がれば、嬉しくおもいます。そして、日常生活に活かしていただけたらと思います。						
事前・事後学修	1回目の講義で配布する資料を学修しておく。 日本文化に興味を持つ。						
評価方法	(吉田) 実技試験 40%、筆記試験 40%、学習態度 20% (下城) 実践、レポートによって評価する。						
回	授業計画						
1	着物 帯の基礎知識の習得と和装に必要な小物の説明と前準備について						
2	実践 着物の着方(足袋、下着の身に付け方、補正の仕方、長襦袢、着物の着方)						
3	実践 着物の着方と名古屋帯(一重太鼓)の結び方						
4	実践 着物の着方と名古屋帯(一重太鼓)の結び方						
5	実践 着物の着方と袋帯(二重太鼓)の結び方						
6	実践 着物の着方と半幅帯の結び方						
7	実践 着物の着方と半幅帯の結び方						
8	実技試験、筆記試験						
9	茶の湯の歴史、背景、精神について学ぶ。(講義)						
10	茶室の作法(実践) 客として招かれてみる。(10～15回)						
11	茶室のはいり方。襖や障子の開け方、閉め方、畳の歩き方、お菓子の取り方、						
12	頂き方、抹茶の頂き方、客同志の心づかいを学ぶ。						
13	茶席の趣向を楽しむ。						
14	一服のお茶に込められたもてなしの心に触れる。						
15	客の心得。心の通い合い。 美味しいお茶とはどんなものかを感じ味わってもらおう。お茶を点てる。						
関連科目	日本伝統文化Ⅰ						
資格							
教科書	授業時に説明を行います。						
参考資料							
連絡先	教務課						
オフィスアワー							
備考	1～8回「和装に必要な小物」・足袋、肌着、裾よけ、長襦袢(半襟をつけておく)・伊達締め2本、腰ひも5～6本、袴芯、タオル4～5枚、クリップ(洗濯ばさみ)・帯締め、帯揚げ、帯板(なるべくゴムベルト付きが良い)、帯枕・着物、帯(名古屋帯、袋帯、半幅帯) (下城)茶菓子代は各自負担のこと。白のソックス・スカート着用						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
熊本学	2	宇野・畑田 川上	1年	後期	講義	必修
授業概要	尚絅大学の「地元」である「熊本」について、文化・言語・歴史・地域・情報・芸術・生活などさまざまな観点から学ぶ。知っているようで知らない「熊本」を発見する新鮮さを感じつつ、学問的な切り口で自分たちの「地元」を見つめなおすことで、学ぶことの楽しさ・奥深さを実感してほしい。教室での講義だけでなく、地域の施設などでの学外学修や、グループでの「熊本CM」作成など、多様な形での学修となるので、何事にも積極的に参加することで、より楽しむことができる科目である。					
キーワード	熊本の歴史・文化・言語、地域社会、情報の収集と発信、グループワーク					
到達目標	1. 身近な「熊本」について、多様な観点から学修する。 2. 地域社会の現実を知り、自ら積極的に情報を収集することを体験する。 3. グループごとに行動することにより、相互にコミュニケーションを図り、協力して成果を上げることを目指す。 4. 講義・グループ学習・学外学修で得た知識を自分なりに整理し、「熊本」の魅力を他者に発信することができる。					
受講生に望む事	1. 大学で何を学び、身に着けるかは自分次第。あらゆるトピックに興味関心を広げるとともに、自分の好きな領域については、自主的に学修内容を掘り下げていってみよう。また、グループメンバーと協力し、自分から行動するという実践してほしい。 2. 第7回、第14回でそれぞれグループごとの発表をしてもらうので、毎回の講義のポイントをまとめること（第1回ガイダンス時に詳細を説明する）。					
事前・事後学	事前学修…夏季休暇前に課題をアナウンスする。 事後学修…グループワーク等で出された課題を期限までに仕上げる。					
評価方法	講義に対する感想文および課題の提出（90%）、受講態度（10%）。 欠席回数が全体の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。					
回	授業計画					
1	ガイダンス／熊本のこと、どれだけ知っていますか？					
2	熊本の文化と言語					
3	熊本の歴史					
4	熊本の地域社会①地域社会に貢献する「世界と熊本をつなぐ」（学外講師：予定）					
5	熊本の芸術					
6	熊本の文学					
7	前半のふりかえり①—グループワークで「熊本」を学ぼう					
8	前半のふりかえり②—「熊本」の魅力を発表しよう／地域の中で実践しよう（フェアトレード等を予定）					
9	熊本の地域社会②地域社会に貢献する「くまもとの街づくり」（学外講師：予定）					
10	熊本の文化と情報（学外講師：予定）					
11	熊本の過去・現在・未来—学外学修（県立図書館、五高記念館、文学者旧居等の予定）					
12	熊本の女性					
13	後半のふりかえり①—グループワークで「熊本学」を振り返ろう					
14	後半のふりかえり②—「熊本3分CM」を作ろう					
15	全体のふりかえり					
関連科目	文化言語学部のすべての科目に関連する。					
資格						
教科書						
参考資料						
連絡先	宇野 funo@shokei-gakuen.ac.jp 畑田 hatada@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	第一回の講義でアナウンスする。					
備考	・学外学修に係る交通費等は各自で負担する。 ・講師のスケジュール等により、授業計画が変更になることもある。事前に連絡するので、グループできちんと確認すること。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
西洋史	2	うちだ 内田 良太	1年	後期	講義	選択	
授業概要	本講義の目的は近世フランスの人々の日常生活に注目し、その特質を解明することです。歴史を学ぶということは過去の人間の営みを知ることです。遠い過去である近世フランスの人々の生活と現代社会に生きる皆さんの生活のあいだには共通する点が数多くあります。本講義を通じて、皆さんとともに過去の、しかも異国の人間の日常生活を知り、大いに共感することができればと考えています。なお、講義毎にリアクション・ペーパーと呼ぶ授業に対する意見・質問・感想を記入する用紙を配布します。皆さんの積極的な書き込みを求めます。						
キーワード	文化 民衆 エリート ブルジョワ 性差 フランス革命 ヴェルサイユ宮殿						
到達目標	・近世フランスの人々の日常生活を知り、大いに共感すること。 ・事件や出来事の羅列ではない歴史の見方をするができること						
受講生に望む事	・様々なことに興味や関心を持って下さい。 ・他人の学習を妨害しないで下さい。						
事前・事後学修	[事前学習] 講義開始までに前回講義の配布資料を通読しておいて下さい。 [事後学修] 講義時に配布する資料に参考文献を掲載していません。興味を持ったテーマについて各自で知識を深めて下さい。	評価方法	定期試験 (60%)、中間レポート (10%)、リアクション・ペーパー (30%) の三つを総合して評価します。				
回	授業計画		回	授業計画			
1	はじめに――講義の概要		9	働く			
2	歴史学の方法①		10	読む			
3	歴史学の方法②		11	病気と死			
4	近世フランスの社会		12	宮廷文化――国王の儀礼と支配の諸相			
5	生まれる		13	民衆文化①――魔女			
6	結婚する		14	民衆文化②――民衆文化とブルジョワ文化			
7	衣食住		15	おわりに			
8	学ぶ		16	定期試験			
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格			オフィス アワー				
教科書	特になし（講義毎に資料配布）		備考	通話や授業とは無関係な私語等、他の出席者を妨害する行為をおこなった場合、当該の学生は履修を放棄したとみなします。			
参考資料	参考資料につきましては講義時に適宜紹介していきます。さしあたり以下を参照して下さい。 ・ 木村尚三郎他編『概説フランス史』有斐閣選書、1982年。 ・ 二宮素子『宮廷文化と民衆文化』山川出版社、1999年。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
東アジア史	2	とう 黨 武彦	1年	前期	講義	MC 必修 他コース選択	
授業概要	日本を知ること、そのためには歴史を知ることが必須ですが、日本の歴史は東アジアの歴史の一翼を担い、さらに東アジアから大いに影響を受けて発展してきました。その意味でも「東アジア」という視点から歴史を見ることが重要です。本講義では、前近代までの歴史について、中国・朝鮮半島の歴史を中心に、日本（特に九州・熊本）との関係も交えながら、ひたすら暗記するような歴史ではなく、自分で考えることを目標に進めていきます。						
キーワード	東アジア史、中国、朝鮮半島、琉球王国、日本、熊本						
到達目標	・東アジアの歴史を理解する ・東アジアにおける日本・九州・熊本の位置づけを把握する						
受講生に望む事	「歴史」は身近であることを理解する						
事前・事後学修	身近な地域（出身地・現住地）の歴史に関心を持つこと。現在の東アジア（中国・臺灣の情勢、朝鮮半島情勢など）のニュースについて常に関心を持つこと。	評価方法	学期末テスト（70％）と受講の実績（コメントカードへの記載内容、取り組む姿勢等）（30％）で評価します。				
回	授業計画		回	授業計画			
1	ガイダンス アジアとは 東アジアとは 人類の発生と古代文明		9	熊本の日本国王、琉球王国の興亡			
2	中国文明の原型 都市国家（春秋戦国）		10	朝鮮史から見た明清中国			
3	東アジア世界の成立と古代「日本」		11	明清時代の故宮の財宝			
4	小国分立（魏晉南北朝）と東アジア（高句麗、百濟、新羅、邪馬台国）		12	辛亥革命と日本と熊本			
5	後期古代中国（隋、唐）と東アジア（後三国時代、渤海、日本）		13	中国女性史の視点 西太后の時代			
6	「中華」帝国の分裂（五大国、宋）と「周辺」の台頭（遼、金、西夏、高麗、日本）		14	都市と農村 中華人民共和国の現状と課題			
7	科学と中国社会―中国の試験地獄―		15	まとめ			
8	モンゴル帝国（元）と東アジアの危機						
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格			オフィス アワー				
教科書	濱下武志・平勢隆郎編『中国の歴史―東アジアの周辺から考える』（有斐閣）   また、各時間プリントを配布します。						
参考資料	礪波護・尾形勇・鶴間和幸・上田信『中国の歴史』全12巻（講談社、2004～2005年）など。	備考					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
心理学	2	小沢 ひみこ 日美子	1年	前期	講義	選択
授業概要	<p>【概要】 心理学とは何かについて、心理学の歴史や研究法、また、これまでに見出された興味深い現象や知見とともに概説する。</p> <p>【目標】 心理学の領域は幅広いが、そのうち、認知、学習、記憶、知能、性格、発達に関する知見が、様々な場で活用されていることを学ぶ。</p> <p>【方法】 1. 視聴覚教材を利用し、心理学の幅広い理解を得る。 2. 心理検査を体験的に学び、人間理解を深める。 3. 実験法・調査法に基づいて、日常生活の体験を知る。</p>					
キーワード	知覚、学習理論、記憶、発達の原理、パーソナリティ、集団、適応					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な心理学の方法を理解すること</li> <li>・心理学の各種の理論や知識を説明できること</li> <li>・心理学の知識を応用して日常生活に役立てること</li> <li>・心理学の知識を人間関係において他者理解と自己洞察に生かすこと</li> </ul>					
受講生に望む事	各講義では、評価方法に示す受講記録については、各講義の中であなたの印象に残ったことを1～3個程度選び、感想や意見を交えて（講義内容の箇条書きでなく）自分の言葉で記録してください。					
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習としては、講義ノートを作成し、教科書・参考図書の（次回授業）範囲を通読の上、基礎用語の下調べなどを行うこと。</li> <li>・事後学習としては、講義ノートを整理し、確認したい事からは、次回までに調べ学習を行っておくこと。</li> </ul>					
評価方法	平素の受講記録と中間レポート等（40%程度）、及び最終レポート（60%程度）による総合評価					
回	授業計画					
1	心理学の視点					
2	感覚と知覚					
3	認知機能					
4	遺伝と環境					
5	発達の原理、初期経験					
6	学習理論（1）					
7	学習理論（2）					
8	記憶（1）					
9	記憶（2）					
10	思考・言語					
11	知能と測定					
12	パーソナリティと測定					
13	社会行動					
14	こころの概念					
15	まとめ					
関連科目	生涯発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、教育相談（カウンセリングを含む）					
資格						
教科書	心理学 第4版 鹿取 廣人・杉本 敏夫・鳥居 修晃 編 東京大学出版会					
参考資料	授業時に紹介する。					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス大学1号館3階 No.1 小沢研究室					
オフィスアワー	火曜日：12:00-13:00 木曜日：12:00-13:00					
備考	市販の心理検査を使用する際は、教材の実費徴収を行うことになる。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外語学研修（中国語）		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	後期	演習	全コース：選択
授業概要	春期休暇中の短期語学留学に参加した学生で、所定の成績を収めた場合に「海外語学研修（中国語）」の単位として認められます。						
キーワード	中国語、留学						
到達目標	中国語の瞬発力を身につける						
受講生に望む事	積極的に交流すること						
事前・事後学修	中国語関係の授業に積極的に取り組み、課外で実施予定の特訓にも参加すること。			評価方法	慈済大学中国語センターでの中国語試験の結果を踏まえて評価します。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	2017年2月末頃から4週間の予定			9	※学期初めのオリエンテーション時に詳細について説明します。		
2	午前：中国語授業（クラス分けあり）			10			
3	午後：各種体験活動、交流活動			11			
4	参加費：25,000台湾ドル（授業料、寮費、教材費、各種活動費込）			12			
5	※為替相場で変動あり。2016年2月時点で約90,000円			13			
6	※その他、渡航費（50,000円程度）、海外旅行保険（10,000円程度）、食費（10,000円程度）が必要			14			
7				15			
8							
関連科目	各種中国語科目			連絡先	北口英穂 管理棟3F第9研究室 wada@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	中国語検定試験4級程度 HSK3級程度			オフィスアワー	授業中にアナウンスします。		
教科書				備考			
参考資料							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外語学研修（韓国語）		2	なかがわ あきお 中川 明夫		後期	演習	選択
授業概要	韓国語による授業を通じて、生きた韓国語の表現・韓国文化を理解する。同時に、日韓言語・文化の特徴を理解する。						
キーワード	韓国語による授業、生きた韓国語の表現・韓国文化						
到達目標	・韓国で使える語学力（発音、語彙、表現）を習得する。 ・韓国社会でコミュニケーションが可能な文化力を習得する。						
受講生に望む事	日頃から韓国語・韓国文化に関心を持ち、関連した資料（教材、CD、DVD、雑誌・新聞など）に触れるようにしましょう。						
事前・事後学修	〔事前〕・授業はすべて韓国語で行われるので、あらかじめ教材を読み・発音しながら予習してください。・質問事項を韓国語でできるように、準備しておくことを勧めます。〔事後〕・必ず復習をするようにしてください。・課題は、期限まで提出してください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。			評価方法	試験（80％）、課題（プレゼンテーション、報告書を含む）（20％）を加算して評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	学外学修：オリエンテーション：授業方法、教材紹介、自己紹介			9	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
2	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			10	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
3	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			11	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
4	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			12	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
5	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			13	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
6	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			14	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
7	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）			15	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）		
8	学外学修：教材に沿って授業を行う（すべて韓国語）						
関連科目	韓国語Ⅰをはじめとする韓国語関連科目、日本語教育関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	韓国語関連の検定試験、日本語教師検定試験など			オフィスアワー	初回講義時に通知します。		
教科書	プリント（韓国で作成された教材の一部）を配布。			備考	韓国の仁徳大学校での学外学修になります。韓国語習得に意欲を持つ人ならだれでも受講できます。経費として教育費・宿泊費、交通費、食費などがかかります。		
参考資料	映像資料、補足プリント資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
メディア学入門		2	こえじ しんいちろう 越地 真一郎	1年	前期	講義	全コース必修	
授業概要	インターネット、テレビ、新聞…今、私たちはさまざまなメディアに囲まれ、まさに情報爆発時代を生きています。この講座では、新聞(地元紙)を主な教材として使用。あふれる情報を自ら読み解く力を磨き、それを日々の勉強や就職活動、ひいては社会に出るからの仕事にどう生かすかを学びます。具体的には社会人基礎力としてのコミュニケーション能力(読む、書く、話す力)の向上に重点を置きます。また、ローカル(熊本)とグローバル(世界)の両方の視点を併せ持つ「グローバル」な人材育成を目指します。							
キーワード	「新聞ヨム、社会ワカル、自分カワル」、グローバル(熊本発グローバル)、知の素っぴん力							
到達目標	次の3つの力を磨きます。①社会を見つめる力(熊本、日本、世界でいま何が起きているかを知る) ②考える力(①のさまざまな出来事について自分の考えを持つ) ③表現する力(②を分かりやすく伝えるための技を身につける)							
受講生に望む事	毎回、ワークショップを交えます。退屈しない、眠らせない授業がモットー。真剣・集中かつワイワイがやがやのメリハリをつけた講義にします。よって受講態度は積極的に。席は前から詰めること。							
事前・事後学修	日々のニュースに関心を持ち、「私はこう思う」と自分に引きつけて考える習慣をつけること。	評価方法	複数回の課題(発表、文章作成など)の出来栄え70%、課題への参加・提出状況30%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	(講義テーマは順不同、変更あり)			8	記事スクラップでスーパー学生に			
2	情報爆発時代～メディアの特色を知る			9	パラグラフと縮約～文章の組み立て方			
3	熊本→日本→世界～世の中に関心を			10	本×新聞で新ビブリオバトル(知的書評合戦)			
4	答は一つじゃない～「正解のない答え」にどう答えるか			11	気分はコメンテーター～ニュース討論を体験			
5	見出しに学ぶ要約のワザ			12	時事問題でディベートを楽しむ			
6	「伝える」から「伝わる」書き方・話し方へ			13	20年後の自分を取材、記事化			
7	先結後各(先に結論、後で各論)の表現方法			14	記事スクラップに基づくプレゼンテーション①			
8	偶然を発見する力～セレニディピティを磨く			15	" ②～まとめ			
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課 越地メール sn-koeji@kunamichi.co.jp			
資格				オフィス アワー				
教科書				備考	授業当日の新聞(熊日朝刊)を毎回、教材として全員に配布			
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
ジェンダー論		2	ますだ めぐみ 増田 仁	1年	前期	講義	選択	
授業概要	本講義では、まず「ジェンダー」という概念がどのような経緯で産み出されてきたのかを説明し、この概念が意味するところについて理解を深める。さらに、教育、労働、家族、医療など身近なテーマを取り上げ、ジェンダーという概念から何が見えてくるかについて解説しながら、その有効性を確かめていく。							
キーワード	ジェンダー、現代社会と女性							
到達目標	・「ジェンダー」という概念について理解できるようになる。・教育、労働、家族、医療など身近なテーマをジェンダーの視点から分析できるようになる。・社会と自分の生活との関係を理解できるようになる。							
受講生に望む事	授業を通して自分なりの現代社会の見方を作り上げていってほしい。授業後、関連する文献を適宜読むこと。							
事前・事後学修	授業後、関連する文献を適宜読むこと。			評価方法	授業中に行う小テスト(30%)、学期末に課すレポート(70%)			
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	家族とジェンダー(1):「近代家族」とは何か			
2	「ジェンダー」とは何か			10	家族とジェンダー(2):アンパイドワークとしての家事労働			
3	教育とジェンダー(1):女子教育の系譜			11	家族とジェンダー(3):現代における家族の諸問題			
4	教育とジェンダー(2):家政学教育の布置			12	医療とジェンダー(1):こどもを産むことをめぐって			
5	教育とジェンダー(3):学校現場における女性			13	医療とジェンダー(2):医療現場における女性			
6	労働とジェンダー(1):「M字型就労」とは何か			14	地域社会とジェンダー:地域活性化と女性			
7	労働とジェンダー(2):保護か平等か			15	まとめ			
8	労働とジェンダー(3):女性労働と法							
関連科目	受講後、社会学・女性学関連科目を履修すること。			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィス アワー	前期火曜日12時半から13時			
教科書	特になし。授業中にプリントを配布する。			備考				
参考資料	井上輝子・江原由美子編『女性のデータブック 第4版』有斐閣、2005年。							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
人権論	2	うの 文重 字野 ふみえ	1	後	講義	選択
授業概要	「人権」にかかわる問題は、毎日のように報道され、本や映画などでも数多く取り上げられています。子どもをめぐる問題には、いじめ、児童虐待、買春、貧困、戦争などがあります。大人にも、過労死やセクハラ・パワハラ、派遣切りなど、「働く」という基本的な生活活動の中で、「人権」を無視するような問題が次々と起こっています。この講義では、「人権」という思想が生まれてきた歴史を振り返りながら、「女性」、「裁判」、「仕事」、「子ども」といったテーマを通して「人権」について考えます。まずは、今起こっていることを「知る」ことから始めましょう。					
キーワード	人権、子ども、命、性別役割分業、ジェンダー、裁判、雇用、「こうのとりのゆりかご」。					
到達目標	1. 「人権」をめぐる歴史と現在について正しく認識し、何が問題となっているのかを理解する。 2. 「人権」に関する問題について、自分なりに考え、意見をまとめてみる。					
受講生に望む事	・「人権」問題は簡単に「正解」を出せるものではありません。まずは、過去と現在のさまざまな「人権」問題のありようを知って、自分なりの率直な意見や感想を抱いてください。 ・講義では、図版や新聞記事、映像資料を用いたり、ファッションや「家庭」の歴史になどにも触れたりしつつ、幅広い観点から「人権」や「差別」について考えます。					
事前・事後学修	・事前学修…次回テーマのキーワードをリサーチする。 ・事後学修…テーマごとの100文字コメントを作成する。 *具体的な方法は、ガイダンス時に説明します					
評価方法	論述試験(90%)、授業態度(10%)、不定期に配布する質問・感想票により授業に対する積極性の有無を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス					
2	性自認とジェンダー——なぜ私は「女」なのか? / グループワーク①					
3	「人権」の誕生					
4	「人権」と女性の権利					
5	近代家族と「固定的性別役割分業」 / グループワーク②					
6	「恋愛」と資本主義					
7	「母性」という神話					
8	前半のふりかえり——シンデレラの「ガラスの靴」はなぜ消えなかったのか?					
9	「こうのとりのゆりかご」と子どもの人権					
10	特別養子縁組と里親制度					
11	児童労働と「世界女の子白書」					
12	労働と人権 / グループワーク③					
13	冤罪と人権					
14	全体のまとめ					
15	定期試験					
関連科目	日本国憲法。ジェンダーに関する科目も関連する。					
資格						
教科書	講義中に配布するレジュメおよび資料プリント。					
参考資料	適宜紹介する。					
連絡先	Email address : funo@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	武蔵ヶ丘キャンパス…水曜日12:00-13:00、木曜日12:00-12:45					
備考	講義は配布プリントを中心に進め、單元ごとに関連する文献を幅広い学問領域から紹介します。小説、映画、漫画なども紹介し、学生のみなさんおすすめの小説・映画等についても感想票に任意に記入してもらっています。講義をベースに多様な分野の文献に挑戦してみてください。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本国憲法	2	宇野 文重 <small>うの ふみえ</small>	1年	後期	講義	各コース選択 教職必修
授業概要	この講義では、日本の「憲法」の歴史や政治的背景、社会や文化との影響・つながりに目を向けた上で「日本」という国が現在直面している問題について、「憲法」を通して考えることを主眼とします。講義の中では、「日本国憲法」の条文にじかに触れつつ、憲法を作った人々やいろいろな事件、他国との違いなど、具体的な例を挙げて、多角的な観点から「日本」という国と憲法を考えていきます。さらに、受講生のみなさんからの質問や意見、感想に対して回答しつつ、さらにみなさんからの感想を募るといった双方向的な講義を行います。内容は法律に限らず、歴史や文化、社会・政治問題など幅広い質問を受け付けています。					
キーワード	日本国憲法、人権、権力、裁判、歴史、文化、社会問題、政治問題。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の方法として、＜講義を聴きながら「ノート作り」をする＞という方法を身につけ、「予習」「復習」の習慣をつける。</li> <li>2. 「日本国憲法」の規定が私たち自身の生活・人生とどのように関わりあい、歴史的・国際的にどのような特質をもつものであるのかを理解する。</li> <li>3. 「日本国憲法」という法の構造を理解し、論理的な文章で説明することを試みる。</li> </ol>					
受講生に望む事	条文を暗記したりする必要は一切ありません。講義では、一見、憲法とは関係のなさそうな「万歳三唱」や「谷崎潤一郎」との意外なつながりを紹介したり、一週間のニュースをわかりやすく解説したりします。いろいろなトピックに関心を向けながら、「憲法」の世界を一緒に学びましょう。					
事前・事後学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修…1週間の間に報道されたニュースをピックアップし、「ニュース記録ノート」を作成する。</li> <li>・事後学修…「ニュース記録ノート」へのコメント記入および「清書ノート」の作成をする。</li> </ul> ＊詳細はガイダンス時に説明します。					
評価方法	論述試験（90％）、授業態度（10％、不定期に配布する質問・感想票により授業に対する積極性の有無を評価する）。					
回	授業計画					
1	ガイダンス					
2	「日本」と「日本人」					
3	「国民」と国民主権					
4	「国民」と国会の役割					
5	「国民」と天皇					
6	日本国憲法の誕生（VTR鑑賞）／グループワーク①					
7	国家権力と立憲主義					
8	三権分立と国民主権					
9	国会と内閣					
10	司法権と裁判員制度（VTR鑑賞）／グループワーク②					
11	戦争放棄と集団的自衛権					
12	裁判例を読む①個人の尊厳と平等					
13	裁判例を読む②自由と公共の福祉					
14	国民の義務と新しい権利					
15	全体のまとめ—憲法の「最高法規」性と「前文」					
関連科目	人権論。					
資格	教職必修科目					
教科書	『法学六法』（信山社）。過去の出版されたコンパクトサイズの六法でもよい。ガイダンス時に詳細を説明する。					
参考資料	適宜紹介する。					
連絡先	e-mail : funo@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	武蔵ヶ丘キャンパス…水曜日12:00-13:00、木曜日12:00-13:00					
備考	講義は配布プリントを中心に進め、単元ごとに関連する文献を幅広い学問領域から紹介します。さらに、小説、映画、漫画なども紹介し、学生のみなさんおすすめの小説・映画等についても積極的に語ってください。講義をベースに多様な分野の文献に挑戦してみてください。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館概論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	1年	前期	講義	(司書) 必修
授業概要	わが国における現代の図書館制度が確立して半世紀が経過し、図書館は教養・娯楽に接することのできる機関として身近な存在となりつつある。しかしながら、昨今の図書館や司書を取り巻く状況は好転しているとは言い難い。インターネットや電子ブックの広がりによって、市民の図書館利用に対する意識はさらに低下するかもしれない。本科目は、このような現在の図書館を取り巻く状況を踏まえつつ、図書館の歴史的展開と政策について解説し、現場の新しい取り組みと模索について具体的事例を取り上げながら現代の図書館の役割を考察したい。					
キーワード	司書資格、指定管理者制度、PFI、まちづくり、情報サービス					
到達目標	(1) 近年の図書館を取り巻く状況を理解し、図書館の果たす役割について理解する (2) 館種別の図書館の機能と役割について理解する (3) 図書館の法的基盤や行政組織のなかでの位置づけについて理解する					
受講生に望む事	・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。 ・随時、小試験を行うので、各自を復習しておくこと。 ・グループワークおよびディスカッションを行うことがあるので、積極的に参加するように心がけること。 ・授業で扱った内容や教科書を丸暗記しようとするのではなく、それに関連する図書や論文を探索したり、様々な図書館を訪問したりと自主的な取り組みを期待する。					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	課題・レポート 30%+ 小テスト 30%+ 試験 40%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	司書科目における本科目の位置づけ (意義・目的)	9	図書館の歴史的展開、公立図書館の成立と展開			
2	図書館と類縁機関	10	学校図書館・大学図書館と利用者ニーズ			
3	図書館の構成要素と機能：図書館の法的基盤、図書館行政・政策	11	国立図書館・専門図書館と利用者ニーズ			
4	図書館と司書	12	図書館職員の役割と司書資格 1			
5	図書館の種類と役割	13	図書館職員の役割と司書資格 2			
6	図書館の社会的意義：まちづくり、文庫活動、住民運動	14	図書館ネットワークと関連団体			
7	知的自由と図書館 1：図書館の自由	15	まとめ：図書館の課題と展望			
8	知的自由と図書館 2：図書館員の倫理要領、図書館の諸基準	16	試験			
関連科目		参考資料	(1)菅谷明子『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』(岩波書店、2003年)。その他、授業のなかで随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。			
資格	司書資格	連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)			
教科書	(1)溝上 智恵子『高齢社会につなぐ図書館の役割—高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み』(学文社、2012年)。(2)今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』(樹村房、2013年)。(3)猪谷千香『つながる図書館—コミュニティの核をめざす試み』(みすず書房、2014年)。	オフィスアワー	火曜 12：10-12：50 木曜 12：10-12：50			
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生涯学習概論	2	くわばら よしや 桑原 芳哉	1年	前期	講義	司書必修 教養教育選択
授業概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策・学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。特に、高齢化の進展や情報技術の発展といった社会情勢に伴う生涯学習の内容の変化、及び司書資格取得のための科目として、生涯学習における図書館の位置づけについて学習する。					
キーワード	社会教育施設、教育行政、学習活動					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①生涯学習の体系、社会的役割②現代社会における生涯学習の在り方③生涯学習における図書館の位置づけ					
受講生に望む事	・居住地の近隣などの社会教育施設（公民館、図書館、博物館、生涯学習センター等）を積極的に利用・訪問して、生涯学習に関わる活動について問題意識を持って観察することが望ましい。					
事前・事後学修	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	レポート 60% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス 「生涯学習」とは（教科書 p. 2～4）					
2	「生涯学習」の意義（教科書 p. 2～11）					
3	生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育（教科書 p. 12～27、p. 34～49）					
4	社会教育の法と行政（教科書 p. 52～83、p. 28～31）					
5	社会教育施設の種類と役割（教科書 p. 86～89）					
6	社会教育施設の役割と機能（1）公民館・公民館類似施設（教科書 p. 90～93）					
7	社会教育施設の役割と機能（2）博物館・博物館類似施設（教科書 p. 98～101）					
8	社会教育施設の役割と機能（3）青少年教育施設及び女性教育施設（教科書 p. 86～89）					
9	社会教育施設の役割と機能（4）その他の社会教育施設（体育施設、文化会館等）（教科書 p. 86～89）					
10	社会教育施設としての図書館（教科書 p. 94～97）					
11	社会教育施設の管理運営の動向と課題（教科書 p. 86～101）					
12	社会教育の内容と方法・形態（教科書 p. 104～123）					
13	社会教育指導者と社会教育施設の職員（教科書 p. 124～127）					
14	今日的課題と生涯学習（教科書 p. 130～153）					
15	まとめ 生涯学習の新たな方向性と図書館					
関連科目						
資格	司書（必修）、秘書士（選択）、上級秘書士（選択必修）、情報処理士（選択）、上級情報処理士（選択必修）					
教科書	伊藤俊夫／執筆・編集代表 『新訂生涯学習概論』ぎょうせい、2010（ISBN 978-4-324-09064-0） 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジユメ及び参考資料を配付する。					
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
特別支援教育概論	2	ふるた ひろこ 古田 弘子	1年	後期	講義	選択 教職選択必修
授業概要	教職科目の1つとして特別支援教育の基礎を学ぶ。具体的には、障がい児の教育の歴史、インクルーシブ教育の理念、特別支援教育の制度と教育課程、各障がい種別の概要、通常の学級における障がい児の教育、海外における障がい児の教育の実情について講義を行う。さらに、学生による調査・発表やゲスト講話を実施する。					
キーワード	特別支援教育、障がい児の教育、インクルーシブ教育					
到達目標	特別支援教育について、その歴史、制度、教育課程、各障がい種別や多様な教育的ニーズ、関連分野の動向、海外の実情など、幅広い見地からとらえることができる。					
受講生に望む事	みなさんが小学校高学年の頃、2007年に始まった特別支援教育。それまでは特殊教育と呼ばれていました。なぜ特別支援教育に変わったのでしょうか。教育現場では誰もがかわりをもつ特別支援教育を基礎から一緒に学びましょう。障がい者教育機関や施設における行事等を紹介するので、積極的に参加することをおすすめします。					
事前・事後学修	授業に関連する資料を事後学修資料として課すことがある。	評価方法	小課題提出状況 40%、レポート 30%、中間及び期末テスト 30%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	海外の障害者教育			
2	インクルーシブ教育：自分自身の受けてきた教育をふり返る	10	聴覚障がい児の教育			
3	インクルーシブ教育：ユネスコの文献を読む	11	知的障がい児の教育			
4	インクルーシブ教育：障害者権利条約と合理的配慮	12	発達障害児の教育			
5	障がい者教育の歴史 熊本県の障がい者教育	13	通常の学級で必要な配慮・支援			
6	障がい者教育の歴史 ヘレン・ケラーとアン・サリバン	14	受講生による調べ学習の成果発表			
7	特別支援教育のシステム	15	授業のまとめ			
8	中学校・高等学校での特別支援教育					
関連科目		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	教職免許関連	オフィス アワー				
教科書	「はじめての特別支援教育（改訂版）」 柘植雅義 他編 有斐閣 2,000円	備考	科目に関連する学外施設や行事参加の場合、交通費等自己負担。			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理総論	2	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期	講義	現代コミ：必須 他コース：選択
授業概要	ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、情報モラルなどを習得し、社会生活における ICT（Information and Communication Technology）技術の基礎力、問題分析解決方法及び利用方法を身に付ける。					
キーワード	ハードウェア、ソフトウェア、情報、ネットワーク、セキュリティ、情報モラル					
到達目標	情報通信や情報メディアの発展により、より高い情報学力が求められている。そこで現代社会を生き抜く情報リテラシーの向上を目標とする。					
受講生に望む事	毎回遅刻欠席せずに授業に出席すること。					
事前・事後学修	[事前学習] 授業予定の部分の教科書を読んで不明部分にアンダーラインを引く。 [事後学習] 授業中に関連する問題を1問解く	評価方法	学期末に実施する定期試験で評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	情報 コンピュータと情報、コンピュータ、パソコン	9	ネットワーク インターネット、仕組みと用語、サービス			
2	ハードウェア 構成と役割、構成と役割	10	ネットワーク インターネットへの接続、ソーシャルメディア			
3	ハードウェア ハードディスク、出力装置	11	セキュリティと情報モラル 情報セキュリティ、セキュリティ対策			
4	ハードウェア 入力装置、役割、キーボード、マウス	12	セキュリティと情報モラル 不正アクセス、リスクと対策			
5	ソフトウェア OSの役割と種類、Windowsの特徴	13	セキュリティと情報モラル 情報モラル、個人情報			
6	ソフトウェア アプリケーションソフトウェア、ワープロ、表計算	14	セキュリティと情報モラル インターネット利用のルールとマナー			
7	ネットワーク ネットワークの特徴、ネットワークの基礎	15	これまでのまとめ			
8	ネットワーク LAN、クライアントサーバ型、ピアツーピア型					
関連科目	情報処理実務Ⅰ、情報処理実務Ⅱ	連絡先	E-Mail : kamaga-1ec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟3階 研究室10			
資格		オフィス アワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30			
教科書	これだけは知っておこう 情報リテラシー、noa	備考				
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理実務 I		1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期	演習	必修
授業概要	社会人として必須技能であるワープロソフトの基本操作および電子メールおよびセキュリティの基本について習得する。パソコンやワープロの基本操作から、イラストや写真の挿入、表編集を学習し、基本的なビジネス文書の作成方法からはがき作成、地図作成など日常的に使用する際に支障が無い程度の技術を習得する。さらに、電子メールの基本操作、書類添付、セキュリティ対策などについても習得する。						
キーワード	Windows 基本操作、ワープロ、文書編集、ビジネス文書、電子メール、セキュリティ対策						
到達目標	・文字入力の手速が10分間で300文字を超え、ワープロの基本操作、ビジネス文書が作成できること ・電子メールについての知識や操作ができ、日常のセキュリティ対策ができること。						
受講生に望む事	前回の学習や設定などを利用して作業を行うので、遅刻欠席をせずに毎回必ず出席すること。						
事前・事後学修	[事前学習]TypeQuickまたは実習問題を演習する。 [事後学習] 実習問題の必須課題または選択課題を演習する。	評価方法		タッチタイピングが規定値(20WPM, 93%)を越え、必須実習問題の課題を合格した上で、学期末に実施する文書作成の筆記と実技試験で評価を行う。なお、選択実習課題提時、試験結果へ選択課題数を補点する。			
回	授業計画			回	授業計画		
1	パソコンの基本操作1	アカウント説明、ログオン、ログオフ、パソコンの必要最低限の操作	9	Wordの活用2	クリップアートの挿入、サイズ変更、移動、回転		
2	パソコンの基本操作2	タイプクイック演習設定、データ同期、USBメモリの取出方法	10	Wordの活用3	ワードアート挿入編集、図形描画、スクリーンショット		
3	Word入門	Wordの起動終了、文字入力訂正、漢字変換、記号入力	11	Wordの活用4	スマートアート挿入編集、段組み、ドロップキャップ		
4	文章の入力	文章の入力、保存、読み出し、文書印刷	12	Wordの応用1	はがき作成、宛名面の作成、文面作成、差し込み印刷		
5	電子メールの基本1	メールソフトの設定、送受信、返信転送、アドレス帳設定、	13	Wordの応用2	グラフ挿入、データ編集、レイアウト変更		
6	電子メールの基本2	電子メールの仕組み、ネチケット、ヘッダ	14	DTP機能の活用	文字の基礎知識、フォント、テキストボックスの行間		
7	電子メールの基本3	添付方法、テキストファイルとバイナリファイル、セキュリティ	15	セキュリティ対策ビデオ	セキュリティ対策のビデオのレポートを作成		
8	Wordの活用1	表の挿入、列幅変更、セルの結合、線種変更					
関連科目				連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟 3F 研究室10		
資格	日商 PC 検定（文書作成）検定3級			オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30		
教科書	30時間でマスター Word2010 実教出版 キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック			備考			
参考資料	キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理実務Ⅱでも継続使用する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報処理実務Ⅱ		1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	後期	演習	必修
授業概要	社会人として必須技能である表計算の基本機能およびプレゼンテーションについて習得する。表計算では、ビジネスで必須である表計算の基本操作、合計、平均、絶対参照、条件判断等の各種関数、各種グラフ作成技術、応用操作や印刷など実習を通して体得する。プレゼンテーションでは、自分の考えを複数の人に効果的に伝える技術とプレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。						
キーワード	Excel, 表計算, グラフ, データベース, プレゼンテーション, PowerPoint						
到達目標	・表計算の合計や平均など基本的な関数を用いた集計作業ができ、適切なグラフが作成できること ・基本的なプレゼンテーション資料の作成方法やプレゼンテーション法について習得できること						
受講生に望む事	前回の学習や設定などを利用して作業を行うので、遅刻や欠席をせずに毎回必ず出席すること。						
事前・事後学修	[事前学習]Type Quick のテンキーまたは実習問題を演習する。 [事後学習] 実習問題の必須課題または選択課題を演習する。	評価方法		実習問題の必須課題をすべて合格した上で、学期末の表計算実技試験で評価を行う。なお、選択課題を提出した場合は、試験得点に選択課題合格数を補う形式で加点する。			
回	授業計画			回	授業計画		
1	プレゼンテーション1	良いプレゼンテーション、スライドの作成編集効果印刷	9	グラフ(1)	棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ		
2	プレゼンテーション2	課題スライドの作成	10	グラフ(2)	3Dグラフ、複合グラフ、		
3	Excelの基礎知識	Excelの起動・終了、データ入力、合計、保存と呼出	11	グラフ(3)	ドーナツ、レーダーチャート、XYグラフ		
4	グラフの作成と印刷	グラフ作成、サイズ変更、移動、演習問題	12	データベース(1)	データベース入門、データの並べ替え		
5	ワークシートの活用(1)	編集、削除、移動、挿入、列幅、平均、表示形式	13	データベース(2)	データ検索抽出、条件記述方法、データ集計		
6	ワークシートの活用(2)	罫線、絶対参照、表示形式の変更	14	Excelの応用(1)	順位付け、データ探索、文字列加工、文字列の操作、		
7	ワークシートの活用(3)	最大、最小、カウント、四捨五入	15	Excelの応用(2)	シート間の計算、WordへExcelの埋め込み		
8	ワークシートの活用(4)	条件の判定、条件付き書式					
関連科目	情報処理実務Ⅰを履修済みか同等以上の知識・技能を有すること。			連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟 3F 研究室10		
資格	日商 PC 検定（データ活用）検定3級、情報処理技能検定			オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30		
教科書	30時間でマスター Excel2010 実教出版 キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック			備考			
参考資料	キーボード練習ソフト：Type Quick for Windows USB版 日本データパシフィック キーボード練習ソフトは情報処理実務Ⅰより継続使用する						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文書処理応用	1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	前期集中	演習	選択
授業概要	日商 PC 検定（文書作成）等のワープロ検定試験の 2～3 級を取得可能な技術を習得する。検定試験概要、学習ポイント、知識科目、実技科目に必要な知識と技術、操作指導解説を行い、2 級や 3 級の試験のデモ演習を実施し、本番と同様な試験に慣れることで本番の検定試験にスムーズに合格できるようにする。					
キーワード	日商 PC 検定試験（文書作成）、ワープロ検定					
到達目標	日商 PC 検定試験（文書作成）2 級または 3 級の資格取得					
受講生に望む事	集中講義で実施するため、絶対に遅刻や欠席をしないこと。					
事前・事後学修	知識問題と実技問題の練習問題あるいは模擬試験問題を実施すること。	評価方法	最終講義時に実施する筆記及び実技の試験において評価を行なう。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	検定試験概説（知識、実技、受験方法、ビジネス文書作成等）、問題 1 演習解説	9	問題 10 の演習と解説、2 級試験デモ			
2	知識問題 1 演習、問題 2 の演習と解説	10	問題 11 の演習と解説、問題 13 の演習と解説			
3	問題 3 の演習と解説、問題 4 の演習と解説	11	第 3 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、知識問題 7 演習			
4	問題 5 の演習と解説、問題 6 の演習と解説	12	問題 14 の演習と解説、知識問題 9 演習			
5	第 1 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、知識問題 3 演習	13	問題 15 の演習と解説、第 4 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説			
6	問題 7 の演習と解説、3 級試験デモ	14	第 5 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、弱点分野の演習			
7	問題 8 の演習と解説、問題 9 の演習と解説	15	ワープロ応用のまとめの試験			
8	第 2 回模擬試験実施（知識、実技）、解答と解説、知識問題 5 演習	16	（日商 PC 検定試験）			
関連科目	情報処理実務 I	連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟 3F 研究室 10			
資格	日商 PC 検定試験（文書作成）2～3 級の取得 受講生は、基本的にワープロ検定試験を受験すること。	オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30			
教科書	日商 PC 検定 文書作成 3 級 合格教本、技術評論社	備考	日商 PC 検定試験（文書作成）1 級を目標とする者は受講対象としない			
参考資料	30 時間でマスター Word2010 実教出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
表計算応用	1	かまが せいいち 釜賀 誠一	1年	後期集中	演習	選択
授業概要	企業で最も必要とされている各種の集計表やグラフなどの業務データを処理する技術を習得し、データ処理に必要なパソコンの仕組み、インターネット等の IT 関連や個人情報などビジネスに必要な幅広い知識の習得し、日商 PC 検定（データ活用）試験 2～3 級の資格取得を目指す。授業では 2 級や 3 級の模擬試験演習を実施し、本番と同様な試験に慣れることで、検定試験をスムーズに合格できるようにする。					
キーワード	日商 PC 検定試験（データ活用）、表計算検定					
到達目標	日商 PC 検定試験（データ活用）2 級または 3 級の取得					
受講生に望む事	集中講義で実施するため、絶対に遅刻や欠席をしないこと。					
事前・事後学修	知識問題と実技問題の練習問題あるいは模擬試験問題を実施すること。	評価方法	最終試験の筆記及び実技の試験で評価を行なう。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	検定試験概説、重要点の演習、例題演習 1・2・3	9	模擬試験問題 1 の演習と解説			
2	知識問題 1 の演習、知識問題 2 の演習、知識問題 3 の演習	10	知識問題 10 の演習、練習問題 7 の演習と解説			
3	練習問題 1 の演習と解説、練習問題 2 の演習と解説	11	模擬試験問題 2 の演習と解説			
4	知識問題 4 の演習、知識問題 5 の演習、知識問題 6 の演習	12	模擬試験問題 3 の演習と解説			
5	練習問題 3 の演習と解説、練習問題 4 の演習と解説	13	模擬試験問題 4 の演習と解説			
6	3 級試験デモ	14	模擬試験問題 5 の演習と解説			
7	知識問題 7 の演習、知識問題 8 の演習、知識問題 9 の演習	15	これまでの総まとめ			
8	練習問題 5 の演習と解説、練習問題 6 の演習と解説	16	（日商 PC 検定試験）			
関連科目	情報処理実務 I および情報処理実務 II を履修済みか同等以上の知識・技能を有すること。	連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟 3F 研究室 10			
資格	日商 PC 検定試験（データ活用）2～3 級の取得 受講生は、基本的に表計算検定試験を受験すること。	オフィスアワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30			
教科書	日商 PC 検定データ活用 3 級合格教本、技術評論社	備考	日商 PC 検定試験（データ活用）1 級を目標とする者は受講対象としない			
参考資料	30 時間でマスター Excel 2010 実教出版					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
体育Ⅰ	1	かきはら 柿原 かずたか 一貴	1年	前期	実技	選択 (教職必修)
授業概要	スポーツは楽しみを求めて自ら進んで行うという視点に立ち、レクリエーション・スポーツを教材として、スポーツの楽しさを理解させる。前期は各種ニュースポーツを行うことによって身体を動かし解放することによってコミュニケーションが広がる事により、たくさんの友人を作るきっかけとしたい。					
キーワード	・身体運動 ・精神解放 ・ニュースポーツ					
到達目標	色々な種類のゲームを楽しみながら身体を動かすことの楽しさを理解する。					
受講生に望む事	日頃身体を動かす機会が少ないと思います。私と一緒に身体を動かし併せて心身を解放する快さを体感して下さい。運動習慣が身につくよう、授業で行うストレッチや散歩等を日々の生活に取り入れていきましょう。					
事前・事後学修			評価方法	授業態度、習熟度、服装 (必ず指定の体操服・体育館シューズを着用)		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション。ストレッチ説明 ※②～⑥回の内容については以下の種目型から選択実施する。 ※天候等により内容を変更する場合有り		7	ターゲット型	(ディスクボウル)	
2	ターゲットボール型	(バタンク)	8	チームボールゲーム型	(アルティメット)	
3	ターゲットボール型	(グランドゴルフ)	9	ウォールゲーム型	(ラケットボール)	
4	ターゲットボール型Ⅱ	(ゲートボール)	10	バレーボール型	(インディアカ)	
5	ゴルフ型	(ターゲット・バード・ゴルフ)	11	テニス型	(ビッグコート・ピンポン)	
6	複合型	(フライングディスクゴルフ)	12	バレーボール型	(ビッグボールバレー)	
			13	スティックとボール型	(ユニホッケー)	
			14	テニス型	(四角卓球)	
			15	格闘型	(カバディ)	
関連科目	体育Ⅱ (1年後期)		連絡先	kakihara@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：体育館研究室		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書			備 考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
体育Ⅱ	1	かきはら 柿原 かずたか 一貴	1年	後期	実技	全コース選択 教職必修
授業概要	スポーツは楽しみを求めて自ら進んで行うという視点に立ち、スポーツの楽しさ(わかる・出来る)を体験・理解させる。また、スポーツを行うことによってコミュニケーションが広がる事により、たくさんの友人を作るきっかけとしたい。					
キーワード	・身体運動 ・精神解放 ・スポーツ ・バドミントン					
到達目標	バドミントンの基本技術を身につけ相手との駆け引きを楽しみながらゲームが出来る。					
受講生に望む事	日頃身体を動かす機会が少ないと思います。私と一緒に身体を動かし併せて心身を解放する快さを体感しましょう。運動習慣が身につくよう、授業で行うストレッチや散歩等を日々の生活に取り入れていきましょう。					
事前・事後学修			評価方法	授業態度、習熟度、服装 (必ず指定の体操服・体育館シューズを着用)		
回	授業計画		回	授業計画		
1	ラケットとシャトルに慣れよう グリップについての理解 天つき 壁打ち シャトル拾い 他		8	基本技術の習得7	サブ ドライブ ドロップ リフト ハイクリア フットワーク ショットの組み合わせ連続スマッシュ(スマッシュ レシーブ)	
2	基本技術の習得1	サブ ドライブ ドロップ	9	基本技術の習得8	ショットの連携1 ゲームの組み立て1 基本技術のコンビネーション シングルス半面ゲーム	
3	基本技術の習得2	サブ ドライブ ドロップ リフト	10	ショットの連携2	ゲームの組み立て2 基本技術のコンビネーション シングルス半面ゲーム	
4	基本技術の習得3	サブ ドライブ ドロップ リフト ハイクリア	11	ゲームの組み立て	シングルスゲーム1	
5	基本技術の習得4	サブ ドライブ ドロップ リフト ハイクリア フットワーク	12	ゲームの組み立て	シングルスゲーム2	
6	基本技術の習得5	サブ ドライブ ドロップ リフト ハイクリア フットワーク	13	ゲームの組み立て	ダブルスゲーム1	
7	基本技術の習得6	サブ ドライブ ドロップ リフト ハイクリア フットワーク	14	ゲームの組み立て	ダブルスゲーム2	
		スマッシュ(スマッシュ レシーブ)	15	ゲームの組み立て	ダブルスゲーム3	
関連科目	体育Ⅰ (1年前期)		連絡先	kakihara@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：体育館研究室		
資格			オフィス ア ワ ー			
教科書			備 考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I A : 竹下	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	前期	演習	
授業概要	日常生活はもとより海外の旅行先、留学先で必要となる英語表現を学習する。また、基本的な文法事項の確認も併せて行う。					
キーワード	日常表現、文法					
到達目標	日常使用する典型的な英語の言い回しを可能な限りたくさん習得し、それが口を衝いて出る程度にまで自分のものとする。					
受講生に望む事	必ず辞書を持参すること。辞書を引く労を厭わないこと。					
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な箇所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。	評価方法	100% 定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良いくない者は評価の対象にならないので注意すること。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	授業内容、評価方法等についての説明(オリエンテーション)	9	Unit 8: A Visit to the University of California			
2	Unit 1: Getting in Touch with an Old Friend	10	Unit 9: A Cafe Lunch Date			
3	Unit 2: It's Good to See You Again!	11	Unit 10: Beautiful and Historic Monterey			
4	Unit 3: Sightseeing in Kansai	12	Unit 11: A Hilly Downtown Workout			
5	Unit 4: Off to San Francisco	13	Unit 12: Wild and Wonderful Yosemite			
6	Unit 5: After a Long Flight ...	14	Unit 13: Buying Gifts for Friends and Family			
7	Unit 6: A Warm Welcome	15	Unit 14: San Francisco Gourmet			
8	Unit 7: Out and About in San Francisco	16	定期試験			
関連科目		連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00 ~ 12:45 火曜日 12:15 ~ 13:00			
教科書	Take a Trip Around San Francisco! 松柏社 1900円+税	備考				
参考資料	適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I A : 柚木	1	ゆのき 柚木 しげゆき 繁之	1	前期	演習	選択必修 現コミュ：必修
授業概要	<p>地理的な要因などにより、普段の生活の中で実際に英語を利用する必要性が乏しい我が国においても、インターネットの普及により、コンピュータを利用して国際的なコミュニケーションをはかる機会が着実に増えつつあります。インターネット上においては様々な言語により情報の交換が可能ですが、世界的には英語が共通に利用される言語となっていることは否めません。</p> <p>このため、国内においても英語を利用する場面としては、インターネットを介してのコミュニケーションの頻度が高くなるのが容易に想定されます。</p> <p>このような背景をふまえ、本科目では、英文読解を通して基本的な英語力を養いながら、インターネット上で起こる様々なやりとりにおける問題点にもふれつつ、自分に必要な情報を切り分ける能力を身に付けます。</p> <p>併せて、履修者それぞれが英語を習得する目的について、改めて意識的に探求することについてふれていきます。</p>					
キーワード	Communicative English Strategies through the Internet					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における英語習得の目的について理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について理解を深めること。</li> <li>・インターネットを利用するうえでの利点と欠点について理解を深めること。</li> <li>・必要な情報を切り分ける能力を身につけること。</li> <li>・その他</li> </ul>					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的にさらに発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
事前・事後学習	<p>授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。</p> <p>授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成を終点とせず、執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。</p>					
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定・前年度実績)					
回	授業計画					
1	コース・オリエンテーション： 本科目の方針・修得目標等の説明					
2	DotComGuy 1/2 (音声指導・内容理解・練習問題解答など)					
3	DotComGuy 2/2 (同上 以降同様)					
4	Internet Causes Isolation, Study Says 1/2					
5	Internet Causes Isolation, Study Says 2/2					
6	E-mail's Golden Rule: Be Brief 1/2					
7	E-mail's Golden Rule: Be Brief 2/2					
8	On-line Commerce and the Environment 1/2					
9	On-line Commerce and the Environment 2/2					
10	The Problem of Cybersmut 1/2					
11	The Problem of Cybersmut 2/2					
12	Net Gambling Attracts College Students					
13	筆記演習活動 1					
14	筆記演習活動 2					
15	総括					
関連科目	英語 I B・英語 II A・英語 II B					
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許 ※教育職員免許法施行規則第 6 条 6 に定める「外国語コミュニケーション」該当科目です。					
教科書	NetNews - What's Happening on the Web 市川 泰弘・Jim Knudsen NAN'UN-DO					
参考資料	英和・和英辞書 (電子辞書使用可)					
連絡先	電子メール: yunoki@nifty.com IP 電話: 050-5532-7900 (録音) 研究室: 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟 4 F 柚木研究室					
オフィスアワー	前期: 火 12:15-13:00 火 14:40-15:25 後期: 火 12:15-13:00 火 14:40-15:25 ※時間割の変更により OH の変更があり得るため、最新情報は教務システム (メニュー [授業関連]-[教員時間割]) あるいは学生支援課掲示を確認すること。					
備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第 1 回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語 I B : 竹下	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	後期	演習	必修
授業概要	授業では、毎回250～350字程度の英文を決められた時間内に読んだ後、その内容理解が正確か否かを確認する。その際、語彙や文法事項の確認も併せて行う。					
キーワード	読解力					
到達目標	易しい英語の長文をできるだけ短時間に正確に読み解く力をつける。					
受講生に望む事	授業には必ず辞書を持参すること。辞書を引く労を厭わないこと。					
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な箇所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。	評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良い者は評価の対象にならないので注意すること。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	Unit 1: Birthdays	9	Unit 9: Table Customs in Thailand			
2	Unit 2: Brasilia	10	Unit 10: Iceland			
3	Unit 3: Laughter	11	Unit 11: Coffee			
4	Unit 4: New Year's Day	12	Unit 12: Money			
5	Unit 5: Perfume	13	Unit 13: Amy Van Dyken			
6	Unit 6: Tiger Woods	14	Unit 14: Chocolate			
7	Unit 7: Choosing a Name for a Baby	15	Unit 15: A Fable			
8	Unit 8: Sleep	16	定期試験			
関連科目	英語 IA	連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 10:45～11:30			
教科書	Connection 1 Starter's Level 松柏社 1700円+税	備考				
参考資料	適宜紹介する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語ⅠB：柚木	1	ゆのき 柚木 しげゆき 繁之	1	後期	演習	選択必修 現コミュ：必修
授業概要	<p>地理的な要因などにより、普通の生活の中で実際に英語を利用する必要性が乏しい我が国においても、インターネットの普及により、コンピュータを利用して国際的なコミュニケーションをはかる機会が着実に増えつつあります。インターネット上においては様々な言語により情報の交換が可能ですが、世界的には英語が共通に利用される言語となっていることは否めません。</p> <p>このため、国内においても英語を利用する場面としては、インターネットを介してのコミュニケーションの頻度が高くなるのが容易に想定されます。</p> <p>このような背景をふまえ、本科目では、英文読解を通してより発展的な英語力を養いながら、インターネット上で起こる様々なやりとりにおける問題点にもふれつつ、自分に必要な情報を切り分ける能力を身に付けます。</p> <p>併せて、履修者それぞれが英語を習得する目的について、引き続き意識的に探求することについてふれていきます。</p>					
キーワード	Communicative English Strategies through the Internet					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における英語習得の目的について、より理解を深めること。</li> <li>・英語の実践的な習得法について、より理解を深めること。</li> <li>・インターネットを利用するうえでの利点と欠点について、より理解を深めること。</li> <li>・必要な情報を切り分ける高い能力を身につけること。</li> <li>・その他</li> </ul>					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
事前・事後学習	<p>授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。</p> <p>授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成を終点とせず、執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。</p>					
評価方法	授業中の発表・演習結果等 70% 受講姿勢 30% (予定・前年度実績)					
回	授業計画					
1	コースオリエンテーション： 本科目の方針・修得目標等の説明					
2	On-line Chat Comes to the Rescue 1/2 (音声指導・内容理解・練習問題解答など)					
3	On-line Chat Comes to the Rescue 2/2 (同上 以降同様)					
4	Cyberdating I 1/2					
5	Cyberdating I 2/2					
6	Cyberdating II 1/2					
7	Cyberdating II 2/2					
8	“Cybereggs” 1/2					
9	“Cybereggs” 2/2					
10	Safe Shopping 1/2					
11	Safe Shopping 2/2					
12	Net Hate 1/2					
13	筆記演習活動 1					
14	筆記演習活動 2					
15	総括					
関連科目	英語ⅠA・英語ⅡA・英語ⅡB					
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許 ※教育職員免許法施行規則第6条6に定める「外国語コミュニケーション」該当科目です。					
教科書	NetNews - What's Happening on the Web 市川 泰弘・Jim Knudsen NAN'UN-DO					
参考資料	英和・和英辞書(電子辞書使用可)					
連絡先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900(録音) 研究室： 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室					
オフィスアワー	前期：火 12:15-13:00 火 14:40-15:25 後期：火 12:15-13:00 火 14:40-15:25 ※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム(メニュー[授業関連]-[教員時間割])あるいは学生支援課掲示を確認すること。					
備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。 教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語 I	1	ふくなが 福永 みか 美佳	1年	前期	演習	選択必修
授業概要	中国語初級文法の学習に先立って、中国語の発音および発音のアルファベット表記（ピンイン）をしっかりと身につける。その後、会話文をもちいながら基本的な文法を学び、同時に簡単な文章を簡体字で書き表せるように練習する。中国語の発音を初めて学ぶ人にとっては、1回の欠席が「命取り」になる。遅刻すると、小テストを受けることができないので注意する。出席と予習・復習は、履修の最低条件であると同時に、上達への近道となる。					
キーワード	中国語の基礎、ピンイン表記、正しい発音					
到達目標	ピンインによる表記法を学び、声調に気をつけて発音できるようになる。音声資料や映像資料を通じて、正しい中国語の発音を身につける。簡単な中国語の文章の読み書きや、日本語訳ができるようになる。					
受講生に望む事	教科書に添付されているCDを何度も聞くこと、教科書を繰り返し読むこと。					
事前・事後学修	事前に十分な予習を行い、CDに合わせて発音練習をしてもらうこと。授業後は宿題を行い、学習した内容を復習すること。	評価方法	授業参加（出席・発言など）・小テスト・発音試験を合わせた（40%）と試験（60%）をもとに判断する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンスと発音その1	9	【第4課】①形容詞述語文、②常用の副詞II			
2	発音その2	10	【第4課】③助動詞の“想”、④選択疑問文“还是”、⑤連動文			
3	発音その3 発音その4	11	【第5課】①比較文、②名詞化する“的”			
4	【第1課】①人称代詞、②姓名の言い方、③“是”構文、④挨拶ことば	12	【第5課】③“吧”、④“好好儿”、⑤助動詞の“要”			
5	【第2課】①常用の副詞I、②“的”	13	【第6課】①“的”の省略、②“几”と“多少”、③年齢の言い方			
6	【第2課】③疑問詞“哪个”・“谁”、④指示代詞、⑤語気助詞	14	【第6課】④“有”構文、⑤“在”構文			
7	【第3課】①動詞述語文、②“喜欢”+VP	15	まとめ			
8	【第3課】③反復疑問文、④疑問詞“什么”“谁”“哪个”“怎么样”					
関連科目	中国語IIも同時に履修することを推奨する。特に現代コミュニケーションコースの中国分野、日本文学・日本語コースの漢文学分野での卒論執筆を予定している者は、1年次開講の中国語科目を全て履修することが望ましい。	参考資料	中日辞典を持つことが望ましい。中日辞典/プログレッシブ中国語辞典（小学館）、中日辞典（講談社）、中国語辞典（白水社）など。			
資格	中国語検定試験（準4級）	連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
教科書	相原茂他編『メディア版 1年生のころ（ビデオで学ぶ入門中国語）』（朝日出版社）	オフィスアワー	火 12:00~13:00 金 12:00~13:00			
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語 II	1	ふくなが 福永 みか 美佳	1年	後期	演習	選択必修
授業概要	前期「中国語 I A」で学習した内容を基礎とし、中国語運用能力（読み・書き・聞き・話す）のレベルアップを目指す。同時に発音とピンイン・簡体字の表記については、後期も常にチェックしながら授業を進める。文法の理解は毎回の積み重ねが大切なので、この授業では予習・復習が必須となる。また遅刻すると、小テストを受けることができないので注意する。					
キーワード	初級中国語 読み 聞く 話す 書く					
到達目標	テキストの反復練習を通して、声調に気をつけて発音できるようになる。簡単な中国語の言い回しを暗記し、聞き取れるようになる。挨拶や自己紹介、買い物・旅行における会話、簡単な意思表示ができるようになる。					
受講生に望む事	受講前に教科書に添付されているCDを何度も聞いてもらうこと。受講後は教科書を繰り返し読むこと。					
事前・事後学修	事前に十分な予習を行い、CDに合わせて発音練習をしてもらうこと。授業後は宿題を行い、学習した内容を復習すること。	評価方法	小テスト・発音テストを合わせた（20%）と定期試験（80%）をもとに判断する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	【第7課】①年月日の言い方、②時刻の言い方	9	【第11課】①介詞“给”、②二重目的語をとる動詞			
2	【第7課】③文末の“了”、④“不”と“没”、⑤主述述語文	10	【第11課】③“过”、④“得”de、⑤“得”dei			
3	【第8課】①場所を表すことば、②動詞につく“了”その1	11	【第12課】①“好”+V、②可能補語			
4	【第8課】③介詞“在”“从”“往”④進行の表し方、⑤数詞	12	【第12課】③常用の副詞III、④“能”、⑤“连…都”			
5	【第9課】①量詞、②動詞につく“了”その2、③“一点儿也”+否定形	13	【第13課】①疑問視の不定用法、②“得”+程度をあらわす語、③“让”			
6	【第9課】④結果補語、⑤“～着”	14	【第13課】④“把”構文、⑤“愿意”			
7	【第10課】①“会”、②“和（=跟）…一样”	15	総まとめと発音テスト			
8	【第10課】③“可以”、④“试试”、⑤時量の言い方	16	試験			
関連科目	中国語Iを履修済みであること。未履修者はあらかじめご相談ください。特に現代コミュニケーションコースの中国分野、日本文学・日本語コースの漢文学分野での卒論執筆を予定している者は、1年次開講の中国語科目を全て履修してください。	参考資料	予習・復習に利用できる中日辞典を持つことを推奨する。			
資格	中国語検定試験（4級）	連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
教科書	相原茂他編『メディア版 1年生のころ（ビデオで学ぶ入門中国語）』（朝日出版社）	オフィスアワー	火曜 12:00~13:00 金曜 12:00~13:00			
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語 I	1	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	前期	演習	選択
授業概要	韓国語のハングル文字を覚えると、韓国語で書かれたほぼ全ての表現の読み書きができ、日本語をハングルで表記できるようになります。また、韓国語は日本語は語順が同じ上、共通した単語（漢字語）も多いうえ、飛行機で40分、船で3時間で往来できるほど地理的に近い外国であるなど、多くの利点を生かして効率的・実践的に学習できる外国語です。ここでは「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、コミュニケーションを可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学びます。					
キーワード	文字、基礎単語、あいさつや自己紹介、基本的な文章ルール、文化					
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。 ・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。 ・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。					
受講生に望む事	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。					
事前・事後学修	[事前]・ハングル文字の学習が一番のポイントになります。読めるようにしてください。 ・韓国語に慣れるようにしてください。 [事後]・復習をしてください。	評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介、ハングル文字の紹介、あいさつ言葉①	9	レッスン3 「あります・います(있습니디)」①			
2	ハングル文字を覚えようーハングル文字を覚えよう、あいさつ言葉②	10	レッスン3 「あります・います」②			
3	ハングル文字を覚えようーハングル文字を覚えよう(パッチム)、あいさつ言葉③	11	レッスン4 「数字の話」①			
4	レッスン1 「～です(～입니다)・～ですか(～입니까?)」	12	レッスン5 「数字の話」②			
5	レッスン1 「私・わたくしは～です、～ではありません(저・나는~가/이 아닙니다)」	13	レッスン6 「～です・ます(～입니다・습니다)」①			
6	レッスン2 「こそあど(이 그 저 어느)、これは何ですか(이것은 무엇입니까?)」	14	レッスン6 「～です・ます(～입니다・습니다)」②			
7	レッスン2 「誰、どこ、いつ(누구, 어디, 언제)」	15	レッスン6 「～です・ます(～입니다・습니다)」③			
8	まとめ					
関連科目	韓国語 I B	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	各種の韓国語検定試験	オフィス ア ワ ー	初回講義時に通知します。			
教科書	プリント	備考	韓国語・文化に関心がある人の積極的な参加を望みます。			
参考資料	中川明夫・イヘウン(2007年)『しっかり学べる韓国語』(ナツメ社)、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語 II	1	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き、「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、コミュニケーションを可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学びます。特に、文を結ぶ表現を習得することで、聞く→考える→話す力を習得します。					
キーワード	文字、基礎単語、あいさつや自己紹介、基本的な文章ルール、文を結ぶ表現、聞く→考える→話す					
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。 ・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。 ・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。					
受講生に望む事	日頃から韓国語・韓国文化に関連した資料にたくさん触れるようにしましょう。					
事前・事後学修	[事前]・毎回、会話・聞き取りの練習をするので、あらかじめ本を読むようにしてください。 [事後]・次回、単語・フレーズのチェックをするので、復習をするようにしてください。・質問事項は、整理して提出するか、次回に聞くようにしてください。	評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：復習	9	レッスン8 「～けど～です」			
2	レッスン7 「～ます・です(～요)・～ますか・ですか(～요?)」①	10	まとめ			
3	レッスン7 「～ます・です(～어/아요)・～ますか・ですか(～어/아요?)」②	11	レッスン9 過去形①			
4	レッスン7 「～ます・です(～어/아요)・～ますか・ですか(～어/아요?)」③	12	レッスン9 過去形②			
5	レッスン7 「～ます・です(～어/아요)・～ますか・ですか(～어/아요?)」④	13	レッスン9 過去形③			
6	まとめ	14	応用会話 「～しましょう!(～하십시오!)」			
7	レッスン8 「～で・で、～ています」	15	応用会話 「～てください(～어/아 주세요)」			
8	レッスン8 「～たいです」					
関連科目	韓国語基礎 II	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	各種の韓国語検定試験	オフィス ア ワ ー	初回講義時に通知します。			
教科書	プリント	備考	韓国語 I、韓国語基礎 I の既履修者か韓国語関連の検定試験に合格した者の履修が望ましい。			
参考資料	中川明夫・イヘウン(2007年)『しっかり学べる韓国語』(ナツメ社)、映像資料など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリア形成入門	2	ひろせ 美貴子 広瀬 美貴子	2年	前期	講義	必修
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの自分を振り返ることで自己理解を深め、自分で自分のキャリアについて考える。</li> <li>自分のキャリアを、多様化する女性のキャリアという側面と、社会的役割としての側面から考える。</li> <li>社会における「働くこととは」の意味を自らの言葉で表現し、自身のキャリアデザインを描き中長期的な視点でのプランを立てる。</li> <li>グループワークを通して、違った見方、考え方、言い方を参考にし、視野を広げる。</li> <li>仕事理解を促し、社会人基礎力についての理解と実践を促す。</li> </ul>					
キーワード	自己理解と職業理解 社会人基礎力 チームワーク キャリアデザイン					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「働くこととは」について自分なりの意見を表現できる。</li> <li>自己理解の重要性を理解し、自分の内的キャリアに気づくことができる</li> <li>職業とキャリアについて理解する。</li> <li>社会人基礎力の評価と向上のためのプランを立てる</li> <li>リーダーシップとチームビルディングを理解し実践できる。</li> </ol>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の授業の課題については必ず準備をしておくこと。</li> <li>テキストには大切なことが書かれているのでしっかりと読んでおくこと。</li> <li>授業後に配布する作文については、指示の通り提出すること。</li> <li>個人ワークやグループワーク等、主体的な参加態度で臨むこと。</li> </ul>					
事前・事後学	「事前学習」 <ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの対応する箇所を読んでおく。</li> <li>ワークについては、事前に記入できるところは記入しておく。</li> </ul> 「事後学習」 <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の後、グループワークでの振り返りの内容を自分なりに整理しておく。</li> </ul>					
評価方法	授業テーマ毎の課題提出状況 60% 受講状況 20% 受講終了レポート提出 20%					
回	授業計画					
1	キャリアと個人の社会的役割：なぜ働くのか『働くこと』を考えてみる。					
2	自分のキャリアを考えるⅠ：今、気になっていることを考えてみる。					
3	自分のキャリアを考えるⅡ：私のことを考えてみる。					
4	自分のキャリアを考えるⅢ：これまでの人生を眺めてみよう					
5	就職活動を考える：J o bとW o r k／仕事人生と全人生					
6	職業とキャリア：ライフロール					
7	やりたい職業の適性を考える：キャリアアンカー					
8	社会人基礎力：社会の求める人材と能力					
9	仕事理解（職業マイニング）：五感を使った会社選び					
10	思考のくせ、人間関係のくせ：もっともな、モットー					
11	なりたい自分を考える：自己分析の結果を整理する					
12	グループディスカッションⅠ：リーダーシップとチームビルディング					
13	自分のキャリアを描いてみよう：キャリアパスを描く					
14	始める一歩：自分のキャリアを自分で切り拓く					
15	グループディスカッションⅡ					
関連科目						
資格						
教科書	改訂版 自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック (小野田博之著／日本能率協会マネジメントセンター／税別 1,500 円)					
参考資料	「仕事のための12の基礎力」キャリアと能力の育て方(大久保幸夫著／日経BP社／税別 1,500 円) 「職業とは何か」(梅澤正著／講談社現代新書／税別 700 円) 「ネガボ辞典」(ネガボ辞典制作委員会／主婦の友社／税別 1,000 円)					
連絡先	PC:hirose@fine-produce.co.jp mobile:sora518-angel@softbank.ne.jp					
オフィスアワー	カウンセリングや講演中以外は対応可。着信歴又はメールには折り返し連絡。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリアデザインⅠ	1	川上 知里 井上 奈美子	2年	後	演習	必修
授業概要	<p>将来のことを考えることは、ワクワクすることであり、希望あふれるものです。自分の秘めた可能性を発見し、将来に広がる多様な進路や仕事について一緒に考えていきましょう。講義では、現代女性のキャリア形成の考察を行い、キャリアの理論と大学卒業後の人生をリンクさせながら学ぶことで社会的・職業的に自律した人材となることを目指します。単に就職することを目指すのではなく、就職をスタートと考え、生涯豊かなライフキャリアを形成するために必要となる力を育みます。本講義では、学生が主体的に講義をデザインするため、グループディスカッションや発表の機会が多く、人前で話すことへの苦手意識やあがり症を克服するきっかけになります。なお、講義内容は履修生の理解度に合わせて進捗スピードを調整します。また、講義のうち、1日は熊本市内のホテルまたは企業にて見学ツアーを予定しています。【交通費実費は各自負担または現地集合の可能性あり】</p>					
キーワード	キャリアデザイン、職業理解、男女共同参画					
到達目標	<p>働くこと・仕事の意味を理解する。 職業の適性を考え、働くことの心構えを確立する。 大学生活を計画的に過ごせるようにする。</p>					
受講生に望む事	授業はグループワークと発表を中心とする。積極的に他者と話し合いながら、意欲的に授業に参加することを求める。					
事前・事後学	予復習として、日常生活の中で社会の動きにアンテナを伸ばすこと。					
評価方法	授業内での課題提出状況（80%）、学習態度（20%）で評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス					
2	キャリアデザインの意義					
3	職業興味の理論と解釈					
4	職業レディネステストを使った自己理解					
5	職業レディネステストの結果を使った自己理解					
6	VRTカードを使った自己理解					
7	VRTカードの結果を使った自己理解					
8	職業の中の仕事を探す					
9	主体的キャリアの形成：キャリアトランジション理論					
10	適職と天職：キャリアハップン理論					
11	職業観の醸成：キャリアステージ理論、自分の軸を理解しよう：キャリアアンカー理論					
12	ライフロール（役割）を考える：キャリアレインボー理論（育児介護、自己啓発、管理職キャリアについて議論）					
13	男女雇用機会均等法、女性活躍推進、世界の女性リーダーたち					
14	学外学修（別途履修生に連絡）					
15	大学生活の計画をたてる、まとめ					
関連科目	キャリア形成入門					
資格						
教科書	適宜資料を配付する。					
参考資料	適宜授業内で指示する。					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー						
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本文化論	2	すずき ひろゆき 鈴木 寛之	2年	前期	講義	選択必修
授業概要	民俗学の立場から、日本文化の特質について考えます。「民俗学」という言葉から皆さんはどのような内容を想像するでしょうか。市街地から離れた農山漁村に伝わる年中行事や祭礼、民話や伝説などの事だろうと漠然とイメージする人が多いと思いますが、それでは現代社会に生きる私たち自身の生活文化は民俗文化には入らないのでしょうか。近年、民俗学の研究領域も大きく変わってきました。この講義では、日本の民俗学の研究動向を紹介しながら、熊本の民俗文化の特色を把握し、私たち自身が担う「現代民俗」とはどのようなもので、今後どのような研究が期待されているのかについて取り上げます。					
キーワード	民俗学・熊本・地域文化・文化財・日常生活・世界遺産・民間信仰					
到達目標	民俗学の基本的な考え方と学問としての特質を理解します。「日本文化」がこれまでいかに語られ、それにどのような意味があったのか把握します。熊本の民俗文化の特色を理解します。現代日本や地域社会にとっての伝承文化の持つ意味を考察します。					
受講生に望む事	自分自身の身近な地域文化を掘り下げて考察する姿勢を常に持って授業に臨んで下さい。					
事前・事後学修	授業前に課題の作業を仕上げてくること。授業後に小レポートを提出すること。	評価方法	小レポート30%、試験60%、授業への貢献度10%の総合評価です。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	民俗とは何か： 民俗学の成立過程		9	おまじないと俗信： 現世利益論		
2	現代の民俗文化： サブカルチャーと民俗文化		10	ノスタルジーはどこから来るのか： 記憶・回想・歴史		
3	「遠野物語」の意義： 柳田国男の民俗学		11	熊本の祭りと行事： 阿蘇・菊池・八代		
4	日本の祭： 折口信夫の「まれびと」論		12	都市伝説と現代民話： 恐怖と不安の民俗史		
5	日本の伝説： 口頭伝承の世界		13	熊本の民俗文化論： 日本の民俗研究史と熊本		
6	あるく・みる・きく～宮本常一の民俗学～： 民俗学と「経世済民」		14	近代と民俗： 民俗の発見から文化財・世界遺産まで		
7	日本人の神観念： 祖霊信仰論		15	現代民俗論の課題： 民俗研究と現代世界		
8	妖怪と怪異： 「妖怪」と日本文化					
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格	学芸員		オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。		
教科書			備考			
参考資料	宮田登・福田アジオ編『日本民俗学概論』（吉川弘文館）、『精選日本民俗辞典』（吉川弘文館）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本史	2	まつぎき のりこ 松崎 範子	2年	前期	講義	選択必修
授業概要	歴史経過とともに社会の様相は大きく変わったが、近世期に三都（江戸・大坂・京都）といわれる中央都市と地方都市（城下町・在町）が形成されて、今日にいたる地域社会の基盤ができています。本講座では、各地における都市の建設とともに地域社会が形成される経過をみながら、近世社会と民衆に対する理解を深めることで、時代の流れを大きく見通す歴史感覚を身につける。					
キーワード	近世都市 民衆 地域社会					
到達目標	・近世における都市の形成と発展の経過を知ること、現代につながる日本社会を理解する。 ・三都（江戸・大坂・京都）と一般城下町・在町の違いが説明できる。					
受講生に望む事	配付資料の管理。課題の下調べとまとめ。私語の禁止。					
事前・事後学修	予習として下調べをする。	評価方法	期末試験80%、これに課題の提出状況と授業への参加態度を加味して、総合的に評価する。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	社会形成の概略		9	城下町の民衆と社会		
2	中世までの日本社会		10	近世の村と地域の開発		
3	幕藩制社会の成立		11	在町の形成と地域社会の変化		
4	幕府の拠点、江戸の建設		12	藩領域における城下町・在町の発展		
5	幕府直轄都市 京都・大坂		13	江戸の発展、大坂の衰退		
6	外交政策と長崎		14	民衆生活の変化		
7	藩領域における城下町の建設		15	近代社会への展望とまとめ		
8	城下町の支配制度		16	定期試験		
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格			オフィスアワー	授業後		
教科書	毎回レジュメを配布		備考	内容は予告せずに変更することがある		
参考資料	授業のなかで伝える。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生涯発達心理学	2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	前期	講義	各コース選択 教職選択必修
授業概要	<p>【概要】 本科目では、ヒトの乳幼児から児童期までの人間発達の各段階の特性に関して、知覚、運動、知能、記憶、言語、遊び等について解説する。</p> <p>【目標】 発達を規定している要因、遺伝と環境、反射、愛着、遊び、思考、道徳性などを、その発達メカニズムとともに捉えて、個の発達を系統的に捉える視点を習得する。</p>					
キーワード	遺伝と環境、反射、愛着行動、遊びの発達、思考の発達、道徳性の発達					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達には、発達段階があり、それぞれに発達上の課題があることを知る。</li> <li>・発達には、遺伝と環境の影響があることを知り、発達の多様性を理解する。</li> <li>・ヒトの発達を多面的に捉えることができ、各発達の特性を日常生活との関連で説明できる。</li> </ul>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身が生きてきて、これまで成長・発達した体験、他者とかかわってきた体験が学習の基盤となる。日頃から、生きるということを主体的な視点から捉え、そこでの発見を増やしてほしい。</li> </ul>					
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題として捉えていく力をもって授業に参加して下さい。</li> <li>・毎回の授業の知識・内容を自分自身の成長・発達上の課題と関連付けて復習して下さい。</li> </ul>					
評価方法	受講記録（10%）、中間レポート・プレゼン（30%程度）、及び最終の研究レポート（60%程度）による総合評価					
回	授業計画					
1	発達とは何か：自分と発達との関係図を製作する					
2	遺伝と環境、神経と脳、原始反射					
3	気質、性格、人格（1）					
4	気質、性格、人格（2）					
5	運動発達、身辺の自立					
6	うそ・ファンタジー					
7	心の理論					
8	社会性の発達：愛着（1）					
9	社会性の発達：愛着（2）					
10	思考の発達（1）					
11	思考の発達（2）					
12	道徳性／向社会性					
13	感情（1）					
14	感情（2）					
15	まとめ					
関連科目	心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、教育相談（カウンセリングを含む）					
資格	教員免許					
教科書	発達心理学Ⅰ 無藤 隆・子安 増生 編 東京大学出版会					
参考資料	適宜、指示する。					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス大学1号館3階 No.1 小沢研究室					
オフィスアワー	火曜日：12:00-13:00 木曜日：12:00-13:00					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
臨床心理学	2	えざき ゆみこ 江崎 百美子	2年	後期	講義	教職選択必修
授業概要	臨床心理学の歴史、心理検査の種類と方法、様々な心理療法についての知識を得られるように、ワークシートを用いながら解説していく。					
キーワード	心理検査、心理療法、心の健康、パーソナリティ、アイデンティティ、ストレス					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や他者の性格、周囲との人間関係、心と体のバランスについて理解すること。</li> <li>・様々な悩みをもつ人に対する見立て（アセスメント）と援助の方法（心理療法）について理解すること。</li> <li>・日常生活場面での臨床心理学の関わり方について考えを深めること。</li> </ul>					
受講生に望む事	・質問や意見発表、ワークシートの提出など、自主的、積極的に参加してほしい。					
事前・事後学修	授業前にテキストに目を通し、授業後はワークシートの見直しをして欲しい。	評価方法	定期試験の成績（70％）および講義のレポート（30％）を加味して評価を行なう。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	臨床心理学とは何か、臨床心理学を作った人々	9	テストバッテリーの組み方			
2	心の構造と性格類型	10	知能について			
3	正常と異常のとらえ方	11	心理療法とは			
4	心の健康と障害	12	心理療法の実際（個人心理療法①）			
5	心の発達段階、発達観	13	心理療法の実際（個人心理療法②）			
6	発達段階におけるさまざまな心の問題	14	心理療法の実際（集団心理療法、家族療法）			
7	心理検査について	15	社会と臨床心理学、全体のまとめ			
8	心理検査の実際	16	筆記期末終了確認試験			
関連科目		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー	授業の前後に対応します。			
教科書	はじめての臨床心理学 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報と社会	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	講義	選択
授業概要	情報メディアが社会に与える影響を考え、社会や個人をどのように変えていく可能性を持っているのか事例を交えて考察し、テーマ毎にディスカッションする。特にマスメディアやインターネットが発信する情報の捉え方・向き合い方については、他者の意見を交えることで、再考するきっかけとしてもらいたい。					
キーワード	著作権、マスメディア、メディアリテラシー、情報リテラシー					
到達目標	(1) マスメディアや個人から発信される情報を主体的に捉え、複数の情報源から収集し、比較・検討ができる。(2) 著作権や肖像権を理解し、情報資源を利用する際に適切な引用ができる。(3) 情報流出や有害情報から身を守るための対策を施すことができる。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークおよびディスカッションを行う。</li> <li>・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。</li> <li>・随時、小試験を行うので毎時間の復習を欠かさないこと。</li> </ul>					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	グループワークおよびディスカッション（30％）+課題・レポート（30％）+試験（40％）			
回	授業計画	回	授業計画			
1	総説	9	政治とインターネット			
2	ICTと社会	10	インターネットコミュニケーション			
3	情報倫理と知的財産	11	有害情報			
4	デジタル情報と著作権	12	情報と知識、			
5	著作隣接権	13	情報探索行動			
6	著作権の制限	14	文化・教育の情報化			
7	個人情報保護・プライバシー	15	総括			
8	政治とマスメディア	16	試験			
関連科目	司書課程の専門科目である情報サービス論および図書館情報資源概論と内容が一部、重複します。	連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122（研究室前にポスト有）			
資格	情報処理士					
教科書	上杉隆『新聞・テレビはなぜ平気で「ウソ」をつくのか』PHP 研究所、2012年。	オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50			
参考資料	中山信弘他『著作権判例百選 第4版:別冊ジュリスト』有斐閣、2009年。	備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
児童サービス論	2	くわばら よしや 桑原 芳哉	2年	後期	講義	司書必修 教養教育選択
授業概要	公共図書館における児童サービスの基本的な機能と動向について概観し、社会の動向に応じた児童サービスのあり方について解説する。具体的には、子どもの読書環境と図書館、児童向け資料の種類と特色、子どもと本をつなぐ方法等について、具体的な事例を紹介して解説する。また、子どもに対する読書活動の実践を体験する機会を設ける。毎回、児童サービス及び子どもの読書に関する最近の報道事例及び特徴的なサービスの事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有化を図る。					
キーワード	児童書 絵本 お話し会 読み聞かせ 子どもの読書活動					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ① 公共図書館における児童サービスの意義 ② 児童サービスの具体的な方法 ③ 読み聞かせ、ブックトーク等、子どもと本をつなぐ活動の実践 特に、図書館及び子どもの生活環境を取り巻く近年の社会情勢を踏まえ、求められるサービスの方向性とその実態について、幅広い視点から考察できることを目指す。					
受講生に望む事	居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館サービスの現状について問題意識を持って観察すること。					
事前・事後学	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	定期試験 60% 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス（「児童サービス論」の学びのポイント、子どもにとっての図書館）、児童サービスの意義（教科書 p.9～18）					
2	子どもの生活と読書（教科書 p.19～39）					
3	児童資料の種類と特色（教科書 p.40～79）					
4	児童コレクションの形成と管理（教科書 p.80～92）					
5	児童サービスの諸活動（教科書 p.93～120）					
6	児童サービスの運営（教科書 p.121～154）					
7	児童サービス担当職員の職務と役割（教科書 p.255～261）					
8	子どもと本をつなぐ方法・技術（教科書 p.155～173）					
9	読書活動の実例：読み聞かせ、ブックトーク、読書へのアニメーション（教科書 p.155～173）					
10	読書活動の実践：絵本の読み聞かせ（教科書 p.155～157）					
11	乳幼児サービス（教科書 p.174～188）					
12	ヤングアダルトサービス、特別支援の必要な子どもたちへのサービス（教科書 p.189～224）					
13	学校・学校図書館への支援と連携・協力（教科書 p.225～236）					
14	子どもの読書活動の推進と公共図書館（教科書 p.237～254）					
15	まとめ：これからの図書館と求められる児童サービス、職員に求められる資質と能力					
16	定期試験					
関連科目	図書館サービス概論					
資格	司書（必修）					
教科書	『児童サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 6）堀川照代編著、日本図書館協会、2014年発行、本体価格1,900円（ISBN 978-4-8204-1315-8） 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。					
参考資料	授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。また文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
環境の科学	2	種村 公平	2年	前期	講義	全コース選択
授業概要	環境問題について、物質面、生物（生態）面の両面からその影響を考えさせる。具体的には、地球環境、食物連鎖、環境負荷化学物質、大気汚染、水質汚染、廃棄物、生物環境などについて、汚染原因とその分析・評価技術および保全対策・技術（物質面および生物面からのアプローチ）を、技術者倫理の観点も踏まえ多面的に考えさせる。					
キーワード	「水汚染」、「生活環境汚染」、「大気汚染」、「地球環境問題」					
到達目標	環境汚染の現状について多面的な角度から理解を深め、これらにどのように対処していくべきかを科学的に考えることができるようになることを目標とします。					
受講生に望む事	いろんな環境問題をとりあげますが、自分たちが身近に感じていることを自由に質問してほしい。一方的な講義でなく、できるだけディスカッションの時間をとりたい。					
事前・事後学修	事前にテキストを読み、質問事項を少なくともひとつ考えてくること。	評価方法	定期試験で評価します。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	日本の自然環境		9	都市環境と生物		
2	河川の汚濁・汚染		10	ごみ問題		
3	湖沼の汚濁・汚染		11	人口問題		
4	海域の汚濁・汚染		12	大気汚染		
5	水質汚濁（まとめ）		13	酸性雨		
6	殺虫剤汚染		14	オゾン層破壊		
7	日常生活を汚染する有害物質（1）		15	地球温暖化		
8	日常生活を汚染する有害物質（2）		16	期試験		
関連科目			連絡先	E-mail tanemura@kumamoto-nct.ac.jp TEL 0965-53-1381 熊本高専 教員室		
資格			オフィスアワー	質問などがあれば、上記連絡先に記載されたメールアドレス、TELにて対応する。		
教科書	「環境生物科学」 松原 聡（裳華房）		備考			
参考資料	「環境白書」 環境省					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
基礎数学	2	おかだ のりひろ 岡田 則浩	2年	前期	講義	選択
授業概要	高等学校までに学習した〔はずの〕内容を中心に、数学の基礎的な内容を再学習する。特に、カリキュラムによっては注力していない可能性があり、かつ、苦手な者が多いと思われる 数列、指数関数/対数関数、三角関数、順列/組合せと確率等の学習を優先する。また、時間に余裕があれば、数学文書やグラフの書き方、方程式の解法などにPCを応用する方法についても言及し、広い意味で使える 数学の習得をめざす。					
キーワード						
到達目標	式の意味や利用方法を理解し、数学の基礎的な知識を習得する 数学的な考え方や論理を身につける					
受講生に望む事	「数学を理解したい」「数学がわかるようになりたい」「数学を楽しみたい」等の気持ちを持って臨んでいただきたい。					
事前・事後学修	履修前：高等学校までの教科書・問題集を常に参照できるようにしておくこと 毎回予習：不明点を明確化しておくこと 毎回復習：演習問題に多く取り組むこと	評価方法	演習 60%、小テスト 40%（レポート、課題等に代える場合あり）			
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション、数列と記号Σ		10	三角比、三角関数		
2	数列と計算機、数と数式、数式の積		11	三角方程式		
3	式の除算と分数式		12	場合の数		
4	因数分解		13	確率		
5	因数定理と因数分解		14	統計処理入門		
6	方程式と不等式		15	アルゴリズム、パズル		
7	高次方程式と不等式		※	学生の理解に応じて適宜内容変更予定		
8	指数関数、指数方程式		※	進み具合によって「数学とPC（関数、方程式）」等を実施		
9	対数関数、対数方程式					
関連科目			連絡先	okada-lec@shokei-u.jp		
資格			オフィスアワー	不在が多いので、e-Mail 連絡を基本とされたい		
教科書	“もういちど読む 数研の高校数学 第1巻”，数研出版，978-4-410-13951-2，本体 1500 円		備考			
参考資料	“もういちど読む 数研の高校数学 第2巻”，数研出版，978-4-410-13954-3，本体 1500 円					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
応用数学	2	おかだ のりひろ 岡田 則浩	2年	後期	講義	選択
授業概要	高等学校までに学んだはずの数学の応用・・・という観点から、一般向けの数学を学ぶ。（「応用数学」という分野が存在するが、本科目は内容を異にする。）具体的にはSPIやGREにおける数学を対象として扱い、数学の常識、技術、思考方法の習得をめざす。さらに、これまで学ぶ機会が少なかった分野（推論 他）をも対象とする。					
キーワード	数学, SPI, 非言語, Quantitative Section					
到達目標	式の意味や利用方法を理解し、数学の基礎的な知識を習得する 数学的な考え方や論理を身につける					
受講生に望む事	「数学を理解したい」「数学がわかるようになりたい」「数学を楽しみたい」等の気持ちを持って臨んでいただきたい。					
事前・事後学修	履修前：高等学校までの教科書・問題集を常に参照できるようにしておくこと 毎回予習：不明点を明確化しておくこと 毎回復習：演習問題に多く取り組むこと		評価方法	演習・小テスト（100%）		
回	授業計画		回	授業計画		
1	イントロダクション ●本授業の目標、位置づけ、授業の進め方を概説 ●基礎学力確認演習		8	確率		
2	代金精算		9	順列・組み合わせ		
3	割合と比		10	集合		
4	速度算		11	情報の読み取り		
5	仕事算		12	推論 1		
6	損益算		13	推論 2		
7	料金割引		14	推論 3		
			15	まとめ		
			※	学生の理解に応じて適宜内容変更予定		
関連科目			連絡先	okada-lec@shokei-u.jp		
資格			オフィスアワー	不在が多いので、e-Mail 連絡を基本とされたい		
教科書	“SPI&テストセンター 超実践問題集”，ナツメ社，978-4-8163-5836-4，本体 1300円		備考			
参考資料	“これが本当のSPI3だ！”，洋泉社，978-4-8003-0738-5，本体 1400円 “GRE テスト 学習法と解法テクニック”，アルク，978-4-7574-1382-5，本体 3800円					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語ⅡA	1	ゆのき 柚木 繁之	2	前期	演習	選択
授業概要	<p>英語（言語）学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。</p> <p>本科目では初級の英文法を確認する中で、初等・中等教育において定着しがちな誤った英文法知識の矯正を行うとともに確認し、英語でのコミュニケーションに必要な基礎的知識を養います。</p> <p>なお、本科目は初等・中等教育における外国語（英語）の単なる復習科目ではないことを申し添えます。</p>					
キーワード	Brushing Up Our Basic English Grammar and Skills					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国における英語習得の目的について理解すること</li> <li>・外国語としての言語の学習方法について理解し、英語の効率的な習得法を身につけること</li> <li>・英文法に関する知識を向上させること</li> </ul>					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
事前・事後学修	<p>授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。</p> <p>授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成を終点とせず、執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。</p>					
評価方法	授業中の発表・演習結果等70% 受講姿勢30%（予定・前年度実績）					
回	授業計画					
1	コースオリエンテーション	本科目の方針・習得目標等の説明				
2	動詞－自動詞	（テーマ：スポーツ・運動）				
3	動詞－他動詞	（テーマ：スポーツ・運動）				
4	名詞－数える名詞	（テーマ：コミュニケーション）				
5	名詞－数えない名詞	（テーマ：コミュニケーション）				
6	冠詞・代名詞	（テーマ：コミュニケーション）				
7	形容詞	（テーマ：健康・フィットネス）				
8	動詞 be と助動詞 be	（テーマ：文化の価値）				
9	副詞	（テーマ：奉仕・忠誠・ボランティア）				
10	句と節	（テーマ：教育・学校システム）				
11	助動詞	（テーマ：メディア、テレビ・報道新聞）				
12	時制－現在	（テーマ：ネットワーク社会）				
13	筆記演習活動1					
14	筆記演習活動2					
15	総括					
※ 各回においては、初等・中等教育で身につけてしまいがちな誤った英文法に関する知識の矯正を取り扱う。						
関連科目	英語ⅠA・英語ⅠB・英語ⅡB					
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許（教職志望者は積極的に履修して下さい）					
教科書	First Things First－英語コミュニケーションの基礎 Tetsuro Fujii MACMILLAN					
参考資料	英和・和英辞書（電子辞書使用可）・高等学校等までに利用した各種英文法書					
連絡先	電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音） 研究室：武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室					
オフィスアワー	前期：火12:15-13:00 火14:40-15:25 後期：火12:15-13:00 火14:40-15:25 ※時間割の変更により0Hの変更があり得るため、最新情報は教務システム（メニュー[授業関連]-[教員時間割]）あるいは学生支援課掲示を確認すること。					
備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語ⅡB	1	ゆのき 柚木 繁之	2	後期	演習	選択
授業概要	<p>英語（言語）学習における4技能のうち、LISTENINGとSPEAKINGの2技能を重視した養成に対する社会の期待が高まっていることは周知の通りです。しかしながら、英語を母語としない者にとっては、獲得しようとする言語の基本的な文法を正しく習得することなくしては、これら2技能を有効に運用することは困難です。</p> <p>本科目では初級の英文法を確認する中で、初等・中等教育において定着しがちな誤った英文法知識の矯正を行うとともに確認し、英語でのコミュニケーションに必要な、より高度な知識を養います。</p> <p>なお、本科目は初等・中等教育における外国語（英語）の単なる復習科目ではないことを申し添えます。</p>					
キーワード	Brushing Up Our Basic English Grammar and Skills					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国における英語習得の目的について理解すること</li> <li>外国語としての言語の学習方法について理解し、英語の効率的な習得法を身につけること</li> <li>英文法に関する誤った知識を改めること</li> </ul>					
受講生に望む事	英語を苦手とする学生は、日頃の講義への予習および受講姿勢等において努力を怠らないようにして下さい。また、英語を得意とする学生は、自主的により発展的な内容について探求し、より理解を深めて下さい。					
事前・事後学習	<p>授業前に、自身にとって未知の語あるいは語句などについて、辞書等を利用して調べておくこと。</p> <p>授業後は、単に教科書本文の和訳ノート完成を終点とせず、執筆者と授業者がポイントとしたことなどについて、簡潔に別途まとめること。</p>					
評価方法	授業中の発表・演習結果等70% 受講姿勢30%（予定・前年度実績）					
回	授業計画					
1	コースオリエンテーション 本科目の方針・習得目標等の説明					
2	完了形 (テーマ：旅行・経験・体験)					
3	前置詞 (テーマ：政治・戦争と平和)					
4	不定詞 (テーマ：自己発見・自分探し)					
5	動名詞 (テーマ：自己発見・自分探し)					
6	接続詞 (テーマ：働く意欲・就職)					
7	関係詞 (テーマ：市場経済・ビジネス)					
8	単文・重文・複文 (テーマ：哲学・宗教)					
9	知覚動詞 (テーマ：迷信・神話・占い)					
10	使役動詞 (テーマ：迷信・神話・占い)					
11	受動態 (テーマ：名声・セレブ・有名人)					
12	能動態 (テーマ：名声・セレブ・有名人)					
13	筆記演習活動1					
14	筆記演習活動2					
15	総括					
	※ 各回においては、初等・中等教育で身につけてしまいがちな誤った英文法に関する知識の矯正を取り扱う。					
関連科目	英語ⅠA・英語ⅠB・英語ⅡA					
資格	中学校教諭免許・高等学校教諭免許（教職志望者は積極的に履修して下さい）					
教科書	First Things First -英語コミュニケーションの基礎 Tetsuro Fujii MACMILLAN					
参考資料	英和・和英辞書（電子辞書使用可）・高等学校等までに利用した各種英文法書					
連絡先	<p>電子メール：yunoki@nifty.com IP電話：050-5532-7900（録音）</p> <p>研究室：武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4F 柚木研究室</p>					
オフィスアワー	<p>前期：火12:15-13:00 火14:40-15:25 後期：火12:15-13:00 火14:40-15:25</p> <p>※時間割の変更によりOHの変更があり得るため、最新情報は教務システム（メニュー[授業関連]-[教員時間割]）あるいは学生支援課掲示を確認すること。</p>					
備考	評価にあたっては積極的な授業への参加姿勢、予習状況など基本的な学習姿勢を重視します。教材等は第1回目のコースオリエンテーションの指示に従って購入して下さい。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
キャリアデザインⅡ	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	前期	演習	必修
授業概要	具体的な就職活動に乗り出す3年生後期までに理解すべき内容や訓練すべき実践的な事柄を、経験豊かな講師陣を迎え受講する。					
キーワード	キャリアデザイン					
到達目標	自らが望むキャリア実現のための準備を整える。					
受講生に望む事	自らの進路決定に不可欠な授業内容であることを自覚し、積極的な態度で受講すること。					
事前・事後学修	・各講師の指導内容を貪欲に吸収し実行に移すこと。 ・不明な点は講師または担当者に質問すること。	評価方法	レポート（50%）、学習態度（50%）で評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	「個別面接試験対策」 外部講師			
2	「SPI試験にチャレンジ」 外部講師	10	「応募書類の作成Ⅰ」 外部講師			
3	「SPI試験一解説」 外部講師	11	「集団面接試験対策」 外部講師			
4	「Web試験勉強会について」	12	「応募書類の作成Ⅱ」 外部講師			
5	「企業研究について」 外部講師	13	「Webナビ活用講座Ⅰ」 外部講師			
6	「熊本の企業と採用状況について」 外部講師	14	「Webナビ活用講座Ⅱ」 外部講師			
7	「自己分析について」 外部講師	15	まとめ			
8	「社会人と法律」 熊本労働局					
関連科目	キャリア形成入門、キャリアデザインⅠ、インターンシップ	連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 12:15～13:00			
教科書		備考				
参考資料	適宜配付する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
インターンシップ	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	3年	通年	実習	選択
授業概要	この授業では、実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性・独創性・柔軟性のある人材育成を目的とした、講義と職業実践を行う。インターンシップを実体験し、自分の希望する「働く環境」を体験することで、新しい発見や自己成長につながることを実習する。					
キーワード	キャリア					
到達目標	学生の学習意欲を喚起する。 自主性・独創性・柔軟性のある人材を育成する。 職業意識を育成する。					
受講生に望む事	外部の講演会への参加など、積極的に行動する。					
事前・事後学修	事前・事後指導には必ず参加して、実習前と後の自ら就労意識の変化と成長を正しく認識すること。	評価方法	インターンシップの実習（50%）、提出物（20%）、事前事後指導の学習態度（30%）等を総合的に評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス：インターンシップの意義	9	インターンシップの実習時間			
2	事前指導：心構えと手続き、ビジネスマナーについて	10	インターンシップの実習時間			
3	事前指導：礼状の書き方とレポート提出について	11	インターンシップの実習時間			
4	インターンシップの実習時間	12	インターンシップの実習時間			
5	インターンシップの実習時間	13	インターンシップの実習時間			
6	インターンシップの実習時間	14	インターンシップの実習時間			
7	インターンシップの実習時間	15	事後指導：体験報告会（ディスカッション）			
8	インターンシップの実習時間					
関連科目	キャリア形成入門、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ	連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 12:15～13:00			
教科書	適宜資料を配布する。	備考				
参考資料	適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
ビジネスマナー	2	伊藤 けい子	3年	前期	講義	全コース必修
授業概要	魅力学の要素を用い、ビジネスの基本的な実務を習得、活用できる能力を目的としております。					
キーワード	魅力学・スキルアップ・コミュニケーション能力					
到達目標	ビジネスの基本的な知識を習得し、ビジネスパーソンとしての対応力・常識力を身につけます。					
受講生に望む事	コミュニケーション能力を高め、自分の才能を最大限に発揮し、必要とされる社会人になること。					
事前・事後学修	授業後、講師が指定したページの問題を解き、「解答と解説」を見て、間違っているところは訂正をしてください。	評価方法	筆記試験またはレポート（50%）、受講状況・態度・実技（50%）			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	来客対応・訪問のマナー（2）			
2	エレガントな立居振舞（挨拶・お辞儀・手足のしぐさ）	10	効率の良い仕事の進め方			
3	清潔感のある身だしなみ・似合うおしゃれとは	11	コミュニケーション能力とキャリアアップ			
4	丁寧な言葉遣い（1）	12	メール・手紙・ビジネス文書の基本			
5	丁寧な言葉遣い（2）	13	会食・パーティーマナー			
6	電話対応の基本（1）	14	冠婚葬祭マナー			
7	電話対応の基本（2）	15	まとめ			
8	来客対応・訪問のマナー（1）					
関連科目		参考資料				
資格		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
教科書	改訂版 ビジネスマナー基本テキスト ※出版社：日本能率協会マネジメントセンター ※著者名：株式会社キャリア総研（改訂版 2014.01）	オフィス ア ワ ー				
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション論	2	吉田 道雄	3年	前期 集中	講義	JC・LC 選必 他選択
授業概要	私たちは人と人との関わりのなかで生きています。そこで基本的に欠かせないもの、それが「コミュニケーション力」です。この授業では、「コミュニケーション」に関する理論的な情報を提供するとともに、実生活における「コミュニケーション」のスキルを高めるためにグループ・ワークを導入します。					
キーワード	コミュニケーション・スキル 集団理解 対人関係 対人理解 リーダーシップ					
到達目標	・これまで以上に「自分に対する理解」を深め、「自分に自信」をもつ。・人間と集団についての理解を深める。 ・より望ましい対人関係を創れる力を身につける。					
受講生に望む事	集中講義でグループ・ワークを入れることから、欠席者が出るとグループが維持できなくなる可能性が出てきます。そのため、基本的には100%出席するよう努めてください。					
事前・事後学修	授業後に「まとめ」を作成し、次の授業で発表する。	評価方法	授業中に8回程度の「ミニレポート」を課し、これを評価の対象にする。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	コミュニケーションの基礎	9	コミュニケーションに関する実践行動の設定			
2	コミュニケーションのインフラづくり	10	GW 実践行動の振り返り			
3	対人関係とコミュニケーション	11	GW 実践行動の評価分析			
4	ことばとコミュニケーション・スキル(1)	12	リーダーシップとコミュニケーション			
5	ことばとコミュニケーション・スキル(2)	13	GW 効果的な集団活動とコミュニケーション(1)			
6	GW コミュニケーション・スキルアップ(1)(GW:グループ・ワーク)	14	GW 効果的な集団活動とコミュニケーション(2)			
7	GW コミュニケーション・スキルアップ(2)	15	まとめ			
8	GW いま求められるコミュニケーション・スキルの探求					
関連科目		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課 yoshida@kumamoto-u.ac.jp			
資格		オフィス ア ワ ー				
教科書	ホームページからテキストをダウンロードします。その要領は1限目に説明します。	備考	夏期休暇中4日間実施します			
参考資料	吉田道雄「人間理解のグループ・ダイナミクス」(ナカニシヤ出版) 吉田道雄「実践的リーダーシップ・トレーニング」(メヂカルフレンド社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会心理学	2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	前期	講義	選択
授業概要	<p>・社会心理学とは、「他者とかわることで、個人がどのような影響を受けるのか」について、研究をして行く学問です。          ・授業では、人の心が、社会で現す特性について、実験、調査の結果をもとにして紹介していきます。</p>					
キーワード	社会的認知、印象形成、ステレオタイプ、原因帰属、集団心理					
到達目標	社会の中で生じる人の心の特性を知ること、自分自身の行動特徴への理解を深めて、そして、自己の成長・発達に活かすことができる。					
受講生に望む事	集団関係における人の行動の諸特性を知ること、自己周囲の環境についての理解を深めてください。					
事前・事後学修	<p>日頃から、個人での人間の行動の特徴と、社会の中で人間の行動の特徴の違いなどに目を向けて、何かを気づく視点を養ってください。          授業で取り挙げたトピックから、日常の世界で関連する行動についての問題意識を高めてください。講義ノートを準備して下さい。</p>		<p>評価方法</p>		<p>受講態度・受講記録（10%）、中間レポート・プレゼン（30%程度）、及び期末レポート（60%程度）を総合的に評価する。</p>	
回	授業計画		回	授業計画		
1	自己概念：IとME		9	社会的認知：原因帰属、認知的一貫性		
2	社会的交換：うなづきは促進剤？		10	社会的態度・社会的勢力		
3	社会的交換：座席の選び方		11	社会的影響過程1：目撃証言		
4	社会的自己：仮想的有能感		12	社会的影響過程2：集団心理		
5	社会的自己：見せたい自分、化粧行動		13	社会的影響過程3：社会的役割（1）		
6	非言語的コミュニケーション：好意の種類		14	社会的影響過程4：社会的役割（2）		
7	社会心理学の研究法		15	まとめ		
8	社会的認知：印象形成、ステレオタイプ					
関連科目	心理学、生涯発達心理学、教育心理学、臨床心理学		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス大学1号館3階No.1小沢研究室		
資格			オフィスアワー	火曜日：12:00-13:00 木曜日：12:00-13:00		
教科書	齋藤勇著 面白くてよくわかる！ 社会心理学 アспект		備考			
参考資料	授業時に紹介する					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
読書と豊かな人間性		2	くわばら よしや 桑原 芳哉	4年	前期	講義	司書教諭必修 教養教育選択
授業概要	豊かな人間性を形成するうえで、読書活動は重要な役割を果たしている。児童生徒の発達段階に応じた読書教育のあり方について概説したうえで、子どもの読書実態に基づいた読書指導、子どもと図書を結びつけるための方法や技能について、具体的な事例を交えて解説する。さらに読書活動への参加を促し、それを支援する司書教諭の役割と責務について解説する。						
キーワード	読書活動、読書指導、学校図書館						
到達目標	司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①子どもの読書を巡る昨今の政策や社会動向 ②子どもの発達段階に応じた読書指導 ③子どもと読書を結びつける技能と司書教諭の役割						
受講生に望む事	・居住地などの公共図書館や公民館図書室等を積極的に利用・訪問して、図書館における児童サービスの現状や子どもの読書活動について問題意識を持って観察すること。						
事前・事後学	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。						
評価方法	レポート 50% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 50% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス 子どもにとっての読書（教科書 p.9～26）						
2	子どもの読書環境（教科書 p.27～42）						
3	多様な読書資料：子ども向けの図書・資料（教科書 p.43～58）						
4	発達段階に応じた読書指導（教科書 p.59～75）						
5	読書指導の実際（教科書 p.94～118）						
6	子どもと本を結ぶための方法（1）読書環境の整備（教科書 p.76～80）						
7	子どもと本を結ぶための方法（2）読書活動プログラム（教科書 p.80～93）						
8	学校における読書活動（教科書 p.119～138）						
9	読書活動の実例：ブックトーク、読書へのアニメーション（教科書 p.83～88）						
10	地域と連携する読書活動（教科書 p.139～151）						
11	学校図書館支援センター事業：熊本市の実例（教科書 p.143～145）						
12	公共図書館における児童・ヤングアダルトサービスの概況（教科書 p.139～143）						
13	学校における読書活動の実践の事例：学校図書館職員の日（教科書 p.94～118）						
14	地域における子どもの読書活動（教科書 p.148～151）						
15	まとめ：熊本県内の「子ども読書活動推進計画」と学校図書館の活性化に関する取り組み						
関連科目							
資格	司書教諭（必修）						
教科書	全国学校図書館協議会「シリーズ学校図書館学」編集委員会／編『読書と豊かな人間性』（シリーズ学校図書館学第4巻）全国学校図書館協議会、2011（ISBN 978-4-7933-2245-7） 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。						
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。						
備考	司書採用試験・募集に関する情報を随時提供します。						

# 文化言語学部

---

文化言語学科・専門教育科目



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本文学概論		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	1年	前期	講義	JL 必修 他コース選択必修	
授業概要	日本文学概論は文学史と異なり、その内容は様々です。本講義では、日本文の学（研究）と、日本文学（作品）の概説という両方の解説を行い、広く日本文学に流れる「美」や「道」について、また、日本文学と歴史・社会とのかかわりについて、古代から近代まで概説していきます。							
キーワード	日本文学 文学環境 文学概論 文学史							
到達目標	日本文学及び日本文学研究の歴史的・時代的背景について理解する。各時代における作品の魅力をそれぞれの「美」として認識できる。文学を空間的・時代的に幅広い視野で見通す力、研究する力を身に付けることができる。							
受講生に望む事	入学時期においては多読を勧める。ジャンルは問わない。また、該当する作品や特定（指定）箇所は必ず読んで理解しておくこと。							
事前・事後学修	【事前学修】該当する作品や特定（指定）箇所は必ず読んで理解しておくこと。不明な点もチェックしておくこと。 【事後学修】不明な点の理解や講義上の重要な指摘は再確認しておくこと。NHK 大河ドラマはできるだけ視聴してほしい。	評価方法	授業態度・教場レポート 50%。期末試験（または期末レポート）50%。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	はじめに 日本文学の概論か、日本文の学の概論か、文学とは何か。			9	中世・室町の文学環境 幽玄美・中世小説概論・北山文化 日明貿易			
2	古代の文学研究 古典研究			10	中世・戦国・織豊の文学環境 茶道 地方の時代 軍記概論 南蛮文化			
3	中世の文学研究 歌学と注釈			11	近世前期の文学環境 浮世 町民文化 さび しおり 鎖国			
4	近世の文学研究 国学			12	近世後期の文学環境 江戸文化 改革 幕末 開国			
5	近代の文学研究 文学性の基準とは			13	近代・明治の文学環境 市民文学 自然主義 維新・文明開化・近代化			
6	古代・上代の文学環境 たをやめぶり 遣唐使			14	近代・大正・昭和前期の文学環境 浪漫主義 戦時文学			
7	古代・平安の文学環境 をかし あはれ 歴史物語概論 国風文化			15	近代・戦後・現代の文学環境 マンガ 映像 まとめ			
8	中世・鎌倉の文学環境 禅・説話概論 日宋貿易			16	試験			
関連科目	日本古典文学史Ⅰ、Ⅱ 日本近現代文学史Ⅰ、Ⅱ 文学研究概論			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『日本文学概論』井上豊著 笠間書院 1600円（税別） I S B N 0 0 0 3 7 - 8							
参考資料				備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
創作鑑賞Ⅰ		2	はまな りか 濱名 理香	1年	後期	演習	JL・JC・LC選必 AA選択	
授業概要	短歌は、五句三十一音の定型韻文叙情詩であり、『万葉集』の時代から、現代に至るまで、日本人に大切に愛されてきたものである。現代歌人の作品に触れながら、読む楽しみと、詠む喜びを実感する。							
キーワード	短歌の鑑賞・短歌の実作・女性と短歌							
到達目標	短歌における日本語の修辞の表現効果を学習する。							
受講生に望む事	短歌を気軽に楽しんでほしい。							
事前・事後学修	短歌に関する本を読む。短歌を作る。	評価方法	レポート（60%）、毎回の宿題、課題、提出物（40%）で評価する。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	鑑賞1 中学校教科書教材の短歌を読み直す（1）			9	鑑賞7 現代歌人の作品の鑑賞（5）きらめく個性			
2	鑑賞2 高等学校教科書教材の短歌を読み直す（2）			10	実作3 楽しみはルル～「平成独楽吟」			
3	実作1 五・七・五・七・七を展開する			11	実作4 作品鑑賞（1）			
4	実作2 付け句の面白さ―上の句と下の句の働きを知る			12	実作5 作品鑑賞（2）			
5	鑑賞3 現代歌人の作品の鑑賞（1）熊本ゆかりの歌人―安永落子			13	実作6 作品鑑賞（3）			
6	鑑賞4 現代歌人の作品の鑑賞（2）熊本ゆかりの歌人―河野裕子			14	実作7 歌会を開く（1）			
7	鑑賞5 現代歌人の作品の鑑賞（3）短歌とフェミニズム			15	実作8 歌会を開く（2）			
8	鑑賞6 現代歌人の作品の鑑賞（4）恋の歌・母の歌			16	まとめ 自信作を発表する			
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィスアワー				
教科書	プリント			備考				
参考資料	現代短歌の鑑賞101 小高賢 編著（新書館） 現代の歌人140 小高賢 編著（新書館）							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学史Ⅰ		2	たけしま かずき 竹島 一希	1年	前期	講義	JL必修	
授業概要	この授業では、日本古典文学の中でも、上代文学（奈良時代）、中古文学（平安時代）の歴史を辿り、主要な作品と作者について概観します。							
キーワード	古典文学、文学史、上代文学、中古文学							
到達目標	1 上代文学、中古文学の歴史的展開を理解することができる。 2 主要な作品と作家について、的確な位置づけを行うことができる。							
受講生に望む事	特にありません。							
事前・事後学修	配布レジユメを熟読して下さい。		評価方法	学期末レポートで評価します（100％）。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	『栄花物語』『大鏡』			
2	『古事記』『日本書紀』			10	『和漢朗詠集』			
3	『万葉集』			11	日記文学			
4	『伊勢物語』			12	『今昔物語』			
5	『古今和歌集』			13	『古今和歌集』以後			
6	『枕草子』			14	翻訳文学			
7	『源氏物語』1			15	まとめ			
8	『源氏物語』2							
関連科目	日本古典文学史Ⅱ			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィス アワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジユメを配布します。			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学史Ⅱ		2	たけしま かずき 竹島 一希	1年	後期	講義	JL必修 他コース選択	
授業概要	この授業では、日本古典文学の中でも、中世文学（鎌倉時代・室町時代）、近世文学（江戸時代）の歴史を辿り、主要な作品と作者について概観します。							
キーワード	古典文学、文学史、中世文学、近世文学							
到達目標	1 中世文学、近世文学の歴史的展開を理解することができる。 2 主要な作品と作家について、的確な位置づけを行うことができる。							
受講生に望む事	特にありません。							
事前・事後学修	配布レジユメを熟読して下さい。		評価方法	学期末レポートで評価します（100％）。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	芭蕉1			
2	『新古今和歌集』			10	芭蕉2			
3	『方丈記』			11	近松門左衛門			
4	『平家物語』			12	与謝蕪村			
5	『太平記』			13	読本			
6	連歌			14	滑稽本			
7	『徒然草』			15	まとめ			
8	井原西鶴							
関連科目	日本古典文学史Ⅰ			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィス アワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジユメを配布します。			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学史 I	2	五島 慶一	1年	前期	講義	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	文芸（文学）作品の創作という行為は、第一義的には個人の関心・動機づけに基づいてなされるものであるが、（特にその発表ということをも前提にした場合）その背後には多く社会・制度的あるいはイデオロギー的な同時代諸事情との関連がある。本講では明治（～大正）期を中心に、ほぼ時系列に沿って文学史上の幾つかの項目を追いつつ講義を進める。					
キーワード	日本文学、歴史、社会動向					
到達目標	創作活動の背景として存在する個人及び社会的動機に関して改めて確認することで、作家や作品への理解を深める一助とする。近代文学の大まかな流れを、その背景と共に理解できるようになること。					
受講生に望む事	固有名や事項の暗記を主目的としての授業ではない。大枠としての流れを把握すると同時に、授業内で紹介する作品や文献を少しでも多く実際に読んで理解を深めてほしい。					
事前・事後学修	プリントにて、次回言及する素材の一部を配布する。それには必ず目を通して授業に臨むこと。尚、近代（日本なら明治以降）の（一般的な）歴史の流れを押さえておくと、講義理解の助けとなるだろう。	評価方法	期末試験。但し、授業への参加態度を加味する。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンスと導入「近世から近代へ」（「文明開化」と文学その1）		9	日清戦後文学の様相・自然主義序説		
2	「文明開化」と文学その2（戯作者たちの動向）		10	日本型自然主義の発生（田山花袋の登場まで）		
3	新（ニュー）メディア「新聞」と文芸		11	日本型自然主義の展開（島崎藤村の場合）		
4	続・新聞と文芸（続き物について）		12	夏目漱石		
5	坪内逍遙と「小説」の誕生		13	森鷗外		
6	二葉亭四迷と「浮雲」の位置		14	明治から大正へ		
7	言文一致と「小説」の成立・明治文学第一世代の不遇		15	近代から現代へ		
8	尾崎紅葉と硯友社		16	試験		
関連科目			連絡先	e-mail : k-goto@pu-kumamoto. ac. jp		
資格			オフィスアワー	質問は毎授業前もしくは、同日5時限終了後に受け付ける。緊急の場合などは上記アドレスへのメール送信も可（但し、返信は確約しない）。		
教科書	毎回プリントを配布する。		備考			
参考資料	年表の会編『近代文学年表』（双文社出版 一九八四） 浅井清・佐藤勝編『日本現代小説大事典』（明治書院 二〇〇四） 小田切秀雄『日本文学の百年』（東京新聞出版局 一九九八） 前田愛・長谷川泉編『日本文学新史 近代』（至文堂 一九九〇） 他は講義の中で示す。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国文学概説 I	2	ふくなが みか 福永 美佳	1年	後期	講義	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	中国文学には長い歴史と豊富な蓄積がある。そこでこの講義では、数ある文学作品をジャンルごとに分け、中国における現存最古の文学作品集（詩集）である『詩経』から、唐代の伝奇小説までの文学史を、時代にそって代表作品を読みつつ解説する。なお、この文学史の解説は、2年次前期の「中国文学概説Ⅱ」へと連続するので、通年で受講することが望ましい。授業で使用する資料には、各作品の原文だけでなく、書き下し文（訓読文）や注釈、現代日本語訳などもあわせて用いる予定である。それゆえ中国古典文学や「漢文」について、知識や読解力があまりなくとも、受講には差し支えない。					
キーワード	諸子百家、六朝志怪、唐詩、李白と杜甫					
到達目標	中国古典文学史について、それぞれの文体・作品などの特徴を知り理解を深める。					
受講生に望む事	2年次前期に開講される「中国文学概説Ⅱ」を引き続き履修すること。					
事前・事後学修	授業で扱う作品を読むこと。	評価方法	論述形式による期末筆記試験(100%)で評価する。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 中国文学の性質		9	魏晋南北朝③——陶淵明の詩		
2	先秦①——『詩経』		10	魏晋南北朝④——志怪『搜神記』		
3	先秦②——『楚辞』		11	隋唐①——辺塞詩		
4	先秦③——諸子百家の文章		12	隋唐②——李白・杜甫		
5	秦漢①——辞賦		13	隋唐③——白居易		
6	秦漢②——歴史文学『史記』		14	隋唐④——韓柳の古文		
7	魏晋南北朝①——四六駢駢文		15	まとめ		
8	魏晋南北朝②——三曹と建安七子		16	試験		
関連科目	Ⅶコースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を希望する者は、その他にも、漢文学関係諸科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。		連絡先	fuyong@shokei-gakuen. ac. jp		
資格			オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		備考	教職課程「教科に関する科目」 中学一種／高校一種（国語・書道）必修科目		
参考資料	前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会）、吉川幸次郎述／黒川洋一編『中国文学史』（岩波書店）、興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）、奥野信太郎著・村松編『中国文学十二話』（NHK ブックス）など。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本語史		2	はたけやま しんいち 島山 真一	2年	後期	講義	選必	
授業概要	本講義では、教科書と言語資料に基づき、古典文法の基礎を学ぶと共に日本語の歴史の変遷を学ぶ。授業は、講義形式でおこなわれるが、受講者の授業参加は必須である。							
キーワード	古典文法、敬語、音声の変遷、文字の発明							
到達目標	・日本語の音声の変遷を理解し、現代の仮名遣いの意味を理解する ・日本語の文法の変遷を理解し、時代毎の文学作品を読む力を育てる ・熊本方言の中に、中世語が残っていることを理解する							
受講生に望む事	わからなければ古語辞典をひく労力を惜しまないこと							
事前・事後学修	事前に配布された資料を教科書に基づき、翻字しておく。授業後は、テキストの分析をおこなう。	評価方法	2回行われる小テスト（100%）					
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する（1）			
2	上代日本語の音声			10	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する（2）			
3	上代日本語の文字・文法			11	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する（3）			
4	中古日本語の文字			12	土佐日記青谿書屋本を翻字・分析する（4）			
5	更級日記御物本を翻字・分析する（1）			13	中世日本語の音声・文法			
6	更級日記御物本を翻字・分析する（2）			14	キリシタン資料を翻字・分析する			
7	更級日記御物本を翻字・分析する（3）			15	まとめ			
8	更級日記御物本を翻字・分析する（4）							
関連科目				連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー				
教科書	中野浩一（編）、『変体仮名の手引』、武蔵野書院、2001年			備考				
参考資料	『日本語の歴史』、坂梨隆三、月本 雅幸（編集）、放送大学教材 『日本語の歴史―青信号はなぜアオなのか―』、小松英雄、笠間出版							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本語学概説		2	はたけやま しんいち 島山 真一	1年	後期	講義	JL必修 他選必	
授業概要	本講義では、配布するハンドアウトと言語資料に基づき、日本語の体系を学んでいく。授業は、講義形式でおこなわれるが、受講者の授業参加は必須である。							
キーワード	音声学、第二言語習得、教授法、方言と歴史							
到達目標	・日本語の音声的特質を、他言語と比較しつつ理解する ・第二言語獲得と外国語教授法を概観する ・方言と日本語の歴史の間に見られる関係を理解する							
受講生に望む事	授業後に授業内で指示された課題・調査を実施し、当該分野に関する理解を深めておくこと。							
事前・事後学修	事前に授業中指示された課題を実施しておく。授業後、課題の復習を実施する。	評価方法	3回の小テスト					
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	日本語教授法			
2	日本語の母音と五十音図			10	日本語形態論（動詞の活用）			
3	日本語の子音と五十音図 1			11	日本語形態論（動詞の自他）			
4	日本語の子音と五十音図 2			12	日本語形態論（まとめ）			
5	日本語のアクセント			13	言語変異 1			
6	日本語のリズムとイントネーション			14	言語変異 2			
7	第二言語習得 1			15	全体のまとめ			
8	第二言語習得 2							
関連科目	日本語史、方言学、音声言語、日本語教育文法			連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教師。			オフィスアワー				
教科書	ハンドアウトを使用する。			備考				
参考資料	『いろはうた』、小松英雄、中央公論社							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文章表現	2	川上 知里 <small>かわかみ ちさと</small>	1年	後期	講義	JL 必修 他選択必修
授業概要	様々な話題に関する文章を読み、論理的に正しく理解できる力を養う。また、論理的な文章の書くための資料収集の仕方や表現技術を学び、説得的な文章を書くことのできる記述力を養う。					
キーワード	文章理解、文章表現、論理的文章					
到達目標	様々な文章を読み、調べ、書く能力を身につける。					
受講生に望む事	文章や課題に対して、主体的に取り組んでほしい。					
事前・事後学修	前回の授業内容を復習した上で授業に臨む。事前に与えられた課題を読んでおく。	評価方法	授業中の課題提出 (30%) と学期末レポート (70%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス	9	文章を書く (2) 必要な情報を調べる (2)			
2	文章を読む (1) 新聞記事	10	文章を書く (3) アンケートをとる			
3	文章を読む (2) 随想的文章	11	文章を書く (4) 資料を読み取る			
4	文章を読む (3) 論理的文章	12	文章を書く (5) プレゼンテーションを行う			
5	文章を読む (4) 論理的文章	13	文章を書く (6) レポートを書く (1)			
6	文章を読む (5) 物語的文章	14	文章を書く (7) レポートを書く (2)			
7	文章を読む (6) 物語的文章	15	まとめ			
8	文章を書く (1) 必要な情報を調べる (1)					
関連科目		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』 安部朋世他、三省堂	備考				
参考資料	適宜資料を配付する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
音声言語	2	山川 仁子 <small>やまかわ きみこ</small>	1年	後期	講義	JL, MC 選必 JC 選択
授業概要	音声がどのように作られているのかを、音響分析や映像資料等を通して学ぶ。また、音声の表記方法や、日本語の調音的特徴、韻律的特徴について学ぶ。本講義では、日本語のいわゆる標準語の音声を中心に学ぶが、日本各地の方言や日本語を母語としない日本語学習者の音声についてもふれる。					
キーワード	調音音声学、音響音声学、音韻論					
到達目標	・IPA (国際音声字母) による音声の記述ができるようになる ・調音器官の動きと音声出力の関係を理解する ・韻律的特徴を理解する					
受講生に望む事	音声は、実際に声をだして発音しないとわからないことも多いので、積極的な態度で授業に臨んでほしい。					
事前・事後学修	事前学修: 授業のテーマについて、参考資料等で調べ、概要をつかんでおくこと。 事後学修: 授業内容について復習し、わからなかった点は参考資料等で調べて理解しておくこと。	評価方法	授業内課題 (50%), 小テスト (50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション: 音声とは何か	9	発音の変化			
2	五十音図, 音声を作るしくみ	10	音の単位とリズム			
3	国際音声記号 (IPA)	11	アクセント①			
4	子音の発音①	12	アクセント②			
5	子音の発音②	13	イントネーション①			
6	子音の発音③	14	イントネーション②			
7	母音の発音①	15	まとめ			
8	母音の発音②					
関連科目	日本語学概説, 日本語教授法概論	連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教員, 日本語教育能力検定試験	オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	『国際音声記号ガイドブック』, 国際音声学会 編, 竹林・神山 訳, 大修館書店 『日本語音声学入門』, 齊藤純男, 三省堂 『音声の音響分析』, R.D.Kent, C.Read 著, 荒井隆行 他訳, 海文堂 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書学概論Ⅰ	2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	1年	前期	講義	JC必修 他コース選択
授業概要	書とは何かをさまざまな視点から追求していくと共に、高等学校書道教育における理論面や書道用語及び技法・学習法等について基本的な知識を幅広く学修する。					
キーワード	理論、文字、歴史、書体、芸術、書教育					
到達目標	・書独自の存在価値を理解する。 ・書についての基本的知識を身につける ・書美についての理解を深める。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。					
事前・事後学修	[事前学修]・資料をしっかりと読みこんでくる。 [事後学修]・各テーマごとにまとめる。	評価方法	授業への取り組み 20% 提出物 50% 定期試験 30%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	書について(1)	9	" (2)			
2	" (2)	10	篆刻について(1)			
3	" (3)	11	" (2)			
4	拓本について(1)	12	作品制作について(1)			
5	" (2)	13	" (2)			
6	作品について(1)	14	鑑賞について(1)			
7	" (2)	15	" (2) 学外学修			
8	文房四宝について(1)	16	定期試験			
関連科目	書学概論Ⅱの履修が望ましい。	連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格		オフィス アワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	書の古典と理論(光村図書)	備考	学外学修については「上通りの書」の鑑賞を 予定しています。費用は交通費のみです。			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
仮名書法	1	くたみ たけし 久多見 健	1年	前期	実習	JC必修 他コース選択
授業概要	仮名の歴史を学び、ひらがな単体、草がな、連綿など仮名の基本を学ぶ。平安時代の古筆を中心に書風分析の方法を習得し、それぞれの特徴を理解しながら臨書して、仮名の技法を身につける。					
キーワード	仮名・古筆・臨書					
到達目標	・漢字からできた仮名の変遷を理解する。 ・仮名の筆使いなど技法を身につける。 ・古筆の書風分析の方法を理解する。 ・それぞれの古筆の特徴を理解し、表現できるようにする。					
受講生に望む事	課題など授業以外の時間の練習を充分すること。					
事前・事後学修	次時の内容の予習と出された課題を仕上げて来る。	評価方法	授業時の提出作品(50%)、課題作品・レポート(50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	仮名の歴史、用具について	9	"			
2	ひらがなの字母・単体・変体仮名	10	三色紙 解説・臨書			
3	連綿、行の構成	11	"			
4	蓬莱切 解説・臨書	12	元永本古今集 解説・臨書			
5	高野切第三種 解説・臨書	13	細線の古筆(針切・香紙切・小島切) 解説・臨書			
6	"	14	平安古筆の系統的分類			
7	高野切第二種・第三種 解説・臨書	15	まとめ			
8	関戸本古今集 解説・臨書					
関連科目	仮名古典研究	連絡先	kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：1号館3階 久多見研究室			
資格		オフィス アワー	月曜日 12:10~12:55 木曜日 12:10~12:55			
教科書	日本名筆選『高野切第三種』、『関戸本古今集』(二玄社)	備考				
参考資料	書道技法講座各古筆(二玄社) 『かな字典』井茂圭洞編(二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
楷書法	1	中村 千恵	1年	後期	実技	JC 必修 他コース選択
授業概要	中国の有名な古典作品を中心に学びながら楷書の書美について解明し、創作へとつなげる。時代ごとに作品を掲げ、それぞれの作品を臨書しながら実技指導をし、合わせて作品や用語解説も行う。					
キーワード	定義、変遷、歴史、技法					
到達目標	・楷書の特徴を理解する。 ・古典作品の特徴的な技法を習得する。 ・表現の多様性について理解し、鑑賞力を高める。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。					
事前・事後学修	[事前学習]・授業で取り組む古典作品についての関連資料を読み込んでくる。 [事後学習]・授業で取り組んだ古典作品についてまとめる。 ・課題作品を仕上げてくる。	評価方法	授業への取り組み 20% 提出物 80%			
回	授業計画		回	授業計画		
1	楷書について	楷書の特徴、基本的技法	9	孔子廟堂碑	孔子廟堂碑について、虞世南	
2	九成宮醴泉銘	九成宮醴泉銘について、欧陽詢	10	鄭義下碑	鄭義下碑について、鄭道昭	
3	牛橛造像記	牛橛造像記について	11	課題作品 (3)		
4	鄭長猷造像記	鄭長猷造像記について	12	樂毅論	樂毅論について、光明皇后	
5	課題作品 (1)		13	細字		
6	顔勤礼碑	顔勤礼碑について、顔真卿、唐の四大家	14	作品制作 (1)		
7	雁塔聖教序	雁塔聖教序について、褚遂良	15	作品制作 (2)		
8	課題作品 (2)					
関連科目			連絡先			
資格			オフィス アワー			
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社) 書の古典と理論 (光村図書)		備考			
参考資料	新書道字典 (二玄社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
行書法	1	くろだ きよかず 黒田 清和	1年	後期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	漢字の行書体を実習形式で学習する。その中身としては、さまざまな行書の古典の臨書を通してその書美を鑑賞し、行書の魅力・技法を学習する。また、行書の歴史の変遷についても理解を深め、書道教育における行書学習へ生かす。そして習得した技法を基に表現の幅を広げ、これからの作品制作における自己表現の達成を目標とする。					
キーワード	晋唐宋、古典、臨書、創作。					
到達目標	・行書体の書美を理解する。 ・行書体の歴史の変遷を理解する。 ・行書作品への興味・関心・意欲を持ち、これからの制作活動に生かす。					
受講生に望む事	古典鑑賞における意欲的な姿勢と、レポート提出のための根気と熱意。					
事前・事後学修	次事の内容について予習し、授業後は臨書ノートまとめる。		評価方法	課題の提出・質 80%および平常点 20%として評価を行う。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	行書の歴史の変遷、古典の鑑賞、行書の特徴・技法の基本 (書写教育での学習をふまえて)		9	古典の臨書 (半紙)	争坐位文稿<顔真卿>	
2	古典の臨書 (半紙) 集字聖教序<王羲之>		10	"	蘇軾の行書	
3	"	"	11	"	黄庭堅の行書	
4	"	"	12	"	米芾の行書	
5	"	"	13	行書作品制作 (半切)	詩句選定・集字・草稿作り	
6	"	温泉銘<唐 太宗>	14	"	イメージ・全体構成・落款	
7	"	"	15	"	批評会を実施し、それを基に仕上げる	
8	"	争坐位文稿<顔真卿>				
関連科目	草書法の履修が望ましい。		参考資料	漢字の書Ⅱ行書 (雄山閣書道講座5) 新修墨場必携 上・下 (法政大学出版局)		
資格			連絡先			
教科書	中国法書選 16 集字聖教序、36 晋祠銘・温泉銘、41 祭姪文稿・祭伯文稿・争坐位文稿 46 蘇軾集、47 黄庭堅集、48 米芾集 (二玄社)		オフィス アワー			
			備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢字古典研究		2	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎	1年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	漢字の古典作品について、様々な角度から分析し書美を解明する。各自最も興味ある作品を選び、作品に対する認識を深めるために作品研究を行う。その上で作品を分析しまとめる。又、作品制作との関性についても考える。							
キーワード	古典作品、書美、分析							
到達目標	・作品の分析方法を習得する。 ・古典作品の書美の要因について理解する。 ・作品制作に生かす。							
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。							
事前・事後学修	[事前学修] ・毎時間の取り組み内容について理解し、準備する。 [事後学修] ・分析内容について着実に作業を進める。		評価方法	授業への取り組み 20% 発表点 40% 提出物 40%				
回	授業計画			回	授業計画			
1	漢字古典研究について 研究法、分析法			9	" (4) 全体			
2	古典の鑑賞			10	" (5) まとめ			
3	作品選び			11	" (6) "			
4	作品研究 (1) 時代背景			12	個人発表 (1)			
5	(2) 書人、関連作品			13	" (2)			
6	作品分析 (1) 用筆			14	" 3)			
7	" (2) 字形			15	まとめ			
8	" (3) 線、リズム							
関連科目				連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)、中国法書選 (二玄社)、中国法書ガイド (二玄社)			備考				
参考資料	各書道全集、各技法講座等							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道概論		2	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	前期	講義	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	・中学校国語科書写の指導内容、授業理論を学習し、書写教育についての理解を深める。 ・文字力テストの実施や、書写・書道の基礎基本となる理論を学習し、文字についての関心と理解を深める。							
キーワード	手書き文字 学習指導案 書の歴史							
到達目標	・中学校国語科書写教育の概要を理解する。 ・漢字や仮名についての基礎知識及びその歴史を理解する。 ・書写の授業を構想し、その学習指導法を理解する。							
受講生に望む事	実際に授業をしている自分を思い描きながら、学んでほしいと思います。							
事前・事後学修	学習指導要領の書写に関する部分は、繰り返し読んでおきましょう。			評価方法	定期試験 70%、課題レポート 20%、 平常点 10%。			
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画、文字と書くことの基礎			9	国語科書写授業の構想 ④教材研究			
2	国語科書写教育の目標と内容			10	" ⑤評価			
3	書写の指導内容①			11	学習指導案の作成①			
4	" ②			12	" ②			
5	年間計画の要点と事例			13	模擬授業			
6	国語科書写授業の構想 ①書写教育の推移と課題			14	漢字の歴史			
7	" ②基本的学習指導過程			15	仮名の歴史			
8	" ③学習指導法			16	試験			
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィスアワー				
教科書	明解書写教育 (萱原書房)、新しい書写1年用、2・3年用 (東京書籍)			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	国語科学習指導要領、筆順のすべて							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道Ⅰ		1	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	前期	実習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語科書写の実技に関する内容を、毛筆と硬筆の両面から学習し、書写技能の育成を図る。</li> <li>・ 文字構造の理論や書写教材を分析研究し、理解を深める。</li> </ul>							
キーワード	姿勢 字形のバランス 書体							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の楷書や行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことができる。</li> <li>・ 字形や文字の大きさ、配置・配列などに考慮し、目的や必要に応じて調和よく書くことができる。</li> <li>・ 文字に関する知識を高める。</li> </ul>							
受講生に望む事	実技は繰り返し練習することで身につけていきます。努力をして下さい。							
事前・事後学修	作品の返却後は、添削部分に特に気をつけて復習をしておきましょう。	評価方法	提出作品 50%、試験 40%、平常点 10%。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画 実技の基本（姿勢、執筆法、用具・用材）			9	楷書と平仮名の調和①			
2	楷書の基本点画			10	" ②			
3	楷書の字形①			11	行書の特徴と基本①			
4	" ②			12	" ②			
5	" ③			13	" ③			
6	楷書の筆順と許容体			14	行書と平仮名の和			
7	平仮名、片仮名の特徴と基本①			15	教材作成			
8	" ②			16	試験			
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィス アワー				
教科書	明解書写教育（萱原書房）、新しい書写1年用、2・3年用（東京書籍）			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	硬筆検定の試験問題集							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書写・書道Ⅱ		1	まえだ よりこ 前田 頼子	1年	後期	実習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科書写の内容全般にわたって理解を深め、実技面での習熟と生活化を図る。</li> <li>・ 基本的古典の臨書を通して、多様な表現技法を学習する。</li> </ul>							
キーワード	実用の書 掲示物 古典に学ぶ							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて日常の実用の書式を適切に書くことができる。</li> <li>・ 硬筆や毛筆で漢字の楷書、行書、仮名を読みやすく、速く書くことができる。</li> <li>・ 毛筆による多様な表現技法を習得する。</li> </ul>							
受講生に望む事	実技は繰り返し練習することで身につけていきます。努力をして下さい。							
事前・事後学修	作品の返却後は、添削部分に特に気をつけて復習をしておきましょう。	評価方法	提出作品 50%、試験 40%、平常点 10%。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	学習計画、古典の臨書（楷書）			9	古典の臨書（行書）			
2	古典の臨書（楷書）			10	"（行書）			
3	実用の書式①細字の基本（住所・氏名・芳名録）			11	"（行書）			
4	" ②封筒・慶弔表書き			12	古典の臨書（仮名）			
5	" ③手紙文			13	"（仮名）			
6	" ④賞状			14	書き初め			
7	" ⑤掲示物			15	教材作成			
8	" ⑥年賀状			16	試験			
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	硬筆検定試験			オフィス アワー				
教科書	明解書写教育（萱原書房）、新しい書写1年用、2・3年用（東京書籍）			備考	中1国語・高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	古典法帖							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会学概説	2	やまなか まもる 山中 守	1年生	後期	講義	必修, 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、社会全般のことについて解説します。特に近年は情報化が進んできましたので、情報化による社会の変化について分かりやすく取り上げます。学習の効果が上がるように教科書を使用します。これからの進路にも役立つ重要な講義ですので、教科書の具体的な事例を取り上げながら進めます。					
キーワード	社会 (Community), 情報化社会 (Information Society)					
到達目標	社会全般と情報化社会の現状と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
事前・事後学修	事前学修として、授業に関連するニュースや新聞記事を読み、その要点を整理しておくこと。 事後学修として、授業の要点を整理し、もし質問事項があるときには要点を整理して授業の時に質問すること。	評価方法	評価方法は、(1) 授業中の小レポート、(2) 期末テストまたは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、(1) が80%, (2) が20%です。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義の目的と内容について		9	産業社会の変化②		
2	社会の動き①		10	産業社会の変化③		
3	社会の動き②		11	情報社会の課題と展望①		
4	社会の動き③		12	情報社会の課題と展望②		
5	情報社会の現状①		13	情報社会の課題と展望③		
6	情報社会の現状②		14	これからの社会について①		
7	情報社会の現状③		15	これからの社会について②		
8	産業社会の変化①					
関連科目	地域社会論、現代社会学、地域振興論、地域政策論		連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー	水：12:00～12:50. 木：12:10～12:55.		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版、2013年。(注：関連科目と共通の教科書です)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域社会論	2	やまなか まもる 山中 守	1年	前期	講義	選択必修, 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、現在、急速に普及してきた情報化社会と地域社会の関係について取り上げます。地域社会や情報というと何だか難しいように思うかもしれませんが、テキストを使って分かりやすく説明します。将来の進路や職業の選択にも役立ちます。					
キーワード	地域社会 (Regional Community), 情報化社会 (Information Society)					
到達目標	1) 地域社会の現状と課題について理解すること。 2) 地域社会に関する簡単な分析ができること。 3) 地域社会の現状と課題についての意見が述べられること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
事前・事後学修	事前学修として、授業内容(テキストを参照)に関するニュースや新聞記事を読み、要点を整理する。 事後学修として、授業の要点を整理し、もし質問事項があるときには要点を整理して授業の時に質問すること。	評価方法	評価方法は、(1) 講義中の小レポート、(2) 期末テストまたは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、(1) が80%, (2) が20%です。			
回	授業計画		回	授業計画		
1	講義の目的と概要		9	地域社会の課題①		
2	地域社会の新しい動き①		10	地域社会の課題②		
3	地域社会の新しい動き②		11	地域社会の課題③		
4	地域社会の新しい動き③		12	情報社会と地域の発展①		
5	情報社会の現状①		13	情報社会と地域の発展②		
6	情報社会の現状②		14	情報社会と地域の発展③		
7	都市と農村①		15	まとめ		
8	都市と農村②					
関連科目	社会学概説、現代社会学、地域振興論、地域政策論		連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格			オフィス アワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT出版、2013年。(注：関連科目と共通の教科書)		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国事情	2	きたぐち 北口 ひでほ 英穂	1年	前期	講義	JC, MC 選必 JL 選択
授業概要	アジア諸国の発展が進む昨今、日本は各国との政治的・経済的・文化的関係の緊密化を進めつつある。中でも中国との関係は欠かせないものになっている一方、安定した関係を維持できていない。本講義では中国・台湾に関する歴史、文化、政治など基本的な知識や時事問題などをおさえながら、中国理解を進めることを目標とする。					
キーワード	中国、台湾、東アジア					
到達目標	中国理解を深める					
受講生に望む事	新聞を見る					
事前・事後学修	随時時事問題に関心を持つように心がけ、毎日新聞に目を通すようにする。特に授業で扱った内容については注意すること。	評価方法	学期末テスト(70%)と受講態度(取り組む姿勢等)(30%)で評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス	9	中国時事問題(文化①)			
2	中国・台湾の基礎知識①	10	中国時事問題(文化②)			
3	中国・台湾の基礎知識②	11	中国時事問題(経済①)			
4	中国・台湾の基礎知識③	12	中国時事問題(経済②)			
5	中国・台湾の基礎知識④	13	中国時事問題(日中関係①)			
6	中国・台湾の基礎知識⑤	14	中国時事問題(日中関係②)			
7	中国時事問題(政治①)	15	中国時事問題(日台関係)			
8	中国時事問題(政治②)					
関連科目	韓国事情、東アジア近現代史	連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:管理棟3F、第9研究室			
資格		オフィスアワー	授業中にアナウンスする。			
教科書	特定のテキストは使用せず、随時プリントを配布。	備考	期間中6コマ程度海外協定校(台湾、慈済大学)の教員による講話の予定あり、その際はイレギュラーな日程で授業が開催される可能性がある。			
参考資料	愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国』					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国事情	2	なかがわ あきお 中川 明夫	1	後期	講義	選択必須
授業概要	グローバル化が進む中、日本と東アジア諸国との関係は、ますます緊密になりつつあります。特に、地理的に最も近い韓国（北朝鮮）との関係は、文化的・経済的・政治的に更に緊密度を高まることが予想されます。本講義では過去・未来を踏まえた個人～社会に亘る文化・経済などのコミュニケーションの場としての日韓関係について考察します。可能な限り新しい出来事に関する情報を提供し、解説しますが、内容によっては授業内容を急遽、変更することもあり得ます。					
キーワード	グローバル化、韓国（北朝鮮）、文化的・経済的・政治的、日韓関係、新しい出来事					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジアの観点から日韓関係を理解する。</li> <li>・文化・経済・政治・教育とコミュニケーションとの関連性を理解する。</li> </ul>					
受講生に望む事	日ごろからニュースや新聞、インターネットなどを通じて、韓国に関連した出来事に関心を持つようにしましょう。					
事前・事後学修	<p>[事前]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回使用するプリントなどの補足資料をよく読んでおいてください。</li> <li>・授業ごとのテーマに添った資料を新聞・テレビ・インターネットで調べておいてください。</li> </ul> <p>[事後]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱った資料（主に映像）についての所感文を提出してもらいます。これは定期試験の参考資料として一時返却しますので、具体的に作成してください。</li> </ul>					
評価方法	テストまたは課題（80％）、態度（20％）					
回	授業計画					
1	オリエンテーション：授業内容、進め方					
2	日韓の歴史観 1					
3	日韓の歴史観 2					
4	日韓の外交問題 1					
5	日韓の外交問題 2					
6	日韓の文化 1（衣食住）					
7	日朝の文化 2（ ” ）					
8	日韓の大学文化 1					
9	日韓の大学文科 2					
10	まとめ					
11	日韓の考え方 1					
12	日韓の考え方 2					
13	日韓の女性問題 1					
14	日韓の女性問題 2					
15	韓流・日流に見る日韓文化交流					
関連科目	韓国語関連の授業、海外フィールドワーク、異文化理解、東アジア史など					
資格	通信案内士、ビジネス実務士、日本語教員、韓国語検定					
教科書	プリントを配布。					
参考資料	曹喜澈著 『現代韓国を知るキーワード 77』（大修館書店） 田中俊明監修 『東アジア三国史』（日本実業出版社）など					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回講義時に通知します。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国際日本学	2	畠山 真一	1年	後期	講義	MC 選択必修 他コース 選択
授業概要	国際日本学は、日本文化を外からの視点（他文化からの視点）で分析し、その特徴と普遍性を明らかにしようとする研究分野である。本講義では、映画史、比較アニメーション、比較音楽学の観点から日本文化を分析する視座を提供したい。					
キーワード	フル・アニメーションとリミテッド・アニメーション、映画の成立、JPOP とラップ					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポピュラーカルチャーの歴史的展開を理解する</li> <li>・ポピュラーカルチャーを分析するツールを理解する</li> <li>・分析ツールを使って、現代的なポピュラーカルチャーを分析するスキルを身につける</li> </ul>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にアナウンスする映像・音楽作品を見ておく・聴いておく。</li> <li>・配布されたテキストを一読し、疑問点・問題点を明確にしておくこと。</li> </ul>					
事前・事後学修	事前学習：アナウンスされたコンテンツを確認し、配布されたテキストを一読すること 事後学習：授業での学びに対する批判的な論点を確認すること					
評価方法	2回の小レポート					
回	授業計画					
1	授業の導入					
2	映画の誕生（1910年までのアメリカ映画）					
3	映画というジャンルの生成（1910年以後のアメリカ映画）					
4	映画におけるLGBT表象の歴史					
5	アニメーション映画の誕生（1920年までのアメリカアニメーション）					
6	ディズニーアニメーションの成立と発展（1920年代から1940年代まで）					
7	日本アニメーションの歴史 1（ペーパーアニメーションから戦意高揚アニメーションまで）					
8	戦後アニメーションの歴史 2（鉄腕アトムという分水嶺）					
9	21世紀型日本アニメーション					
10	アニメーションと映画はどこが違うのか					
11	演歌とは何か					
12	日本語ラップと社会運動					
13	アイドルとは誰のことか					
14	JPOPの音楽構造					
15	まとめ					
関連科目						
資格						
教科書	事前に資料を配付します。					
参考資料	Hollywood Cartoons Of Mice and Magic The Transformation of Cinema					
連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー						
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
ボランティア論		2	やすかわ まさお 安川 正雄	1年	後期	講義	選択必修、選択	
授業概要	現代社会の諸相に焦点をあて、ボランティア活動の基礎を学ぶ。また具体的な社会現象の分析をとおして、ボランティア活動の社会的な意義と役割の大切さを発見したい。また、変わりゆく社会とボランティア活動の支えによるさまざまな可能性について理解を深める。さらに、国内外のボランティア体験などの紹介をとおして、共に生きる姿勢を学習する。							
キーワード	共助 地域社会 NGO							
到達目標	・ボランティア活動の基礎的な理論を修得すること ・ボランティア活動の社会的な意義と役割を理解すること ・共に学び、共に生きる姿勢を理解すること							
受講生に望む事	授業に関する質問、発言を積極的に行うことを求める。また、ボランティア活動を体験することを望む。							
事前・事後学修	「事前学習」・毎回、テキスト・参考文献・資料等指定のとおり、事前の学習を行うこと。 「事後学習」・講義ノート、レポート等を適宜、提出すること。	評価方法	定期試験(70%)、レポート等提出ならびに実践活動(30%)を併せて評価する。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	現代社会の諸相(近代から現代へ)			9	ボランティアが創り出す新たな価値(社会起業と国際社会)			
2	現代社会の発展(現代社会とボランティア)			10	ボランティア活動と社会福祉(少子高齢社会の担い手として)			
3	ボランティア活動を問う(ボランティアとNPO・NGO)			11	ボランティア活動と社会福祉(地域福祉の担い手として)			
4	私にとってのボランティア(世界のボランティア活動の歩み)			12	ボランティア活動と環境(地球環境とのかかわり)			
5	私にとってのボランティア(日本のボランティア活動の歩み)			13	ボランティア活動と国際社会(ソーシャルネットワーク)			
6	人はなぜボランティアをするのか(自ら選択する生き方)			14	国際ボランティア NGO 活動(開発途上国の事例研究)			
7	ボランティアが創り出す新たな価値(新たな公共と私)			15	ボランティアセンターとマネジメント			
8	ボランティアが創り出す新たな価値(災害ボランティア)			16	試験			
関連科目	社会学、社会福祉			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィス ア ワ ー	授業の前後に質問を受け付ける。			
教科書	『学生のためのボランティア論』岡本・菅井・妻鹿編(発行 大阪ボランティア協会)							
参考資料	各種の白書			備考	身近な生活問題を例示するとともに、白書等のデータを取り上げ検討したい。			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
サービスラーニング入門Ⅰ		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	前期	演習	JL: 選択 JC: 選必 MC: 必修	
授業概要	この授業ではキャンパス内で考えられる課題を設定し、プロジェクトを進め、サービスラーニングの初歩を理解します。そして、受講生がチームで動き、実践し、振り返ることで、他者への理解を深め、自分の立ち位置を確認するために、考え行動するきっかけになることを目指します。							
キーワード	サービスラーニング							
到達目標	・他者の生き方や考え方に関心を持ち、学びとる姿勢を身に着ける ・自発的に行動し、振り返りながら考えを深める ・大学で学ぶことの意味や自分の将来を考える姿勢を身に着ける							
受講生に望む事	チャレンジする							
事前・事後学修	課外で準備する機会があると思いますが、チーム内で時間調整したり、グループワークすることも含めてコミュニケーション力育成につながりますので積極的に取り組んでください。	評価方法	授業とチーム活動の貢献度 40 毎回の振り返りシート 30 プレゼン・レポート 30					
回	授業計画			回	授業計画			
1	授業ガイダンスとアイスブレイク			9	課題の中間報告Ⅱ			
2	グループワーク①			10	チームミーティングⅡ			
3	グループワーク②			11	最終報告準備			
4	学内プロジェクトの設定			12	最終報告、振り返り			
5	参加プロジェクトの決定と課題設定			13	これからの大学生活を考えるⅠ			
6	課題のプレゼンとブラッシュアップ			14	これからの大学生活を考えるⅡ			
7	課題の中間報告Ⅰ			15	自分のこれらのアクションプランプレゼン			
8	チームミーティングⅠ							
関連科目	サービスラーニング入門Ⅱ、課題探求プロジェクト演習			連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟 3F、第9研究室			
資格				オフィス ア ワ ー	授業中にアナウンスします。			
教科書	『リテラシーの強化書 講義編』1,500円(授業中に案内します。)			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング入門Ⅱ	2	なかがわ あきお 中川 明夫 はたけやま しんいち 畠山 真一 はただ ひでまさ 畑田 秀将	1年	後期	講義	MC 必修、JC コース選必、JL コース選択（秘書士・上級秘書士・ビジネス実務士・情報処理士・上級情報処理士選択）
授業概要	地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動などを体験することにより、学外におけるサービスラーニングを理解します。「日本語学習」「学校図書館」「外国人観光客に対する広報活動」を支援する3コースから選択し学修を進めます。					
キーワード	体験学習、アクティブラーニング、意識変化、日本語、学校司書、広報活動					
到達目標	サービスラーニング入門Ⅰ（学内編）に続き、今回は学外編により知識として学んできたことを実際のサービス活動にいかすことを試み「気づき」を得る、「自己変化」を得ることを目標とします。					
受講生に望む事	事前学修は能動的に動けるよう必要なイメージを作り上げ学外学修に備える。事後学修では次回クラス充実につながる内省（振り返りノートに記録）を行ってください。					
事前・事後学修						
評価方法	授業とチーム活動の貢献度 40%、振り返りノート提出 30%、成果発表 30%					
回	授業計画					
1	オリエンテーション・コース内容説明 共通授業（能動的学修の意義とコース分け）					
2	コース別課題確認、専門知識習得、学外学修および振り返り・内省					
3	"					
4	"					
5	"					
6	"					
7	"					
8	"					
9	共通授業（取組状況中間報告）					
10	専門知識習得、学外学修、振り返り・内省					
11	"					
12	"					
13	"					
14	"					
15	共通授業 まとめ・成果発表 ※学外学修 5, 7, 8, 13, 14, 15 回、図書館コース：武蔵ヶ丘小学校、日本語コース：国際交流会館、広報活動コース：熊本城周辺、交通費実費					
関連科目	サービスラーニング入門Ⅰ、課題探求プロジェクト演習、サービスラーニング演習Ⅰ、Ⅱ					
資格	秘書士・上級秘書士・ビジネス実務士・情報処理士・上級情報処理士、外国語関連資格					
教科書	特にありません。授業中にレジユメを配布します。					
参考資料						
連絡先	中川明夫：武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3 F 中川研究室、akio@shokei-gakuen.ac.jp 畠山真一：武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 畠山研究室、htk@shokei-gakuen.ac.jp 畑田秀将：武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3 F 畑田研究室、hatada@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	中川明夫：初回講義時に通知します。 畠山真一：初回講義時に通知します。 畑田秀将：火曜 12：10-12：50、木曜 12：10-12：50					
備考	金曜 4-5 限と連続して行います（基本隔週開講、外部講師（予定）による講話を含むコースがあります。コースごとに詳細説明があります）。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
課題探求プロジェクト演習		2	たくち せいち 田口 誠一 きたぐち ひでほ 北口 英穂 うの ふみえ 宇野 文重	1年	前期	演習	MC 選必	
授業概要	教室における「学び」と社会における「実践」を双方向でつなげるサービスラーニングを通して、課題探究力や実践的コミュニケーション力を向上させる。大津町に関する視察と大津町の「地蔵祭り」での「お化け屋敷」ブース運営といった活動をおこなう。							
キーワード	課題探究 サービスラーニング							
到達目標	課題探究力と実践的コミュニケーション力の育成							
受講生に望む事	学外活動に積極的に参加して、地域の様々な人たちとできるだけ多くコミュニケーションをはかり、地域理解へと繋げてほしい。							
事前・事後学修	事前(2時間)・事後(2時間)を学修時間の目安とする。事前学修では、特に大津町について調べてその現状をできるだけ理解してほしい。また、学外活動の準備や活動後のプレゼンテーションの準備に時間をかけてほしい。事後学修については、特に学外活動の振り返りをおこないその内容をまとめておくことが望まれる。	評価方法	学外活動への取り組み 50%、 レポート 50%					
回	授業計画			回	授業計画			
	オリエンテーション 日程未定(7月下旬) 掲示等で連絡 1コマ分 第2回と第3回 大津町に関する視察(大津町歴史文化伝承館等) 大津町の歴史や文化、観光などを知る 学外学修 日程未定(8月上旬頃) 2コマ分 交通費自己負担(参考 武蔵塚駅と肥後大津駅間往復500円) なお、昨年度は、尚綱高校バスを利用したため学生の負担はなかった。今年度もその方向で検討する。 第4回と第5回 大津町についての意見交換および大津町「地蔵祭り」についての事前指導 日程未定(8月上旬から中旬) 2コマ分				第6回～第13回 大津町「地蔵祭り」でのブース「お化け屋敷」などの運営(大津町役場周辺) 8月下旬(23日と24日の予定 両日共に12時頃～20時頃) 4コマずつ、計8コマ分の見込み 交通費自己負担(参考 武蔵塚駅と肥後大津駅間往復500円) 第14回と第15回 事後指導、振り返り 日程未定(8月下旬頃) 2コマ分 授業計画の日程等については、第1回の授業のオリエンテーション時に説明する。なお、地蔵祭りが台風等で中止された場合は、課題探求プロジェクト演習のサービスラーニングの方向性と合致するようなプランを代わりに実施することがある。			
関連科目	課題解決プロジェクト演習			連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室			
資格				オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	特になし。			備考				
参考資料	授業中適宜紹介する。			備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
海外フィールドワーク		2	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	後期	演習	MC 選択	
授業概要	海外の協定校(韓国・仁徳大学校)にてフィールドワークを行い、その結果をプレゼンテーションします。所定の評価基準をクリアした学生に対して単位が認められます。テーマは、ソウル市内の観光地を巡り、日本人観光客の目線に立った環境改善案を考えます。受入先の学生との合同ワーク、合同プレゼンを行うので実践的な韓国語の力が必要ですが、受入先には日本語ができる学生がいますので、日韓両語でコミュニケーションを行います。							
キーワード	海外、異文化体験							
到達目標	異文化理解の促進							
受講生に望む事	積極的に探求しようとする姿勢							
事前・事後学修	[事前] ソウルの観光地、観光商品を調べる。韓国語の力をつける。 [事後] 発見した課題に対する解決策を引き続き探求する。	評価方法	授業に取り組む姿勢(30%) プレゼン+レポート(70%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9	事後指導			
2	事前指導①			10				
3	事前指導②			11				
4	事前指導③			12				
5	フィールドワーク、合同グループワーク、合同プレゼン			13				
6				14				
7	夏季休暇中5日間程度			15				
8	費用: 60,000円程度 ※その他食費5,000円程度、海外旅行保険4,000円程度必要							
関連科目	韓国語に関連した科目、異文化理解			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	韓国語に関連した検定試験、観光案内士			オフィスアワー	初回講義時に通知します。			
教科書	プリント資料			備考	韓国・仁徳大学校での学外学修になります。韓国語を履修していない人でも参加できます。経費として宿泊費・交通費・食費などがかかります。			
参考資料	ソウル(韓国)の観光ガイドブックなど、インターネットの各種サイト			備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語表現論Ⅰ	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	1年	前期	講義	必修
授業概要	日本語による基礎的な表現技術を学び、その知識の確実な定着を目的とする。特に、大学における学修に欠かせない2つの文章力(①事実を正確にかつわかりやすく説明する力、②論理的に自分の意見を述べる力)を身につけることに重点を置く。					
キーワード	アカデミック・リテラシー、クリティカル・シンキング					
到達目標	・レポートや論文にふさわしい文体で書くことができるようになる ・事実を正確にわかりやすく説明できるようになる ・論理的に自分の意見を述べられるようになる					
受講生に望む事	・自宅や授業中など随時使えるように辞書を用意しておくこと(電子辞書、単行本の辞書どちらでもよい)。・わからない言葉の意味はその都度、辞書を引いて調べる。・新聞や報道番組などに親しみ、日常会話で用いない用語や表現に注意を払う習慣をつけてほしい。					
事前・事後学修	事前学修：授業で指示する事前課題に取り組むこと。わからない言葉は辞書を引いて意味を調べる。事後学修：授業内課題や返却された課題を見直し、間違った箇所・指摘された箇所をもう一度やり直すこと。	評価方法	授業内課題(50%)、学期末レポート(50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	論理的に意見を述べる(1)			
2	話しことばと書きことば	10	論理的に意見を述べる(2)			
3	敬語	11	レポートの書き方(1) レポートの構成			
4	手紙とEメール	12	レポートの書き方(2) 情報の集め方			
5	わかりにくい文の直し方(1) あいまいな文、わかりやすい語順	13	レポートの書き方(3) 参考文献の書き方、引用の仕方			
6	わかりにくい文の直し方(2) 長い文を分ける	14	レポートの書き方(4) 体裁・書式			
7	わかりにくい文の直し方(3) 文のねじれ	15	まとめ			
8	わかりにくい文の直し方(4) 接続表現					
関連科目	スタディスキルⅠ,Ⅱ,日本語表現論Ⅱ	連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	秘書士,上級秘書士	オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	『大学生のための日本語表現トレーニングドリル編』,安部朋世,他編著,三省堂	備考				
参考資料	『日本語表現法 改訂版』,沖森卓也 他編,三省堂 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語表現論Ⅱ	2	かわかみ ちきと 川上 知里	1年	後期	講義	必修
授業概要	日本語による基礎的な表現技術を学び、論理的でわかりやすい文章を書く力を習得する授業を目指す。また、自分の意見を論理的に発表し、他人の意見を聞いて理科し、建設的な論議を行う力を習得できるような授業としたい。					
キーワード	文章表現、わかりやすい文章、コミュニケーション					
到達目標	文章を書き、発表し、論議するために必要なスキルを身につける。					
受講生に望む事	積極的・主体的に授業に取り組んでほしい。					
事前・事後学修	授業内容が実践できるよう、必ず復習して身につけること。	評価方法	毎回の授業内課題によって評価する・			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス	9	ディスカッションをする			
2	文体と話し言葉	10	ディベートする			
3	紹介文を書く	11	資料をもとに考察し、文章を書く(1)			
4	紹介スピーチをする	12	資料をもとに考察し、文章を書く(2)			
5	新聞記事紹介をする(1)	13	レポート(小論文)を書く(1)			
6	新聞記事紹介をする(2)	14	レポート(小論文)を書く(2)			
7	意見文章を書く(1)	15	まとめ			
8	意見文章を書く(2)					
関連科目	日本語表現論Ⅰ	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』 銅直信子・板東実子、図書刊行会	備考				
参考資料	適宜紹介する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅰ：田口		1	たぐち せいいち 田口 誠一	1年	前期	演習	現代コミュニケーションコース 必修	
授業概要	高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、練習問題や読解問題を課することにより、基礎的な英語力を定着させる。							
キーワード	読解力 (Reading Comprehension) 文法 (Grammar) 語彙 (Vocabulary)							
到達目標	基本的な文法項目の習得							
受講生に望む事	リメディアルの一面がある授業なので、理解できないところがあれば積極的に質問してほしい。							
事前・事後学修	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。予習としては、特に文法事項であるポイントの箇所をよく読んで理解しておくことが望まれる。また、特に「読んでみよう!」の復習に時間をかけてほしい。		評価方法	定期試験の成績 (80%)、学習態度 (20%) で評価する。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	Unit 4 デバ地下でお買い物			
2	Unit 1 空港で			10	Unit 5 お花見			
3	Unit 1 空港で			11	Unit 5 お花見			
4	Unit 2 マンションに到着			12	Unit 6 浅草へ行こう!			
5	Unit 2 マンションに到着			13	Unit 6 浅草へ行こう!			
6	Unit 3 お客様を迎える			14	Unit 7 秋葉原を散策			
7	Unit 3 お客様を迎える			15	Unit 7 秋葉原を散策			
8	Unit 4 デバ地下でお買い物			16	定期試験			
関連科目	英語基礎Ⅱ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ			連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55			
教科書	Introduce Japan in Easy English (朝日出版社)			備考	最初の授業の時に説明しますが、英語演習Ⅰは2クラスに分かれます。自分のクラスが決定したのち教科書を購入してください。			
参考資料	授業中に適宜指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅰ：竹下		1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	前期	演習		
授業概要	各ユニットのテーマとなる文法事項についての基本的な練習問題に取り組む。問題の解答・解説には十分な時間をかけ、必要に応じてプリント等を配付して理解を深める。							
キーワード	基礎、リメディアル							
到達目標	英語学習の初期段階で学ぶ文法項目を充分理解する。							
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わずに、英語を一から学び直すつもりで取り組むこと。							
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な個所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。		評価方法	100% 定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良いくない者は評価の対象にならないので注意すること。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9	Unit 6: 基本動詞の変身スタイルを探ろう 1			
2	Unit 1: 英文と日本語の構成の違いを発見しよう			10	Unit 7: 「それは」と訳さない it と「そこ」と訳さない there			
3	"			11	Unit 8: 「動詞-ing」の働きを知ろう 1			
4	Unit 2: 「品詞」って何?			12	"			
5	"			13	Unit 9: 修飾語句の働きを知ろう 2			
6	Unit 3: 基本動詞を含む英文を理解しよう 1			14	"			
7	Unit 4: 基本動詞を含む英文を理解しよう 2			15	Unit 10: 基本動詞の変身スタイルを探ろう 2			
8	Unit 5: 修飾語句の働きを知ろう 1			16	定期試験			
関連科目				連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階 (武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 12:15～13:00			
教科書	Grammar Discovery センゲージ ラーニング株式会社 2000円+税			備考				
参考資料	適宜紹介する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅱ：田口		1	たぐち せいいち 田口 誠一	1年	後期	演習	現代コミュニケーションコース 必修	
授業概要	高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、練習問題や読解問題を課することにより、基礎的な英語力を定着させる。							
キーワード	読解力 (Reading Comprehension) 文法 (Grammar) 語彙 (Vocabulary)							
到達目標	基本的な文法項目の習得							
受講生に望む事	リメディアルの一面がある授業なので、理解できないところがあれば積極的に質問してほしい。							
事前・事後学修	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。予習としては、特に文法事項であるポイントの箇所をよく読んで理解しておくことが望まれる。また、特に「読んでみよう!」の復習に時間をかけてほしい。		評価方法	定期試験の成績 (80%)、学習態度 (20%) で評価する。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	Unit 8 平和への祈り			9	Unit 12 日本滞在最後の日			
2	Unit 8 平和への祈り			10	Unit 12 日本滞在最後の日			
3	Unit 9 京都旅行			11	Unit 13 日本の事象を英語で説明			
4	Unit 9 京都旅行			12	Unit 13 日本の事象を英語で説明			
5	Unit 10 茶道初体験			13	Unit 14 最後の晩餐			
6	Unit 10 茶道初体験			14	Unit 14 最後の晩餐			
7	Unit 11 京都の思い出			15	Unit 15 別れの時			
8	Unit 11 京都の思い出			16	定期試験			
関連科目	英語基礎Ⅰ 英語演習Ⅰ 英語演習Ⅱ			連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55			
教科書	Introduce Japan in Easy English (朝日出版社)			備考	前期の教科書を継続して使います。			
参考資料	授業中に適宜指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
英語基礎Ⅱ：竹下		1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	1年	後期	演習		
授業概要	各ユニットのテーマとなる文法事項についての基本的な練習問題に取り組む。問題の解答・解説には十分な時間をかけ、必要に応じてプリント等を配付して理解を深める。							
キーワード	基礎、リメディアル							
到達目標	英語学習の初期段階で学ぶ文法項目を充分理解する。							
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わず、英語を一から学び直すつもりで取り組むこと。予習・復習には十分な時間をかけることを忘れずに。							
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な箇所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。		評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良いくない者は評価の対象にならないので注意すること。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	Unit 11: 否定文・疑問文を使って表現しよう			9	Unit 17: [動詞-ing] の働きを知ろう 2			
2	Unit 12: 話し手の心理を表現しよう			10	"			
3	"			11	Unit 18: 過去分詞の働きを知ろう			
4	Unit 13: 形容詞・副詞を変身させて表現しよう			12	"			
5	Unit 14: 英文をつなぎ合わせて長い文を作ろう			13	Unit 19: 幅のある時制を知ろう			
6	"			14	"			
7	Unit 15: [to+動詞の原形] の働きを知ろう 1			15	Unit 20: 名詞を修飾する文の働きを知ろう			
8	Unit 16: [to+動詞の原形] の働きを知ろう 2			16	定期試験			
関連科目				連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 大学1号館2階 (武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 10:45～11:30			
教科書	Grammar Discovery センゲージ ラーニング株式会社 2000円+税			備考	英語基礎Ⅰ (前期開講) のテキストをそのまま利用する。			
参考資料	適宜紹介する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
中国語基礎Ⅰ		1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	前期	演習	全コース選択	
授業概要	中国語は発音が非常に重要で「発音よければ半ばよし」と言われるほどです。発音のちょっとした違いで意味が全く異なることもあります。日本人は漢字を理解できるため、中国語に入り込みやすい反面、発音が難解であるため、発音で挫折する場合があります。そこで、この講義では最初で最大のハードル「発音」をクリアすることを重点に置いて実施します。							
キーワード	中国語、発音							
到達目標	・中国語の発音を一通りマスターすること ・発音記号の「ピンイン」をマスターすること							
受講生に望む事	・語学習得は予習・復習必須です。徹底しないとすぐに置いていかれます。 ・この授業は発音中心です。中国語ⅠA（文法中心）の同時受講をお勧めします。							
事前・事後学修	語学の修得には予習・復習が欠かせません。授業中で学習した内容は毎日繰り返してください。積極的に留学生や留学経験者の学生と中国語を使って実践する機会を増やしてください。	評価方法	学期末テストと小テスト（70%）と受講態度（取り組む姿勢等）（30%）で評価します。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	講義計画、中国語について			9	声調変化			
2	単母音			10	総合トレーニング（1）			
3	複母音			11	総合トレーニング（2）			
4	鼻母音			12	総合トレーニング（3）			
5	子音（1）			13	総合トレーニング（4）			
6	子音（2）			14	総合トレーニング（5）			
7	声調			15	まとめ			
8	音節							
関連科目	中国語Ⅰも同時に受講することが望ましい。			連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室			
資格	中国語検定試験準四級			オフィスアワー	授業中にアナウンスする予定			
教科書	荒川清秀『読めて書ける中国語』（NHK出版）			備考				
参考資料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
中国語基礎Ⅱ		1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	1年	後期	演習	選択	
授業概要	前期に引き続き発音を重点におこないます。基本的な文法事項を確認しながら、発音練習を繰り返し、会話練習もおこなっていきます。							
キーワード	中国語、発音							
到達目標	・発音を聞き、ピンインと漢字（簡体字）を書き取れること ・簡単な会話ができること							
受講生に望む事	・語学習得は予習・復習必須です。徹底しないとすぐに置いていかれます。 ・次回の単語についての予習と、前回の単語、文法についての復習を行うこと。 ・授業で学習した文法事項や単語を使い、毎日1行日記を中国語で書くこと。							
事前・事後学修	テキストの予習・復習は当たりまえですが、それ以外でも積極的に中国語を使用する習慣を身に付けてください。	評価方法	学期末テストと小テスト（70%）と受講態度（取り組む姿勢等）（30%）で評価します。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	前期の復習			9	時間詞、連動文			
2	「是」			10	動量詞、「过」			
3	「有」「都」			11	「能」「会」「可以」			
4	主語＋動詞＋目的語			12	比較			
5	「在」＋場所＋動詞			13	受身			
6	「喜欢」			14	総合トレーニング（1）			
7	名詞述語文			15	総合トレーニング（2）			
8	「了」							
関連科目	中国語Ⅱも同時に受講することが望ましい。			連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室			
資格	中国語検定試験4級			オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	陳淑梅『読めて話せる中国語』（NHK出版）			備考				
参考資料	推奨辞書：『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』（講談社）							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語基礎Ⅰ		1	なかがわ あきお 中川 明夫	1年	前期	演習	現コミ選必 他選択
授業概要	「文字、基礎単語、あいさつ・自己紹介、基本的な文章ルール」を学び、韓国語によるコミュニケーションの特徴を把握しつつ、言語にうよる意思疎通を可能にする表現の知識や言語生活で役立つ文化を学ぶ。						
キーワード	文字、基礎単語、あいさつ、自己紹介、基本的な文章ルール、コミュニケーションの特徴						
到達目標	・ハングル文字の作りと読み書きの基本的なルールを習得する。 ・簡単な韓国語の文でコミュニケーションできる文法ルール・基礎単語を習得する。 ・韓国語のコミュニケーションに必要な言語文化を学ぶ。						
受講生に望む事	日頃、見慣れないハングル文字に戸惑うかも知れませんが、思ったより簡単にマスターできます。新しいスタートラインに立った、新鮮な気持ちで学んでください。						
事前・事後学修	[事前]・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。			評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介			9	レッスン3 「～が(～が/이)」、「～と(～와/과)・～の(～의)」		
2	ハングル文字を覚えようー母音、あいさつ言葉1			10	レッスン4 「～の上・下・横・前」、「いる・ない(있다・없다)」		
3	ハングル文字を覚えようー子音、あいさつ言葉2			11	レッスン4 場所・方向・位置の表現		
4	ハングル文字を覚えようーパッチム(終音)、あいさつ言葉3			12	レッスン5 曜日・値段を表す表現、「～をください(～를/을 주세요)」		
5	レッスン1 人を表す言葉、「～は(는/은)」			13	レッスン5 年・月・日を表す表現		
6	レッスン2 「～です(～입니다)・～ですか(～입니까?)」、自己紹介			14	レッスン6 「～ます・です(～합니다・습니다)」1		
7	レッスン2 「～ではありません(～가/이 아닙니다)」			15	レッスン6 「～ます・です(～합니다・습니다)」2		
8	レッスン3 「こそあど(이 그 저 어느)」、何ですか「무엇입니까?」						
関連科目	韓国語基礎Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	各種の韓国語検定試験			オフィス アワー	初回講義時に通知します。		
教科書	中川明夫・柳景沃、『初級韓国語』、自作教材			備考			
参考資料	補足プリント、映像資料など						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語基礎Ⅱ		1	りゅうきよんわく 柳 景沃	1年	後期	演習	選択
授業概要	習得した基本単語と基本的な文章ルールを生かした応用会話ができる語学・文化力を習得する。特に、韓国語の習得でもっとも大事な「動詞・形容詞を使った文章」の作り方を学んで、自分の言いたい内容が言えるように練習する。希望者は「韓国語スピーチ大会」への参加、「ハングル能力試験」などの検定試験の受験にチャレンジしてみる。						
キーワード	応用会話、語学・文化力、動詞・形容詞を使った文章						
到達目標	・会話でよく使う結びの表現が作れ、言えるようにする。 ・ネイティブスピーカーの話が理解できるようにする。 ・日韓交流で通用する「言語的・文化的」なマナーを理解する。						
受講生に望む事	韓国語の学習でとても大事な文章を結ぶ表現をマスターすれば、韓国語の表現力が大幅にアップします。ゆっくりに、かつ、着実に用言の活用を学んでください。						
事前・事後学修	[事前学習]・学習する箇所を予習してください。・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。			評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション：韓国語・韓国文化の紹介			9	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(3)		
2	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(1)			10	まとめ		
3	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(2)			11	レッスン9 「～て・ています」(1)		
4	レッスン7 「～ます・です(～합니다/습니다)」(1)			12	レッスン9 「～て・ています」(2)		
5	まとめ			13	レッスン10 「～ました・でした(～았/았어요)」(1)		
6	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(1)			14	レッスン10 「～ました・でした(～았/았어요)」(2)		
7	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(2)			15	まとめ		
8	レッスン8 「～ます・です(～아요/어요)」(3)						
関連科目	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅰ、日本語教育			連絡先			
資格	各種の韓国語検定試験、日本語教員資格試験			オフィス アワー			
教科書	中川明夫、『スタート！韓国語』、自作教材			備考	韓国語Ⅰまたは韓国語基礎Ⅰの履修者、韓国語初級レベルの知識を持っている者、韓国語関係の検定資格(初級以上)を持っている者の履修が望ましい。		
参考資料	補足プリント、映像資料など						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
文学研究概論		2	たけだ 武田 昌憲 みやざき 宮崎 尚子 ふくなが 福永 美佳	2年	前期	講義	JL 必修、AA 選必 他コース選択
授業概要	<p>(武田 1-5回) 日本古典文学研究における様々な方法や、注意事項を確認して行く。ひと口に古典研究と言っても書誌学あり、民俗学ありの幅広い研究方法がある。千数百年に及ぶ継続した歴史を持つ古典の宿命を含めて概説する。研究文献資料も合わせて配布する。</p> <p>(宮崎 6-10回) 近代文学を考える上で近代という時代の定義は不可欠である。大きな時代の転換期とそれに伴う文学の変遷を解説していく。文学研究に必要な知識と研究方法について解説する。</p> <p>(福永 11-15回) 福永担当の5回では、漢文学(中国古典文史哲)分野における論文の書き方について学び、さらに日本と中国の文学作品を比較する研究方法について解説する。</p>						
キーワード	<p>(武田) 諸本 文献 版本 (宮崎) 近代文学 テキスト論 作家論 (福永) 日中文学の比較研究 蒲松齡 芥川龍之介</p>						
到達目標	<p>古典におけるテキスト研究の方法を知る。 卒業論文作成のためにどのようなテキスト分析を用いるか考え始める。 漢文学分野におけるテキスト研究の方法を知る。</p>						
受講生に望む事	<p>いろいろな分野の研究方法を理解してもらいたい。 事前に配布プリントを読んでおくこと。 受講前に蒲松齡と芥川の「酒虫」を読み、自分の考えをまとめてくること。</p>						
事前・事後学修	<p>(福永) 卒業論文で取り組みたい分野及びテーマについて事前に考えてくること。事後は具体的なテーマに沿った研究を進めること。</p>						
評価方法	<p>(武田) 授業態度・教場レポート 30点分 (宮崎) 30点分レポートで評価。 (福永) 40点分レポート。</p>						
回	授業計画						
1	古典文学研究の宿命と魅力 諸本・書承関係 平家物語を一例として						
2	書誌学・文献学 記録の仕方						
3	解釈学と注釈書類 中世・近世の学問と考証学						
4	版本 古活字・製版本						
5	比較文学と歴史社会学 研究に当たっての諸注意 まとめ						
6	文学研究とは何か						
7	文芸と文学の違い						
8	純文学と通俗小説の概念						
9	テキスト論と作家論の可能性						
10	パラダイムシフトについて						
11	論文とは何か						
12	論文の書き方(1)						
13	論文の書き方(2)						
14	芥川龍之介「酒虫」と、蒲松齡「酒虫」をよむ						
15	まとめ						
関連科目							
資格							
教科書	武田は「日本文学概論」(1年)のテキスト『日本文学概論』井上豊著を使用。あわせてプリント配布 (宮崎・福永)プリント配布						
参考資料	(宮崎)日本近代文学館編『日本近代文学大事典』全六巻(講談社)他の参考資料については、授業で紹介する。 (福永)蒲松齡作/柴田天馬訳『ザ・聊齋志異』(第三書館)、蒲松齡作/立間祥介編訳『聊齋志異』(岩波文庫)、新堀聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版)など。						
連絡先	(武田) takeda@shokei-gakuen.ac.jp (宮崎) miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp (福永) fuyong@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	(福永) 火 12:00~13:00 金 12:00~13:00						
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
創作鑑賞Ⅱ		2	あとがみ しろ 跡上 史郎	2年	前期	演習	JL・JC・LC選必 AA選択	
授業概要	神奈川近代文学館と漫画の『文豪ストレイドッグス』がコラボレーションしたり、又吉直樹の「火花」が芥川賞を受賞するなど、「文豪」が注目されています。文豪はどこがすごいのでしょうか？この演習では、文豪がどんな人物だったのか、どんな名作を書いているのか、どんな技法を用いているのか、といったことに注目しながら、近代文学の名作を鑑賞します。							
キーワード	近代文学、文豪、技法							
到達目標	図書館の資料を活用して、文豪に関するエピソードや、有名な作品を解説できるようになる。							
受講生に望む事	早めに発表準備にとりかかり、準備に行き詰まる前に相談するようにしてください。							
事前・事後学修	それぞれの回において扱われる作品をあらかじめ読んでくる（事前）。授業を受けてわかった技法に注意して読み返してみる（事後）。	評価方法		発表、およびその準備過程（60%）と、質疑応答への参加度（40%）。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	夏目漱石はどれくらいすごい文豪か2			
2	太宰治はどれくらいすごい文豪か1			10	夏目漱石はどれくらいすごい文豪か3			
3	太宰治はどれくらいすごい文豪か2			11	その他の文豪1			
4	太宰治はどれくらいすごい文豪か3			12	その他の文豪2			
5	芥川龍之介はどれくらいすごい文豪か1			13	その他の文豪3			
6	芥川龍之介はどれくらいすごい文豪か2			14	その他の文豪4			
7	芥川龍之介はどれくらいすごい文豪か3			15	その他の文豪5			
8	夏目漱石はどれくらいすごい文豪か1							
関連科目				連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィスアワー	オフィスアワーはありません。			
教科書	適宜プリント配布			備考	授業の前後の時間等で相談に応じます。			
参考資料	朝霧カフカ・春河 35『文豪ストレイドッグス』（KADOKAWA） 文豪失格 <a href="http://j-nbooks.jp/comic/original.php?oKey=16">http://j-nbooks.jp/comic/original.php?oKey=16</a>							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
専門基礎演習Ⅰ		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	2年	後期	演習	選択必修	
授業概要	前期で履修した文学研究概論を踏まえて、実際に演習形式で学問領域の一端に触れていきたい。基本的に日本文学の全時代を視野に入れ、また韻文・散文の違いも意識してその対処方法を検討していく。その中で研究の基礎固めをしていく。							
キーワード	基礎研究 作品論 作者論 文学研究 古事記 方丈記 奥のほそみち 芥川龍之介 司馬遼太郎 金子みすゞ 種田山頭火							
到達目標	基礎的な文献研究ができること。積極的かつ自由に意見を述べ合う土台を構築する。与えられた基礎テーマを自分なりに分析し発表できる。卒業論文の作成に向けたテーマを徐々に絞ることができる。							
受講生に望む事	毎時間作品を読んでくること。毎時間の積極的な質疑応答を期待します							
事前・事後学修	[事前学習] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと。 [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと。	評価方法		演習発表及び授業態度（50%）、後期試験（レポート提出）（50%）				
回	授業計画			回	授業計画			
1	はじめに 導入 演習割り当て			9	古事記を調べて発表する（1）。作品論			
2	方丈記を読んでみる。作者論			10	古事記を調べて発表する（2）。作品論			
3	方丈記を調べて発表する（1）。作品論 仏教思想			11	司馬遼太郎の作品を読んでみる。作者について発表する			
4	方丈記を調べて発表する（2）。作品論			12	『竜馬がゆく』について発表する。長編作品論の対応			
5	奥のほそみちを読んでみる。作者論			13	芥川龍之介について発表する。作者論と作品論 散文の場合			
6	奥のほそみちを調べて発表する（1）。作品論			14	金子みすゞについて発表する。作者論と作品論 韻文の場合			
7	奥のほそみちを調べて発表する（2）。作品論			15	種田山頭火について発表する。移動作者の場合			
8	古事記を読んでみる。成立論			16	レポート提出			
関連科目	文学研究概論 日本文学概論			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	プリント配布			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習Ⅱ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	2年	後期	演習	JL 必修
授業概要	近代文学作品をもとにそれぞれが調査し、考察したことを発表する。先行論文や作家、作品に関わる様々な資料を集め、それらを整理しながら作品を分析し、まとめる力を身につける。必要があれば典拠との比較研究もする。						
キーワード	森鷗外、樋口一葉、徳富蘆花、国木田独歩、夏目漱石						
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。						
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望む。それぞれ担当作品を決めて、個人発表をしてもらうので、きちんと準備しておくこと。 【事前学習】事前にテキストの作品を読んでくること。 ※発表担当者は、発表内容をまとめ、レジメを作成すること。 【事後学習】発表担当者のレジメを読み直して、質問や意見を言えるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など20%）、発表（レジメの作成も含む80%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	徳富蘆花「思出の記」発表		
2	明治の小説			10	" 振り返り		
3	大正の小説			11	夏目漱石「それから」発表		
4	昭和の小説			12	" 振り返り		
5	森鷗外「文づかひ」発表			13	永井荷風「冷笑」発表		
6	" 振り返り			14	" 振り返り		
7	樋口一葉「にごりえ」発表			15	まとめ		
8	" 振り返り						
関連科目	日本近現代文学演習Ⅰ、Ⅱ			連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	佐藤泰正編「新集 近代の小説」おうふう			備考			
参考資料	適宜指示する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習Ⅲ		2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	前期	演習	必修
授業概要	指定する書籍および論文をよみ、まとめる。毎授業で扱う資料についてはこちらで用意し、担当者に発表してもらう。担当者は論文を読み、要約したものをレジメにまとめる。そのほかの学生は、疑問点や自分の意見について授業中に述べる。						
キーワード	発表、議論						
到達目標	論文を批判的によみ、それについて解説したり、自分の意見を述べたりできるようになること。						
受講生に望む事	積極的に発言すること。						
事前・事後学修	事前に、授業で使用する論文を批判的に読み、自分の意見を持って授業に参加すること。発表担当者はレジメを作成すること。授業後、わからなかった問題について次回までに調べてくること。			評価方法	発表およびレポートで100%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	演習		
2	演習			10	演習		
3	演習			11	演習		
4	演習			12	演習		
5	演習			13	演習		
6	演習			14	演習		
7	演習			15	まとめ		
8	演習						
関連科目	漢文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	特に無し。			オフィスアワー	火曜 12:00~13:00 金曜 12:00~13:00		
教科書	特に無し。			備考			
参考資料	特に無し。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習Ⅳ	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	2年	後期	演習	必修
授業概要	卒業論文を書くためのスキルを身につける。					
キーワード	方言学, 日本語文法, カルチュラル・スタディーズ					
到達目標	当該分野の文献を読むだけの基礎的教養を身につける。					
受講生に望む事	後半, 発表形式で進むのできちんとしたプレゼンを提供できるよう準備すること。					
事前・事後学修	事前に配布した資料を読み, 疑問点を洗い出しておく。授業後は, 授業中指示のあった現象の分析をおこなう。	評価方法	プレゼンの内容によって評価する (100%)。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	日本語学 2 (熊本方言のアスペクト)			
2	マンガ研究 1 (コマ割り・歴史)	10	言語学 (文法化)			
3	マンガ研究 2 (記号)	11	日本語教育学 1 (バイリンガリズム)			
4	映画研究 1 (歴史)	12	日本語教育学 2 (教授法)			
5	映画研究 2 (古典的ハリウッド映画の手法)	13	参加者による発表 1			
6	ジェンダー研究 1 (少女の誕生)	14	参加者による発表 2			
7	ジェンダー研究 2 (ミソジニー・ホモソーシャル)	15	参加者による発表 3			
8	日本語学 1 (配慮表現)					
関連科目		連絡先				
資格		オフィスアワー				
教科書	使用しません。	備考				
参考資料	授業中指示します。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講義Ⅰ	2	もり まさと 森 正人	2年	後期	講義	選択
授業概要	中世の説話を読み解き, 日本人の思考方法, 想像力, 人間観を明らかにし, 説話による表現を分析し, これを整理して記述する方法を習得します。					
キーワード	中世説話, 説法, 宗教, 鬼, 英雄					
到達目標	1, 中世説話に表された世界観, 人間観, 思考方法, 想像力を読み解きます。 2, 中世説話に表された世界観, 人間観, 思考方法, 想像力について記述する方法を習得します。					
受講生に望む事	中世説話は表現が概して平易なので, 辞書を使いながら独力で読むことを心がけてほしい。					
事前・事後学修	取り扱うことを予告した説話を事前に読み, おおよそを理解して授業に臨み, 授業中に作成したノートを事後に点検して確認を行うことが求められます。	評価方法	授業中に書いて提出する小レポート (20%) 及び学期末試験 (80%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	中世の説話概説	9	門に棲む鬼-笛を吹く朱雀門の鬼 (十訓抄)			
2	説経師の弁舌-静照, 山崎宝寺の説法 (宝物集)	10	門に棲む鬼-玄象盗難と朱雀門の鬼 (古今著聞集, 糸竹口伝)			
3	説経師の弁舌-忠胤僧都, 地主権現説法の事 (宇治拾遺物語)	11	山中棄て子-熊野の本地			
4	武士の生態-丹波守保昌, 下向の時致経の父にあふ事 (宇治拾遺物語)	12	山中棄て子-保昌の誕生 (真名本曾我物語)			
5	武士の生態-源義家, 衣川にて安倍貞任と連歌の事 (古今著聞集)	13	山中棄て子-弁慶の誕生 (弁慶物語)			
6	門に棲む鬼-双六を打つ朱雀門の鬼 (長谷雄草紙)	14	山中棄て子-酒吞童子の誕生 (酒吞童子由来)			
7	門に棲む鬼-双六を打つ朱雀門の鬼 (二) (長谷雄草紙)	15	まとめ			
8	門に棲む鬼-詩を作る朱雀門の鬼 (十訓抄)					
関連科目	日本古典文学史Ⅰ, 日本古典文学史Ⅱ	連絡先	mori@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	特になし。	オフィスアワー	火曜日 14:30~16:00			
教科書	プリントを配布します。	備考				
参考資料	『説話の講座』1~6 (勉誠社 平成1~3年)					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学講読Ⅰ		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	2年	前期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択	
授業概要	『平家物語』の人間の様々な生きざまを間接経験していきます。本作品は『源氏物語』等の平安王朝の優美さと、鎌倉武士の勇壮さ・悲愴さを併せ持ち、琵琶法師が語り継いだ国民文学です。同時に軍記の進化発展と本作品の位置・中世の女性の魅力等をみていきます。合わせて、NHK 大河ドラマ『真田丸』『軍師官兵衛』『花燃ゆ』等についても所々で解説して行く予定です。その話題によって授業計画がずれることがあります。							
キーワード	平家物語 無常観 軍記物語 中世文学							
到達目標	軍記物語の流れが理解できる。中世の男女、様々な人々の暮らしや立場・心理が理解できる。作品の読解が出来る。							
受講生に望む事	大河ドラマを出来る限り視聴してほしい。事前に本文をよく読んでおくこと。							
事前・事後学修	【事前学修】事前に本文をよく読んでおくこと。旧字体、旧仮名遣いに慣れておくこと。難字、難読は事前に調べておくこと。指名して読ませるので、準備しておくこと。 【事後学修】講義内容は整理しておくこと。	評価方法	授業態度・質疑応答・教場レポート 50% 前期末試験 50%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	はじめに 軍記物語の定義。『将門記』の特徴の確認			9	妓王Ⅱ 国際社会と清盛権力者の横暴			
2	『陸奥話記』の特質 『今昔物語』の武士			10	妓王Ⅲ 母の教訓			
3	前九年・五三年の役、院政期			11	妓王Ⅳ 出家と往生 女性は救われるか			
4	『保元物語』の特質の確認と清盛の活躍			12	俊寛Ⅰ 硫黄島の位置と国際性			
5	『平治物語』の特質の確認と清盛の活躍			13	橋合戦Ⅰ 僧兵の面白さ			
6	『平家物語』の特質と成立、読み・語り			14	橋合戦Ⅱ 競技としての合戦			
7	祇園精舎と無常観 序の思想			15	橋合戦Ⅲ 英雄			
8	妓王Ⅰ 白拍子と遊女 (あそびめ)							
関連科目	日本古典文学講読Ⅱ			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	教職 高校「国語」取得の学生は必ず受講すること。			オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『平家物語』上下二冊 (角川文庫) 各 700 円 ISBN04-400702-0C0193			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学講読Ⅱ		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	2年	後期	演習	JL 必修 JC 選必, MC 選択	
授業概要	前期に引き続いて『平家物語』を講読します。平家滅亡一滅びの美学を感得してください。特に後期は『平家物語』の後半を中心に講読。また、時間が許す限り、後の軍記(『太平記』等)についても九州と関わらせて解説して行く予定です。なお、大河ドラマ『真田丸』の進行状況・話題によっては授業計画がずれることがあります。							
キーワード	平家物語 無常観 源平 那須与一 源義経							
到達目標	軍記物語の流れが理解できる 登場人物の心理や背景が理解できる 作品の読解が出来る							
受講生に望む事	出来る限り大河ドラマを視聴してもらいたい。関連する作品にも触れてもらいたい。							
事前・事後学修	【事前学習】毎回、次の文章を熟読しておくこと。難しい語句は事前に調べておくこと。歴史的背景については事前に調べておくこと。基本的質問に答えられること。 【事後学修】重要事項の整理を行うこと。次の質問を考えること。ノート整理をしておくこと。	評価方法	授業態度・質疑応答(教場レポート含む) 50% 期末試験(レポート) 50%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	はじめに 中世軍記の世界			9	那須与一Ⅰ			
2	木曾最期Ⅰ			10	那須与一Ⅱ			
3	木曾最期Ⅱ			11	壇の浦合戦			
4	木曾最期Ⅲ			12	先帝入水			
5	一の谷の合戦			13	その後の軍記一『太平記』の世界Ⅰ			
6	敦盛最期			14	その後の軍記一『太平記』の世界Ⅱ			
7	義経の魅力Ⅰ			15	戦国軍記と島原の乱 まとめ			
8	義経の魅力Ⅱ			16	試験			
関連科目	日本古典文学講読Ⅰ			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	教職 中学・高校「国語」取得の学生は必ず受講すること。			オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	『平家物語』上下二冊 (角川文庫) 各 700 円 ISBN 04-400702-0C0193			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学史Ⅱ	2	五島 慶一	2年	前期	講義	JL 必修
授業概要	「日本近現代文学史Ⅰ」の内容理解を前提に、より深い内容に踏み込んで、日本の近代以後の文学の概括的全体像把握・理解を目指す。具体的には、時代では明治末期の社会動向と文学の関わりから語り起し、大正・昭和期の文学史的事項が言及の中心となると共に、出版事情など文学を外的に規定している事項についてもここでは取り上げる予定である。					
キーワード	大正期以後の文学 文学史発展 時代と文学					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代文学に関する基本～やや発展的な知識を学ぶ。</li> <li>・文学を読み解く上で、様々な観点や方法があることを理解する。</li> <li>・文学とその背後の文化、社会的問題、思想との関わりを理解し、幅広い思考力を身につける。</li> </ul>					
受講生に望む事	次項参照。					
事前・事後学修	プリントにて、次回言及する素材の一部を配布する。それには必ず目を通して授業に臨むこと。「日本近現代文学史Ⅰ」で学んだ内容を整理し、きちんと理解しておくこと。また、近現代（日本なら明治以降）の（一般的な）歴史の流れを押さえておくと、講義理解の助けとなるだろう。授業後は配布されたプリント等でそれを振り返り、次回までにその内容を整理・理解しておくこと。					
評価方法	期末試験。但し、授業への参加態度を加味する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス・「日本近現代文学史Ⅰ」の内容確認 ※ 下記は扱う内容の目安である。前年度の授業内容や履修者の理解状況に応じて、内容や順序の入れ替えもありうる。					
2	夏目漱石・森鷗外の近代・現代					
3	鷗外の「戦鬪的啓蒙」活動 附 日本詩歌の近代化運動					
4	森鷗外の歴史小説一ある終焉					
5	夏目漱石の明治・芥川龍之介の大正 「こころ」と「将軍」					
6	再論・明治と大正					
7	大正文学の諸要素 芥川を中心に					
8	第一次大戦・関東大震災後の文学					
9	文学における〈近代〉の終焉と〈現代〉社会の特色					
10	プロタリア文学と「新感覚派」					
11	横光利一の実験性					
12	太宰治と「無頼派」					
13	三島由紀夫以降					
14	文学賞、あるいは経済活動としての文学					
15	文学賞、あるいは文学の現代的問題					
16	試験					
関連科目	日本近現代文学史Ⅰ					
資格						
教科書	毎回プリントを配布する。					
参考資料	年表の会編『近代文学年表』（双文社出版 一九八四） 浅井清・佐藤勝編『日本現代小説大事典』（明治書院 二〇〇四） 小田切秀雄『日本文学の百年』（東京新聞出版局 一九九八） 前田愛・長谷川泉編『日本文学新史 近代』（至文堂 一九九〇） 十川信介『近代日本文学案内』（岩波現代文庫 二〇〇八） 他は講義の中で示す。					
連絡先	e-mail : k-goto@pu-kumamoto.ac.jp					
オフィスアワー	質問は毎授業終了後に受け付ける。 緊急の場合などは上記アドレスへのメール送信も可（但し、返信は確約しない）。					
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学講義Ⅰ		2	宮崎 尚子	2年	後期	講義	選択
授業概要	近代文学の5作品を通して文学研究の方法を学ぶ。中島敦、倉橋由美子、樋口一葉、川端康成、夏目漱石の作品をそれぞれ言語・イデオロギー、ジェンダー・セクシュアリティという視点から読み解いていく。書かれた時代の背景なども踏まえ多角的な視点で文学を読む。						
キーワード	中島敦、倉橋由美子、樋口一葉、川端康成、夏目漱石						
到達目標	・小説を読むことを通して、人間の心の深層について考える。 ・各作家の心に対する認識の仕方と表現の特徴について理解する。 ・文学において虚構とは何かを考える。						
受講生に望む事	授業に積極的に参加するという態度をもって臨んでほしい。 【事前学習】 ・次回対象とする作品について、必ずテキストや配布プリントを読んでおくこと。・分からない言葉の意味などは、辞書を引いて調べておくこと。 【事後学習】 ・授業内容について復習し、質問や作品に関する感想を書けるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度(授業時の課題、小レポートなど30%)、学期末レポート(70%)。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	川端康成「雪国」		
2	中島敦「文字禍」			10	" 「雪国」 解説—ジェンダー・セクシュアリティ		
3	" 「文字禍」 解説—言語・イデオロギー			11	" 「雪国」 解説—モデル考		
4	倉橋由美子「パルタイ」			12	夏目漱石「草枕」 漱石旧居		
5	" 「パルタイ」 解説—言語・イデオロギー			13	" 「草枕」 解説—ジェンダー・セクシュアリティ		
6	樋口一葉「十三夜」			14	" 「草枕」 解説—正岡子規との関り		
7	" 「十三夜」 解説—ジェンダー・セクシュアリティ			15	まとめ		
8	" 「十三夜」 解説—明治の女						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	近代文学研究会編「日本の近代小説(改訂版)」協和書房			備考			
参考資料	参考資料は、授業で適宜紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学講読Ⅰ		2	宮崎 尚子	2年	前期	演習	選択
授業概要	芥川龍之介の王朝物を鑑賞し、原典となった「今昔物語集」との比較をする。それぞれの作品の共通点と相違点から芥川の独自性を読み取る。芥川が「今昔物語集」に見た「野性の美」がどのように書かれ、近代的自我が表現されているか考察する。学外学修で熊本県立図書館のくまもと文学・歴史館、温知館に行き近代文学の世界に触れる。						
キーワード	芥川龍之介、王朝物、仏教、今昔物語集						
到達目標	・芥川龍之介の王朝物の特徴を理解する。 ・「今昔物語集」の影響関係を指摘できるようになる。 ・近代的自我について意識する。						
受講生に望む事	事前にテキストを読んでおくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度(授業時の課題、小レポートなど30%)、学期末レポート(70%)		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	「利仁將軍若時從京敦賀將行五位語」		
2	「羅生門」の解説			10	「運」の解説		
3	「羅生門」登上層見死人盗人語			11	「貧女仕清水観音値盗人夫語」		
4	「鼻」の解説			12	「偷盗」一～四の解説		
5	「池尾禅珍内供鼻語」			13	「偷盗」五～九の解説		
6	学外学修「熊本県立図書館のくまもと文学・歴史館、温知館」			14	「不破知人女盗人語」		
7	「芋粥」上の解説			15	まとめ		
8	「芋粥」下の解説						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	布野栄一編「芥川龍之介 その歴史小説と『今昔物語』」おうふう			備考	学外学修にかかる費用(移動の為の交通費及び入館料)は各自が負担する。		
参考資料	適宜指示する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学講読Ⅱ	2	みやざき 尚子 宮崎 尚子	2年	後期	演習	選択
授業概要	日本近代文学の代表的な作家の作品について学んでいく。前半は芥川龍之介の王朝物について考察する。後半は夏目漱石の作品を考察する。それぞれの典拠になった作品も比較研究の対象にする。二人の作家の作品から日本の近代のパラダイムを読み解く。学外学修で夏目漱石の旧居に行き、熊本での漱石像に迫る。					
キーワード	芥川龍之介、王朝物、夏目漱石、オカルトブーム					
到達目標	・多角的な視点から、小説をより深く読み解く力を身につける。 ・小説の背後にある様々な文化的、社会的現象に着目し、幅広い視野を身につける。 ・登場人物の心理を読みとる洞察力と言葉に対する鋭い感性を養う。					
受講生に望む事	授業に積極的に参加するという態度をもって臨んでほしい。 【事前学習】・次回の授業内容を予告しておくので、事前にテキスト（小説の該当箇所）を読んでくること。・分からない言葉の意味などは、辞書を引いて調べておくこと。 【事後学習】・授業内容について復習し、質問や作品についての感想を書けるようにしておくこと。					
事前・事後学修		評価方法	授業態度（授業中の小レポートも含む 30%）、学期末レポート（70%）			
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	「六宮姫君夫出家語」		
2	芥川龍之介「往生絵巻」		10	学外学修「夏目漱石旧居」		
3	「讃岐国多度郡五位開法即出家語」		11	夏目漱石「夢十夜」解説		
4	芥川龍之介「好色」		12	" 背景		
5	「平定文仮借本院侍従語」		13	夏目漱石「薙露行」解説と背景		
6	芥川龍之介「藪の中」		14	夏目漱石「倫敦塔」解説		
7	「具妻行丹波国男於大江山被縛語」		15	まとめ		
8	芥川龍之介「六の宮の姫君」					
関連科目		連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー				
教科書	適宜指示する。		備考	学外学修にかかる費用（移動の為の交通費及び入館料）は各自が負担する。		
参考資料	適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国文学概説Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	前期	講義	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	この講義は、1年後期開講「中国文学概説Ⅰ」にひきつづき、時代にそって代表作品を読みつつ解説する。					
キーワード	唐宋八大家、元曲、四大奇書、『紅樓夢』					
到達目標	それぞれの時代の代表的な作品や文体などの特徴を知り、中国文学に対する理解を深める。					
受講生に望む事	1年次後期開講「中国文学概説Ⅰ」より引き続き履修することが望ましい。					
事前・事後学修	授業で扱う作品をよむこと。		評価方法	論述形式による試験（100%）で評価する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス 中国文学史の枠組みについて		9	元③——雑劇「救風塵」		
2	五代宋金①——唐詩から宋詩へ		10	明①——古文辞派と反古文辞派		
3	五代宋金②——南宋の詩		11	明②——南戲：湯顯祖と『還魂記』		
4	五代宋金③——唐宋八大家		12	明③——『西遊記』の成立		
5	五代宋金④——宋詞：柳永		13	清①——『紅樓夢』（1）		
6	五代宋金⑤——瓦舍文化と語り物		14	清②——『紅樓夢』（2）		
7	元①——中国演劇の発生		15	まとめ		
8	元②——元曲の構造					
関連科目	JLコースで漢文学（中国文学史）分野での卒業論文執筆を希望する者は、他にも、「漢文学講読ⅠⅡ」「漢文学講義Ⅰ」などの漢文学関係諸科目を履修することが望ましい。		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格		オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00			
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。		備考	教職課程「教科又は教職に関する科目」 高校一種（国語・書道）選択必修科目		
参考資料	前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会）、吉川幸次郎述／黒川洋一編『中国文学史』（岩波書店）、興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）、奥野信太郎著・村松暎編『中国文学十二話』（NHKブックス）、倉石武四郎『中国文学講話』（岩波新書）、田中謙二編訳『戯曲集』（平凡社）、田仲一成『中国演劇史』（東京大学出版会）、鈴木陽一編『中国の英雄豪傑を読む』（大修館書店）など。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講義Ⅰ		2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	後期	講義	選択
授業概要	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」よりも専門性の高い問題について考え、各トピックにしたがって順次解説する。また成立時期やジャンルの異なる中国の文学作品と比較する。						
キーワード	中国小説の成立						
到達目標	作品読解のために必要な知識を身につける。中国の小説がどのような過程を経て成立しているのか、を理解する。						
受講生に望む事	授業では積極的に発言すること。						
事前・事後学修	受講前に、授業で扱う予定の作品について内容をおさえてくること。受講後は、授業で扱ったいずれかの作品について通読すること。	評価方法	レポート（合計100％）で評価する。他に授業への積極的な参加状況を加味する。				
回	授業計画			回	授業計画		
1	中国の小説とは	9	伝奇発生の背景	2	神話と伝説	10	「補江総白猿伝」
3	虚構文学の伝統	11	「遊仙窟」	4	史伝の小説的特徴	12	「任氏伝」
5	六朝志怪	13	「李娃伝」と「鶯鶯伝」	6	不思議な世界	14	中国小説の展開
7	怪異について	15	まとめ	8	志人小説		
関連科目	JLコースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を予定している者は、その他にも、漢文学関係諸科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。	参考資料	今村与志雄訳『唐宋伝奇集下』（岩波文庫）、竹田晃『中国小説史入門』（岩波書店）など。				
資格		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp				
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。	オフィスアワー	火曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00				
		備考					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講義Ⅰ		2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	前期	演習	選択
授業概要	高校までに学んだ、訓点・書き下し・句法等の基礎知識を確認しながら、訓点（送りがなと返り点）付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈する練習を積み重ねる。また、漢文を読むために必要なさまざまな知識を身につけるとともに、中学・高校国語科における漢文教育の方法を具体的に考えることにより、教壇に立った際に、自信を持って漢文を教えられる力を養成する。						
キーワード	漢文訓読、漢文教育						
到達目標	訓点付きの基本的な漢文（散文）を正しく書き下し、解釈できるようになる。漢文の背景となる中国古典文化への理解を深める。						
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。						
事前・事後学修	予習復習を十分に行うことが望ましい。	評価方法	試験（70点）に、平常点（十分な予習をしたうえでの授業への参加30点）を加味する。				
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンスとアンケート、現段階での実力を知るための小テスト	9	講読①	2	基礎的事項の復習①	10	講読②
3	基礎的事項の復習②	11	講読③	4	基礎的事項の復習③	12	講読④
5	基礎的事項の復習④	13	講読⑤	6	基礎的事項の復習⑤	14	講読⑥
7	基礎的事項の復習⑥	15	まとめ	8	ここまでの復習 テスト		
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ・Ⅱ」など、中国文学・漢文学関連科目。また学習到達目標達成のためには、後期開講「漢文学講義Ⅱ」を継続受講することが望まれる。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講読科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅰ～Ⅲ」を受講すること。	参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、森野繁夫ほか『漢文【まとめと要点】』（白帝社）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）、簡野道明補注『補注論語集註』（明治書院）、国学院大学中国文学研究室編『中国文学概説』（笠間書院）など。				
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級	連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp				
教科書	馬場武次郎『句形整理 基礎からわかる漢文』（日栄社）予習のために中型漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。	オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00				
		備考	教職課程「教科に関する科目」高校一種（国語）必修科目 教職課程「教科又は教職に関する科目」高校一種（書道）選択必修科目				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講読Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期「漢文学講読Ⅰ」にひきつづき、訓点（送りがなと返り点）付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈する練習を積み重ねる。後期は、散文だけでなく韻文（漢詩）もとりあげ、近体詩（律詩・絶句）の規則を詳しく学ぶ。					
キーワード	漢文訓読、漢詩、漢文教育					
到達目標	訓点付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。近体詩（律詩・絶句）を構成する韻律の規則を理解する。					
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。					
事前・事後学修	予習復習を十分に行うことが望ましい。毎授業で小テストを課すのでテスト範囲を自宅で学習してくること。	評価方法	期末試験（70点）に、平常点（十分な予習をしたうえで授業への参加30点）を加味する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンスと期末試験の解説	9	論説文⑧			
2	論説文①	10	論説文⑨			
3	論説文②	11	近体詩の規則①			
4	論説文③	12	近体詩の規則②			
5	論説文④	13	韻文①			
6	論説文⑤	14	韻文②			
7	論説文⑥	15	韻文③			
8	論説文⑦	16	試験			
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講読科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅰ～Ⅲ」を受講すること。	参考資料	馬場武次郎『句形整理 基礎からわかる漢文』（日栄社）、田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）など。予習のために漢和辞典が必要。			
		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級	オフィスアワー	火曜 12:00～13:00 金曜 12:00～13:00			
教科書	指定しない。	備考	教職課程「教科又は教職に関する科目」 高校一種（国語・書道）選択必修科目			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語文法	2	はたけやま しんいち 畠山 真一	2年	前期	講義	JL 選必 他選択
授業概要	本講義では、日本語文法を中心に、日本語を対象とする心理言語学や方言研究から得られた知見なども紹介する。また、日本語研究の一環として、水前寺公園で開催される薪能を見る予定である。					
キーワード	日本語文法、テンス・アスペクト、モダリティ、談話					
到達目標	・日本語文法の特徴を、他言語と比較しつつ理解する ・文法研究の基本的な手法を理解する					
受講生に望む事	わからないことは何でも質問して欲しい。					
事前・事後学修	事前に教科書を読み、疑問点を明らかにする。授業後は、章末におかれた練習問題の解答を作成する。	評価方法	3回行われる小テスト（100%）			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	日本語の受身（2）：第三者の受身			
2	形態素という概念	10	日本語のやりもらい			
3	連濁、連声といった形態論的音韻論と意味	11	日本語の代名詞体系			
4	動詞活用体系	12	日本語の認識モダリティ			
5	動詞の自他	13	能作品に見られる現代日本語のルーツ			
6	日本語のテンス	14	まとめ			
7	日本語のアスペクト	15	能の鑑賞（8/4、土曜）			
8	日本語の受身（1）：まとも受身					
関連科目	日本語演習Ⅰ、Ⅱ	連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教師	オフィスアワー				
教科書	近藤安月子（2008）、『日本語学入門』、研究社	備考				
参考資料	『基礎日本語文法』、益岡隆志・田窪行則、くろしお出版 『方言の文法』、佐々木冠・工藤真由美・日高水穂・渋谷勝己・井上優・小林隆、岩波書店					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
談話分析		2	はやしだ やすこ 林田 康子	2年 4年	後期	講義	選択	
授業概要	会話は社会現象としてとらえられる。日常的に何気なく行われているように見えても、実際には、われわれは他の参加者とともに発話行為をやりとりし、一定の秩序ある現実を作り出しているからである。そこで、音声資料や映像資料も利用しながら、さまざまな場面における会話や談話を分析し、特徴的な相互行為を、相互行為の組織化の方法や言語的リソースの側面から理解することを目指す。							
キーワード	ディスコース分析、会話分析、エスノメソドロジー、相互行為							
到達目標	さまざまな場面における特徴的な相互行為を、組織化の方法や言語的リソースの側面から理解する。							
受講生に望む事	相互行為としてのことばや会話に注目してほしい。							
事前・事後学修	授業内容を復習し、データを使用した場合は自分で分析し直してみることを。	評価方法		課題レポート（70%）、授業態度（積極的な取り組みなど 30%）				
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンスおよび会話分析・談話分析とは何か			9	制度的状況における会話⑤～診察			
2	基本的な会話の規則①			10	制度的状況における会話⑥～教室			
3	基本的な会話の規則②			11	演習①～トランスクリプトの作成と分析			
4	基本的な会話の規則③			12	演習②～トランスクリプトの作成と分析			
5	制度的状況における会話①～自殺相談			13	演習③～データの収集と分析			
6	制度的状況における会話②～カウンセリング			14	演習④～データの収集と分析			
7	制度的状況における会話③～異文化コミュニケーション			15	演習⑤～発表			
8	制度的状況における会話④～テレビニュース							
関連科目				連絡先	Email: yasukohearn@yahoo.co.jp			
資格	日本語教員養成講座選択科目			オフィス アワー	質問等があれば連絡先に記載されたメールアドレスにて対応する。			
教科書	テキストは使用しない。プリント、文書資料を配布する。			備考				
参考資料	『会話分析への招待』好井裕明・山田富秋・西阪仰編、世界思想社。『相互行為分析という視点：文化と心の社会学的記述』西阪仰著、金子書房。『社会的構築主義への招待：言説分析とは何か』ヴィヴィアン・バー著、田中一彦訳、川島書店。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
言語心理学		2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年 3年	前期	講義	JL, MC 選必 JC 選択	
授業概要	人間が言語を認知し生成する過程について心理学的情報処理の観点から学ぶ。簡単な心理実験や映像資料を通して、文字や音素、モーラや音節、単語、文などの各処理レベルにおいて実行される情報処理の特徴を理解するとともに、処理レベル間の相互作用について理解する。さらに人間が乳幼児期に言語を獲得する過程について学び、人間における言語処理を総合的に理解する。							
キーワード	認知メカニズム、言語の理解と産出、言語習得、言語発達							
到達目標	・言語の情報処理過程に関する基礎的知識を学ぶ ・言語学習にともなう心理的メカニズムを理解し、効果的な言語教育を行うための理論的根拠を学ぶ							
受講生に望む事	積極的な態度で授業に臨んでほしい。							
事前・事後学修	事前学修：授業のテーマに合わせて各自参考資料等を読み、概要をつかんでおくこと。 事後学修：授業内に指示された課題を行うこと。わからなかった点は、必ず配布資料、参考資料等で復習しておくこと。	評価方法		授業内課題（提出物、小テスト等）：50%、学期末レポート：50%				
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	比喩の理解			
2	文字の認知			10	ワーキングメモリと言語処理			
3	音声の認知			11	発話とコミュニケーション			
4	視覚とことば			12	言語獲得①			
5	単語の認知			13	言語獲得②			
6	文の理解①			14	第二言語習得			
7	文の理解②			15	まとめ			
8	文の理解③							
関連科目	日本語学概説、日本語教授法概論			連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教員、日本語教育能力検定試験			オフィス アワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	プリントを配布する			備考				
参考資料	『朝倉心理学講座5：言語心理学』、針生悦子（編）朝倉書店 『ことばの習得－母語習得と第二言語習得－』鈴木孝明 他著、くろしお出版 『言語とことば』、重野 純（編）、新曜社、『認知心理学3 言語』、大津由起雄 編、東京大学出版会 などこの他、授業内に適宜紹介する							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書学概論Ⅱ	2	くたみ たけし 久多見 健	2年	前期	講義	JC 必修 他コース選択
授業概要	理論面での幅広い学習を通して書に対する理解を深める。作品制作で重要な役割を果たす文房四宝や、作品の背景としての中国・日本書道史について学ぶ。また表現とともに鑑賞をとおして様々な書美を学ぶ。					
キーワード	理論、文房四宝、書道史、鑑賞					
到達目標	・「書学概論Ⅰ」での学習を踏まえ、さらに書道理論についての知識を深める。 ・高等学校書道教育における教育内容に沿った理論面での知識を得る。					
受講生に望む事	書の様々な表現とその背景を学び、自分自身の表現の幅を広げる。					
事前・事後学修	事前の課題をまとめて授業に臨む。授業後は、ノートをまとめる。	評価方法	授業への取り組み 20% レポート・提出物 80%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	墨・筆・紙について	9	"			
2	"	10	古典の分析について			
3	書道史について	11	"			
4	"	12	鑑賞について			
5	"	13	"			
6	現代書について	14	"			
7	書の古典について	15	まとめ			
8	"	16	まとめ			
関連科目	書学概論Ⅰ	連絡先	kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 (096-273-6321)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:10~12:55 木曜日 12:10~12:55			
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)、 {決定版} 日本書道史 (芸術新聞社)	備考	高1 書道教員免許状必修科目			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
草書法	1	くろだ きよかず 黒田 清和	2年	前期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	漢字の草書体を実習形式で学習する。その中身としては、さまざまな草書の古典の臨書を通してその書美を鑑賞し、草書の魅力・技法を学ぶ。また、草書の崩し方・読み方や歴史の変遷についても理解を深め、さらに「書譜」を通して書論の学習にも触れる。その結果、これからの作品作りの幅を広げ、表現力を高めることに生かしていくことを目標とする。					
キーワード	晋唐宋、古典、崩し、臨書、創作。					
到達目標	・草書体独特の美を理解する。 ・草書体の崩し方・読み方・歴史の変遷を理解する。 ・草書作品への興味・関心・意欲を持ち、これからの制作活動に生かす。					
受講生に望む事	古典鑑賞における意欲的な姿勢と、小テストやレポート提出のための根気と熱意。					
事前・事後学修	次事の内容について予習し、授業後は臨書ノートまとめる。	評価方法	課題の提出・質 80%および小テスト・平常点 20%として評価を行う。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	草書の歴史の変遷 (各書体との関連より)、草書の特徴・技法の基本 (古典の鑑賞より)	9	古典の臨書 (半紙) 書譜<孫過庭>			
2	古典の臨書 (半紙) 十七帖<王羲之>	10	"			
3	"	11	" 宋代の草書<黄庭堅>			
4	"	12	書譜より草書体の読み方小テスト			
5	"	13	草書作品制作 (半切) 詩句選定・集字・草稿			
6	" 書譜<孫過庭>	14	" イメージ・全体構成・落款			
7	"	15	" 仕上げ			
8	"					
関連科目	行書法の履修済が望ましい。	連絡先				
資格		オフィスアワー				
教科書	中国法書選 14 十七帖、38 書譜、47 黄庭堅集 (二玄社)	備考				
参考資料	新修墨場必携 上・下 (法政大学出版社)					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
篆書法	1	じんの 神野 雄二	2年	前期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	篆書による中国と日本の代表的な古典をできるだけ多く臨書する。篆書の基本的な筆使いから作品の創作まで幅広く学習する。更にその理論、鑑賞の学習を通して篆書理解を深める。また篆書を書作した書人の人と芸術に関して講じる。					
キーワード	篆書、篆刻、古典					
到達目標	篆書の技法、理論、鑑賞を通して篆書への理解を深め、表現技法を学ぶ。また篆書作品を書作した書人の人と芸術に関して学習する。篆書の表現と鑑賞により、篆書の基礎・基本の技法を習得する。					
受講生に望む事	篆書の技法、理論、鑑賞を通して篆書の基礎・基本を理解してほしい。篆書の基本的な表現技法に習熟するとともに、楽しさを味わってほしい。					
事前・事後学修	篆書に関する資料・文献に目を通すこと。	評価方法	提出作品の内容（80%）、レポート（10%）、試験（10%）			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス、篆書概説、用具・用材概説（VTR）	9	篆書の臨書と創作（漢篆）篆書の歴史と鑑賞（5）中国の篆書⑤			
2	篆書技法の基礎①（VTR）篆書の基礎知識（1）	10	篆書の臨書と創作（小篆1）篆書の歴史と鑑賞（6）中国の篆書⑥			
3	篆書技法の基礎② 篆書の基礎知識（2）	11	篆書の臨書と創作（小篆2）篆書の歴史と鑑賞（7）中国の篆書⑦			
4	篆書技法の基礎③ 篆書の基礎知識（3）	12	篆書の臨書と創作（小篆3）篆書の歴史と鑑賞（8）日本の篆書①			
5	篆書の臨書と創作（甲骨文）篆書の歴史と鑑賞（1）中国の篆書①	13	篆書の創作①（半切以上）篆書の歴史と鑑賞（9）日本の篆書②			
6	篆書の臨書と創作（金文1）篆書の歴史と鑑賞（2）中国の篆書②	14	篆書の創作②（全紙以上）篆学（1）			
7	篆書の臨書と創作（金文2）篆書の歴史と鑑賞（3）中国の篆書③	15	作品鑑賞、批評（VTR）篆学（2）			
8	篆書の臨書と創作（大篆）篆書の歴史と鑑賞（4）中国の篆書④	16	試験、まとめ			
関連科目	篆刻、中国書道史	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	教職必修	オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。			
教科書	『図解篆書入門』（小原俊樹著、木耳社）、『常用篆刻字典』（劉江編、三圭社）	備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。			
参考資料	『極める篆書』（幕田魁心著、木耳社）、『新書源』（二玄社編集部編、二玄社）、『中国法書選』（全60冊）（二玄社）、『篆隸大字典』（赤井清美編、私家版）、『大系漢字明解』（高田忠周著、富山房）、『必携篆書印譜字典』（蓑毛政雄編、二玄社）、『標準清人篆隸字典』（北川博邦編、雄山閣）、『常用字解』『字統』（白川静著、平凡社）					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
隸書法	1	はやしだ 林田 俊一郎	2年	後期	実習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	中国の有名な古典作品を中心に学びながら隸書の書美について解明し、創作へとつなげる。時代ごとに作品を掲げ、それぞれの作品の臨書を通して実技指導をし、合わせて作品や用語解説も行う。					
キーワード	定義、変遷、歴史、技法					
到達目標	・隸書の特徴を理解する。 ・古典作品の特徴的な技法を習得する。 ・表現の多様性について理解し、鑑賞力を高める。					
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。					
事前・事後学修	[事前学修]・授業で取り組む古典作品についての関連資料を読み込んでくる。 [事後学修]・取り組んだ古典作品についてまとめる。・課題作品を仕上げてくる。	評価方法	授業への取り組み20% 提出物80%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	隸書について（1）隸書の特徴、基本的技法	9	"（2）古隸			
2	"（2）歴史	10	課題作品（2）			
3	乙瑛碑（1）乙瑛碑について	11	木簡（1）木簡について			
4	"（2）拓本、八分	12	"（2）書写材料			
5	曹全碑（1）曹全碑について	13	"（3）			
6	"（2）石碑	14	作品制作（1）			
7	課題作品（1）	15	"（2）			
8	石門頌（1）石門頌について					
関連科目		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス；大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:10～13:00 水曜日 12:10～13:00			
教科書	{決定版}中国書道史（芸術新聞社） 書の古典と理論（光村図書）	備考	高1書道教員免許状必修科目			
参考資料	新書道字典（二玄社）					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
漢字仮名交じり書		1	くろだ きよかず 黒田 清和	2年	後期	実習	JC 必修 他コース選択	
授業概要	読める書の重要性を念頭におき、漢字仮名交じり書を演習形式で展開していく。その中身としては、これまで学習してきた古典の書き下し文を書くことにより、それぞれの古典に合った仮名を研究させ、それを作品制作に生かしていく。楷書・行書の二体での創作を行い、自分独自の漢字仮名交じり書の発見を目指す。							
キーワード	漢字古典、書き下し、創作、字書。							
到達目標	・漢字仮名交じり書の意義を理解する。 ・漢字と仮名を調和させる基本を身につける。 ・古典を生かした深みのある漢字仮名交じり書の創造を目指す。							
受講生に望む事	創作における柔軟な発想力と、意欲的な探究心。							
事前・事後学修	事前の課題を調べて授業に望む。授業後は創作ノートをまとめる。	評価方法		課題の提出・質 80%および平常点 20%として評価を行う。				
回	授業計画			回	授業計画			
1	漢字仮名交じり書とは？(意義、歴史、古典を生かす)			9	争坐位稿の書き下し文を画仙紙半切・半載に書く。			
2	1 種目・爨寶子碑(東晋)を半紙に臨書する。			10	前時の作品の自評、批評を踏まえて半切・半載に書き下し文を仕上げる。			
3	爨寶子碑の書き下し文を画仙紙半切1/2に書く。			11	智恵子抄ペン字原稿(高村光太郎)を半紙臨書する。			
4	前時の作品の自評、批評を踏まえて書き下し文を仕上げる。			12	智恵子抄ペン字原稿を半紙・半切に臨書する。			
5	2 種目・楷書七言(清・趙之謙)を半紙に臨書する。			13	各自が選んだ漢字仮名交じり文の構想を半切1/2・半紙に書く。			
6	趙之謙楷書七言の書き下し文を画仙紙半切1/2に書く。			14	前時に構想を練った作品の自評・批評を踏まえて画仙紙2×8尺に書く。			
7	前時の作品の自評、批評を踏まえて書き下し文を仕上げる。			15	前時に構想を練った作品の自評・批評を踏まえて画仙紙全紙に仕上げる。			
8	3 種目・争坐位稿(唐・顔真卿)を半紙に臨書する。							
関連科目				連絡先				
資格				オフィス アワー				
教科書	好みの古典(書き下しが分かるもの)、プリント			備考				
参考資料	漢字かな交じりの書(雄山閣書道講座 11) 書作品のまとめ方⑧(二玄社)							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
仮名古典研究		2	くたみ たけし 久多見 健	2年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	仮名古典について字形、連綿、線、行の構成などあらゆる角度から書風を分析して、その古典の特徴をつかみ、臨書、倣書、創作に活かす。							
キーワード	仮名古典、分析、臨書							
到達目標	・様々な角度から古筆分析の仕方を理解する。 ・臨書をとおして古筆の特徴を表現できるようにする。 ・選んだ古筆の特徴、魅力についてプレゼンテーションできる力をつける。							
受講生に望む事	選んだ古典について調べ、徹底的に臨書して特徴を身に付けてほしい。 毎回、課題の提出と書き込みをしてくること。							
事前・事後学修	家庭学修で作品を書きこみ、書風の分析を毎回する	評価方法		授業時提出物(30%)レポート、 課題提出作品(40%)試験(30%)				
回	授業計画			回	授業計画			
1	古筆鑑賞(複製本、臨書作品の鑑賞)			9	"			
2	伝称筆者別に同筆、同系の古典を分けて鑑賞			10	各自選んだ古典分析(行の構成)、臨書			
3	古典の鑑賞、分析の方法			11	"			
4	各自選んだ古典分析(字形)、臨書			12	各古典書風のまとめ			
5	"			13	各自それぞれ分析した古典の「書風の特徴まとめ」の発表			
6	各自選んだ古典分析(連綿)、臨書			14	"			
7	"			15	"			
8	各自選んだ古典分析(線)、臨書			16	試験			
関連科目	仮名書法 I			連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地: 1号館 3階 久多見研究室			
資格				オフィス アワー	月曜日 12:10~12:55 木曜日 12:10~12:55			
教科書	各自選んだ古典法帖			備考				
参考資料	「図説 日本書道史」(芸術新聞社)、 書道技法講座、日本書学大系							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
篆刻		1	神野 雄二 <small>じんの ゆうじ</small>	2年	後期	実習	JC 必修 他コース選択
授業概要	篆刻技法の基礎から始め専門的内容まで学習する。篆刻三法と言われる字法・章法・刀法を理解するため、模刻や模写をし、創作としてできる限り多く刻す。また古印や近人の篆刻の鑑賞を通して篆刻の美への理解を深める。更に印章・篆刻の歴史や、印人の人と芸術に関しても講じる。						
キーワード	篆刻、篆書、古典						
到達目標	篆刻の技法、理論、鑑賞を通して篆刻の基礎・基本を理解する。篆刻の基本的な表現技法に習熟するとともに、創作の方法論を習得する。更に印章・篆刻の歴史や、印人の人と芸術に関して知識を深める。						
受講生に望む事	篆刻の技法、理論、鑑賞を通して篆刻の基礎・基本を理解してほしい。篆刻の基本的な表現技法に習熟するとともに、楽しさを味わってほしい。						
事前・事後学修	篆刻に関する資料・文献に目を通すこと。			評価方法	提出作品の内容（80%）、レポート（10%）、試験（10%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス、篆書・篆刻概説、用具・用材概説（VTR）			9	詞句印制作① 印の歴史と鑑賞（4） 近人篆刻		
2	篆書技法の基礎・臨書、篆書概説、字典について（VTR）			10	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞（5） 近人篆刻		
3	篆刻の基礎①（1字印 白文） 篆刻の基礎知識（1）参考書その他			11	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞（6） 日本の篆刻		
4	篆刻の基礎②（1字印 朱文） 篆刻の基礎知識（2）印材その他			12	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞（7） 日本の篆刻		
5	姓名印を刻す 篆刻の基礎知識（3）印譜その他			13	詞句印制作②大印 印の歴史と鑑賞（8） 日本の篆刻		
6	雅号印を刻す 印の歴史と鑑賞（1）古璽・秦・漢印			14	押印、完成 印学（1）		
7	模刻・模写（VTR） 印の歴史と鑑賞（2）三国以来官印その他			15	作品鑑賞、批評（VTR） 印学（2）		
8	詞句印制作① 印の歴史と鑑賞（3）封泥			16	試験・まとめ		
関連科目	刻字、篆書法			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格				オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。		
教科書	『図解篆刻入門』（小原俊樹著、木耳社）、 『常用篆刻字典』（劉江編、三圭社）			備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。		
参考資料	『篆刻の技法と鑑賞』（神野雄二共著、明徳出版社）、『毎日書道講座 9 篆刻』（関正人編、毎日新聞社）、『中国璽印類編』（小林斗庵編、二玄社）、『中国篆刻叢刊』（全40巻）（小林斗庵編、二玄社）、『篆刻全集』（全10巻）（小林斗庵編、二玄社）、『新書源』（二玄社編集部編、二玄社）、『大系漢字明解』（高田忠周著、富山房）、『篆刻にしたしむ本』（牛窪梧十著、二玄社）『必携篆書印譜字典』（養毛政雄編、二玄社）、『標準清人篆隸字典』（北川博邦編、雄山閣）、『書道講座 第6巻 篆刻』（西川寧編、二玄社）、『常用字解』・『字統』（白川静著、平凡社）						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書式研究		2	久多見 健 <small>くたみ たけし</small>	2年	後期	演習	選択
授業概要	日常生活の中で用いる毛筆による様々な書式について学び、工夫を凝らして表現できるようにする。書風、字の大きさ、文字の配置などについて考察し、実習する。当然、細字の力が求められるので適した細字古典の臨書も必要になる。						
キーワード	日常書、書式、細字						
到達目標	・毛筆による様々な日常書式を身に付ける。 ・書式に則り、工夫を凝らした自分なりの表現が出来るようにする。 ・細字の力を付け、積極的に毛筆を生活に活かす。						
受講生に望む事	普段から、身の回りの毛筆書を鑑賞する習慣を付けてほしい。次の授業の内容について事前に知らせるので、書く内容や書式について構想してくる。授業時間だけでは書写時間が足りないので家庭でよく練習の上、清書して次回までに作品を提出のこと。						
事前・事後学修	次時の内容について予習し、授業後は家庭学修で作品を仕上げる			評価方法	授業時提出物（50%） レポート、課題提出作品（50%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	日常生活における様々な書式			9	手紙、はがきの書き方		
2	細字練習			10	"		
3	"			11	表札の書き方		
4	写経の書式			12	題字、碑の書き方		
5	"			13	演題の書き方		
6	賞状の書き方（賞状の種類、割り付け、字の大きさ、字形など）			14	目録の書き方（奉書紙に各種目録を書く）		
7	"			15	まとめ		
8	"						
関連科目				連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：1号館3階 久多見研究室		
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55		
教科書	プリント			備考			
参考資料	『実用細字のすすめ』三上栖蘭、『賞状の書き方』前田篤信（日貿出版社）						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習（書道コース）		2	くろだ きよかず 黒田 清和 くたみ たけし 久多見 健	2年	後期	演習	JC 必修
授業概要	三年次からの創作研究につなげるための漢字・仮名作品の創作法について学ぶ。臨書から創作へ至るまでの関連性について学んだ後、作品を実作する。						
キーワード	作品、臨書、創作、						
到達目標	・漢字・仮名作品の創作法を理解する。 ・漢字・仮名作品の表現法の多様性について認識する。						
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。 (事前学習) 準備をしっかりとする。(事後学習) 制作ノートを作成する。						
事前・事後学修	次時の作品制作に必要な資料収集と集字、作品の構想を用意して授業にのぞみ、家庭学修で作品を仕上げる			評価方法	授業への取り組み 20% 課題提出作品・レポート 80%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	漢字の創作法 (1)	仮名の創作法 (1)		9	仮名の創作法 (2)	漢字の創作法 (2)	
2	" (2)	" (2)		10	" (3)	" (3)	
3	" (3)	" (3)		11	作品制作 (1)	作品制作 (1)	
4	作品制作 (1)	作品制作 (1)		12	" (2)	" (2)	
5	" (2)	" (2)		13	" (3)	" (3)	
6	" (3)	" (3)		14	" (4)	" (4)	
7	" (4)	" (4)		15	まとめ		
8	仮名の創作法 (1)	漢字の創作法 (1)					
関連科目	創作研究 I、II、III、IV			連絡先	(久多見) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp (黒田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 講師控室		
資格				オフィスアワー	(久多見) 月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55		
教科書	書の古典と理論 (光村図書)			備考			
参考資料				備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域振興論		2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	講義	選必，選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 地域は情報化社会の進展により発展しています。特に、地域特産物の振興についてはインターネットを利用したネット販売が普及して地域振興に役立っています。具体的な事例を多く取り上げるために、教科書を使用して解説します。						
キーワード	地域振興、情報化社会。						
到達目標	地域振興の現状と課題について理解すること。						
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。						
事前・事後学修	事前学修として、授業内容に関するニュースや新聞記事を読み、その要点を整理しておくこと。 事後学修として、授業の要点を整理し、もし質問事項がある時には要点を整理して授業の時に質問すること。			評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	講義の目的と内容について			9	情報の活用の仕方②		
2	地域振興と情報活用の事例①			10	情報の活用の仕方③		
3	地域振興と情報活用の事例②			11	地域が発展するために①		
4	地域振興と情報活用の事例③			12	地域が発展するための②		
5	地域格差の問題①			13	地域が発展するために③		
6	地域格差の問題②			14	まとめ①		
7	地域格差の問題③			15	まとめ②		
8	情報の活用の仕方①						
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域政策論			連絡先	文化言語学部 山中研究室		
資格				オフィスアワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55		
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。(この教科書は関連科目で共通に使用します)			備考			
参考資料				備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域政策論	2	やまなか まもる 山中 守	2年	後期	講義	選必, 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では地域が発展する上で、国や県などの政策がどのように関係しているのかについて、分かりやすく解説します。地域は情報化社会の進展とともに発展してきましたが、この背景には国の経済開発政策があります。具体的に分かりやすく解説するために、具体事例を多く掲載した教科書を使用します。					
キーワード	情報化社会、地域経済					
到達目標	地域の発展と国や都道府県の政策の関係を理解すること					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
事前・事後学修	事前学修として、授業に関するニュースや新聞記事を読み、その要点を整理しておくこと。 事後学修として、授業の内容を整理し、もし質問事項があるときには質問の要点を整理して授業の時に質問すること。	評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	地域格差②			
2	国の政策と地域政策①	10	地域格差③			
3	国の政策と地域政策②	11	地域政策の課題①			
4	国の政策と地域政策③	12	地域政策の課題②			
5	地域の発展と政策①	13	地域政策の課題③			
6	地域の発展と政策②	14	まとめ①			
7	地域の発展と政策③	15	まとめ②			
8	地域格差①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。(この教科書は関連科目で共通に使用します)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
現代社会論	2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	講義	選必, 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 現代社会は情報化社会ですので、講義では情報化が生活にどのように影響しているのかについて詳しく解説します。情報化社会は目には見えにく部分も多いので、具体的な事例が豊富な教科書を使用して解説します。					
キーワード	情報化社会 (Information Society)					
到達目標	現代社会及び情報化社会の現況と課題について理解すること。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
事前・事後学修	事前学修として、授業内容(テキストを参考に)に関するニュースや新聞記事を読み、要点を整理する。 事後学習として、授業の要点を整理し、もし質問事項があるときには要点を整理して授業の時に質問すること。	評価方法	成績評価は、①授業中の小テストまたは小レポート、②期末テストまたは期末レポートで評価します。評価のウエイトは、①が80%、②が20%です。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	現代社会と格差問題②			
2	現代社会と情報①	10	現代社会と格差問題③			
3	現代社会と情報②	11	地域社会の再生①			
4	現代社会と情報③	12	地域社会の再生②			
5	情報社会の課題①	13	地域社会の再生③			
6	情報社会の課題②	14	これからの社会について①			
7	情報社会の課題③	15	これからの社会について②			
8	現代社会と格差問題①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィス アワー	水：12:00～12:50 木：12:10～12:55			
教科書	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。(この教科書は関連科目で共通に使用します)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
社会調査法	2	やまなか まもる 山中 守	2年	前期	講義	必修, 選択
授業概要	[基礎力区分①課題発見力] 講義では、社会の現状を捉えるためのデータの収集方法と調査方法について解説する。さらに調査で入手したデータの分析方法について解説する。統計学の基礎的な知識が習得できるようにしたい。					
キーワード	統計分析					
到達目標	統計データの収集と分析の基礎的な能力を習得することである。					
受講生に望む事	事前及び事後学習についての小レポートを提出すること。					
事前・事後学修	事前学修として、前回の授業で取り組んだ内容について復習しておくこと。 事後学修として、授業の内容を整理し、理解できたところと理解できなかったところを整理しておくこと。	評価方法	評価方法は、①講義中の小レポート、②期末テストあるいは期末レポートにより評価する。評価のウエイトは、①が80%、②が20%である。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義の目的と内容について	9	グラフ化②			
2	調査の方法①	10	グラフ化③			
3	調査の方法②	11	統計分析①			
4	調査の方法③	12	統計分析②			
5	データの収集①	13	統計分析③			
6	データの収集②	14	まとめ①			
7	データの収集③	15	まとめ②			
8	グラフ化①					
関連科目	地域社会論、社会学概説、現代社会論、地域政策論	連絡先	文化言語学部 山中研究室			
資格		オフィスアワー	水: 12:00~12:50 木: 12:10~12:55			
教科書		備考				
参考資料	山中 守『地域情報化で地域経済を再生する』NTT 出版、2013年。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
異文化理解	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	2年	後期	講義	JL 選択 JC, MC 選必
授業概要	ロールプレイやミニゲームを通して、異文化接触を疑似体験する。また、いくつかの異文化接触場面について、グループで事例の検証・考察を行い、発表する。これらの活動を通して、異文化についての知見を深める。					
キーワード	異文化、コミュニケーション、価値観					
到達目標	異文化についての知見を深める					
受講生に望む事	ロールプレイ、ミニゲーム等に積極的に参加すること					
事前・事後学修	事前学修：事前に伝える授業のキーワードについて、参考資料等を読み、意味を調べておくこと 事後学修：配布資料・参考資料等を使って授業の復習をすること	評価方法	授業内課題 40%、レポート 60%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	世界の価値観①：個人主義と集団主義			
2	異文化理解の意義	10	世界の価値観②：性善説と性悪説、高文脈文化と低文脈文化			
3	見える文化と見えない文化	11	異文化トレーニング			
4	異文化理解への態度：異文化適応、カルチャーショック	12	コミュニケーションスタイル：自己開示			
5	異文化の認識：固定観念、ステレオタイプ	13	非言語コミュニケーション①：表情が与える誤解、ジェスチャー			
6	差別を考える：差別の種類、差別と異文化理解	14	非言語コミュニケーション②：アイコンタクト、空間と距離			
7	違いに気づく：行動・視点・環境による文化の違い	15	まとめ			
8	異文化体験					
関連科目		連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	授業中に適宜紹介する					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
アメリカ事情		2	たくち せいいち 田口 誠一	2年	前期	講義	現代コミュニケーションコース 選必	
授業概要	アメリカの歴史や文化、社会問題、外交問題などをトピック別に検討し、アメリカ社会の構造と人々の価値観について理解を深める。アメリカの事情をできるだけ日本と比較しながら考察してゆく。							
キーワード	アメリカ合衆国 (United States of America)、文化 (Culture)、歴史 (History)							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ社会や人々の生活について基本的知識を身につける。</li> <li>・日米関係が密接な時代において、アメリカの歴史や文化などを学ぶことにより、豊かな人的交流の基礎にする。</li> </ul>							
受講生に望む事	数回課題を提出させるので、授業内容をきちんと理解したうえで自分の意見を書くようにしてください。							
事前・事後学修	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。事前学修としては、配布された資料をできるだけ深く理解してることが望まれる。事後学修としては、授業中に指示された課題をまとめておくことが望まれる。また、特にアメリカの政治、経済、文化、国際関係などにかかわる情報収集を心がけること。	評価方法	レポート等課題 (80%)、学習態度 (20%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1	アメリカ合衆国について			9	アメリカの外交問題			
2	アメリカ合衆国について			10	アメリカの外交問題			
3	アメリカの歴史			11	アメリカでの生活や習慣について			
4	アメリカの歴史			12	アメリカでの生活や習慣について			
5	アメリカの社会問題			13	アメリカの観光地について			
6	アメリカの社会問題			14	アメリカの観光地について			
7	アメリカの社会問題			15	まとめ			
8	アメリカの社会問題							
関連科目				連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格				オフィスアワー	火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55			
教科書	プリントを配布する。			備考				
参考資料	多数あり。授業中に指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
東アジア近現代史		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	講義	MC、JC：選必 JL：選択	
授業概要	日本にとって「近くて遠い国」と言われる中国、しかしその交流の歴史を紐解くと前近代はもとより、近現代においても互いに影響し合って発展を続けてきた。ではなぜ「遠い国」になってしまったのだろうか。そのことを探る手がかりは近現代史にある。近現代における日本と中国は良きにつけ、悪きにつけ互いの将来を決定づけるほど関わってきた。中国を知る、日中関係を理解するためには日中を中心とする東アジア近現代史の把握が欠かせない。本講義では中国近現代史を中心に日本の関わり方も交えながら、なぜ日本と中国は戦争にまで発展してしまったのか、そして戦後中国が経済大国まで発展した歴史を理解することを目的とする。							
キーワード	中国、東アジア、近現代史							
到達目標	東アジアにおける各種問題を歴史的に読み解ける							
受講生に望む事	時事問題に関心を持つ							
事前・事後学修	関連の論文、専門書も同時に読むこと			評価方法	平常点 (授業に取り組む姿勢等) 30%、期末テスト70%			
回	授業計画			回	授業計画			
1	アヘン戦争と日清戦争			9	中華人民共和国の誕生～国共内戦から新中国の統一へ			
2	孫文と宮崎滔天			10	社会主義体制への展開①～反右派闘争と大躍進運動			
3	岐路に立った日本～日露戦争、日韓併合			11	社会主義体制への展開②～文化大革命			
4	日本の帝国主義と東アジア①～満州事変			12	改革開放①～毛沢東から 小平へ			
5	日本の帝国主義と東アジア②～盧溝橋事件			13	改革開放②～高度経済成長			
6	日本の帝国主義と東アジア③～台湾・朝鮮の植民統治			14	兩岸関係～「ひとつの中国」			
7	アジア太平洋戦争			15	これからの日中関係			
8	終戦～日本はどのように「処理」されたのか							
関連科目	中国事情			連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F、第9研究室			
資格				オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	随時必要に応じてプリント等配布します。			備考				
参考資料	田中仁ほか『新・図説 中国近現代史―日中新時代の見取図』(法律文化社) など							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
NPO 論	2	きたぐち 北口 ひでほ 英徳	2年	後期	講義	MC 選必 JL, JC 選択
授業概要	阪神淡路大震災など自然災害救済のサポートとして一般市民による非営利活動 (NPO) が活発になり、その重要性は高まってきています。また一方で地域活性化の立役者として、自分たちのまちを盛り上げようという動きも全国各地で広まっており、まちづくり NPO が多く設立されています。本講義では「NPO」についての基本的な考え方をおさえた後、実際にまちづくりに携わっている NPO の関係者から話を聞き、その現状と課題について把握することを目的にします。					
キーワード	NPO、まちづくり					
到達目標	NPO の現状と課題を把握する					
受講生に望む事	NPO 法人を立ち上げるくらいの前向きな姿勢					
事前・事後学修		評価方法	平常点 30% レポート 70%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	講義計画	9	NPO の課題 (外部講師 D)			
2	NPO とは何か (外部講師 A)	10	これからの NPO (外部講師 D)			
3	NPO の設立プロセス (外部講師 B)	11	NPO 設立を考える①			
4	NPO の事例① (外部講師 B)	12	NPO 設立を考える②			
5	NPO の事例② (外部講師 B)	13	NPO 設立を考える③			
6	NPO の事例③ (外部講師 C)	14	プレゼン①			
7	NPO の事例④ (外部講師 C)	15	プレゼン②			
8	海外の NPO (外部講師 C)					
関連科目	サービスラーニング関連科目	連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室 : 管理棟 3F、第 9 研究室			
資格		オフィス アワー				
教科書		備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング演習 I	2	たくち せいいち 田口 誠一 ジョシユ・ノーマン	2年	前期	演習	MC 必修
授業概要	1年次までのサービスラーニングの活動を踏まえて、英語関連領域で地域のニーズを踏まえた活動に積極的に関わっていく。具体的には、大学近辺（菊陽町、大津町あるいは熊本市）で幼稚園児から小学校低学年を対象とした英語教育の活動を企画し実践する。					
キーワード	サービスラーニング 児童英語					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題探求力と解決力の向上</li> <li>・幼児や児童向けの英語教育指導力の向上</li> </ul>					
受講生に望む事	幼児や児童の英語教育に関して興味を持ち、学外活動に積極的に参加してほしい。					
事前・事後学	事前（2時間）・事後（2時間）を学修時間の目安とする。事前学修としては、幼児や児童の英語教育に関してできるだけ調べて理解しておくことや学外学修活動のための事前準備に時間をかけることが望まれる。事後学修については、特に学外学修活動後の課題解決の考察をおこなってほしい。					
評価方法	活動への貢献度（70%）、レポート等（30%）					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	事前準備					
3	事前準備					
4	事前準備、学外学修先挨拶					
5	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
6	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
7	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
8	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
9	振り返り、事前準備					
10	事前準備					
11	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
12	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
13	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
14	学外学修（幼児や児童向けの英語教育活動）					
15	振り返り、事後指導					
16	ただし、学外学修活動先とのスケジュール調整により変更する場合がある。学外学修先への交通費は自己負担であるが、昨年度と同様に、徒歩10分ほどで行ける菊陽町武蔵ヶ丘児童館を第一候補として考えている。なお、学外学修実施の場合、通常の授業時間帯を多少変更したり、土曜や日曜に活動をすることもある。					
関連科目	児童英語					
資格						
教科書	プリントを配布する。					
参考資料	授業中に紹介する。					
連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11					
オフィスアワー	田口（火 12:10～12:55、木 12:10～12:55） ノーマン（火 12:15～13:00、水 12:15～13:00）					
備考	学外学修先の交通費は自己負担であるが、なるべく徒歩で行けるように配慮したい。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
サービスラーニング演習Ⅱ	2	ところ よしひこ 所 吉彦	2年	後期	講義	MC 必修 他コース選択
授業概要	サービスラーニングの基礎を完成させる授業です。サービスラーニング入門Ⅰ、Ⅱ、同演習Ⅰと学修・体験してきたことをいかし、第三者が問題、課題と認識している事柄に対し、解決提案および実践を行います。					
キーワード	アクティブラーニング、意識変化、省察					
到達目標	第三者が抱える問題、課題に対し解決提案および実践に向けてのものの考え方、基礎的なプロセス管理ができる。現代コミュニケーション演習（MCゼミ）で他大学学生と共同で企業への解決提案プログラムにエントリーできる。					
受講生に望む事	現代コミュニケーションコースの4つの力の1つである「ビジネス」をフィールドとします。まずはチャレンジし、体験から得られる意識変化を大切にしてください。					
事前・事後学修	事前・事後学修は授業の指導ガイドラインに沿って、自ら情報収集し、ロジックを組み立て、課題解決に向けた仮説形成および実践による修正を繰り返します。	評価方法	授業・チーム活動の貢献度 40%、振り返りノート 30%、成果発表 30%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション					
2	「現状把握→問題把握→分析→代替案策定→意思決定→プレゼン」について、対象現場観察と調査分析考察を繰り返す。					
14	※途中で学外講師講話2回、COC+プログラム等学外学修10回（交通等実費負担）以内を予定					
15	振り返り・まとめ					
関連科目	サービスラーニング入門Ⅰ、Ⅱ、同演習Ⅰ、消費行動論	連絡先	武蔵ヶ丘 CP1 号館 2F toko@shokei-gakuen.ac.jp			
資格		オフィスアワー	水曜 12:10-12:55、木曜 12:10-12:55			
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。	備考	※途中で学外講師講話2回、COC+プログラム等学外学修10回（交通等実費負担）以内を予定			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
地域プロジェクトワーク	2	たくち せいいち 田口 誠一 きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	集中	演習	MC 選必 他コース選択
授業概要	これまで「サービスラーニング入門Ⅰ・Ⅱ」「課題探求プロジェクト演習」「サービスラーニング演習Ⅰ」などの経験を活かし、少しずつ自分たちで企画・運営する力を向上させる。菊陽町、大津町、合志市、熊本市など近隣自治体での各種プロジェクトに参画し、グループ単位で自主的な活動を含む形でプロジェクトに関わっていく。具体的な活動内容については、外国語を使用した観光系のプロジェクトなどが想定されるが、最終的には学生同士で検討し決定する。					
キーワード	サービスラーニング、プロジェクト企画・運営					
到達目標	プロジェクトの企画・運営をしてみる					
受講生に望む事	前向きな姿勢					
事前・事後学修	課外での準備が増えることが想定されるが、前向きに取り組んでほしい。	評価方法	活動への取り組み姿勢 50%、レポート 50%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション 前期中に実施予定	8				
	事前指導 プロジェクトの検討と企画 8月下旬～9月上旬 ※2コマ分	9				
2		10				
3	プロジェクトの企画に関する現地打ち合わせ 9月中 ※学外学修2コマ分	11				
4	行き先は未定だが、菊陽町、大津町、熊本市など近隣自治体を予定している。	12				
5	交通費等の費用もそれに伴い発生する。	13				
6	プロジェクトの運営 9月中 ※学外学修8コマ分	14	事後指導 振り返り ※2コマ分			
7		15				
関連科目	サービスラーニング領域の科目	連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室			
資格		オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	特になし。	備考	※学外学修は基本的に現地集合、現地解散を想定しており、交通費等の自己負担が発生する可能性がある。			
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
海外プロジェクトワーク		2	きたぐち 北口 ひでほ 英穂	2年	後期	演習	MC 選必
授業概要	海外でサービスラーニングのプロジェクトに参加します。今年度は台湾花蓮市を予定しています。協定校の慈済大学の学生と合同でプロジェクトを企画、運営します。今年度は観光都市花蓮市の日本人観光客誘致促進を全体テーマに設定する予定です。海外でのプロジェクトは国内よりも更に前向きな姿勢が求められます。中国語力が高い方がより効果的ですが、午前中は基本的に中国語センターで中国語を勉強しますし、受入先は日本語・英語ができる学生を想定していますので、とにかく挑戦してみたい学生を歓迎します。						
キーワード	サービスラーニング、海外、中国語						
到達目標	海外でのプロジェクト参加を通じたコンピテンシー能力の向上						
受講生に望む事	前向きな姿勢						
事前・事後学修	渡航先である台湾に関する情報を積極的に集めること。事後も台湾人学生と交流を続けてほしい。	評価方法	平常点 (30%)、プレゼン+レポート (70%) で評価します。				
回	授業計画	回	授業計画				
1	オリエンテーション	10	事後指導① 事後指導② ※春季休暇中 (2月~3月中の4週間) の実施を想定しています。詳細は学期初めのオリエンテーションで説明します。				
2	事前指導①	11					
3	事前指導②	12					
4	プロジェクト参加 (4週間)	13					
5	午前中は慈済大学での中国語センターでの受講を想定しています。	14					
6	センターでの学費 25,000 台湾ドル (約 90,000 円 為替相場次第で変動あり)	15					
7	渡航費 50,000 円 海外旅行保険約 10,000 円 食費約 10,000 円						
8							
9							
関連科目	サービスラーニング関連科目	連絡先	Email : wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室 : 管理棟 3F、第 9 研究室				
資格		オフィスアワー	授業中にアナウンスします。				
教科書		備考					
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
専門基礎演習 (現代コミュニケーションコース)	2	たくち 誠一 田口 誠一 きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	後期	演習	MC コース必修
授業概要	現代コミュニケーションコースの専門科目を学修するうえで必要とされる知識や姿勢を学ぶ。前半を田口、後半を北口が担当し、それぞれの視点からアプローチをこころみる。					
キーワード	サービスラーニング、卒業研究					
到達目標	専門科目を学修するうえで必要な知識やものの見方を身につけること 卒業研究の土台作り					
受講生に望む事	指示された予習や復習をきちんとおこなったうえで授業に臨むこと。					
事前・事後学修	事前(2時間)・事後(2時間)を学修時間の目安とする。事前学修としては、配布された資料をよく読んで理解しておくことや授業中に指示されたことを調べておくことが望まれる。事後学修としては、授業中に指示された課題をまとめておくことが望まれる。					
評価方法	田口(50%)、北口(50%)でそれぞれレポート等で評価する。					
回	授業計画					
1	サービスラーニングを考える					
2	サービスラーニングを考える					
3	コミュニケーション能力について					
4	コミュニケーション能力について					
5	コミュニケーション能力について					
6	地域社会とグローバル社会を考える					
7	地域社会とグローバル社会を考える					
8	地域社会とグローバル社会を考える					
9	「東アジア」を考える①					
10	「東アジア」を考える②					
11	「東アジア」を考える③					
12	「日本」を考える①					
13	「日本」を考える②					
14	「日本」を考える③					
15	まとめ *日程の調整等の条件がそろえば、学外学修を上記のうち授業2,3コマ分に割り当てて実施することがある。実施する場合、大津町あるいは阿蘇方面を予定している。交通費自己負担、日程については未定である。なお、学外学修が実施できない場合は、通常の授業を教室でおこなう。					
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ					
資格						
教科書	プリントを配布する。					
参考資料	授業中に適宜紹介する。					
連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11 E-mail: wada@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 9					
オフィスアワー	田口(火12:10～12:55、木12:10～12:55) 北口:授業中にアナウンスします。					
備考	学外学修の交通費自己負担である。大津町あるいは阿蘇方面を予定している。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
情報技術特論		2	おかだ のりひろ 岡田 則浩	2年	後期	講義	現代コミュニケーション：選必修 他コース：選択	
授業概要	IT パスポート資格取得に必要な分野を対象として、誰もが共通に備えておくべき基礎的な IT 基礎知識を学ぶ。現在は、IT 関連企業だけでなく、業種・職種を問わずあらゆる企業においてコンピュータを使って仕事をするのが当たり前の時代で、インターネットやメールの利用は生活をする上でも必須の技能となっている。							
キーワード	IT パスポート、IT 基礎知識							
到達目標	基礎的な IT 基礎知識を学び、IT パスポート資格知識の習得をめざす。							
受講生に望む事	IT 分野における知識欲をもつこと。 用語、表現を覚えるのではなく、経験に結び付けて理解することが大切である。							
事前・事後学修	履修前：IT に関して学んだこと、知っていることを自分なりに整理しておく 毎回予習：学習予定部分を一通り読む 毎回復習：演習問題に多く取り組む。	評価方法	演習 20%、授業内試験（複数回）80%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	テクノロジー系 まとめ			
2	ハードウェア			10	マネジメント 1			
3	ソフトウェアとマルチメディア			11	マネジメント 2			
4	システム構成			12	企業活動と法務 1			
5	ネットワーク			13	企業活動と法務 2			
6	セキュリティ			14	経営戦略とシステム戦略			
7	データベース			15	まとめ			
8	アルゴリズムとプログラミング			*	進み具合によって、適宜小テストを実施する			
関連科目	情報処理総論、情報処理実務 I、情報処理実務 II			連絡先	okada-lec@shokei-u.jp			
資格	IT パスポート			オフィスアワー	不在が多いので、e-Mail 連絡を基本とされたい			
教科書	“平成 28 年度 栢木先生の IT パスポート教室”，技術評論社，978-4-7741-7783-0，本体 1580 円。			備考				
参考資料	“平成 28 年度 栢木先生の IT パスポート教室準拠 書き込み式ドリル”，技術評論社，978-4-7741-7784-7，本体 1280 円。 <a href="https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/openinfo/questions.html">https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/openinfo/questions.html</a>							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
消費行動論		2	ところ よしひこ 所 吉彦	2年	前期	講義	JL 選択 他コース選必修	
授業概要	私たちの消費行動は企業行動の変化に反応し様々な形で現れます。消費行動を意識する企業の動きをとらえ、相互影響関係を学ぶため、Team-Based Learning により消費行動、マーケティングを理解していきます。							
キーワード	消費者行動、マーケティング							
到達目標	私たちの消費行動と企業との関係、およびその他消費行動に影響を与える要因を感覚的に掴む力を養います。合わせて TBL により主体性、発信力、傾聴力（特にコミュニケーション力）を向上させます。							
受講生に望む事	消費行動と企業行動はコインの表裏の関係です。理論でなく事例を通じ感覚的に掴むことを心掛けてください。							
事前・事後学修	事前学修として配布されたプリントを読み、自分なりの消費側と企業側のイメージを作り、チーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初イメージとの違いを明らかにし記録してください。	評価方法	レポート 70%、クラス貢献 30%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9	win-win			
2	社会人基礎力			10	GMS の ELP			
3	企業の市場志向			11	消費者コミュニケーション			
4	顧客絶対主義の落とし穴と消費者			12	イノベーター理論における消費者分類			
5	消費者と顧客満足のメカニズム			13	キャズム理論と事例			
6	価格に対する消費者反応			14	社会人基礎力			
7	消費者に映るブルーオーシャン			15	振り返り・まとめ			
8	企業ポジショニングと消費者							
関連科目	将来の就活に備える科目「キャリア形成入門」履修者は、フィールド（企業）を理解するうえで関連の高い科目があるため、合わせて学修することを推奨します。			連絡先	武蔵ヶ丘 CP1 号館 2 F 所 toko@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	水曜 12:10-12:55、木曜 12:10-12:55			
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。			備考				
参考資料								

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語演習 I	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	2年	前期	演習	選択
授業概要	授業では、日常生活の場で頻繁に利用される英語表現を学習する。「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を効率的に高める中で、その基礎となる基本的な文法事項の確認も行う。					
キーワード	日常表現、文法					
到達目標	日常の様々な場面で用いる英語の典型的な表現を、可能な限り多く習得する。					
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中はとにかく集中して聞き取る努力をすること。					
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な個所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。	評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	授業内容、評価方法についての説明（オリエンテーション）	9	"			
2	On an Airplane	10	At a Restaurant			
3	"	11	"			
4	At Immigration and Customs	12	Taking a Subway			
5	"	13	"			
6	Getting to a Hotel	14	Asking for Directions			
7	"	15	"			
8	Checking into a Hotel	16	定期試験			
関連科目		連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 12:15～13:00			
教科書	Travel English at Your Fingertips 成美堂 1800円+税	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語演習 II	1	たけした ひろとし 竹下 裕俊	2年	後期	演習	選択
授業概要	授業では、日常生活の場で頻繁に利用される英語表現を学習する。「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能を効率的に高める中で、その基礎となる基本的な文法事項の確認も行う。					
キーワード	日常表現、文法					
到達目標	日常の様々な場面で用いる英語の典型的な表現を、可能な限り多く習得する。					
受講生に望む事	辞書を引く労を厭わないこと。リスニングの訓練中はとにかく集中して聞き取る努力をすること。英語演習 I を受講済みであることが望ましい。					
事前・事後学修	復習には十分な時間をかけ、不明な個所は授業時またはオフィスアワーに質問して理解に努めること。	評価方法	100%定期試験の結果で評価する。出席状況、受講態度の良くない者は評価の対象にならないので注意すること。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	Fast-food Restaurant & Snack Bar	9	Checking Out			
2	"	10	"			
3	Visiting a Campus	11	Dealing with Problems			
4	"	12	"			
5	At a Pharmacy	13	At a Bank			
6	"	14	"			
7	At a Gift Shop	15	At the Airport			
8	"	16	定期試験			
関連科目		連絡先	e-mail: htake@shokei-gakuen.ac.jp 研究室:大学1号館2階(武蔵ヶ丘キャンパス)			
資格		オフィスアワー	月曜日 12:00～12:45 火曜日 10:45～11:30			
教科書	Travel English at Your Fingertips 成美堂 1800円+税	備考	英語演習 I (前期開講) のテキストをそのまま利用する。			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
TOEIC Preparation I	2	たくち せいいち 田口 誠一	2年	後期	演習	全コース選択
授業概要	様々なパターンの演習問題に取り組み、詳しい解説を加えながら英語のコミュニケーション能力の基礎を固め、TOEIC のスコアを伸ばすトレーニングをおこなう。					
キーワード	TOEIC テスト (TOEIC test) , 英語運用能力試験 (English-proficiency test)					
到達目標	・ TOEIC テストの試験形式に慣れる。 ・ TOEIC 5 0 0 点以上、できれば6 0 0 点突破を目指す。					
受講生に望む事	TOEIC や英検などに是非チャレンジしてください。					
事前・事後学修	事前 (2 時間) ・ 事後 (2 時間) を学修時間の目安とする。演習問題をできるだけ予習してくるとともに、巻末の音読とシャドーイング練習ページで復習することを望む。	評価方法	定期試験 (8 0 %)、学習態度 (2 0 %) で評価をおこなう。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	TOEIC テストについて	9	Unit 8 Job Titles and Responsibilities			
2	Unit 1 Everyday Life	10	Unit 9 Products and Services			
3	Unit 2 Travel	11	Unit 10 Shopping			
4	Unit 3 Hotels	12	Unit 11 Meetings			
5	Unit 4 Job Hunting	13	Unit12 Promotions and Salaries			
6	Unit 5 Job Interviews	14	Unit 13 Business Performance			
7	Unit 6 At the Office	15	復習 (プリント教材)			
8	Unit 7 Company Information, Department Names	16	定期試験			
関連科目	TOEIC Preparation II	連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格		オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	TOEIC Test Trainging 500 (南雲堂)	備考				
参考資料	授業中に適宜指示する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英会話 I	2	Josh Norman	2年	前期	演習	全コース選択
授業概要	ペアワークの練習課題が多く含まれている教科書の使用を通して、speaking と listening のスキル向上 に重点を置きながら英語の言語学習の4つの分野 (speaking, listening, reading and writing) のスキルアップを目指す。					
キーワード	English conversation, speaking					
到達目標	この授業を通して、学生は好き嫌い、趣味と興味、自分の日常生活と型にはまった行動などの話題について簡単な英語の表現や文章で話せるようになることが目標となっている。					
受講生に望む事	Students should always have a dictionary in class. Speak in English as much as possible.					
事前・事後学修		評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (20%), and quiz (50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	Unit 1	9	Unit 4			
2	Unit 1 (cont.)	10	Unit 4 (cont.)			
3	Unit 1 (cont.)	11	Unit 5			
4	Unit 2	12	Unit 5 (cont.)			
5	Unit 2 (cont.)	13	Unit 6			
6	Unit 2 (cont.)	14	Unit 6 (cont.)			
7	Unit 3	15	Quiz			
8	Unit 3 (cont.)					
関連科目	英会話 II	連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F			
資格		オフィスアワー	See schedule on my office door			
教科書	“Out Front” by Robert Diem and Roberto Rabbini (English Education Press)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英会話Ⅱ	2	Josh Norman	2年	後期	演習	全コース選択
授業概要	ペアワークの練習課題が多く含まれている教科書の使用を通して、speakingとlisteningのスキル向上に重点を置きながら英語の言語学習の4つの分野(speaking, listening, reading and writing)のスキルアップを目指す。(Continuation of 英会話Ⅰ class.)					
キーワード	English, conversation					
到達目標	この授業を通して、学生は好き嫌い、趣味と興味、自分の日常生活と型にはまった行動などの話題について簡単な英語の表現や文章で話せるようになることが目標となっている。					
受講生に望む事	Students should always have a dictionary in class. Speak in English as much as possible.					
事前・事後学修		評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (20%), and quiz (50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	Unit 7	9	Unit 10			
2	Unit 7 (cont.)	10	Unit 10 (cont.)			
3	Unit 7 (cont.)	11	Unit 11			
4	Unit 8	12	Unit 11 (cont.)			
5	Unit 8 (cont.)	13	Unit 12			
6	Unit 8 (cont.)	14	Unit 12 (cont.)			
7	Unit 9	15	Quiz			
8	Unit 9 (cont.)					
関連科目	英会話Ⅰ	連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F			
資格		オフィスアワー	See schedule on my office door			
教科書	“Out Front” by Robert Diem and Roberto Rabbini (English Education Press)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語中級Ⅰ	1	きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	前期	演習	全コース選択
授業概要	1年次で培った中国語文法の基礎固めを中心に、初級から中級への発展を促します。中国理解につながる教材を用い、読解力向上も目指します。中国語検定試験やHSKへのチャレンジも念頭に授業を行います。					
キーワード	中国語					
到達目標	文法の基礎固め					
受講生に望む事	予習・復習の徹底					
事前・事後学修	テキストの予習・復習は当然のこと、それ以外に積極的に中国語を使用する機会を増やす努力をしてもらいます。	評価方法	平常点(受講姿勢等)30% 筆記試験70%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	復習	9	第4課「年轻人的就业观」②			
2	第1課「換钱」①	10	第5課「相亲」①			
3	第1課「換钱」②	11	第5課「相亲」②			
4	第2課「小学校前」①	12	第6課「外甥的婚房」①			
5	第2課「小学校前」②	13	第6課「外甥的婚房」②			
6	第3課「早上的公园」①	14	第7課「婆媳关系」①			
7	第3課「早上的公园」②	15	第7課「婆媳关系」②			
8	第4課「年轻人的就业观」①					
関連科目	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション中国語Ⅰ・Ⅱ	連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F、第9研究室			
資格	中国語検定試験3級・4級、HSK3級、4級	オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	相原茂・蘇明『日中いぶこみ12景』(朝日出版社)	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語中級Ⅱ	1	きたぐち 北口 ひでほ 英穂	2年	後期	演習	全コース選択
授業概要	前期に引き続き初中級から中級へのステップアップを目指します。語彙数の増加と長文読解も進めていきます。					
キーワード	中国語					
到達目標	語彙を増やし、長文にも慣れること					
受講生に望む事	予習・復習の徹底					
事前・事後学修	テキストの予習・復習は当たり前ですが、それ以外で中国語を実践的に使う習慣を身に付けてください。日記を中国語でつけることを推奨します。	評価方法	平常点30% 中間・期末テスト70%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	復習	9	第11課「旅游」②			
2	第8課「川菜」①	10	第12課「除夕夜」①			
3	第8課「川菜」②	11	第12課「除夕夜」②			
4	第9課「中华医药」①	12	長文読解①			
5	第9課「中华医药」②	13	長文読解②			
6	第10課「九九重阳节」①	14	長文読解③			
7	第10課「九九重阳节」②	15	まとめ			
8	第11課「旅游」①					
関連科目	中国語基礎Ⅰ、コミュニケーション中国語Ⅰ・Ⅱ	連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室			
資格	中国語検定試験3級、HSK、4級	オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	前期と同じ『日中いぶこみ12景』	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション中国語Ⅰ	1	ふらん 房 ちー 琦	2年	前期	演習	選択
授業概要	本講義のねらいは一通り発音や文法の基本を身につけた皆さんに、中国語会話・リスニングの基礎を習得させることにあります。要点は、1) 今まで学んだ発音を再確認し、正しく発音ができる。2) 聞いて、書き取れるようにする。3) 簡単な応用の会話力を身に付ける。授業では、基本的に中国語を使って授業を進めていきますが、皆さんの実力に応じて適宜日本語も使いますので安心して授業に臨んでください。					
キーワード	中国語 会話 リスニング 異文化理解					
到達目標	(1) 今まで学んだ正しい発音をもう一度確認し、確実に身に付ける。(2) 自分のことが確実に中国語で表現できるようにする。(3) 日常生活や旅行での簡単な会話ができるようにする。					
受講生に望む事	基本から丁寧に復習していきます。間違えを恐れず、積極的に会話に参加してください。					
事前・事後学修	授業前に必ず教科書に目を通し、音声教材を聴いておいて下さい。授業後には、その日に学んだことをもう一度ふりかえって下さい。	評価方法	毎回簡単な会話(50%)とリスニング(50%)のテストを行い、それを評価の対象とします。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス、発音の復習、基本文法の復習(1)	9	第4課 我的一天			
2	発音の復習、基本文法の復習(2)	10	第4課 リスニング練習と会話練習			
3	第1課 自我介绍	11	第5課 我的朋友			
4	第1課 リスニング練習と会話練習	12	第5課 リスニング練習と会話練習			
5	第2課 大学	13	第6課 旅游			
6	第2課 リスニング練習と会話練習	14	第6課 リスニング練習と会話練習			
7	第3課 談愛好	15	総合演習1、まとめ			
8	第3課 リスニング練習と会話練習					
関連科目	日中比較文化言語基礎演習	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー				
教科書	陳浩・梁月軍『中国語会話ステップアップ』(改訂版)、郁文堂	備考				
参考資料	月刊誌『聴く中国語』(日中通信社)					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
コミュニケーション中国語Ⅱ		1	ふう ちー 房 琦	2年	後期	演習	選択	
授業概要	本講義のねらいは前期にひきつづき、一通り発音や文法の基本を身につけた皆さんに、中国語会話・リスニングの基礎を習得させることにあります。前期よりやや発展的内容になります。要点は、1) 今まで学んだ発音を再確認し、正しく発音ができる。2) 聞いて、書き取れるようにする。3) 簡単な応用の会話力を身につける。授業では、基本的に中国語を使って授業を進めていきますが、皆さんの実力に応じて適宜日本語も使いますので安心して授業に臨んでください。							
キーワード	中国語 会話 リスニング 異文化理解							
到達目標	(1) 今まで学んだ正しい発音を確実に身につける。基本的な文法について正しく理解する。(2) 自分のことが確実に中国語で表現できるようにする。(3) 中国や台湾などの中国語圏への旅行での簡単な会話ができるようにする。							
受講生に望む事	間違いを恐れず、積極的に会話に参加してください。間違えるほど、身につけていきます。							
事前・事後学修	授業前に必ず教科書に目を通し、音声教材を聴いておいて下さい。授業後には、その日に学んだことをもう一度ふりかえって下さい。	評価方法	毎回簡単な会話(50%)とリスニング(50%)のテストを行い、それを評価の対象とします。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス、前期の復習、自己紹介			9	第10課 リスニング練習と会話練習			
2	第7課 做客			10	第11課 ホテルにて			
3	第7課 リスニング練習と会話練習			11	第11課 リスニング練習と会話練習			
4	第8課 中国菜			12	第12課 学漢語			
5	第8課 リスニング練習と会話練習			13	第12課 リスニング練習と会話練習			
6	第9課 購物			14	総合演習2			
7	第9課 リスニング練習と会話練習			15	まとめ			
8	第10課 北京的四合院							
関連科目	日中比較文化言語基礎演習			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格				オフィス アワー				
教科書	陳浩・梁月軍『中国語会話ステップアップ』(改訂版)、郁文堂			備考				
参考資料	月刊誌『聴く中国語』(日中通信社)							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
検定中国語		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	2年	後期	演習	全コース選択	
授業概要	これまでの中国語をブラッシュアップするために、中国語検定試験4級か3級合格を目標に授業を行います。過去問を繰り返し解き、また、不足しがちな語彙数の増加を目指します。							
キーワード	中国語検定試験							
到達目標	中国語検定試験3級・4級							
受講生に望む事	毎日中国語に触れること							
事前・事後学修	授業中は中国語検定試験の過去問の筆記試験を中心に行いますが、ヒアリング試験は課外で繰り返し実施してもらいます。	評価方法	平常点30% 中間・期末テスト70%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	講義計画			9	処置文			
2	存在表現			10	受身文			
3	動作の完了、変化、経験			11	存現文			
4	動作の持続、進行			12	語気助詞			
5	疑問文			13	「不」と「没」			
6	程度・結果・方向補語			14	常用の副詞			
7	可能・動量・時量補語			15	その他			
8	比較文							
関連科目	中国語中級Ⅰ・Ⅱ			連絡先	Email: wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室: 管理棟3F、第9研究室			
資格	中国語検定試験3級・4級			オフィス アワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	『耳タン 中級4級レベル』			備考				
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語中級Ⅰ		1	なかがわ あきお 中川 明夫	2年	前期	演習	選択
授業概要	韓国語検定試験の中級レベル（ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能）に相当する語学力・言語文化力を身につけることをお目標にします。						
キーワード	中級レベル、コミュニケーションが可能、語学力、言語文化力						
到達目標	・読む・話す・聞く・書くコミュニケーションに必要な単語・文章ルールを習得する。 ・韓国語によるコミュニケーションで使う言語文化を理解する。						
受講生に望む事	日ごろから、韓国語にたくさん触れるようにしてください。						
事前・事後学修	[事前]・予習（特に、読み、聞き）をするようにしてください。・授業でディスカッションする場合には、話す内容を作成しておいたほうが良いです。[事後]・復習するようにしてください。・韓国語によるタイピング練習を薦めます。			評価方法	試験（80%）、レポートなど（20%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション、第1課			9	第7課		
2	第2課			10	まとめ2		
3	第3課			11	第8課		
4	第4課			12	第8課		
5	まとめ1			13	第9課		
6	第5課			14	第9課		
7	第6課			15	まとめ3		
8	第7課						
関連科目	コミュニケーション韓国語Ⅰ、日本語教育に關数科目			参考資料	プリント資料、映像資料		
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験などの韓国語関連の資格、案内通訳士、日本語教師、韓国語を使用するであろう司書、秘書、教職など			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp		
				オフィスアワー	初回講義時に通知します。		
教科書	李昌圭、『韓国語をはじめよう 中級』、2011年、朝日出版社			備考	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅱの既習者、それに相当する韓国語検定試験に合格した学習者の履修が望ましい。		

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
韓国語中級Ⅱ		1	りゅうきんおおく 柳 景沃	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き、韓国語検定試験の中級レベル（ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能）に相当する語学力・言語文化力を身につける。						
キーワード	中級レベルの韓国語力、語学力・文化言語力						
到達目標	・読む・話す・聞く・書くコミュニケーションに必要な単語・文章ルールを習得する。 ・韓国語によるコミュニケーションで使う言語文化を理解する。						
受講生に望む事	[事前学習] ・予習（特に、読み、聞き）をするようにしてください。 ・授業でディスカッションする場合には、話す内容を作成しておいたほうが良いです。 [事後学習] ・復習するようにしてください。 ・日ごろから、韓国語にたくさん触れるようにしてください。						
事前・事後学修				評価方法	試験（80%）、提出物（20%）を加算して評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション、第10課			9	第16課		
2	第10課			10	第17課		
3	第11課			11	まとめ2		
4	第12課			12	第18課		
5	第13課			13	第19課		
6	まとめ1			14	第20課		
7	第14課			15	まとめ3		
8	第15課						
関連科目	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰ・Ⅱ、日本語教育関連科目			連絡先			
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験、日本語教師検定試験など			オフィスアワー			
教科書	李昌圭、『韓国語をはじめよう 中級』、2011年、朝日出版社			備考	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰなどの韓国語関連科目の既習者、またはそれに相当する韓国語検定試験の合格者（受験者）の履修が望ましい。		
参考資料	プリント資料、映像資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション韓国語Ⅰ		1	なかがわ 中川 明夫	2年	前期	演習	選択
授業概要	中級レベルの単語力・文法ルールを学び、ネイティブスピーカーとコミュニケーションが可能な語学力・言語文化力を身につける。						
キーワード	中級レベル、コミュニケーションが可能						
到達目標	・韓国語の多彩な表現ルールを理解し、応用できるようにする。 ・シャドーイングなどの通訳方式を経験する。 ・韓国語検定試験への合格を目指す。						
受講生に望む事	授業以外でも教材のDVDをなるべくたくさん見て、場面と会話の流れを楽しみながら慣れるようにしましょう。						
事前・事後学修	[事前]・学習する箇所を予習してください。・質問する内容を考えておいてください。 [事後]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。		評価方法	試験(80%)、レポート(20%)を加算して評価する。			
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション：授業方法・教材などの紹介			9	第5話		
2	第1話			10	まとめ(第4～5話)		
3	第2話			11	第6話		
4	第3話			12	第6話		
5	まとめ(第1～3話)			13	第7話		
6	第4話			14	第7話		
7	第4話			15	まとめ(第6～7話)		
8	第5話						
関連科目	韓国語中級Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション韓国語Ⅱ、日本語教育関連科目			参考資料	プリント・映像資料		
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験などの韓国語関連の資格、案内通訳士、日本語教師、韓国語を使用するであろう司書、秘書、教職など			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp		
				オフィスアワー	初回講義時に通知します。		
教科書	金珍娥、『ドラマチックハングル～君、風の中に～』、2012年、朝日出版社			備考	韓国語Ⅱ、韓国語基礎Ⅱの既習者、それに相当する韓国語検定試験に合格した学習者の履修が望ましい。		

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
コミュニケーション韓国語Ⅱ		1	りゅうきよんおく 柳 景沃	2年	後期	演習	選択
授業概要	前期に引き続き、具体的な会話を視聴しながら、中級レベルの韓国語コミュニケーション力を習得する。教材の表現を応用した会話練習も行う。						
キーワード	中級レベルの韓国語コミュニケーション力、応用会話練習						
到達目標	・会話の流れが理解できる。 ・状況に合った表現を駆使できる。 ・画面に合わせて韓国語の台詞が言える。						
受講生に望む事	[事前学習]・学習する箇所を予習してください。・DVDをなるべくたくさん鑑賞するようにしてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。 ・時間があるときにDVDを見るようにしてください。						
事前・事後学修			評価方法	定期試験(80%)、提出物(20%)			
回	授業計画			回	授業計画		
1	第8話			9	第11話		
2	第8話			10	まとめ(第10～11話)		
3	第9話			11	第12話		
4	第9話			12	第12話		
5	まとめ(第8～9話)			13	第13話		
6	第10話			14	第13話		
7	第10話			15	まとめ(第12～13話)		
8	第11話						
関連科目	コミュニケーション韓国語Ⅰ、韓国語中級Ⅰ・Ⅱ、日本語教育関連科目			連絡先			
資格	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験、日本語教師検定試験など			オフィスアワー			
教科書	金珍娥、『ドラマチックハングル～君、風の中に～』、2012年、朝日出版社			備考	韓国語中級Ⅰ、コミュニケーション韓国語Ⅰの既習者、またそれに相当する韓国語検定試験合格(受験者)の受講が望ましい。		
参考資料	プリント資料、映像資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
検定韓国語	2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	後期	演習	
授業概要	「ハングル能力検定試験」、「韓国語能力試験 (TOPIK)」などの検定試験に出題された問題を解きながら中級以上の韓国語 (文化) 力を身につけます。					
キーワード	ハングル能力検定試験、韓国語能力試験					
到達目標	各種韓国語試験の中級以上のレベルの韓国語力をつける。また、実際に検定試験にチャレンジしてみる。					
受講生に望む事	機会を見て、韓国語関連の検定試験を受けてみましょう。					
事前・事後学修	[事前]・配布されたプリントを予習しておいてください。 ・質問を考えておいてください。 [事後]・間違えた箇所を復習し、理解するようにしてください。 ・積極的に過去問題を解くようにしてください。	評価方法	試験 (80%)、レポート (20%) を加算して評価する。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション：授業方法、内容の紹介	9	演習			
2	演習	10	演習			
3	演習	11	演習			
4	演習	12	演習			
5	演習	13	演習			
6	演習	14	演習			
7	演習	15	まとめ			
8	まとめ					
関連科目	日韓比較文化言語原書講読、日韓比較文化言語演習Ⅰ・Ⅱ、応用韓国語、実用観光韓国語など、韓国語に関連した科目	連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	韓国語に関連した検定試験、案内通訳士	オフィスアワー	初回講義時に通知します。			
教科書	自作プリントを配布。	備考	日韓比較文化言語原書講読、日韓比較文化言語演習ⅠまたはⅡなどの韓国語の授業の履修者、韓国語関連の検定試験に合格した新規履修者が望ましい。			
参考資料	ハングル能力検定試験・韓国語能力試験の過去問題集、参考書					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学講義Ⅱ	2	たけしま かずき 竹島 一希	3年	前期	講義	選択
授業概要	日本には長い舞台芸能の歴史があります。しかし、熊本でこれらの舞台芸能を見る機会はなかなかありません。この授業では、各芸能の概説を行った後、映像で鑑賞します。					
キーワード	能楽・狂言・文楽・歌舞伎					
到達目標	1 能楽・狂言・文楽・歌舞伎について、それぞれを把握したうえで総体的に捉えることができる。 2 伝統芸能に対する基本的な知識を身に付けることができる。					
受講生に望む事	特にありません。					
事前・事後学修	配布レジュメを熟読して下さい。	評価方法	学期末レポートで評価します (100%)。			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション	9	「冥土の飛脚」のあらすじ			
2	能楽概説	10	文楽「冥土の飛脚」鑑賞			
3	「井筒」のあらすじ	11	歌舞伎概説			
4	能「井筒」鑑賞	12	「勧進帳」のあらすじ			
5	狂言概説	13	歌舞伎「勧進帳」鑑賞			
6	「船渡婿」「蚊相撲」のあらすじ	14	まとめ (1)			
7	狂言「船渡婿」「蚊相撲」鑑賞	15	まとめ (2)			
8	文楽概説					
関連科目		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格		オフィスアワー	質問等は授業の前後で受け付けます。			
教科書	レジュメを配布します。	備考				
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学演習 I		2	たけだ 昌憲 まさのり	3年	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	随筆『徒然草』を読み解きます。今年度のテーマは「芸とは」です。作者兼好法師も何らかの「芸」を持って生活しています。中世の芸術がその後の日本文化の中核にあることを改めてみていきたいと思ひます。グループ調査と個人研究によって独自のこだわりと活発な意見を出してもらいたいと思ひます。本書は日本人にもっともよく読まれ、親しまれた古典作品です。そこには限りある人生を有効に生かす方法が至る所に描かれています。ぜひ本書を通読して人生の指針にしていだきたいと思ひます。						
キーワード	徒然草 随筆 中世文学 兼好法師 有職故実 中世文化 中世歌人 二条派						
到達目標	古典の故実・人物・基礎的事項の調査方法がわかる。作者の美意識が理解できる。自分の意見が的確に表現できる。						
受講生に望む事	教職課程の者は受講すること。毎時間の積極的な質疑応答を期待します。						
事前・事後学修	[事前学習] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと			評価方法	発表資料・質疑応答・教場レポート 50% 期末試験 (レポート) 50%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	はじめに 演習の方法と中世の思想 (I) について テキストの確認			9	演習発表 89段		
2	中世の思想 (II) について 発表手順・分担 兼好法師について			10	演習発表 92段		
3	序についての実演・発表。基本文献の確認			11	演習発表 145・146段		
4	演習発表 1段			12	演習発表 184段		
5	演習発表 9段			13	演習発表 226段		
6	演習発表 52段			14	演習発表 236段		
7	演習発表 53段			15	まとめ		
8	演習発表 54段			16	試験 (レポート)		
関連科目	日本古典文学演習 II 日本古典文学史 II			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
教科書	『徒然草』(岩波文庫)			備考			
参考資料							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本古典文学演習 II		2	たけだ 昌憲 まさのり	3年	後期	演習	選択
授業概要	清少納言の『枕草子』を取り上げ、有職故実や文献の処理の仕方等を学びながら、調査・発表していきます。同時に平安貴族の王朝美とともに、厳しい現実世界をも見ていきます。女性がたくましく生きるその様子を鑑賞し、将来の自分の生き方の参考にしてもらえればと思ひます。						
キーワード	枕草子 有職故実 王朝美 清少納言 平安文学 古代文学						
到達目標	王朝時代の故実・人物・基礎的事項の調査方法がわかる。作者の美意識が理解できる。自分の意見が的確に表現できる。						
受講生に望む事	毎時間の積極的な質疑応答を期待します。						
事前・事後学修	[事前学習] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと。 [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと。			評価方法	発表資料・質疑応答・教場レポート 50% 期末試験 (レポート) 50%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	はじめに、『枕草子』について テキストの確認			8	演習発表 8段		
2	物尽くし・随筆的章段・階層的章段の説明 発表の分担 演習発表の準備のために清少納言について、『徒然草』『方丈記』『枕草子』一随筆を探る			9	演習発表 9段		
3	演習発表 1段			10	演習発表 各自の選択した章段		
4	演習発表 2段			11	演習発表 各自の選択した章段		
5	演習発表 3段			12	演習発表 各自の選択した章段		
6	演習発表 4・5段			13	演習発表 各自の選択した章段		
7	演習発表 6・7段			14	まとめ		
				15	試験 (レポート)		
関連科目	日本古典文学演習 I			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
教科書	『枕草子』(岩波文庫) 840円 ISBN4-00-300161-3 C0195			備考			
参考資料							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学講義Ⅱ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	前期	講義	選択
授業概要	近代の小説において美や病気がどのように描かれてきたのかを考察する。作品の解釈をする上でその背景となったものについても理解を深める。特に北條民雄の「いのちの初夜」では恵楓園見学をすることでハンセン氏病との関りを実感する。文学における虚と実について深く学ぶ。学外学修で菊池恵楓園に行き、ハンセン氏病患者の歴史を知る。						
キーワード	梶井基次郎、谷崎潤一郎、遠藤周作、横光利一、田山花袋、北條民雄						
到達目標	・それぞれの作家の表現の特徴について理解する。 ・小説背後の文化的、社会的問題を見ていくことで、幅広い視野を身につける。 ・作家の人生が、小説の表現（＝虚構）にどう反映されているかを理解する。						
受講生に望む事	必ず事前にテキストを読んでおくこと。 授業内容について復習し、作品に関する感想を書けるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度（授業時の課題、小レポートなど30%）、学期末レポート（70%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	遠藤周作「海と毒菓」		
2	梶井基次郎「檸檬」			10	" 「海と毒菓」 解説一美・仮想現実		
3	" 「檸檬」 解説一美・仮想現実			11	横光利一「上海」		
4	学外学修「菊池恵楓園」			12	" 「上海」 解説一美・仮想現実		
5	北條民雄「いのちの初夜」 恵楓園			13	田山花袋「田舎教師」		
6	" 「いのちの初夜」 解説一病・表象・制度			14	" 「田舎教師」 解説一病・表象・制度		
7	谷崎潤一郎「春琴抄」			15	まとめ		
8	" 「春琴抄」 解説一美・仮想現実						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	近代文学研究会編「日本の近代小説（改訂版）」協和書房			備考	学外学修にかかる費用（移動の為の交通費及び入館料）は各自が負担する。		
参考資料	適宜指示する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅰ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	明治、大正、昭和の小説を受講生が調査研究してきたことを発表する。先行論文や参考資料の調査、典拠との比較考察を行う。ディスカッションを重視するので発表者以外も先行論文などを調査し、自分の意見をまとめておく。						
キーワード	島崎藤村、志賀直哉、芥川龍之介、有島武郎、谷崎潤一郎、梶井基次郎、横光利一						
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。 ・近代文学の作品に関する資料を収集、調査する力を身につけるとともに、読解力を磨く。 ・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。						
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望む。 【事前学習】事前にテキストの作品を読んでおくこと。 【事後学習】発表担当者のレジメを読み直し、質問や意見を言えるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	" 振り返り		
2	島崎藤村「家」発表			10	谷崎潤一郎「痴人の愛」発表		
3	" 振り返り			11	" 振り返り		
4	志賀直哉「范の犯罪」発表			12	梶井基次郎「檸檬」		
5	" 振り返り			13	" 振り返り		
6	芥川龍之介「老年」発表			14	横光利一「機械」		
7	" 振り返り			15	" 振り返り		
8	有島武郎「宣言」発表						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	佐藤泰正編「新集 近代の小説」おうふう			備考	近現代文学関連で卒業論文を書くことを考えているものは、必ず受講すること。		
参考資料	参考資料は、授業のガイダンスで紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅱ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	後期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	明治、大正、昭和の近代部小説を各自で調べて研究したことを発表する。先行論文のまとめ方や自分の論の組み立て方などを学ぶ。発表者だけではなく聞く側も同様に準備しておき、活発なディスカッションを行う。						
キーワード	川端康成、堀辰雄、太宰治、武田泰淳、石川淳、中野重治、大江健三郎						
到達目標	・文学研究の基本的な方法を習得する。 ・近代文学の作品に関する資料を収集、調査する力を身につけ、読解力を磨く。 ・自分の意見をまとめ、発表するプレゼンテーション能力を身につける。						
受講生に望む事	発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望む。 【事前学習】事前にテキストの作品を読んでくること。 ※発表担当者は、発表内容をまとめ、レジメを作成すること。 【事後学習】発表担当者のレジメを読み直して、質問や意見を言えるようにしておくこと。 ※発表担当者は追加課題を与えるので、そのことについて調査して、再度レジメを作成すること。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	" 振り返り		
2	川端康成「雪国」			10	石川淳「鷹」		
3	" 振り返り			11	" 振り返り		
4	堀辰雄「風立ちぬ」			12	中野重治「むらぎも」		
5	" 振り返り			13	" 振り返り		
6	太宰治「斜陽」			14	大江健三郎「奇妙な仕事」		
7	" 振り返り			15	" 振り返り		
8	武田泰淳「虻のすゑ」						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	佐藤泰正編「新集 近代の小説」おうふう			備考			
参考資料	参考書類は、授業のガイダンスで紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学講義Ⅱ		2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	前期	講義	選択
授業概要	『聊齋志異』は清代の蒲松齡による短編小説集である。この作品の中からいくつかを選び、読むことを通じて、中国文学の世界に触れる。						
キーワード	文言小説、『聊齋志異』、蒲松齡						
到達目標	中国を代表する作品について理解を深める。読解のために必要な工具書の取り扱いを身に付ける。						
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。						
事前・事後学修	この授業で取り上げる作品に関しては通読することが望ましい。			評価方法	レポート及び発表（合計100%）で評価する。他に授業への積極的な参加状況を加味する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス 『聊齋志異』とは			9	作品鑑賞		
2	作品鑑賞			10	作品鑑賞		
3	作品鑑賞			11	作品鑑賞		
4	作品鑑賞			12	作品鑑賞		
5	作品鑑賞			13	作品鑑賞		
6	作品鑑賞			14	作品鑑賞		
7	作品鑑賞			15	まとめ		
8	作品鑑賞						
関連科目	JL コースで漢文学（中国文史哲学）分野での卒業論文執筆を予定している者は、その他にも、漢文学関係諸科目、「日中比較文化論」「東アジア史Ⅰ・Ⅱ」などを履修することが望ましい。			参考資料	大阪市立大学中国文学研究室編『中国の八大小説——中国近世小説の世界』（平凡社）、蒲松齡作・立間祥介編訳『聊齋志異』（岩波文庫）		
				連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
教科書	とくに用いず、資料はプリントとして配布する。			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅰ	2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	前期	演習	JL 選必
授業概要	「漢文学講読Ⅰ・Ⅱ」にひきつづき、訓点（送りがなと返り点）付きの標準的漢文を正しく書き下し、解釈する練習を積み重ねる。この授業は演習形式であり、毎回の授業へは十分な予習が必要である。多くの文章の読解を通じて、漢文訓読の基本的な規則の習得を図りたい。					
キーワード	漢文訓読、散文					
到達目標	訓点付きの標準的な漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての基礎知識を身につける。中学・高校の教壇で、自信をもって漢文を教えられるスキルを身につける。					
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。					
事前・事後学修	予習復習を十分に行うことが望ましい。		評価方法	試験（70点）に、平常点（授業への参加30点）を加味する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンスとアンケート、現段階での実力を知るための小テスト		9	講読演習 論説文⑧		
2	講読演習 論説文①		10	講読演習 論説文⑨		
3	講読演習 論説文②		11	講読演習 論説文⑩		
4	講読演習 論説文③		12	講読演習 論説文⑪		
5	講読演習 論説文④		13	講読演習 論説文⑫		
6	講読演習 論説文⑤		14	講読演習 論説文⑬		
7	講読演習 論説文⑥		15	まとめ		
8	講読演習 論説文⑦					
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ・Ⅱ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、今年度開講の講読科目に続けて、3・4年生開講の「漢文学演習Ⅱ～Ⅲ」を受講すること。		参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）、国学院大学中国文学研究室編『中国文学概説』（笠間書院）など。		
			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級		オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。		備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅱ	2	ふくなが みか 福永 美佳	3年	後期	演習	JL 選必
授業概要	後期の講読演習には、史書・筆記・小説などから、ストーリー性があり理解しやすい作品を題材として用いる。この授業は十分な予習復習が必要である。					
キーワード	唐代伝奇、文言小説					
到達目標	高度な漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての深い知識を身につける。					
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。					
事前・事後学修	毎授業前に、小テストの準備をしてこること。授業後は復習を必ず行うこと。		評価方法	レポート（60点）に、平常点（十分な予習をしたうえでの授業への参加40点）を加味する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	ガイダンス		9	演習 ⑧		
2	演習 ①		10	演習 ⑨		
3	演習 ②		11	演習 ⑩		
4	演習 ③		12	演習 ⑪		
5	演習 ④		13	演習 ⑫		
6	演習 ⑤		14	演習 ⑬		
7	演習 ⑥		15	まとめ		
8	演習 ⑦					
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、必ず受講すること。		参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）など。		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級		連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。		オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教育文法概論	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	3年	前期	講義	選択
授業概要	日本語教育における文法事項や用語について、日本語授業での文法導入方法や、日本語学習者の作文添削を通して学ぶ。					
キーワード	文法導入, コソア, モダリティ, 条件表現					
到達目標	・日本語教育の文法事項を理解する ・日本語を客観的に分析する力を身につける					
受講生に望む事	授業の毎回のテーマに合わせて各自参考書等で概要をつかんでおくこと					
事前・事後学修	事前学修：授業の毎回のテーマに合わせて各自参考書等で概要をつかんでおくこと 事後学修：授業の復習をすること。授業内に指示する課題に取り組むこと	評価方法	授業内課題 (50%), レポート (50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション：学校文法と日本教育文法	9	さまざまなモダリティ			
2	文の構造, 品詞分類	10	アスペクト			
3	名詞文	11	形容詞・連体修飾			
4	指示詞 (コソア)	12	副詞・連用修飾			
5	動詞①	13	複文			
6	動詞②	14	条件表現			
7	使役・可能・自発	15	まとめ			
8	受け身					
関連科目	日本語学概説, 日本語文法, 日本語教授法概論, 日本語教育実習	連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教員, 日本語教育能力検定試験	オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, 庵功雄 他, スリーエーネットワーク 『はじめての人の日本語文法』, 野田尚史, くろしお出版 など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教授法概論	2	やまかわ きみこ 山川 仁子	3年	後期	講義	選択
授業概要	外国語・第二言語教育としての日本語教育の基礎を概観するとともに、教室活動における指導の在り方と方法について実際に課題に取り組みながら学ぶ。					
キーワード	外国語教授法, コースデザイン, 初級指導法, 中上級指導法					
到達目標	・日本語教師の仕事を理解する ・日本語教育に関する基礎的な知識を身につける ・さまざまな指導法を学ぶ					
受講生に望む事	積極的に授業に臨むこと。日本語教育文法 (特に初級文法) を復習しておくこと。					
事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料をよく読み、授業内容の概要をつかんでおくこと 事後学修：授業内に指示する練習問題を解き、授業のポイントが理解できたか確認すること	評価方法	授業内課題：40% 模擬授業+教案：60%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	イントロダクション：日本語教師の仕事について	9	初級の教え方③：文字・語彙・読解			
2	外国語教授法のいろいろ	10	初級の教え方④：発音・聴解・会話			
3	教科書分析	11	中上級の教え方			
4	コースデザイン	12	評価法			
5	授業の組み立て, 教案作成	13	模擬授業準備			
6	教材・教具の使い方	14	模擬授業①			
7	初級の教え方①：文法の導入	15	模擬授業②			
8	初級の教え方②：文法の練習					
関連科目	日本語学概説, 日本語文法, 日本語教育文法概論	連絡先	jin@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教員, 日本語教育能力検定	オフィスアワー	初回講義日にアナウンスする			
教科書	プリントを配布する	備考				
参考資料	『やさしい日本語指導 10 日本語教授法 改訂版』, 平畑奈美, 凡人社 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』, 国際交流基金, ひつじ書房, など					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本語学演習 I		2	はたけやま しんいち 富山 真一	3年	前期	講義	JL 選必 他コース選択	
授業概要	本演習では、現代日本語文法において重要視されるトピックを概観しつつ、文法研究の方法論について考える。授業計画に関しては、受講者の興味・関心によって変更される可能性がある。							
キーワード	日本語文法、テンポラリティ、モダリティ、文の階層性、とりたて詞							
到達目標	・現代日本語文法の諸概念を理解する ・テンス・アスペクト・モダリティに関する理論的な枠組みを理解する ・言語データを分析する能力を身につける							
受講生に望む事	自分の言語を他の言語と相対的に見る視点を持つよう、心がけてください。							
事前・事後学修	事前に配布される配布資料を読み、疑問点の洗い出しをおこなってもら。授業には、学修内容をもとにいくつかの言語現象に関する分析を実施してもらう予定である。	評価方法		レポート（学期末）の提出（100%）				
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	森山卓郎 (3): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する			
2	高橋太郎 (1): 『日本語の文法』を概観する			10	仁田義雄 (1): 「認識的モダリティとその周辺」を検討する			
3	高橋太郎 (2): 『日本語の文法』を概観する。			11	仁田義雄 (2): 「認識的モダリティとその周辺」を検討する			
4	高橋太郎 (3): 『日本語の文法』を概観する			12	沼田善子 (1): 「とりたて」を検討する			
5	寺村秀夫 (1): 「日本語のシンタクスと意味 II」のモダリティ部分 (6章) を検討する			13	沼田善子 (2): 「とりたて」を検討する			
6	寺村秀夫 (2): 「日本語のシンタクスと意味 II」のモダリティ部分 (6章) を検討する			14	沼田善子 (3): 「とりたて」を検討する			
7	森山卓郎 (1): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する			15	全体のまとめ			
8	森山卓郎 (2): 「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」を検討する							
関連科目	日本語概説 I, 日本語概説 II			連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	日本語教師			オフィスアワー				
教科書	ハンドアウトを使用する。			備考				
参考資料	授業中に指示する							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本語学演習 II		2	はたけやま しんいち 富山 真一	3年	後期	演習	JL 選必 他コース選択	
授業概要	本演習では、方言におけるアスペクトを考える。ただし、受講生の関心によって内容が変更されることがある。							
キーワード	テンポラリティ、テンス、アスペクト、モダリティ							
到達目標	・現代日本語文法の諸概念を理解する ・テンス・アスペクト・モダリティに関する理論的な枠組みを理解する ・言語データを分析する能力を身につける							
受講生に望む事	事前に指定された論文を読み、自分の感心に照らし合わせて、疑問点・問題点をクリアにしておくこと。授業後は、関連論文を指示するので、該当分野に関する知見に関して、さらに調査すること。							
事前・事後学修	事前に配布された資料を読み、疑問点を明らかにしておく。授業後は、指示された言語現象の分析を実施する。	評価方法						
回	授業計画			回	授業計画			
1	イントロダクション			9	木部陽子: 「福岡地域のアスペクト・待遇・ムード」を検討する			
2	奥田靖雄: 「アスペクトの研究をめぐって」を検討する			10	住田幾子: 「北九州市域のアスペクト形式 (I)」を検討する			
3	金水敏 (1): 「時の表現」を検討する			11	丹羽一彌: 「述語の構造とアスペクト表現形式」を検討する			
4	金水敏 (2): 「時の表現」を検討する			12	二階堂整: 「談話資料から見た福岡方言のアスペクトの実態」を検討する			
5	金水敏 (3): 「時の表現」を検討する			13	津田智史: 「西日本諸方言のアスペクトの捉え方—宮崎方言を例にして—」を検討する			
6	工藤真由美 (1): 「シテイル形式の意味記述」を検討する			14	定延利之・アンドレイ・マルチュコフ: 「エビデンシャルティと現代日本語の「ている」構文」			
7	工藤真由美 (2): 「宇和島方言のアスペクト (I)」を検討する			15	全体のまとめ			
8	工藤真由美 (3): 「研究成果の概要—アスペクト・テンス・ムードを中心に」を検討する							
関連科目	日本語学演習 I			連絡先	htk@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー				
教科書	ハンドアウトを使用する。			備考				
参考資料	授業中に指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
刻字		1	はやしだ 林田 しゅんいちろう 俊一郎	3年	後期	実習	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	書表現の1つとしての刻字について理解するために陽刻又は陰刻の作品を制作し、刻字独特の表現、及び他の芸術分野との関連についても考える。又、刻すという表現が書道史の中でどのような役割を果たしてきたかを知り、現代に生きる刻字文化についても学ぶ。							
キーワード	立体、彩色、陽刻、陰刻、生活書							
到達目標	・刻字作品と書作品の違いについて理解する。 ・刻法についての基本的技法を習得する。 ・刻字文化の歴史の変遷について理解する							
受講生に望む事	集中して取り組む。							
事前・事後学修	[事前学修]・資料を読み込み取り組む作業について理解しておく。 [事後学修]・制作ノートをまとめる。 ・授業の進度に合わせて作業を進めておく。	評価方法		授業への取り組み20%、提出物80%				
回	授業計画			回	授業計画			
1	刻字について (1) 刻字の特徴、歴史、作品鑑賞			9	ほんノミ (1)			
2	" (2) 作品制作について、用具・用材について			10	" (2)			
3	書稿 (1)			11	印			
4	" (2)			12	彩色			
5	籠字、貼り込み			13	箔押し			
6	すてノミ			14	仕上げ			
7	さらい (1)			15	作品鑑賞・まとめ			
8	" (2)							
関連科目				連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	工芸書を楽しむ (木耳社)			備考				
参考資料	毎日書道講座10 刻字 (毎日新聞社) 篆刻と刻字の技法 (理工学社)							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
書道史 I		2	はやしだ 林田 しゅんいちろう 俊一郎	3年	前期	講義	JC 選択必修 他コース選択	
授業概要	古代から中華民国までの中国書道史について学び、時代背景、代表的書人、作品などを通して各時代の書文化について知る。さらに、拓本等の資料を実見したり、重要語句について学ぶことでより理解を深める。							
キーワード	書体の変遷、書文化、歴史、重要語句							
到達目標	・書体の変遷を含めた中国書道史の全体の流れを掴む。 ・各時代の書文化の特色を把握する。 ・重要語句について理解し、説明出来るようにする。							
受講生に望む事	到達目標を達成できるように授業に取り組む。							
事前・事後学修	[事前学修]・資料を読み込んでくる。 [事後学修]・時代ごとに資料をまとめる。	評価方法		授業への取り組み20%、定期試験80%				
回	授業計画			回	授業計画			
1	中国書道史概論			9	南北朝 造像記、鄭道昭			
2	殷 刻符、甲骨文			10	隋 墓誌銘			
3	西周 金文			11	唐 (1) 唐の四大家			
4	春秋戦国 大篆、帛書			12	" (2) 狂草体			
5	秦 小篆、瓦當			13	宋 宋の三大家			
6	漢 八分、古隸、木簡、印			14	元、明 帖学派			
7	三国、西晋 紙、埴			15	清、中華民国 碑学派			
8	東晋、中間試験 王羲之			16	定期試験			
関連科目				連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
教科書	{決定版} 中国書道史 (芸術新聞社)、中国書道史年表 (二玄社)			備考	高1 書道教員免許状必修科目			
参考資料	{決定版} 日本書道史 (芸術新聞社)							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書道史Ⅱ		2	くたみ たけし 久多見 健	3年	後期	講義	JC 選必 他コース選択
授業概要	日本の書がどのような発達、変遷をしたか明らかにする。上代に中国から伝わった漢字から日本書道史は始まり、各時代に能書、劇蹟を残している。時代背景を見ながら、各時代の書の様相をたどる。						
キーワード	日本の書・歴史・能書						
到達目標	・古代から今日までの日本書道史の変遷をつかむ。 ・各時代の能書・名筆劇蹟について理解する。 ・日本書道史における中国書道の影響を把握する。						
受講生に望む事	実技の力と書道理論の両方をバランスよく身に付けてほしい。						
事前・事後学修	次時の学習内容の予習と次回確認小テストの為に復習			評価方法	レポート (50%) 試験 (50%)		
回	授業計画			回	授業計画		
1	大和・奈良時代	日本古代の金石文他	9	南北朝・室町	和様書、五山様		
2	"	奈良時代の写経他	10	安土桃山・江戸前期	古筆の愛好、寛永の三筆		
3	平安時代前期	三筆と作品他	11	江戸中・後期	お家流、唐様、黄檗の三筆、幕末の三筆		
4	"	仮名の発達	12	明治時代	楊守敬来日、明治の三大家		
5	平安時代中期	三蹟と作品他	13	大正から現代まで			
6	"	仮名の完成	14	郷土の書	中林梧竹、肥後の三筆他		
7	平安時代後期	変化のある書風	15	日本書道史の流れ			
8	鎌倉時代	懐紙、墨蹟	16	試験			
関連科目	中国書道史			連絡先	E-Mail : kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：1号館3階 久多見研究室		
資格				オフィスアワー	月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55		
教科書	図説 日本書道史 (芸術新聞社)			備考	「書道」教職免許必修		
参考資料	図説 中国書道史 (芸術新聞社) 和漢書道史 藤原鶴来 (二玄社)						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
名跡鑑賞		2	かしま たけし 笠嶋 忠幸	3年	前期	演習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	日本及び中国の書の名跡を鑑賞し、書美の特質と諸要素を理解すると共に、その多様性について学ぶ。また、PC機材による画像提示の下、視覚的に鑑賞を行う。書の鑑賞や理解は、表現と相互に影響しあう関係を持っているが、書の古典技法の造形的分析を行うことにより、更に鑑賞能力を高めたい。特に書とそれに関連する芸術や諸文化との相互的影響についても言及する。						
キーワード	鑑賞、書美、古典						
到達目標	高校の書道教員として、鑑賞に関して必要な基本的・専門的内容を理解する。また、鑑賞の方法についても常に思考、改善できる能力を養い、論理的な文章として纏める力をつける。以上を到達目標とする。						
受講生に望む事	鑑賞に関して基本的・専門的内容を理解し、書美の理解と鑑賞の深化をはかってほしい。鑑賞したことを言葉で説明する能力を養い、さらに論理的な文章として纏める力をつけてほしい。						
事前・事後学修	授業計画に照らし、教科書の関連する頁を読む。			評価方法	発表 (30%)、レポート (70%)、試験を課することがある		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス／作品の見方			9	能書の定義 - 多様な表現と個性 (3)		
2	書作品の鑑賞方法 - 我々はどこを見ているか (1)			10	造形は伝播 - 能書だって間違える		
3	書作品の鑑賞方法 - 我々はどこを見ているか (2)			11	造形は伝播 - 時代性		
4	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (1)			12	書の流儀 - 上代様		
5	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (2)			13	書の流儀 - 中世		
6	書作品の鑑賞方法 - 造形的特徴の分析 (3)			14	書の流儀 - 近世		
7	能書の定義 - 多様な表現と個性 (1)			15	書の流儀 - 近現代		
8	能書の定義 - 多様な表現と個性 (2)			16	まとめ・レポート		
関連科目	書論研究、書道史			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格				オフィスアワー			
教科書	書を味わう (淡交社、2010) その他適宜資料を配布する。			備考	書道に関わらず、芸術全般にわたって興味・関心を深めて頂きたい。		
参考資料	『日本美術における「書」の造形史』(笠間書院)、『高等学校芸術科書道指導資料 鑑賞編』(文部省)、 『高等学校学習指導要領解説 芸術編』(文部科学省)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書論研究	2	はやしだ 林田 しゅんいちろう 俊一郎	3年	後期	講義	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	書について述べられた書論の内容は多岐にわたり、書を理解する上では欠かせないものである。代表的な書論や書話を購読することにより、書の本質を探り、さらに作品制作へとつなげる。					
キーワード	書論、書話、理論、本質、探求					
到達目標	・代表的な書論、書話について認識し把握する。 ・書を理解する上での書論の重要性について認識する。 ・作品制作との関連性について考察する。					
受講生に望む事	書論の内容を理解し、積極的に作品制作に生かす。					
事前・事後学修	[事前学修] ・資料を読み込んでくる。 [事後学修] ・課題についてまとめ提出する。	評価方法	授業への取り組み 20% 発表点 30% 提出物 50%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	書論と書話について	9	「書譜」購読 (4)			
2	書論・書話概説 (1)	10	" (5)			
3	" (2)	11	" (6)			
4	" (3)	12	「書話」購読 (1)			
5	" (4)	13	" (2)			
6	「書譜」購読 (1) 孫過庭について	14	" (3)			
7	" (2)	15	まとめ			
8	" (3)	16				
関連科目		連絡先	shayash@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 (096-273-6322)			
資格						
教科書	新選書を語る (二玄社)	オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00			
参考資料		備考	高1種書道教員免許状必修科目			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
創作研究 I	2	林田 俊一郎 久多見 健 黒田 清和	3年	後期	演習	JC 選択必修 他コース選択
授業概要	これまで学んできた様々な古典を基に、倣書から創作へと発展させる。作品の構想、サンプル作り、集字資料を基に草稿を練り、用紙サイズや形式を工夫して、個性を発揮した作品を制作する。					
キーワード	倣書、創作、個性					
到達目標	・自分の今求めている書風を見出す。 ・創作作品の見方、作り方を理解する。 ・自らの作品制作において、感動と充実感を味わうところまで意識を高める。					
受講生に望む事	創作における柔軟な発想力と意欲的な探究心。					
事前・事後学修	事前に作品の構想や集字資料の準備。授業中のアドバイスを受け書き込む時間を充分つくる。	評価方法	課題の提出・作品の質 (80%)、授業への取り組み (20%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	創作作品の作り方	9	作品制作			
2	作品の構想、撰文、集字	10	"			
3	サンプル制作	11	1 1、批評会			
4	"	12	1 2、作品制作			
5	サンプル決定、作品制作	13	1 3、作品制作			
6	作品制作	14	1 4、作品仕上げ			
7	"	15	1 5、作品鑑賞会			
8	批評会					
関連科目	漢字古典研究、仮名古典研究、 創作研究Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	連絡先	(林田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 096-273-6322 E-Mail: shayash@shokei-gakuen.ac.jp (久多見) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp			
資格						
教科書		オフィスアワー	(林田) 月曜日 12:10~13:00 水曜日 12:10~13:00 (久多見) 月曜日 12:10~12:55 木曜日 12:10~12:55			
参考資料	集字のための書道字典 墨場必携	備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
創作研究Ⅱ		2	林田 俊一郎 久多見 健 黒田 清和	3年	後期	演習	JC 必修 他コース選択
授業概要	創作研究Ⅰをふまえて、創作作品を制作する。表現の幅を広げるよう、新しい書風、形式に挑戦する。そして、ここで培った成果を卒業作品につなげる。						
キーワード	表現の幅を広げる、創作、個性						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい表現の方法、形式を習得する。</li> <li>・自分らしい表現をつきつめる。</li> <li>・自分の作品で、感動と充実感を味わえるところまで意識を高める。</li> </ul>						
受講生に望む事	創作における柔軟な発想力と意欲的な探究心。						
事前・事後学修	事前に作品の構想、集字資料を準備。授業中のアドバイスを基に書き込む時間をつくる。			評価方法	制作した作品（80%）、授業への取り組み（20%）		
回	授業計画			回	授業計画		
1	サンプル制作			9	批評会		
2	"			10	作品制作		
3	サンプル決定、作品制作			11	"		
4	作品制作			12	"		
5	"			13	作品仕上げ		
6	批評会			14	作品鑑賞会		
7	作品制作			15	作品鑑賞（学外学修）		
8	"						
関連科目	漢字古典研究、仮名古典研究、創作研究Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			連絡先	(林田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 096-273-6322 E-Mail: shayash@shokei-gakuen.ac.jp (久多見) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー	(林田) 月曜日 12:10～13:00 水曜日 12:10～13:00 (久多見) 月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55		
教科書				備考	学外学修は書道展を鑑賞。入場料と交通費は自己負担となります。		
参考資料	集字のための書道字典 墨場必携						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
アート表現研究		2	わたなべ よしふみ 渡辺 善文	3年	前期	演習	選択
授業概要	日常生活の中で目にする広告印刷物等のグラフィックデザイン、店舗看板、商品ポップ等のサインデザインには『書』『筆文字』によるロゴや題字を使ったデザインが多数存在する。この科目は『書』をデザインに活用する為の入門的な知識、スキルを学ぶ授業である。制作課題ではデザインの業界標準とされる Adobe イラストレーター、フォトショップを使用する（※PC 台数制限あり）。また授業時間外にも制作時間が要求される。						
キーワード	【Fine Art ⇔ Design】【Design=De+Sign】						
到達目標	デザインセンスというモノは先天的に持って生まれてくるモノではなく、日常生活において何を見、何を感じ、そしてそれらをどの ように分析整理するか?によって養っていくモノである。これまでの美術教育、経験は不問。この授業をきっかけにデザイン、出版業界を垣間見、自分のデザイン的感性を養って欲しい。また、モノが完成したら終わりではなく、『どういふコンセプト、意図でこうなったのか?』というプレゼンテーションを最終形とし、社会におけるコミュニケーション能力も合わせて養って欲しい。						
受講生に望む事	『書作品』を創ることが目的ではなく『書』を表現手段の一つととらえ、幅広い視野で『書』の活かし方を考えて欲しい。						
事前・事後学修				評価方法	制作課題による判定 80%+ 課題レポートによる判定 20%+ =100%(ただし状況に応じ、アレンジする場合がある)		
回	授業計画			回	授業計画		
1	1) 講義 デザインとは?デザインの基礎知識。			10	10) 課題制作 立体的表現 1		
2	2) 課題制作 書文字をデジタルデータ変換 1			11	11) 課題制作 立体的表現 2		
3	3) 課題制作 書文字をデジタルデータ変換 2			12	12) 課題制作 立体的表現 3		
4	4) 課題制作 エディトリアル(編集)デザイン基礎 1			13	13) 課題制作 終了課題 1		
5	5) 課題制作 エディトリアル(編集)デザイン基礎 2			14	14) 課題制作 終了課題 2		
6	6) 課題制作 エディトリアル(編集)デザイン基礎 3			15	15) 課題制作 終了課題 3 プレゼンテーション・講評		
7	7) 課題制作 サイン計画 1			※課題制作の進行状況に応じて講義内容を変更する場合がある。また、美術館等の校外実習がある場合がある。			
8	8) 課題制作 サイン計画 2						
9	9) 課題制作 サイン計画 3						
関連科目				連絡先	連絡先：メール / zen-design@rik.bbq.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書	必要に応じ資料配布・web サイトを使用			備考	レポート提出の際、web サイトの丸写しは一切認めない(盗用とみなす)。ただし、必要であるならば、出典を明らかにし、引用する事は可		
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
水墨画研究	2	野田 竜太郎 <small>のだ りゅうたろう</small>	3年	後期	演習	JC 選択 他コース選必
授業概要	水墨画の運筆、基礎知識を学習することにより墨による表現力を身につけ、また東洋絵画の理念・伝統について理解を深める。主に臨画により基礎的な技法を身につけていく。					
キーワード	臨画…手本となる作品を模写すること。 調墨…墨の濃度を調整すること。 運筆…筆づかい。 写意…見たままだけでなく、作者の心や思いまでも描くこと。					
到達目標	運筆の基本的技法、用具・用材の基礎知識・用法を修得する。 水墨画の描くことに対する心構えを理解する。					
受講生に望む事	見たままにとらわれず、気持ちや心を写し出すように描いてほしい。					
事前・事後学修	課題の復習	評価方法		四君子（蘭・竹・菊・梅）の作品を講義の14回の時に提出してもらう。（他作品も数点加える場合あり）これにより授業内でどの程度基本技法が身についたかを評価する。運筆・調墨・暈し技法・構図など。また、技法だけでなく、いかに作品に気持ちをのせて描いているか（写意）という所も評価の対象とする。提出状況 60% 技法 20% 写意 20%		
回	授業計画		回	授業計画		
1	水墨画の歴史 用具の説明		9	臨画（四君子 梅2）		
2	臨画（四君子 蘭1）		10	臨画（干支）		
3	臨画（四君子 蘭2）		11	臨画（四君子 菊1）		
4	臨画（コスモス1）		12	臨画（四君子 菊2）		
5	臨画（コスモス2）		13	基本描法のおさらい		
6	臨画（四君子 竹1）		14	基本描法のおさらい 作品提出		
7	臨画（四君子 竹2）		15	様々な技法		
8	臨画（四君子 梅1）					
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格			オフィスアワー			
教科書	使用しない。臨画の時は手本作品のプリントをその都度配布する。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
熊本国際交流史	2	田口 誠一 中川 明夫 <small>たぐち せいいち なかがわ あきお</small>	3年	後期	講義	JC・MC 選必
授業概要	熊本の国際交流の歴史を学び、その現状と課題を理解する。担当者によって取り上げる内容が異なり、田口は欧米、中川は韓国を中心にして熊本の国際交流の関して講義をおこなう。					
キーワード	国際交流 日米関係 日韓関係					
到達目標	熊本の国際交流の歴史を学びながら、現状と課題を理解する。熊本の国際交流の様々な活動に理解を示すとともに、今後のあり方を考察する。					
受講生に望む事	平素から国際交流について問題意識を持ってほしい。熊本の国際交流についても新聞等で情報収集を心がけていただきたい。					
事前・事後学修	事前学修としては、配布された資料をできるだけ深く理解してることが望まれる。事後学修としては、授業中に指示された課題をまとめておくことが望まれる。	評価方法		当者2名がそれぞれ50点でレポートや授業への取り組み状況の評価する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	古代～大和時代：百済との交流-古墳文化、食文化、葦北の日羅		
2	熊本の国際交流の概要（欧米を中心に）		10	大和時代：百済・新羅との交流-ヤマト信仰、鞠智城と仏教など		
3	幕末から明治		11	奈良～室町時代：渡来文化と国風文化		
4	幕末から明治		12	安土・桃山・江戸時代1：文禄・慶長の役と人的・物的交流-焼き物、瓦、川尻・蔚山町など		
5	大正・昭和		13	江戸時代2：朝鮮通信使と熊本の儒教-大塚退野、横井小楠など		
6	熊本の国際交流の現在		14	明治～昭和時代：交流の光と影		
7	熊本の国際交流の現在		15	昭和～現代：活発化する交流事業-熊本の観光・経済・文化、熊本発韓流スター誕生		
8	国際交流の課題と展望					
関連科目	アメリカ事情、韓国事情、その他関連授業		連絡先	田口 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟3F 田口研究室 taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 中川 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp		
資格			オフィスアワー	田口 火曜 12:10～12:55 木曜 12:10～12:55 中川 初回講義時に通知します。		
教科書	田口 プリント配布 中川 自作資料、映像資料		備考			
参考資料	授業中に紹介する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅰ：中川		2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	前期	演習	MC 必修	
授業概要	韓国学（言語、文化、観光、社会、ビジネス、日本語教育など）に関連した研究活動を行います。具体的には、本学の協定校（韓国）やその他の機関に本学を紹介する資料（冊子など）を韓国語で作成します。学内と近郊の町でフィールドワークを行い、ディスカッションを通じて目標を達成します。必要に応じて、専門家の指導を受けます。							
キーワード	本学を紹介する資料、韓国語、フィールドワーク、ディスカッション							
到達目標	・事物を適切に表現する日本語とその韓国語訳を考え、決める。 ・任された分担を責任を持って遂行する。 ・サポートが必要な場合には、教員や他の学生に求め、課題を解決する。 ・見る人の視点に立ち、分かりやすい資料を作成する。							
受講生に望む事	かなり高度な韓国語の力が必要ですが、基礎があれば何とかできます。語学力とともに見慣れた環境を見直す観察力、見る人の立場に立つ配慮が必要になります。また、資料を作成するノウハウも習得したいものです。							
事前・事後学修	<事前> ・担当する個所を調査したり、聞いたりしたりして韓国語に訳せる資料を作成しておきます。 ・できるだけ韓国語に翻訳してみましょう。 <事後> ・指摘されたり自分で気づいた部分を再検討しましょう。 ・資料の形にまとめましょう。	評価方法	課題（80%）、態度・姿勢（20%）					
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション（授業内容、分担、スケジュールなどの確認）			9	学外学修：学生で調査を実施			
2	既存の資料検討（対 仁徳大学校）			10	ディスカッション			
3	既存の資料検討（対 尚綱大学）			11	学外学修：学外で調査を実施			
4	韓国語・日本でキャンパスツアーを実施			12	学外学修：学外で調査を実施			
5	韓国語・日本語でプレゼンテーションを実施			13	学外学修：学外で調査を実施			
6	ディスカッション			14	ディスカッション・まとめ			
7	学外学修：学外で調査を実施			15	制作発表・プレゼンテーション			
8	学外学修：学外で調査を実施							
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	韓国語の各種検定試験、観光通訳案内士など			オフィスアワー	初回講義時に通知します。			
教科書	プリント配布			備考	学外学修はキャンパス近郊の地域（菊陽町、大津町など）で行う予定です。経費として交通費がかかります。			
参考資料	授業中に紹介する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅰ：北口		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	演習	必修	
授業概要	これまで地域連携の各種プロジェクトで培ってきたコミュニケーションスキルや専門科目で学んできた専門力、語学力を生かし、自分たちの力（個人、グループ）でプロジェクトを企画・運営する。PDCA サイクルを意識しながら、2年間かけてプロジェクトを進めていくこととする。							
キーワード	地域連携、語学、コミュニケーション							
到達目標	プロジェクトを策定し、PDCA を一回以上回す							
受講生に望む事	前向きな姿勢							
事前・事後学修	課外で各種調整など準備が必要になることが多いです。就職につながる活動ですので、前向きに取り組んでください。			評価方法	授業に取り組む姿勢等 50% レポート 50% で評価します。			
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	プロジェクト学外学修 5 回分			
2	プロジェクトの課題設定			10				
3	プロジェクト学外学修 5 回分			11				
4				12				
5	※行き先はそれぞれのプロジェクトによって異なる。交通費等の費用もそれに伴い発生する。			13				
6				14	プロジェクト振り返り②			
7				15	総まとめ			
8	プロジェクト振り返り①							
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ			連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟 3F 第 9 研究室			
資格				オフィスアワー	授業中にアナウンスする。			
教科書	必要時に応じて随時プリント等配布します。			備考	※学外学修は基本的に現地集合、現地解散を想定しており、交通費等の自己負担が発生する可能性がある。			
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅰ：所		2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	前期	演習	MC 必修	
授業概要	卒論作成に向けた下準備を進めます。卒論作成に向け、基礎力・構想力を養うとともに自分の関心領域を模索し情報を集めていきます。具体的には「何を明らかにしたいのか?」「どのように研究を進めるのか?」など各自の興味、スタイルに合わせ授業運営をしていきます。							
キーワード	地域活動、仮説検証、社会調査、基礎統計							
到達目標	後期の演習と合わせて次の項目を達成していきます。卒業論文着手に向けた基礎力・構想力を身につける。コメント力をつける。卒業論文題目提出に向けた準備が整う。就業先イメージが描け、次年度春から夢の実現に向けた行動できる準備が整う。							
受講生に望む事	個別のテーマニーズに合わせたゼミ運営をしますが、「新たな社会の変化に敏感に対応した卒論題目か?」、「領域横断的に機動力ある展開を図れるか?」等を意識して取り組んでください。							
事前・事後学修	事前学修は次回課題に取り組む、事後学修は今回の体験や、指導を受けた結果、卒論の下準備にどの様にいかしていくか?、整理し構想を練ってください。	評価方法	レポート 100%					
回	授業計画			回	授業計画			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	オリエンテーション 発表・ディスカッション まとめ ※コース内他ゼミ合同、COC+プログラム等学外学修10回(交通等実費負担)以内を予定							
関連科目	消費行動論、秘書総論、ビジネス実務総論			連絡先	武蔵ヶ丘 CP1 号館 2 F toko@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	水曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	卒論の方向性を話し合って決定します。			備考	※コース内他ゼミ合同、COC+プログラム等学外学修10回(交通等実費負担)以内を予定			
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅰ：田口		2	たくち せいいち 田口 誠一	3年	前期	演習	必修	
授業概要	これまで学んできた知識や技能を活かし、地域社会に貢献するプロジェクトを企画し、運営をおこなう。特に英語を活かした活動を奨励しているが、学生自身が自分にはどんな活動が適しているかをよく考えたうえで、活動を展開することにする。							
キーワード	サービスラーニング コミュニケーション 卒業研究							
到達目標	・自分と社会とのつながりを確認し、社会的責任を自覚する。 ・大学での学びを実社会に活かすための発想力やコミュニケーション力、そして行動力を身につけることを目指す。 ・卒業研究の基礎をつくる。							
受講生に望む事	活動には積極的に取り組んでほしい。新聞やニュースなど地域の活動記事を読むようにしてください。							
事前・事後学修	事前学修としては、情報収集し、整理しておくことが望まれる。事後学修としては、課題解決について考察し、まとめておくことが必要となる。	評価方法	レポートまたはプレゼン(50%)、活動への貢献度(50%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	オリエンテーション 活動についての話し合い 活動についての話し合い 活動計画について 活動計画について 学外学修 学外学修 学外学修 学外学修 学外学修 学外学修			12 13 14 15	学外学修 学外学修 振り返り まとめ *学外学修先についてはまだ未定である。学生が実施したい活動をおこなえるところを第一候補として考えている。学外学修活動先とのスケジュール調整により回数や時期を変更する場合がある。学外学修の数が予定より少なくなる場合は、代わりに「活動計画について」の授業を教室でおこなう。交通費自己負担である。なお、学外学修実施の場合、通常の授業時間帯を多少変更したり、土曜や日曜に活動をすることもある。			
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			連絡先	E-mail: taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格				オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	プリント配布			備考	学外学修の交通費は自己負担である。活動先は学生の希望を踏まえて決定するが、熊本市や周辺地域となる見込みである。			
参考資料	授業中に指示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅱ：中川		2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	後期	演習	MC選必 他コース選択	
授業概要	地域と関連した「言語、文化、観光、出版」に関連したフィールドワークと調査研究を行います。具体的には、日韓両語を駆使した地域情報誌などの資料の翻訳・編集を学び、実際に資料を作成します。フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて卒業研究のテーマを絞り、縮小版卒論を完成させます。							
キーワード	地域、フィールドワーク、調査研究、翻訳・編集、ディスカッション、卒業研究							
到達目標	・地域に何を貢献できるかを考える。 ・卒業研究のテーマを具体的に決め、授業を通じて卒業研究の内容を具体化させる。 ・縮小版卒論を作成する。							
受講生に望む事	卒業研究で何をしたいか、自分には何ができるのかをよく考え、テーマ・研究方法を具体的に決めるようにしましょう。							
事前・事後学修	<事前>・必要なことや気づいたことをまとめ、授業中にプレゼンテーションできるようにしておきましょう。 <事後>・指摘されたり自分で気づいた部分を再検討しましょう。	評価方法	課題かテスト(80%)、態度(20%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9	中間発表			
2	卒業研究の分析			10	学外学修			
3	卒業研究の分析			11	"			
4	卒業研究の計画立て			12	"			
5	卒論研究の計画立て			13	資料作成			
6	学外学修			14	資料作成			
7	"			15	プレゼンテーション			
8	"							
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅰ、韓国語に関連した科目、異文化理解に関連した科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	韓国語に関連した資格、日本語教師、案内通訳士			オフィスアワー	初回講義時に通知します。			
教科書	なし(プリント、各種資料)			備考	近郊の市町村(菊陽町、大津町など)で学外学修を行います。費用として交通費がかかります。現代コミュニケーション演習Ⅰの履修者が望ましい。			
参考資料	必要に応じて提示する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅱ：北口		2	きたぐち ひでほ 北口 英穂	3年	前期	演習	必修	
授業概要	これまで地域連携の各種プロジェクトで培ってきたコミュニケーションスキルや専門科目で学んできた専門力、語学力を生かし、自分たちの力(個人、グループ)でプロジェクトを企画・運営する。PDCAサイクルを意識しながら、2年間かけてプロジェクトを進めていくこととする。							
キーワード	地域連携、語学、コミュニケーション							
到達目標	プロジェクトを策定し、PDCAを一回以上回す							
受講生に望む事	前向きな姿勢							
事前・事後学修	課外で各種調整など準備が必要になることが多くなります。就職につながる活動ですので、前向きに取り組んでください。	評価方法	授業に取り組む姿勢等50% レポート50%で評価します。					
回	授業計画			回	授業計画			
1	ガイダンス			9	プロジェクト学外学修5回分			
2	プロジェクトの課題設定			10				
3	プロジェクト学外学修5回分			11				
4				12				
5	※行き先はそれぞれのプロジェクトによって異なる。交通費等の費用もそれに伴い発生する。			13				
6				14	プロジェクト振り返り②			
7	※2年生との合同活動の予定があるため、若干の変動があるかもしれません			15	総まとめ			
8	プロジェクト振り返り①							
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅳ			連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F第9研究室			
資格				オフィスアワー	授業中にアナウンスする。			
教科書	必要時応じて随時プリント等配布します。			備考	※学外学修は基本的に現地集合、現地解散を想定しており、交通費等の自己負担が発生する可能性がある。			
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
現代コミュニケーション演習Ⅱ：所		2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	後期	演習	MC 必修	
授業概要	卒論作成に向けた下準備を進めます。卒論作成に向け、基礎力・構想力を養うとともに自分の関心領域を模索し情報を集めていきます。具体的には「何を明らかにしたいのか?」「どのように研究を進めるのか?」など各自の興味、スタイルに合わせ授業運営をしていきます。							
キーワード	地域活動、仮説検証、社会調査、基礎統計							
到達目標	卒業論文着手に向けた基礎力・構想力を身につける。コメント力をつける。卒業論文題目提出に向けた準備が整う。就業先イメージが描け、次年度春から夢の実現に向けた行動できる準備が整う。							
受講生に望む事	「新たな社会の変化に敏感に対応した卒論題目か?」、「領域横断的に機動力ある展開を図れるか?」等を意識して取り組んでください。							
事前・事後学修	事前学修は次回課題に取り組む、事後学修は今回の体験や、指導を受けた結果、卒論の下準備にどの様にいかしていくか?、整理し構想を練ってください。	評価方法	レポート 100%					
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9				
2	発表・ディスカッション			10				
3				11				
4				12				
5	まとめ			13				
6	※※コース内他ゼミ合同、COC+プログラム等学外学修			14				
7	10回(交通等実費負担)以内を予定			15				
8				16				
関連科目	消費行動論、秘書総論、ビジネス実務総論			連絡先	武蔵ヶ丘 CP1 号館 2 F toko@shokei-gakuen.ac.jp			
資格				オフィスアワー	水曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	卒論の方向性を話し合って決定します。			備考	※コース内他ゼミ合同、COC+プログラム等学外学修 10回(交通等実費負担)以内を予定			
参考資料								

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分					
現代コミュニケーション演習Ⅱ：田口		2	たくち せいいち 田口 誠一	3年	後期	演習	必修					
授業概要	これまで学んできた知識や技能を活かし、地域社会に貢献するプロジェクトを企画し、運営をおこなう。特に英語を活かした活動を奨励しているが、学生自身が自分にはどんな活動が適しているかをよく考えたうえで、活動を展開することにする。											
キーワード	サービスラーニング 卒業研究											
到達目標	・自分と社会とのつながりを確認し、社会的責任を自覚する。 ・大学での学びを実社会に活かすための発想力やコミュニケーション力、そして行動力を身につけることを目指す。 ・卒業研究の基礎をつくる。											
受講生に望む事	活動には積極的に取り組んでほしい。新聞やニュースなど地域の活動記事を読むようにしてください。											
事前・事後学修	事前学修としては、情報収集し、整理しておくことが望まれる。事後学修としては、課題解決について考察し、まとめておくことが必要となる。	評価方法	レポートまたはプレゼン (50%)、活動への貢献度 (50%)									
回	授業計画			回	授業計画							
1	活動についての話し合い			12	学外学修							
2	活動計画について			13	学外学修							
3	活動計画について			14	振り返り							
4	学外学修			15	まとめ							
5	学外学修			*学外学修先についてはまだ未定である。学生が実施したい活動をおこなえるところを第一候補として考えている。また、学外学修として効果的な活動があれば実施する場合もある。なお、学外学修活動先とのスケジュール調整により回数や時期を変更する場合がある。学外学修の数が予定より少なくなる場合は、代わりに通常の授業を教室でおこなう。交通費自己負担である。学外学修実施の場合、通常の授業時間帯を多少変更したり、土曜や日曜に活動をする場合がある。								
6	学外学修											
7	学外学修											
8	学外学修											
9	学外学修											
10	学外学修											
11	学外学修											
関連科目	現代コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ							連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格								オフィスアワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55			
教科書	プリント配布							備考	学外学修の交通費は自己負担である。活動先は学生の希望を踏まえて決定するが、熊本市や周辺地域となる見込みである。			
参考資料	授業中に指示する。											

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
データベース論		2	かまが せいいち 釜賀 誠一	3	前期	講義	現コミ：選択必須 他コース：選択
授業概要	データベースは、ネットワークと並んで重要な知識となっており、ネット通販、飛行機の予約等のシステムで利用されている。コンピュータ技術の進歩に伴い、データベースの内容も適用範囲も急速に広がっている。本講義では初めてデータベースと関わることになった人を対象にして講義を行う。						
キーワード	データベース、リレーショナルデータベース						
到達目標	データベースの基本的な仕組みが理解できるようになる。						
受講生に望む事	遅刻欠席をせずにきちんと出席すること。						
事前・事後学修	授業が実施される部分の教科書を読んで不明部分にアンダーラインを引く。			評価方法	学期末に実施する定期試験で評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	オリエンテーション、データベースとは			9	データベースの定義		
2	ファイルからデータベースへ、紙からファイルへ、ファイルを使ったデータ管理			10	データを参照		
3	データベースを使ったデータ管理、データベース管理システムの役割			11	データを使って集計、データを編集		
4	リレーショナルデータベースの仕組み、テーブル内の制約			12	アプリケーション開発にチャレンジ		
5	パフォーマンスに関する機能、データ操作の仕組み			13	ExcelVBAで試す、Webとデータベース		
6	データベースの設計にチャレンジ			14	セキュリティ対策、データベース用語		
7	目的別に情報の整理			15	ER図の書き方データベースの運用と管理、分散型データベース		
8	SQLをマスターしよう						
関連科目	情報処理実務Ⅱ			連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地：管理棟3階 研究室10		
資格				オフィス アワー	木曜日 16:20～17:50 金曜日 12:30～13:30		
教科書	これだけはおさえない データベース 基礎の基礎、技術評論社			備考			
参考資料							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
簿記演習		1	宮島 克宣	3年	前期	演習	選択
授業概要	企業経理実務の知識に必要な簿記の概念と基礎を理解する。						
キーワード	理論と実務（教科書は使用せず、自分のノートを作成）						
到達目標	日商簿記検定試験3級程度の知識と実務の知識を得ることを目標とする。						
受講生に望む事	聴くだけの知識ではなく、体験により得られる知識がある事を知ってほしい。						
事前・事後学修	演習・課題・宿題もある。			評価方法	筆記試験による。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	簿記の始まりと歴史的過程			9	取引と仕訳		
2	現代の企業実務			10	仕訳 計算演習		
3	世界基準、グローバルスタンダード			11	" "		
4	複式簿記基礎論			12	" "		
5	借方と貸方			13	精算表		
6	費用と収益 損益計算書論			14	決算報告書		
7	資産と負債 貸借対照表理論			15	その他法令と会計		
8	動態論と利益計算						
関連科目				連絡先			
資格				オフィス アワー			
教科書	問題集を使用する。			備考			
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
会計学	2	宮島 克宣	3年	後期	講義	選択
授業概要	前期で学習した簿記論を基礎とし、企業での会計の役割と企業体の本質を理解するため、財務諸表の作成を学習する。					
キーワード	知識と実践					
到達目標	初歩的な工業簿記を含め財務諸表が作成できるようになる事を目標とする。					
受講生に望む事	前半はトレーニング中心なので、それを克服してほしい。後半は講義ノートをとってもらい、(実社会での練習)をする。					
事前・事後学修	演習問題中心となる。		評価方法	計算問題と理論問題を課し、試験による。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	工業簿記 基礎		9	利益計算と剰余金計算書		
2	"		10	財務諸表作成演習		
3	原価計算の意味		11	"		
4	"		12	"		
5	会計学基礎		13	商法・会社法		
6	企業経営と会計		14	法人税法		
7	損益計算書論		15	まとめ		
8	貸借対照表論					
関連科目			連絡先			
資格			オフィス アワー			
教科書	問題集を使用する。		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
秘書総論	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	前期	講義	選択 (秘書士必修・上級秘書士必修)
授業概要	オフィスで気持ち良く仕事をするための心構えや職場常識、ビジネスマナーなど、社会人として必要な知識や技能を体系的に学びます。分かっている様で、体系的に学ぶと分かっていないことに気づきます。					
キーワード	職場常識、秘書検定					
到達目標	この授業で秘書検定に合格し、資格を獲得します(文部科学省後援秘書検定は、秘書を目指すための資格ではなく、社会人としてのマナーの基本が身に付いていることを証明する資格です)。					
受講生に望む事	秘書検定は組織人としての基礎知識です。「わかる」、「できる」でなく、日頃から「やっている」ことが重要です。					
事前・事後学修	事前学修でテキストを読み、練習問題に挑戦、事後学修は授業で行った確認問題を振り返ります。		評価方法	レポート 50%、検定受験 50% (万一結果が芳しくなかった場合でもチャレンジした事実自体は評価します)		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	技能 (ビジネス文書管理)		
2	社会人基礎力		10	技能 (オフィスの環境整備)		
3	集中講義① *備考1 必要とされる資質 (人柄・能力)		11	総合演習		
4	集中講義② " 職務知識 (秘書機能)		12	集中講義③ *備考2		
5	一般知識 (企業の構成)		13	検定試験 "		
6	一般知識 (経済用語)		14	社会人基礎力		
7	ビジネスマナー・接遇 (職場常識)		15	振り返り・まとめ		
8	ビジネスマナー・接遇 (交際業務)					
関連科目	「ビジネス実務総論」と平行して学修することで相乗効果が得られるため、合わせて学修することを推奨します。		連絡先	武蔵ヶ丘 CP1 号館 2 F toko@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	秘書検定 (文科省後援)、秘書士・上級秘書士		オフィス アワー	水曜 12:10 ~ 12:55、木曜 12:10 ~ 12:55		
教科書	「秘書検定 2級・3級」横山都著 (高橋書店) ISBN978-4-471-27030-8 定1,188		備考			
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
秘書実務	2	伊藤 けい子	3年	後期	演習	全コース選択
授業概要	魅力学とビジネスマナー、秘書スキルを習得。女性らしい気配りのできる秘書育成を目的としております。					
キーワード	魅力学・秘書力・才色兼備					
到達目標	秘書実務の基本的な知識を習得し、「できる秘書」になるためのスキルアップを身につけます。					
受講生に望む事	コミュニケーション能力を高め、自分の才能を最大限に発揮し、必要とされる社会人になる事。					
事前・事後学修	授業後、講師が配布するプリントを解き、指定日までに提出してください。	評価方法	筆記試験またはレポート（50%）、受講状況・態度・実技（50%）			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	冠婚葬祭と贈答のマナー			
2	自己プロデュース（外見・内面）	10	スケジュール管理と出張の手配			
3	秘書の心得と役割	11	環境管理			
4	臨機応変に対応する力と気配り美人の目線	12	会議の目的と種類			
5	言葉遣い	13	メール・手紙・ビジネス文書の基本			
6	電話応対	14	文章の受発信とファイリング			
7	来客応対・訪問のマナー①	15	まとめ			
8	来客応対・訪問のマナー②					
関連科目		参考資料				
資格		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
教科書	新秘書実務 ※発行所：早稲田出版 ※監修：森脇道子 ※編著：藤原由美 ※発行者：小池秀明 (2014年3月10日 社版発行)	オフィス ア ワ ー				
		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
ビジネス実務総論	2	ところ よしひこ 所 吉彦	3年	前期	講義	選択 (ビジネス実務士必修)
授業概要	実務を行うフィールドである企業の機能・組織を学びながら、ビジネス実務を習得します。					
キーワード	ビジネス実務、企業組織、キャリア					
到達目標	自分の将来の就職先はどのように経済活動をしているのかを感覚的に掴む力を養い、企業実務について理解を深めます。合わせてTBLにより、社会人力育成の仕上げを目指します。					
受講生に望む事	近い将来、受講生が意思決定する就業先を具体的に想定した、実のある取り組みを期待します。					
事前・事後学修	事前学修として毎回配布されるプリントを必ず読んで自分なりに、ビジネス実務のイメージを持ち、チーム討議に備えます。事後学修はクラス討議の結果を振り返り、当初イメージとの違いを明らかにし記録、内省をしていきます。	評価方法	レポート70%、クラス貢献30%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	オリエンテーション	9	協業業務とマネジメント			
2	社会人基礎力	10	キャリアデザインと能力開発			
3	秘書・ビジネス実務とは	11	ビジネスコミュニケーション①			
4	ビジネスとは何か	12	ビジネスコミュニケーション②			
5	ビジネスの管理①	13	社会人基礎力			
6	ビジネスの管理②	14	振り返り・まとめ			
7	事業の管理	15	※1～15回の中で、外部講師による講話（「ビジネス実務現場が求めていること」）を予定しています。			
8	個人業務とマネジメント					
関連科目	「秘書総論」と平行して学修することで相乗効果が得られるため、合わせて学修することを推奨します。					
資格	ビジネス実務士	連絡先	武蔵ヶ丘CP1号館2F toko@shokei-gakuen.ac.jp			
教科書	特にありません。授業中にレジュメを配布します。	オフィス ア ワ ー	水曜12:10～12:55、木曜12:10～12:55			
参考資料		備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
ビジネス実務演習	2	河本 龍二	3年	後期	演習	全コース選択
授業概要	「仕事をする意味」「組織人として」「ビジネスマナー」「コミュニケーション」など社会人としての資質を養います。また、企業事例を基に各業種の特性を、実習を兼ねて理解していきます。					
キーワード	社会人として、ビジネスマナー、企業実務、各業種の特性					
到達目標	自分の将来の就職先がどのような経済活動をしているのか、実践的に学ぶことで理解を深めます。その会社が地域とどのように関わり、自分はその中でどのように働くかを意識する力を養います。					
受講生に望む事	前期のビジネス実務総論を受け、事例を考察しながらビジネス理解を深めていくこと。					
事前・事後学修	必ず事前に配布される資料を読んで、自分なりの意見を持って演習に臨むこと。		評価方法	レポート70%、成果発表30%		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		9	7&Iの研究	CVS市場で圧倒的に強いセブン・イレブンの研究	
2	お金を考える	お金とは何か。お金の意味、役割、形態、流通方法やクレジットカードの使い方	10	業種の特性②	飲食・宿泊業、卸・小売業の特性	
3	会社の目的と自分	会社の経営目的、組織人としてのあり方、心構え	11	TDLの研究	日本1の集客力を誇るテーマパークの研究（おもてなし）	
4	顧客とニーズ	お客様、ニーズ、おもてなし、現在の消費者動向を考える	12	業種の特性③	医療・福祉、生活関連サービス・娯楽業の特性	
5	ビジネスマナー	身だしなみ、挨拶、名刺の受渡し、電話の受け方、指示の受け方	13	ユニクロの研究	情報発信により、低価格とデザイン性を追求するユニクロの研究	
6	コミュニケーション	職場での人間関係、聴く力と自己開示	14	社会人として	社会人としてのあり方を、再度おさらいする	
7	会社の実務	実際の企業での総務、経理、営業	15	女性の活躍と起業	会社内での女性の活躍と、起業の可能性を探る	
8	業種の特性①	金融・保険業、運輸・通信業の特性		成果発表会	振り返り、まとめ	
関連科目	「ビジネス実務総論」「秘書総論」		連絡先	officetk1111@ybb.ne.jp		
資格			オフィスアワー			
教科書	特にありません。授業中にレジュメと次回のプリントを配布します。		備考	この科目はビジネス実務の演習を通じ、知見を深める科目であるため、企業への学外学習を複数回予定しています。旅費は各自負担となります。		
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
児童英語	2	たくち せいち 田口 誠一 ジョシユ ノーマン	3年	前期	演習	選択
授業概要	児童英語教育における理論と実践の両面について学びながら、児童に対する英語の指導法についての知識を深める。また、児童英語教育の現状と課題について考察する。					
キーワード	児童英語、外国語活動、英語教授法					
到達目標	・児童に対する英語教育の目的や意義を理解することができ、基本的な指導力を身につける。 ・児童の年齢に応じた適切な教材選択と教材研究ができる力を養う。					
受講生に望む事	グローバル化へ対処するため英語教育の重要度は増すばかりである。児童英語教育についても理解を深めてほしい。					
事前・事後学修	事前学修としては、配布された資料をできるだけ深く理解してくることが望まれる。事後学修としては、授業中に指示された課題をまとめておくことが望まれる。		評価方法	担当者2名がそれぞれ50点でレポートや授業への取り組み状況を評価する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション		10	児童英語教育の指導		
2	小学校における英語教育の歴史		11	児童英語教育の指導		
3	小学校における英語教育の歴史		12	児童英語教育の指導		
4	小学校における英語教育の現状と課題		13	児童英語教育の指導		
5	小学校における英語教育の現状と課題		14	児童英語教育の指導		
6	児童英語教育の指導方法の研究		15	児童英語教育の学外学修（授業1コマ分、熊本市内または周辺で実施、交通費自己負担、日程については未定。なお、学外学修で日程調整等がうまくいかない場合は、児童英語教育の指導に関する通常授業を行う。）		
7	児童英語教育の指導方法の研究					
8	児童英語教育の指導方法の研究					
9	児童英語教育の指導					
関連科目			連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 研究室11		
資格			オフィスアワー	田口（火曜12:10～12:55 木曜12:10～12:55） ノーマン 初回講義日に通知する		
教科書	プリントを配布する。		備考	学外学修の交通費自己負（熊本市内または周辺地域で実施予定）		
参考資料	児童英語に関する参考文献は多数見受けられる。授業中に紹介する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
TOEIC Preparation II		2	たぐち 田口 誠一	3年	前期	演習	選択
授業概要	様々なパターンの演習問題に取り組み、詳しい解説を加えながら英語のコミュニケーション能力の基礎を固め、TOEIC のスコアを伸ばすトレーニングをおこなう。						
キーワード	TOEIC テスト (TOEIC test) , 英語運用能力試験 (English-proficiency test)						
到達目標	TOEIC 600 点以上						
受講生に望む事	TOEIC や英検などに是非チャレンジしてください。						
事前・事後学修	事前 (2時間)・事後 (2時間) を学修時間の目安とする。事前学修としては、特に Key Expressions について CD を使いながら予習をきちんとしてくること。事後学修としては、授業中に指示された事項をまとめておくことが望まれる。			評価方法	定期試験 (80%)、学習態度 (20%) で評価をおこなう。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	Unit 1 Going Overseas			9	Unit 8 Working in the Office		
2	Unit 2 Going Shopping			10	Review Test 2		
3	Unit 3 Talking about Food and Health			11	Unit 9 Paying the Bills		
4	Unit 4 Enjoying Sports and Entertainment			12	Unit 10 Advertising a New Product		
5	Review Test 1			13	Unit 11 Renting an Apartment		
6	Unit 5 Preserving Nature			14	Unit 12 Troubleshooting		
7	Unit 6 Giving Directions			15	Review Test 3		
8	Unit 7 Going Job Hunting			16	定期試験		
関連科目	TOEIC Preparation I			連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11		
資格	TOEIC、TOEFL、英検などの各種検定試験			オフィス アワー	火曜 12:10 ~ 12:55 木曜 12:10 ~ 12:55		
教科書	TOEIC Test: On Target (Book I) 南雲堂			備考			
参考資料	授業中に適宜指示する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
英語プレゼンテーション		2	Josh Norman	3年	後期	演習	全コース選択
授業概要	Students will learn how to present their thoughts and opinions to others through a series of presentations given in English in front of fellow classmates.						
キーワード	Presentation skills, speeches						
到達目標	After completing the course, students should be able to plan, write, and deliver in-class presentations in English on a variety of stimulating and timely everyday topics.						
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course.						
事前・事後学修	None			評価方法	Class participation and attitude (40%) plus four short presentations (15% each) = 60%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	Introduction and Unit 1			9	Unit 3		
2	Unit 1 (cont.)			10	Unit 3 (cont.)		
3	Unit 1 (cont.) and preparation for speech #1			11	Unit 3 (cont.) and preparation for speech #3		
4	Give speech #1			12	Give speech #3		
5	Unit 2			13	Unit 4		
6	Unit 2 (cont.)			14	Unit 4 (cont.) and preparation for speech #4		
7	Unit 2 (cont.) and preparation for speech #2			15	Give speech #4		
8	Give speech #2						
関連科目				連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F		
資格				オフィス アワー	See schedule on my office door		
教科書	"Getting Ready for Speech" by Charles LeBeau and David Harrington (Language Solutions, Inc.)			備考	中1・高1英語教員免許状選択必修科目		
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
ビジネス中国語	2	きたぐち 北口 英穂 ひでほ	3年	前期	演習	選択
授業概要	実際の仕事の現場を想定して、実践的な中国語を学びます。様々なビジネスシーン毎に実践的なフレーズを身に付けていきます。					
キーワード	ビジネス中国語					
到達目標	ビジネスシーンでの実践的な中国語をマスターする					
受講生に望む事	課外で積極的に使用してみるなど、積極的な姿勢。					
事前・事後学修	授業中のフレーズを暗記してもらいますので、毎日の予習・復習を心がけてください。	評価方法	平常点（小テスト、授業に取り組む姿勢等）30%、期末テスト70%			
回	授業計画	回	授業計画			
1	中国語の復習	9	出迎え・宴会・会食①			
2	オフィスにて①	10	出迎え・宴会・会食②			
3	オフィスにて②	11	会議①			
4	電話対応の仕方	12	会議②			
5	海外出張時①	13	商談・交渉①			
6	海外出張時②	14	商談・交渉②			
7	会社訪問①	15	まとめ			
8	会社訪問②					
関連科目	中国語翻訳・通訳演習Ⅰ・Ⅱ	連絡先	wada@shokei-gakuen.ac.jp 研究室：管理棟3F 第9研究室			
資格	中国語検定試験3級以上、HSK4級以上	オフィスアワー	授業中にアナウンスします。			
教科書	塚本慶一『塚本式中国語仕事術事例別フレーズ集』（アスク出版）	備考				
参考資料						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
中国語翻訳・通訳演習 I	2	本田 暁美	3年以上	後期	演習	選択
授業概要	<p>通訳と翻訳という仕事は他人の考えを別の言語に置き換えて伝えるという意味で共通であるが、その学習法では、文字に依存する翻訳は自学でレベルの向上を図ることは可能だろうが、音に依存する通訳は1人で学習することは困難である。そのため、このクラスは通訳主体の授業になる。</p> <p>通訳の作業は（日本語から中国語にする場合）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語で話を聞く</li> <li>2. その内容を正確に理解し、自分の中で簡潔にまとめる</li> <li>3. 自分の中国語の語彙の中からふさわしい単語を選び出す</li> <li>4. 文に組み立てる</li> <li>5. 中国語の音にして相手に伝える</li> </ol> <p>以上のことを如何に正確に素早くできるかということである。</p> <p>難しそうに聞こえるが、十分な語彙を持っていれば、また繰り返し練習することでスピードを身につければ、簡単な通訳は可能である。この授業では以上のことを先に理解し、反復練習を行う。</p> <p>ただ、通訳の現場では日常会話を越えた内容を伝えたいので通訳を使うのであるから、様々な知識も必要になる。授業では一般的な通訳の現場を想定し、基本的な内容を学ぶ。</p> <p>通訳は日常会話を越えたフォーマルな言い回しを必要とされることがあるので、学生の間は触れる機会の少ない日本語及び中国語のあいさつ文に慣れてほしい。</p>					
キーワード	通訳案内士、同時通訳と逐次通訳					
到達目標	日本語と中国語の正規のあいさつ文を理解し、その言い回しを使えるようになる。中国語検定2級にチャレンジできる程度を目指す。					
受講生に望む事	配布した教材でピンインがないものは必ず自分で発音を調べる事。それにより読める漢字の数をふやす。					
事前・事後学修	1. 事前にテープ教材を手に入れて、聞いてくる事 2. 翻訳の教材は予習してくる事 3. 学習済みの教材は暗記するほど音読の練習をすること					
評価方法	学期の最後に通訳の試験を行い、合わせて、試験期間に筆記テストを行い、総合して評価する。					
回	授業計画					
1	通訳の現場の状況を説明し、通訳と言う仕事についての理解を深める					
2	L1 「空港での出迎え」・「ビジネスに役立つ会話」					
3	L1 「空港での出迎え」 2人もしくは3人組で中国人・日本人・通訳の役割で練習する					
4	「ビジネスに役立つ会話」・「中日友好協会の挨拶原稿」の発音確認					
5	L1 「空港での出迎え」通訳実習					
6	L2 「空港からの道中」・「ビジネスに役立つ会話」					
7	L2 「空港からの道中」 2人組での通訳と音読の練習					
8	「ビジネスに役立つ会話」・「中日友好協会の挨拶原稿」日本語訳					
9	L2 「空港からの道中」通訳実習					
10	「ビジネスに役立つ会話」・「中日友好協会の挨拶原稿」日本語訳					
11	L3 「ホテルにて」・「ビジネスに役立つ会話」					
12	「中日友好協会挨拶原稿」音読練習・「ビジネスに役立つ会話」					
13	L3 「ホテルにて」 2人組での通訳練習・「中日友好協会挨拶」 2人組での通訳練習					
14	L3 「ホテルにて」通訳実習・「中日友好協会挨拶」通訳練習					
15	「中日友好協会挨拶」中文日訳の通訳テスト					
関連科目						
資格						
教科書	毎回プリントを配布する					
参考資料	仕事の中国語トレーニングブック（アルク出版）					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー						
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
ビジネス韓国語		2	柳 景沃	3年	後期	演習	選択	
授業概要	韓国語で仕事をする場合に使う言い回しを学びます。具体的には「挨拶、電話の受け答え、伝達・報告、確認、食事、アポイント取り、ビジネスレター」などの状況で仕事ができる実践的な韓国語を学びます。							
キーワード	仕事、実践的な韓国語							
到達目標	・基本的なビジネス韓国語が理解できる。 ・場に合ったコミュニケーションが韓国語でできる。							
受講生に望む事	韓国語でビジネスをするには、まず、相手の韓国語が理解できなければなりません。そのためには、今まで学んだ文法ルール・単語を確認しつつ、増やしていく必要があります。何よりも日ごろの生活で韓国語に可能な限り触れ、使う習慣づけが大事です。							
事前・事後学修	[事前学習]・学習する箇所を予習してください。 ・質問する内容を考えておいてください。 [事後学習]・学んだ内容をよく、整理するようにしてください。		評価方法	テスト(実技を含む)80%、課題(20%)				
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション：授業方法・教材の説明、復習			9	第8章 オノマトペ			
2	第1章 電話の受け答え			10	第9章 ビジネスレター			
3	第2章 敬語の使い方			11	第10章 情報収集			
4	第3章 伝達			12	第11章 職場での翻訳・通訳			
5	第4章 相手の話を正確に聞き取る			13	第12章 プレゼンテーション			
6	第5章 数字の大切さ			14	第13章 商品説明			
7	第6章 外来語			15	第14章 会議・商談			
8	第7章 慣用的なフレーズ							
関連科目	韓国語翻訳・通訳演習Ⅰ・Ⅱ、検定韓国語などの韓国語に関連した科目、現代コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ、海外フィールドワークなどのサービスラーニング関連の科目、ビジネス実務総論・演習、秘書実務などの情報・ビジネス関連の科目、韓国事情、多文化共生論などの社会理解関連の科目							
資格	韓国語に関連した検定試験、通訳案内士、秘書・ビジネス実務士、日本語教師など			連絡先				
教科書	幡野泉・金貞姁『レベルアップ シゴトの韓国語』、2005年、SANSHUSHA			オフィス アワー				
参考資料	韓日・日韓辞書			備考				

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
韓国語翻訳・通訳演習Ⅰ		2	なかかわ あきお 中川 明夫	3年	前期	演習	MC選必	
授業概要	原文(韓国語)を読み、理解できる言語・文化力を生かして、韓国語で書かれた文章を日本語に翻訳します。具体的には韓国語の児童文学作品を日本語訳し、製本して、出版する予定です。授業の前半部では、日韓両語の言語・文化的な特徴を把握し、教材の代表的な箇所を日本語に訳す練習を行います。後半部においては、1年かけて翻訳する原文を日本語訳していく予定です。6回以内で海外協定校の教員が講話する予定です。							
キーワード	韓国語、言語・文化力、日本語訳							
到達目標	原文に書かれた語彙・文法事項を解釈しつつ、自然な日本語の文章に翻訳する。							
受講生に望む事	一緒に作品を鑑賞し、翻訳して行くので、チームワークが必要です。また、じっくり翻訳する姿勢が必要になります。まずは、辞書(韓日・日韓)を引く習慣をつけましょう。分からない部分は、一緒に考え、素晴らしい翻訳作品を作りあげていきたいと思います。							
事前・事後学修	[事前]割り当てられた部分(原文)を日本語に翻訳し、分からない、または難解な部分をチェックする。 [事後]翻訳した部分を事後確認し、自然な日本語になるように工夫する。		評価方法	試験(50%)、課題(50%)				
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション：授業の紹介、講義「日韓両語の特徴」1			9	鑑賞・翻訳 翻訳する作品の紹介			
2	講義「日韓両語の特徴」2			10	鑑賞・翻訳			
3	練習 教材1課			11	鑑賞翻訳			
4	練習 教材2課			12	鑑賞・翻訳			
5	練習 教材3課			13	鑑賞・翻訳			
6	練習 教材4課			14	鑑賞・翻訳			
7	練習 教材5課			15	まとめ			
8	まとめ							
関連科目	韓国語翻訳・通訳演習Ⅱ、韓国語(初中級レベル)関連の授業			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	ハングル能力検定試験、韓国語能力試験、その他の韓国語に関連した試験			オフィス アワー	初回講義時に通知します。			
教科書	中川明夫、『生きた表現を味わおう! 中・上級韓国語読本』、2015年、青山社			備考	初級レベルの韓国語に関する語彙・文法力を備えた履修者が望ましい。 6回以内で海外協定校の教員が講話する予定。			
参考資料	韓日・日韓辞書							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
韓国語翻訳・通訳演習Ⅱ	2	なかがわ あきお 中川 明夫	3年	後期	演習	MC 選必	
授業概要	原文（韓国語）を読み、理解できる言語・文化力を生かして、韓国語で書かれた文章（児童文学）を日本語に翻訳します。最終的には韓国語の作品を日本語訳し、製本・出版します。						
キーワード	韓国語、言語・文化力、日本語訳、製本						
到達目標	原文に書かれた語彙・文法事項を解釈しつつ、自然な日本語の文章に翻訳する。						
受講生に望む事	一緒に作品を鑑賞し、翻訳して行くので、チームワークが必要です。また、じっくり翻訳する姿勢が必要になります。まずは、辞書（韓日・日韓）を引く習慣をつけましょう。分からない部分は、一緒に考え、素晴らしい翻訳作品を作りあげていきたいと思ひます。						
事前・事後学修	[事前] 割り当てられた部分(原文)を日本語に翻訳し、分からない、または難解な部分をチェックする。 [事後] 翻訳した部分を事後確認し、自然な日本語になるように工夫する。	評価方法	レポート(100%)				
回	授業計画		回	授業計画			
1	オリエンテーション：前期の確認		9	鑑賞・翻訳			
2	鑑賞・翻訳		10	鑑賞・翻訳			
3	鑑賞・翻訳		11	鑑賞・翻訳			
4	鑑賞・翻訳		12	鑑賞・翻訳			
5	鑑賞・翻訳		13	鑑賞・翻訳			
6	鑑賞・翻訳		14	鑑賞・翻訳			
7	鑑賞・翻訳		15	鑑賞・翻訳まとめ作業完了（製本）			
8	鑑賞・翻訳						
関連科目	韓国語翻訳・通訳演習Ⅰ、韓国語（初中級レベル）関連の授業		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 中川研究室 akio@shokei-gakuen.ac.jp			
資格	ハングル能力検定試験、韓国語能力試験、その他の韓国語に関連した試験		オフィスアワー	初回講義時に通知します。			
教科書	プリント資料		備考	韓国語翻訳・通訳演習Ⅰの履修者か、中級以上の韓国語力を持つ履修者が望ましい。			
参考資料	韓日・日韓辞書 中川明夫、『生きた表現を味わおう！ 中・上級韓国語読本』、2015年、青山						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
日本古典文学演習Ⅲ	2	武田 昌憲	4	前期	演習	選択	
授業概要	激動の南北朝時代を描いた作品である『太平記』から、九州の菊池氏の活躍を描いた場面を中心に演習形式で研究・発表していきます。菊池氏については地元の名族なので知らない人はいないでしょうが、近時、若い人にはその活躍の様子が知られていないようです。そこで、今期は『太平記』巻11の「筑紫合戦」と巻16の「多々良浜合戦」を中心に、その文学性と作者の主張を、『梅松論』等の諸記録類と比較しながら検討していきます。						
キーワード	南北朝 太平記 梅松論 菊池氏 少弐氏 軍記文学 忠臣						
到達目標	地元の歴史がわかり、愛着・関心を持てる。基本的な資料が利用できる。時代（時間）と九州という土地（空間）の歴史的・文学的位置づけが説明できる。なぜ戦うのか、戦いは避けられないのかを考えていくことができる。『太平記』の大筋が理解され、説明できる。						
受講生に望む事	九州や肥後国に関心のある学生に受講してもらいたい。大河ドラマにも興味を持ってもらいたい。毎時間の積極的な質疑応答を期待します。						
事前・事後学修	[事前学習] 毎回、次回の範囲を熟読し、質問事項や意見をまとめておくこと [事後学修] 配布資料の整理・保存と、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと	評価方法	授業態度・演習発表内容・質疑応答・教場レポートで50点。期末試験（レポート）で50点				
回	授業計画		回	授業計画			
1	はじめに 南北朝とは、『太平記』とは		9	演習発表 巻16「多々良浜合戦」 その1			
2	『太平記』の概要と特質 演習分担 諸本について 版本について		10	演習発表 同 その2			
3	菊池氏について 九州の豪族について 島津 大友 少弐について		11	演習発表 同 その3			
4	『太平記』の序について、		12	演習発表 同 その4			
5	演習発表 巻11「筑紫合戦」その1		13	演習発表 同 その5			
6	演習発表 同 その2		14	演習発表 その後の菊池氏の活躍について・伝説等			
7	演習発表 同 その3		15	まとめ			
8	演習発表 同 その4		16	試験（レポート）			
関連科目	日本古典文学講読Ⅰ・Ⅱ		連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp			
資格			オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み			
教科書	配布資料を利用		備考				
参考資料	『太平記』（岩波書店3冊・小学館4冊・新潮社5冊一各出版社のテキスト） 『梅松論』（群書類従・現代思潮社一各出版社のテキスト）   ダイジェスト『太平記』（有精堂）						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本近現代文学演習Ⅲ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	4	前期	演習	JL 選択必修 他コース選択
授業概要	近・現代の文学者の作品について、それぞれが調査研究したことを発表する（対象とする小説や詩については、発表者の関心に基づいて選んでもらう予定）。様々な資料に基づいて、作品を分析し、考察する。各々の発表では、ディスカッションしながら作品の読みを深め、先行研究に対する多様な読みの可能性についても考える。						
キーワード	研究論文 資料調査 作品分析						
到達目標	・自分で問題を設定し、解決していく思考力とねばり強さを身につける。 ・作家や作品に関する資料を収集し調査する力を身につけるとともに、読解力を磨く。 ・調査に基づいて考察したことを発表し、論文の形でまとめる方法も習得する。						
受講生に望む事	近代文学関係で卒業論文を書く予定の学生は、必ず受講すること。発表者に対する質問や意見など、ディスカッションでの積極的な発言を望みます。 【事前学習】 事前にテキストの作品を読んでおくこと。 【事後学習】 発表担当者のレジメを読み直し、質問や意見を言えるようにしておくこと。						
事前・事後学修				評価方法	授業態度（ディスカッションでの積極的発言など10%）、発表（レジメの作成も含む40%）、学期末レポート（50%）。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	発表⑧		
2	発表①			10	発表⑨		
3	発表②			11	発表⑩		
4	発表③			12	発表⑪		
5	発表④			13	発表⑫		
6	発表⑤			14	発表⑬		
7	発表⑥			15	まとめ		
8	発表⑦						
関連科目				連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
資格				オフィスアワー			
教科書				備考	近・現代文学関連で卒論を書く者を想定している。		
参考資料	適宜指示する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
漢文学演習Ⅲ		2	ふくなが みか 福永 美佳	4年	前期	演習	JL 選必
授業概要	この授業は十分な予習復習が必要である。担当者には事前によく予習をしたうえで、レジュメを作成し、発表してもらう。多くの文章の読解及び分析を通じて、中国文学に関する知識を深める。						
キーワード	漢文訓読、中国の文学作品全般						
到達目標	高度な漢文を正しく書き下し、解釈できるようになる。初見の漢文にとりくむために、工具書（辞書・字書・事典・索引・地図など）についての深い知識を身につける。						
受講生に望む事	授業中に必ず質問するので、積極的に発言すること。						
事前・事後学修	予習復習をしっかりと行うことが望ましい。			評価方法	レポート（60点）に、平常点（十分な予習をしたうえでの授業への参加40点）を加味する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	ガイダンス			9	演習⑧		
2	演習①			10	演習⑨		
3	演習②			11	演習⑩		
4	演習③			12	演習⑪		
5	演習④			13	演習⑫		
6	演習⑤			14	演習⑬		
7	演習⑥			15	まとめ		
8	演習⑦						
関連科目	「中国文学概説Ⅰ・Ⅱ」「漢文学講義Ⅰ」など、中国文学・漢文学関連科目。卒業論文を漢文学分野で執筆予定の者は、必ず受講すること。			連絡先	fuyong@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本漢字能力検定（漢検）2級・準1級・1級			オフィスアワー	火 12:00～13:00 金 12:00～13:00		
教科書	使用しない。テキスト・資料は適宜プリントとして配布する。予習のために漢和辞典が必要。また、高校の時に使用した「国語便覧」「漢文句法集」が役立つ場合がある。						
参考資料	田部井文雄ほか『大修館漢文学習ハンドブック』（大修館書店）、小川環樹ほか『漢文入門』（岩波書店）。			備考			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
日本語教育実習	2	畠山 真一	4年	前期	演習	選択
授業概要	日本語教師になるためには、日本語・教育学・外国語力に関する知識に加えて実践の場で外国人に日本語を教える経験を積まなければならない。ここでは県内で日本語を学ぶ日本語学習者を対象に日本語教育の実習を実施する。実習に先立ち、実習校で使用される教材を分析し、見学をしながら「指導案」を作成する。基本的には複数で授業を担当する。					
キーワード	日本語教師、知識、経験、外国人学習者、指導案					
到達目標	・実践的な日本語の知識を習得する。 ・直説法に基づく日本語教育の技術を身につける。 ・外国の言語文化を理解する。					
受講生に望む事	日本語学習者の立場に立って、分かりやすく日本語・文化を伝える方法を考えてみましょう。					
事前・事後学修	事前に配布した資料をもとに、指導案を作成してもらおう。授業後、指導案を修正してもらおう予定である。		評価方法	実習(70%)と課題(30%)の内容を総合して評価する。		
回	授業計画		回	授業計画		
1	オリエンテーション-実習の仕方、実習校・教科書の紹介		9	教科書研究6、模擬授業3		
2	日本語に対する確認		10	教科書研究7、模擬授業4		
3	日本語教育法に対する確認		11	実習1		
4	教科書研究1		12	実習2		
5	教科書研究2		13	実習3		
6	教科書研究3		14	実習4		
7	教科書研究4、模擬授業1		15	実習5		
8	教科書研究5、模擬授業2					
関連科目	日本語史、日本語表現、日本語教授法概論、日本語教育文法、外国語関連の授業など。		連絡先	E-mail: htk@shokei-gakuen.ac.jp		
資格	日本語教員資格試験		オフィスアワー			
教科書	後日、提示。		備考	実習地：台湾からの短期留学生に向けた日本語指導を担当してもらおう予定である。		
参考資料	『新文化初級日本語』（文化外国語専門学校）『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク） など					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光英語応用	2	Josh Norman	3年	前期	演習	全コース選択
授業概要	(Note: This class is a continuation of the 観光英語 class.) 単なる一般英語ではなく、旅行者として、あるいは旅行者を率いる旅行者として必要なコミュニケーション能力を身につける。旅行の予約、外国人旅行者への案内、観光など、実際の場面を設定した演習を通して学習し、観光英語検定2級に合格できる程度の「読む、聞く、書く、話す」能力を習得する。					
キーワード	Travel, English					
到達目標	・海外で個人旅行をする際、個人で旅程を組み、乗り物やホテルの予約、また単独で観光や買い物等を英語で対処することができるようになる。 ・国内で外国人に観光地や名所等を英語で紹介できるようになる。					
受講生に望む事	Students should always bring a dictionary to class. Only students very interested in English should take this course. Students should prepare properly before each class and review after each class has finished.					
事前・事後学修			評価方法	Class participation and attitude (30%), homework (30%), and quiz (40%)		
回	授業計画		回	授業計画		
1	Lesson 8		9	Lesson 12		
2	Lesson 8 (cont.)		10	Lesson 12 (cont.)		
3	Lesson 9		11	Lesson 13		
4	Lesson 9 (cont.)		12	Lesson 13 (cont.)		
5	Lesson 10		13	Lesson 14		
6	Lesson 10 (cont.)		14	Lesson 14 (cont.)		
7	Lesson 11		15	Quiz		
8	Lesson 11 (cont.)					
関連科目			連絡先	E-mail: joshnorman1998@yahoo.co.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 2F		
資格	観光英語検定試験2級		オフィスアワー	See schedule on my office door		
教科書	"Travel English: For Tourism Industry Professionals" by Reiko Fujita (MacMillan Language House)		備考			
参考資料						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光中国語応用		2	本田 暁美	4年	前期	講義	選択
授業概要	この授業は3年次の観光中国語の発展したものである。現在日本には国土交通省認定の通訳案内士という資格があり、この資格が無ければ外国人観光客を案内することはできないことになっている。今後、中国語圏からの観光客は増加すると考えられるので、通訳案内士の試験も視野に入れながら、具体的に日本、九州、熊本を案内する時、特に観光地に到着するまでの移動中に、事前に基本的な情報提供し、如何にして相手に正しく想像させることができるかを考えて、説明文を中国語で作成してみる。ガイドに必要な言い回しや単語も補充する。						
キーワード	日中文化比較 通訳案内士						
到達目標	熊本や福岡など九州各地の日本語による観光パンフから情報を得て、それを中国人向けの内容に編集し、実際の現場では説明時間に制限があることを考慮し、自分で中国語原稿を作成する。						
受講生に望む事	外国人の立場に立って、日本と相手国の文化や思考方式を比較しながら考えることに慣れてほしい。						
事前・事後学修	毎回日本語文作成又は、中国語への翻訳宿題が出るのでそれを行い、中国語文は正しく読めるように発音を調べる。						
評価方法	学期中、何度か提出物があるので、その出来具合と定期試験を合わせて評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス、通訳とガイドの違い、通訳案内士試験の概要紹介						
2	日本に初めて来た観光客に大まかな日本概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。						
3	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。						
4	日本に初めて来た観光客に大まかな九州概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。						
5	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。						
6	日本に初めて来た観光客に大まかな熊本県概要を説明する。その内容を皆で取捨選択し、確定する。						
7	前回の内容を宿題として翻訳したものを持ち寄り、中国語文を確定する。						
8	学生が各自の出身地を紹介するとき何をアピールしたいかを考え中国人向きの説明を考える						
9	各人が翻訳した自分の出身地の説明を皆で検討する						
10	福岡空港での出迎える場面を想像して実践してみる。						
11	福岡から熊本までを高速道路を走って移動する際に、車中でのガイディングを実践する。						
12	ホテル到着時の案内の場面を想像して実践してみる。						
13	熊本城観光の前に、観光客に予備知識として話しておくべき内容を取捨選択し、確定する						
14	熊本城を1時間半の時間内でどれだけ説明できるか、各所での説明を確定する						
15	ガイドの途中でよく出てくる宴会の司会通訳の練習						
16	ガイドの途中でよく出てくる宴会の挨拶通訳の練習						
関連科目	中国語関係全般						
資格							
教科書	毎回、プリント教材を使用する						
参考資料	仕事の中国語トレーニングブック（アルク）						
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課						
オフィスアワー							
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
観光韓国語応用		2	李 熙淑 <small>い ひすく</small>	4	前期	演習	選択
授業概要	日本人には、日常的で当たり前のことが、外国人の目には新鮮で興味深い事も多い。説明を聞く相手の関心と興味を引きながら日本を紹介するには、韓国文化に対する簡単な理解が必要である。日本と韓国を比較しながら説明するために、両国の歴史、文化、観光スポットを調べてみよう。日本の観光地を紹介する漢字は、韓国で使われている漢字とほぼ同である。しかし読み方は異なる。漢字の読み方をマスターするために、そこに一定な法則がある事に注目する。それを学習すれば語彙を効率よく増やすことができる。						
キーワード	外国人の観点から見て考えてみよう。漢字のハングル読みのコツをつかもう。						
到達目標	・漢字を語源とするハングルを日本語と関連させて暗記する。 ・歴史、文化、観光スポットを紹介する時に使用する動詞の活用法、文法の整理。(韓国語能力試験問題を参照) ・授業時間にできるだけ韓国語を使って聞く能力を養う。						
受講生に望む事	・韓国の友達に日本を紹介する気持ちでハングルで話してみよう。 ・授業時間に集中的に暗記や会話の練習をするので、授業時間に楽しく学ぼう。						
事前・事後学修				評価方法	毎回小テスト(40%) 会話練習(40%) 課題(20%)		
回	授業計画			回	授業計画		
1	過去と現在が共存する京都 1-1(本文を理解する。)			9	漫画共和国日本 2-1(問題を解く。文法の整理。)		
2	過去と現在が共存する京都 1-2(本文を理解する。)			10	漫画共和国日本 2-2(問題を解く。文法の整理。)		
3	過去と現在が共存する京都 1-3(本文を理解する。)			11	日本旅館の自尊心、会席料理 1(本文を理解する。)		
4	過去と現在が共存する京都 2-1(問題を解く。文法の整理。)			12	日本旅館の自尊心、会席料理 2(問題を解く。文法の整理。)		
5	過去と現在が共存する京都 2-2(問題を解く。文法の整理。)			13	北海道の雪祭りとワインと鮭 1(本文を理解する。)		
6	過去と現在が共存する京都 2-3(問題を解く。文法の整理。)			14	北海道の雪祭りとワインと鮭 2(問題を解く。文法の整理。)		
7	漫画共和国日本 1-1(本文を理解する。)			15	まとめ		
8	漫画共和国日本 1-2(本文を理解する。)						
関連科目				連絡先	E-mail :daikon80@naver.com		
資格	韓国語能力試験中級 「ハングル」能力検定試験3級			オフィス アワー			
教科書	資料はプリントとして配布する。			備考			
参考資料	:『韓国語能力試験』(三修社) :月刊誌『韓国語 ジャーナル』(アルク) :『일본을 만나다 (日本との触れ合い)』(대성프로세스) :http://interactive.hankookilbo.com/v/75b16ccc206e481eaf54ea0d406c520c/jp/<日/中/韓 青年レポート>						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
旅行業法規		2	宮川 和夫 <small>みやがわ かずお</small>	4年	前期	講義	選択
授業概要	誰にとっても楽しみである旅行。その旅行を商品として企画・販売しているのが旅行会社。消費者と旅行会社、双方の保護と、納得いく商取引のために、旅行業法があります。実際に現在の社会に即したユニバーサルデザイン旅行を検証しながら、旅行業法規を学んでいきます。						
キーワード	ユニバーサルデザイン旅行。 地域との連携。						
到達目標	高齢の方や、障がいがある方も楽しめる、ユニバーサルデザインツアーを様々な角度で検証する。車いすを押す等の介助の基本を習得する。						
受講生に望む事	高齢の方や、障がいがある方も楽しめる旅行を検証し、旅の感動を共有してほしい。高齢の方や、障がいがある方も旅を楽しむためには、交通機関、宿泊機関、観光地等が、どうあればよいか、考えてほしい。						
事前・事後学修	なし。			評価方法	授業へ向き合う意欲、態度、発言、提出課題で、総合的に評価		
回	授業計画			回	授業計画		
1	高齢の方も、障がいがある方も参加できる、ユニバーサルデザイン(UDツアー)について①			9	UDツアーの紹介と検証 海外旅行について(韓国・ハワイ)		
2	高齢の方も、障がいがある方も参加できる、ユニバーサルデザイン(UDツアー)について②			10	UDツアーの紹介と検証 認知症予防・介護予防ツアーについて(人吉)		
3	UDツアーの紹介と検証 貸切バスについて(ハウステンボス)			11	旅行介助の実習(全2回、1回目は車いす操作等)		
4	UDツアーの紹介と検証 新幹線について(北九州)			12	旅行介助の実習(全2回、2回目は視覚障がいがある方の手引き、知的障がいがある人への対応等)		
5	UDツアーの紹介と検証 飛行機について(東京ディズニーランド)			13	高齢の方、障がいがある方の食事・入浴・トイレについて配慮すること		
6	UDツアーの紹介と検証 船について(長崎)			14	旅行パンフレットから学ぶ決まり事。		
7	UDツアーの紹介と検証 ホテル・旅館について(福岡)			15	トラブルから学ぶ旅行業法規		
8	UDツアーの紹介と検証 温泉について(山鹿温泉)						
関連科目	観光学、観光文化			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課		
資格				オフィス アワー			
教科書	なし。			備考			
参考資料	各地観光課、観光協会が発行している観光パンフレット 既存の旅行パンフレット						

卒業研究・卒業作品研究



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究：JL		6	武田・畠山 福永・宮崎	4年	通年		必修
授業概要	卒業論文は本学科・本コースで学んだことの集大成となる。自分の興味や関心をもとに対象分析し、資料を収集し、教員の指導のもと、自らの意見をまとめ、立派な卒論を作成することを目的とする。						
キーワード	卒業論文 研究 分析						
到達目標	学士として十分な教養と専門知識が「卒業論文」に反映されていること。						
受講生に望む事	毎回の卒論研究指導には必ず出席し、卒論進捗状況を報告・指導を受けること。						
事前・事後 学 修	[事前指導] 問題点の整理と調査研究の課題を解いていく。 [事後指導] 課題の整理。卒論の原稿作成。						
評価方法	卒業論文(100%)						
回	授業計画						
1	卒業論文面接指導	17	卒業論文中間発表 (第2回・9月下旬予定)				
2	卒業論文面接指導	18	卒業論文面接指導				
3	卒業論文面接指導	19	卒業論文面接指導				
4	卒業論文面接指導	20	卒業論文面接指導				
5	卒業論文面接指導	21	卒業論文面接指導				
6	卒業論文面接指導	22	卒業論文面接指導				
7	卒業論文面接指導	23	卒業論文面接指導				
8	卒業論文面接指導	24	卒業論文面接指導				
9	卒業論文面接指導	25	卒業論文面接指導				
10	卒業論文面接指導	26	卒業論文面接指導				
11	卒業論文面接指導	27	卒業論文面接指導				
12	卒業論文面接指導	28	卒業論文面接指導				
13	卒業論文面接指導	29	卒業論文提出指導 (12月)				
14	卒業論文面接指導	30	卒業論文口頭試問 (1月)				
15	卒業論文面接指導	31	卒業論文発表会 (2月)				
16	卒業論文中間発表 (第1回・8月上旬予定)						
関連科目							
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先	各指導教員の連絡先を参照のこと						
オフィス アワー	各指導教員のオフィスアワーを参照のこと						
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業研究：書道コース		6	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎 くたみ たけし 久多見 健	4年	通年	演習	必修
授業概要	卒業研究は、これまで学んできた書道の実技・理論の集大成である。自分の興味・関心のある書家や書作品について資料を集め、調査や分析などを行い、教員の指導のもと自分なりの結論を導き出す論文を執筆する。						
キーワード	卒業研究 研究 分析						
到達目標	章立てをきちんとして論理的に記述を進め、自分なりの結論を導き出す、						
受講生に望む事	資料収集を早くから充分に行う。 毎回の指導で進めた内容を報告し指導をうける。						
事前・事後学	計画的に執筆を進め、指導日には進捗状況をまとめて報告し、質問事項を整理して臨む。						
評価方法	卒業論文（80%）、口述試験（20%）						
回	授業計画						
1	卒業論文面接指導	16	卒業論文面接指導				
2	卒業論文面接指導	17	卒業論文面接指導				
3	卒業論文面接指導	18	卒業論文面接指導				
4	卒業論文面接指導	19	卒業論文面接指導				
5	卒業論文面接指導	20	卒業論文面接指導				
6	卒業論文面接指導	21	卒業論文面接指導				
7	卒業論文面接指導	22	卒業論文面接指導				
8	卒業論文面接指導	23	卒業論文面接指導				
9	卒業論文面接指導	24	卒業論文面接指導				
10	卒業論文面接指導	25	卒業論文面接指導				
11	卒業論文面接指導	26	卒業論文面接指導				
12	卒業論文面接指導	27	卒業論文面接指導				
13	卒業論文面接指導	28	卒業論文面接指導				
14	卒業論文面接指導	29	卒業論文口述試験				
15	卒業論文面接指導	30	卒業論文発表会				
関連科目							
資格							
教科書							
参考資料							
連絡先	(林田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 096-273-6322 E-Mail: shayash@shokei-gakuen.ac.jp (久多見) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	(久多見) 月曜日 12:10～12:55 火曜日 12:10～12:55						
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
卒業研究 : AA	6	たくち せいいち 田口 誠一	4年	前期 後期	演習	必修	
授業概要	アメリカ・東アジア文化言語コースで学んできた専門科目に関する知識をもとに、個人の研究テーマを設定し、指導教員からの指導を受けながらその研究成果を卒業論文としてとりまとめる。特に、英米文学、英米文化、比較文学、英語教育に関する内容を研究テーマとする。						
キーワード	卒業論文 先行研究 資料収集						
到達目標	研究テーマについて深く考え、調べ、論理的に表現する文章表現力を養い、大学での学びの集大成として卒業論文に取り組み完成させる。						
受講生に望む事	事前に卒業論文の書き方について手引書などを読んで理解しておくことが望ましい。また、各自が問題意識を持ち、指導教員の指導に従い早めに取り組むことを期待している。						
事前・事後学修	事前学修としては、参考文献や各種資料の収集に積極的に取り組み、整理・分類しておくことが大切である。事後学修としては、指導に従い、与えられた課題を深く考察し、文章としてまとめておくことが望まれる。	評価方法	卒業論文の内容及び口述試験を総合的に評価する。				
回	授業計画		回	授業計画			
	第1回～第4回 卒論指導（研究テーマの確認、研究計画の作成） 第5回～第13回 卒論指導（研究方法や資料収集の検討など） 第14回～第16回 卒論指導（進捗状況や課題の確認、中間発表指導など） 第17回～第24回 卒論指導（卒論の書き方の指導、原稿提出とフィードバックなど） 第25回～最終回 卒論指導（原稿提出とフィードバック、最終チェック）および卒論発表会（2月）						
関連科目	「アメリカ文化言語」および「東アジア文化言語」領域の専門科目		連絡先	E-mail : taguchi@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3F 研究室 11			
資格			オフィスアワー	火曜 12:10～12:55 木曜 12:10～12:55			
教科書	特になし		備考				
参考資料	卒論指導中に紹介する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
卒業研究 : LC	6	やまなか まもる 山中 守 ところ よしひこ 所 吉彦	4年	通年	演習	必修	
授業概要	文献研究・実証研究により論文を作成します。研究意義のあるテーマを見つけ、研究に資する文献を見つけることからスタートします。社会学演習Ⅲ、Ⅳを基礎に課題・仮説形成を行い、検証・考察を加え論文を完成させます。						
キーワード	卒業論文						
到達目標	卒業論文の完成						
受講生に望む事	卒業論文は優れた社会人になるための主体的学業を実践するためのものです。これまでの「教えられる」、「読む」から、自ら事前・事後学修で、「文献を探し、読んで、自ら書く」を実践してください。						
事前・事後学修			評価方法	卒業論文 100%			
回	授業計画		回	授業計画			
1 ～ 31	卒業論文作成指導 9月「卒論進捗報告および今後の研究展開」、11月「副査プレ審査」、2月「卒業研究発表会」があります。						
関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス管理等 4F 山中研究室 yamanaka@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス 1号館 2F 所研究室 toko@shokei-gakuen.ac.jp			
資格			オフィスアワー	オフィスアワーにかかわらず、指導が必要な場合は各教員にアポイントを入れてください。			
教科書	各自選択キーペーパー		備考				
参考資料							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
卒業作品研究：書道コース	6	はやしだ しゅんいちろう 林田 俊一郎 くたみ たけし 久多見 健 くろだ きよかず 黒田 清和	4年	通年	演習	選択必修
授業概要	それぞれ考えた作品について草稿作りから推敲を繰り返しながら、教員のアドバイスを受け制作していく。まずは自分で選んだ古典を徹底的に分析、臨書して自分のものにした上で創作にそれを生かす。					
キーワード	臨書 倣書 創作					
到達目標	・自分の選んだ古典について書風の特徴をつかみ、臨書作品として仕上げる。 ・これまで学んできた古典を基に、これまでの集大成としての創作作品に仕上げる。					
受講生に望む事	まず表現の意図を明確に持ち、基盤にする古典などを徹底的に調べた資料を用意して用具、用材をよく吟味しながら、自分なりの独自の表現を目指してほしい。 何より作品の書き込みが重要になるので推敲を繰り返しながら、よく練り上げた作品で批評会に臨むこと。					
事前・事後学	授業以外の時間を利用して、作品の書き込みにあて授業に臨む。					
評価方法	作品への取り組み状況 (20%) 提出作品 (80%)					
回	授業計画					
1	作品サンプル検討	16	書き込み			
2	作品サンプル検討	17	"			
3	書き込み	18	"			
4	"	19	批評会			
5	"	20	書き込み			
6	批評会	21	"			
7	書き込み	22	"			
8	"	23	批評会			
9	"	24	書き込み			
10	作品選別	25	"			
11	印の位置決め、押印	26	作品選別、印の位置決め			
12	作品サンプル検討	27	作品写真撮影 (3点)			
13	"					
14	"					
15	"					
関連科目	書道専門科目全般					
資格						
教科書						
参考資料	各古典法帖等、各字典・辞書、作品集・図録など					
連絡先	(林田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 林田研究室 096-273-6322 E-Mail: shayash@shokei-gakuen.ac.jp (久多見) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 久多見研究室 096-273-6321 E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp (黒田) 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館3F 講義室控					
オフィスアワー	(林田) 月曜日 12:10～13:00 水曜日 12:10～13:00 (久多見) 月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55					
備考	授業以外の時間に十分な練習時間を持つ。					

# 教職に関する科目



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教職論		2	さざわ やすひろ 佐澤 安廣	1年	前期	講義	教職必修
授業概要	今日学校教育は諸々の課題の中にあり、また教育の改革・改善の取り組みが多面的に行われている。その際最も基本となるのは、「児童・生徒の教育を受ける権利」、「児童・生徒の最善の利益」であり、それに日々関わる教師の意識・力量形成は、教育改革の核心的テーマであることは明らかである。この科目は教職を志す者に対して、教職の意義、職務を適正に理解すること、教師に求められる資質・能力について考察する等々、教師としての力量形成、「教職の高度化」への意欲と能力を培うことを目指すものである。						
キーワード	教育愛 (educational love)、教職の専門性 (teaching profession)、教育を受ける権利 (right to education)、教師に求められる資質・能力 (ability and quality needed for the teacher)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基本概念及び教師（職）の意義とその歴史を理解する。</li> <li>・専門職としての教職、教師に必要な資質・能力を考察する。</li> <li>・教育愛を考察する。</li> <li>・教育実践における教師の職務を理解する。</li> <li>・教師の身分、職務、服務、研修等教職について総合的に理解する。</li> <li>・教師の使命について考察する。</li> </ul>						
受講生に望む事	講義をもとにした「教職論ノート」の作成を求める。授業の要旨と随時指示した事項についてきちんとまとめること。						
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前学習として、シラバスに記された各回のテーマについて、教科書で該当箇所を確認すること。</li> <li>○事後学習としては、各回の授業時に指示された事項について調べたり、考えたことをノートにまとめ記すこと。</li> <li>○3回程度レポートを課すので、決められた日時までに提出すること。</li> </ul>						
評価方法	学期末の試験（50％）、レポート（25％）、授業ノート（25％）により評価判定する。						
回	<b>授業計画</b>						
1	授業方針の説明、成績評価の方法の説明 教育の基本概念について復習						
2	教育の基本概念の整理一人間形成作用と教育の可能性、必要性、教育と社会の関係						
3	学校教育と教師の関係について。						
4	教育愛とは何か						
5	偉大な教育者に学ぶ—ソクラテス、ペスタロッチを例に						
6	歴史の中の教師（1）西欧における教師の歴史						
7	" （2）我が国における教師の歴史—師範学校						
8	教師像の類型—専門職としての教職						
9	教師の資質・能力について—基本的資質能力						
10	教師の資質・能力について—具体的資質能力、更に教師の倫理と自己規律を加えて						
11	法規類から見た教師の使命—日本国憲法と教育基本法						
12	法規類から見た教師の使命—学校教育法その他						
13	教員の職務内容について理解する						
14	教員の実践活動について—学習指導、生活指導、学級経営						
15	教員の身分と服務及び研修について						
16	教育者への道を考える						
関連科目	教育原理						
資格							
教科書	教職の意義と職務（学芸図書 1200 円）						
参考資料	文科省刊行物「学習指導要領」及び「指導書」類						
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟 4F						
オフィスアワー	後期 月 火 原則随時可能。昼食休憩時間を歓迎。						
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育原理（教育課程を含む）	2	いなば 穂葉 こういち 浩一	1年	前期	講義	教職必修
授業概要	<p>私たちは教育についてあれこれと、しかもかなりもっともらしく語ることができる。それでは歴史や経済についてはどうだろう。同じように語ることができるという人はかなり限られているのではないだろうか。史学や経済学という専門的な学術領域がある一方で、誰でも語ることができる教育を対象とした学問領域があるのはなぜだろうか。この問いは「原理的に考える」というテーマと結びつくものである。原理的に、つまり根本的なところから「教育」について考えてみる。そうすることで、私たちが当たり前としてきた「教育」の姿が、立体的に、奥行きをもって見えてくるはずだ。とりわけ将来教員になることを考えているひとにとって、この試みは不可欠といっていいただろう。この講義では私たちが慣れ親しんできた「教育」を、あまり慣れ親しまれていない概念や理論をもって考え直すことを目指す。そのうえで今日の教職に求められる見識・思考力等を養っていくことを目指すものである。</p>					
キーワード	教育思想、学校教育の意義、教職論、学習論、教育課程論					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の基礎的理論及び概念の習得</li> <li>・学校教育の意義と課題及びこれからの学校教育の展開についての視野の獲得</li> <li>・専門職としての教職の理解及びそれに求められる思考力の養成</li> </ul>					
受講生に望む事	<p>すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り自らまとめるとともに、それをもとにした予習・復習を行う姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。</p>					
事前・事後学修	<p>「受講生に望むこと」で述べたとおりであるが、加えれば各自がシラバス及び授業内で紹介される参考文献を手に取り理解の深化を目指すことが望ましい。</p>					
評価方法	<p>定期試験100パーセントとするが、折に触れてリアクションペーパー等の課題を与え、評価の参考にすることがある。</p>					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	教育の基礎理論①教育とは何か					
3	教育の基礎理論②「発達」という観点					
4	教育の基礎理論③「社会化」という観点					
5	学校教育の社会的機能①「自分」はどこからやってきたのか					
6	学校教育の社会的機能②学校教育課程と自己形成					
7	学校教育の社会的機能③枝分かれする「自己実現」					
8	教師という仕事①「先生」とは何か					
9	教師という仕事②なぜ「お勉強」はつまらないのか					
10	児童生徒理解とは何か①一般的な児童生徒理解観について					
11	児童生徒理解とは何か②他者を理解するとはどういうことなのか					
12	教育問題について考える①非行と不登校について					
13	教育問題について考える②いじめとは何か					
14	教育問題について考える③「いじめ問題」のもつ<問題>について					
15	まとめ					
関連科目	教職に関する科目					
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状					
教科書	テキストは使用せず、配布資料による。					
参考資料	適宜授業内にて紹介する。					
連絡先	kinaba@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考	受講生の理解度・関心に即しつつ適宜授業計画の進行を調整する。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育方法論	2	いなば こういち 稲葉 浩一	1年	後期	講義	教職必修
授業概要	教育とは何かと問えば、さまざまな答えが返ってくるだろう。だがある対象に何かを「教える」、「育てる」ことであるということに異議がさしはさまれることはないように思う。だが、それでは何を目的として「教える・育てる」のだろうか。その目的を成し遂げるためにはどのように「教える・育てる」必要があるのだろうか？それを問うのが教育方法論という学問である。本講義では大昔から現代にいたるまで、教育という人類の根本的な営みについて考えられてきた「教育方法論」の理念を学ぶ。そのうえで学校教育における基礎的な教育方法、さらにはICTを活用した教育という新しい教育方法について学んでいく。					
キーワード	教職に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、教育方法、教育技術					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法をめぐる理論と歴史について理解する。</li> <li>・教育の方法と技術に関わる諸概念を習得する。</li> <li>・授業実践に必要とされる基礎的な知識と技術を身に付ける。</li> </ul> 以上をもとに、教育実践者として必要な視野の獲得を目指す。					
受講生に望む事	すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。とりわけこの講義は教科書の内容を膨らませながら行われるため、受講者は授業内資料と自らがとったノート、教科書を見返しながら予習・復習を行う姿勢が求められる。なお授業内においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。					
事前・事後学修	「受講生に望むこと」で述べたとおりであるが、加えれば各自がシラバス及び授業内で紹介される参考文献を手に取り理解の深化を目指すことが望ましい。					
評価方法	試験 80 パーセント、折に触れて行われる課題 20 パーセントとする。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	教育の「目的」と「方法」について					
3	教育方法の理論と歴史①近代以前の教育方法論					
4	教育方法の理論と歴史②近代の教育方法論 (1)					
5	教育方法の理論と歴史③近代の教育方法論 (2)					
6	教育方法の理論と歴史④現代の教授理論					
7	教育課程と学習指導要領について①カリキュラムとは何か					
8	教育課程と学習指導要領について②カリキュラム開発について					
9	教師の社会的役割と学習指導について					
10	学習者の「個性」と教師の授業技術について					
11	教育メディアについて①視聴覚教育という発想					
12	教育メディアについて②ICTを活用した教育					
13	教育評価について①指導と評価の関係性					
14	教育評価について②能力とは何か？					
15	まとめと補論					
関連科目	教職に関する科目					
資格	栄養教諭一種免許状					
教科書	教科書は使用せず、配布資料による。					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平沢茂（編著）2014『改訂版 教育の方法と技術』図書文化社</li> <li>・佐藤学 1996年『教育方法学』岩波書店</li> <li>・文部科学省 2008年3月『小学校学習指導要領』</li> <li>・文部科学省 2008年8月『小学校学習指導要領 総則編』</li> <li>・文部科学省 2008年3月『中学校学習指導要領』</li> <li>・文部科学省 2008年9月『中学校学習指導要領解説 総則編』</li> </ul>					
連絡先	e-mail. kinaba@shokei-gakuen. ac. jp					
オフィスアワー						
備考	受講生の人数、理解度・関心に即しつつ適宜授業計画を調整し進行していく。					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育制度	2	いなば こういち 稲葉 浩一	2年	前期	講義	教職必修
授業概要	<p>私たちのほとんどは、学校に通い続けてきた。ほとんどのひとにとってそれが当たり前だったし、そのことに疑問をもつとはあまりいなかっただろう。だけだとえば私たち日本人が「通学」ということをしだしたのは、せいぜい100数十年前のことである（しかも当初はあまり「人気」がなかった）。言い換えればそれより前の時代には、学校というところに毎日通うということは当たり前でも必要でもなかったのだ。なにしろ今でいうところの「学校」自体がなかったのだから。ではなぜ現代の私たちは、そのほとんどが学校に通い、あたかもそれが当然のように思われているのか。そのことを知るためには社会とか制度という、ちょっと小難しくななことについて考えてみなければならない。学校はいつごろ、どうやってできたのか。どのようにして普及したのか。どう変わってきたのか。どんな理念で教育が行われているのか…などなど。そういったちょっと小難しいことを経由して、私たちが経験してきた学校教育についての考えを立体的に作り直していく。これが本講義の目指すところとなる。</p>					
キーワード	学校制度、教員の地位、教育行政の組織、教育法規					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育制度・教育法規に関する基礎的な知識と概念の習得</li> <li>・学校教育と社会制度の関係性についての理解</li> <li>・上記内容を自身の学校教育経験にフィードバック可能な応用力・分析力の養成</li> </ul>					
受講生に望む事	<p>すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り自らまとめるとともに、それをもとにした予習・復習を行う姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。</p>					
事前・事後学修	<p>「受講生に望むこと」で述べたとおりであるが、加えれば各自がシラバス及び授業内で紹介される参考文献を手に取り理解の深化を目指すことが望ましい。</p>					
評価方法	試験100パーセントとするが、適宜授業内において課題を設け、評価の参考として加味することがある。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	学校教育の誕生①：制度としての「子ども」					
3	学校教育の誕生②：「教育」の発明と社会制度					
4	日本の教育制度①：日本の学校はどうやってできたのか（1）					
5	日本の教育制度②：日本の学校はどうやってできたのか（2）					
6	学校教育制度の意義と課題：ドラマ「塀の中の中学校」をもとに（1）					
7	学校教育制度の意義と課題：ドラマ「塀の中の中学校」をもとに（2）					
8	教育行政について①：文部科学省の役割					
9	教育行政について②：教育委員会の役割					
10	現代日本の教育法規①					
11	現代日本の教育法規②					
12	教育問題と制度①：「児童虐待」はいつからあったのか					
13	教育問題と制度②：「学校に通わないこと＝不登校」の変遷					
14	教育問題と制度③：いじめとは何か／その定義と対策					
15	まとめ					
関連科目	教育原理、教育方法論、道徳教育の研究等					
資格	教員免許					
教科書	教科書は使用せず、配布資料による。					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『中学校学習指導要領解説 総則編』</li> <li>*ほか適宜授業で紹介する。</li> </ul>					
連絡先	e-mail < kinaba@shokei-gakuen. ac. jp >					
オフィスアワー	大学1号館2階研究室にて					
備考	受講生の人数、関心、授業内容の理解度に応じて適宜授業計画の調整を行うことがある。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅰ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	2年	前期	講義	教職必修 (中・高1種国語)
授業概要	授業の前半は、国語科教育の理論や変遷の解説を中心に講義を行い、後半は学生同士の討議を行う。教材研究や学習指導案作成といった実践に結び付くように、単元のねらいや授業の組み立てについて具体的に学び、教育実習生として教壇に立てるだけの力を育成する。この際、意識的にPBL (Project-based learning) を取り入れて展開する。国語科の目標「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」を、国語教師としての視点から理解させる。教育効果の仮説の立て方等、学生が主体的に関わる事で実践的な教師力をつける。生徒主体の授業展開が出来るように指導していく。(関連科目である「国語科教育法Ⅱ」では、作成した学習指導案をもとに模擬授業を展開する予定である。人数によっては全員が模擬授業をすることは出来ないが、PBL で作成した指導案をもとに代表者が模擬授業を展開し、その後研究検討会を行う。)						
キーワード	中学国語、高校国語、教職						
到達目標	国語科教育について系統的に理解する。それぞれの学年に応じた目標を理解して、科目ごとのねらいを学ぶ。授業の組み立てや生徒の既習学習内容を意識して、指導案を書く為の準備が出来るようになる。						
受講生に望む事	教師としての自覚を持つ。また、模擬授業を想定した指導案を事前に指導を受けながら作成する。						
事前・事後学修							
評価方法	課題提出 (60%)・学習態度 (40%) により、総合的に評価する。						
回	授業計画						
1	「国語科教育法」で何を学ぶか						
2	国語科の制度—学習指導要領と教科書						
3	発問・指示・板書・ノート指導・ワークシート						
4	「話すこと・聞くこと」の授業						
5	「書くこと」の授業						
6	「読むこと」の授業						
7	言葉を育む詩歌の授業						
8	古典の授業—「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の扱い方と言語活動						
9	日中漢字文化を生かした漢字・語彙指導						
10	教室での豊かな交流活動—グループ学習の進め方						
11	国語科の評価						
12	指導計画・学習指導案の作成						
13	授業を研究して育つ教師—教えながら学び育つ教師						
14	新しい時代の国語教育—メディア・リテラシー						
15	国語科教育の現状と課題						
関連科目	国語教育法Ⅱ・国語科教育法Ⅲ・国語科教育法Ⅳ						
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)						
教科書	町田守弘編『実践国語科教育法—『楽しく、力づく』授業の創造』(学文社) 『中学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)『高等学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)						
参考資料	適宜指示する。						
連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー							
備考							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅱ		2	川上 知里 <small>かわかみ ちさと</small>	2年	後期	講義・演習	教職必修 (中・高1種国語)
授業概要	中学校・高等学校の教科書教材を取り上げ、国語科教育の指導の観点・教材内容・授業における指導方法・評価の仕方について考えていく。具体的に教材から授業建設に向けての教材研究の実践を中心とし、指導案の書き方など基礎を習得する授業としたい。						
キーワード	中学国語、高校国語、教職						
到達目標	中学校・高等学校の国語科教育の指導の観点・教材内容・指導方法・評価について理解する。指導案の作成ができる。						
受講生に望む事	教材に必要な教材研究を行い、指導案を書くという作業を実際に体験し、慣れてほしい。						
事前・事後学修	事前学修として、次の授業で扱う教材を読み、自分なりの解釈・見方を確立させる。 事後学修として、授業の内容を復習し、教材研究のやり方や指導案の書き方を確認する。		評価方法	授業内での発言・参加態度(20%)、指導案(80%)で評価する。			
回	授業計画		回	授業計画			
1	ガイダンス		9	「書くこと」(作文・創作)の指導―俳句を作り句会を開く(中3)			
2	教材研究の方法と指導案の書き方		10	「書くこと」(意見文・論文)の指導―意見文を書く(高1)			
3	「話すこと」の指導―紹介スピーチ(中1)		11	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(古文)の指導―『枕草子』(中2)			
4	「聞くこと」の指導―パネルディスカッション(中2)		12	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(古文)の指導―『宇治拾遺物語』(高1)			
5	「読むこと」(小説)の指導―太宰治『走れメロス』(中2)		13	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(古文)の指導―『史記』項羽と劉邦(高3)			
6	「読むこと」(小説)の指導―芥川龍之介『羅生門』(高1)		14	定期試験問題作成について			
7	「読むこと」(説明文)の指導―姜尚中『何のために「働く」のか』(中3)		15	まとめ			
8	「読むこと」(論説文)の指導―丸山眞男『「である」ことと「する」こと』(高3)						
関連科目	国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ		連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)		オフィスアワー				
教科書	『中学校学習指導要領解説 国語編』 『高等学校学習指導要領解説 国語編』		備考				
参考資料	適宜紹介する。						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書道科教育法Ⅰ		2	久多見 健 <small>くたみ たけし</small>	2年	後期	講義	教職必修 (高1種書道)
授業概要	学校教育の理念、書道科教育に関する理論と方法について学ぶ。また、書教育の歴史や今後の展望と課題について考える。学習指導案の実例を示し、導入、展開、まとめ、評価などのあり方について考える。学習指導案を作成し、模擬授業を体験する。						
キーワード	指導要領・指導案・模擬授業						
到達目標	・「高等学校学習指導要領解説・芸術編」で目標や内容を正確に理解する。・学習指導案の実例を学び、自ら模擬授業を体験することで指導案が作成できるようにする。・模擬授業での合評会、講評の指摘を教育実習に活かす。						
受講生に望む事	教師を目指す者として、専門の教科はすべて履修してほしい。授業内容について予習を課す、特に模擬授業の指導案は事前に2度以上の指導を受けること。授業後は、次回確認テストを行うので復習を欠かさないこと。模擬授業後は、指導を受けた点を修正した指導案を提出のこと。						
事前・事後学修	次時の学修内容を予習し、授業後は出された課題をまとめる		評価方法	レポート(30%) 模擬授業および学習指導案(40%) 試験(30%)			
回	授業計画		回	授業計画			
1	教育基本法、学校教育法		9	教材、評価のあり方			
2	高等学校学習指導要領「書道Ⅰ」の学習指導内容		10	書写・書道基本用語			
3	"		11	模擬授業実践 反省、講評			
4	"		12	"			
5	"		13	"			
6	高等学校学習指導要領「書道Ⅱ」の学習指導内容		14	"			
7	学習指導案の書き方		15	教育実習について			
8	高等学校芸術科書道の現状		16	試験			
関連科目	書道科教育法Ⅱ		連絡先	E-Mail: kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘校地: 1号館3階 久多見研究室			
資格			オフィスアワー	月曜日 12:10~12:55 木曜日 12:10~12:55			
教科書	『高等学校学習指導要領解説・芸術編』、高校書道教科書「書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(東京書籍)		備考	「書道」教職免許必修			
参考資料	書の古典と理論(光村図書) 各社教科書(書道Ⅰ、Ⅱ)						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
道徳教育の研究	2	いなば こういち 稲葉 浩一	2年	前期	講義	教職必修 (中学校教諭一種免許状)
授業概要	近年いじめ問題や少年非行といった問題が取り上げられるなかで、道徳教育の充実の必要性が語られている。だが道徳を教えるとはどういうことなのだろうか？たとえば英文法や公式を覚えていれば、私たちは正しく問題を解くことができる。だが「〇〇はよくない」とか「〇〇すべきだ」ということを知っていても、だからといってそれだけでは私たちは「道徳的」になるわけではない。道徳を教えるとはどういうことなのか。なぜ学校で道徳を教える必要があるのか。そもそも道徳とは何なのか。こういった問題に対して無自覚なまま道徳教育を実践することなどできるはずがない。以上の関心から本講義では道徳教育の基礎理論の修得をもとに、実践的思考力の養成へと展開することを目指す。					
キーワード	教職に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、道徳教育、指導法、道徳の時間					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳と教育の基礎的な理論・概念を習得する。</li> <li>・学校教育における道徳教育の意義と課題について理解する。</li> <li>・「道徳の時間」の基礎的な指導法の習得及び指導案作成力を身に着ける。</li> </ul>					
受講生に望む事	すべての授業においていえることであるが、ただ話を聞くだけだったり、ただ板書を写すだけだったり、あるいはただプリントに線を引くだけでは、その授業で伝えられていることのほとんどは身につくことがないだろう。よって受講生には教員の説明をノートに取り、自らまとめ、予習・復習に役立てる姿勢が求められる。なお本授業においては理解できなかったこと、聞きづらかったこと、疑問に思ったことがあった場合にはその場で挙手し質問することを歓迎する。					
事前・事後学修	「受講生に望むこと」で述べたとおりであるが、授業内で取り上げる文献や資料に各自があたり、理解の深化を目指すことが望ましい。					
評価方法	期末テスト 70 パーセント、授業内課題（発表等を含む） 30 パーセントとする。出席数それ自体は成績評価に加味しない。					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	道徳と教育の基礎理論①道徳性と発達の理論					
3	道徳と教育の基礎理論②道徳性と社会化の理論 (1)					
4	道徳と教育の基礎理論②道徳性と社会化の理論 (2)					
5	道徳と教育の基礎理論③道徳教育の歴史					
6	道徳教育の意義と機能①デュルケム『道徳教育論』「規律の精神」(1)					
7	道徳教育の意義と機能②デュルケム『道徳教育論』「規律の精神」(2)					
8	道徳教育の意義と機能③デュルケム『道徳教育論』「社会集団への愛着」					
9	道徳教育の意義と機能④デュルケム『道徳教育論』「意志の自律性」					
10	「道徳の時間」の指導法①『中学校学習指導要領（道徳編）』を読む					
11	「道徳の時間」の指導法②『私たちの道徳』を読む					
12	「道徳の時間」の学習指導案の作成					
13	「道徳の時間」のミニ模擬授業①					
14	「道徳の時間」のミニ模擬授業②					
15	まとめ					
関連科目	教職に関する科目					
資格	中学校教諭一種免許状					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『私たちの道徳 中学校』</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』</li> </ul> ＊いずれも文部科学省ホームページよりダウンロード可能。授業で使用する部分に関しては授業内においてアナウンスする。					
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領』平成20年3月告示。</li> <li>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』平成20年9月。</li> <li>・文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】』平成24年6月。</li> <li>・松下良平, 2011, 『道徳教育はホントに道徳的か？：「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター。</li> <li>・E. デュルケム (訳書), 2010, 『道徳教育論』講談社文庫。ほか適宜授業内で紹介する。</li> </ul>					
連絡先	e-mail < kinaba@shokei-gakuen. ac. jp >					
オフィスアワー	1号館2階研究室にて					
備考	受講生の人数、内容理解、関心等に即しつつ、適宜授業計画の調整をする。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
特別活動の研究		2	佐々木 公久	2年	後期	講義	教職必修	
授業概要	教育の中での特別活動の意義を知らせる。その事を通して、特別活動の目的、活動内容に関する研究を行う。理論的な背景を理解する中で、実践的な指導力を育成する。また、指導力の基盤として、自ら考え、判断できる教師になるための幅広い素養を育成する							
キーワード	特別活動の本質 集団づくり 授業実践力							
到達目標	・特別活動の目的、意義、活動内容を理解する。 ・学級担任のあるべき姿から学級運営の方法を知る。 ・集団の機能と集団づくりについて理解し、技法を体得する。							
受講生に望む事	学級担任になった事を仮定して講義に望んでほしい。							
事前・事後学修	授業後に学習内容をまとめておくこと。	評価方法		試験65%、提出物・授業演習等への意欲35%				
回	授業計画			回	授業計画			
1	教育問題と人権教育 目指す教師像			9	集団づくりの技法の実践1(ソーシャルスキル)			
2	青年期の特質と意義			10	望ましい集団づくりの技法2(ロールプレイ等)			
3	特別活動の目標と具体的内容			11	集団づくりの技法の実践2(ロールプレイ等)			
4	学級活動の具体的活動内容(学級活動)			12	模擬授業と授業評価			
5	学級活動具体的活動内容(適応と成長及び健康安全)			13	模擬授業の解説			
6	学級活動具体的活動内容(適応と成長及び健康安全)			14	学習指導案の発表			
7	学習指導案の作成法			15	まとめと自己評価			
8	望ましい集団づくりの技法1(ソーシャルスキル)							
関連科目	道徳教育、教職論、教育心理学などの教育課程 関連科目			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課			
資格	中・高1種教員免許状			オフィス ア ワー				
教科書	中学校学習指導要領解説特別活動編			備考				
参考資料	高等学校学習指導要領解説特別活動編							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
教育心理学		2	おざわ ひみこ 小沢 日美子	3年	前期	講義	教職選択必修	
授業概要	発達、学習、知能、パーソナリティ、適応、特別支援教育、及び教育心理学の研究法、統計法を学ぶ。 1. 個人、集団、それぞれの教育心理学の知識を学び、研究法、統計法の観点の習得を図る。 2. ケース・スタディ、ロール・プレイングによって実践的感性を養い、理解の深化を図る。							
キーワード	研究法、発達理論、知能と測定、学習理論、パーソナリティ理論、社会性、特別支援教育、心理臨床							
到達目標	子ども(主に幼児児童生徒)の発達と成長における心のあり方、仕組みを知り、その理解を深め、関わり方の基礎を修得する。							
受講生に望む事	・人間を理解し、そこにどうかかわることができるのか、その可能性をいろいろ考えよう。 ・そこでの学習の方法の知識を増やしたり、人の支援の方法を考えよう。							
事前・事後学修	講義ノートを作成して、基本単語を中心に調べ学習をしてください。 日頃から、人間を理解し、そこにどうかかわることができるのか、その可能性をいろいろ考えてみましょう。 また、そこでの学習の方法の知識を増やしたり、人の支援の方法を考えてみましょう。	評価方法		受講態度・受講記録(10%)と中間レポート・プレゼン(30%程度)、及び最終レポート(60%程度)による総合評価				
回	授業計画			回	授業計画			
1	オリエンテーション			9	学童期(2)			
2	発達とはなにか、①発達を規定する要因、②発達原理、③発達理論			10	思春期			
3	発達・教育の研究法			11	学童期から思春期にかけて生じる心理臨床的問題			
4	胎児期～誕生、新生児期、乳児期までを概観する			12	成人期、老年期			
5	幼児期前期(1～3歳)			13	障害児とその家族への援助(1)			
6	幼児期後期(4～6歳)			14	障害児とその家族への援助(2)			
7	乳幼児期における心理臨床的問題			15	まとめ			
8	学童期(1)							
関連科目	心理学、生涯発達心理学、社会心理学、臨床心理学、教育相談(カウンセリングを含む)、生徒指導論			連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス大学1号館3階No.1小沢研究室			
資格	教員免許			オフィス ア ワー	火曜日:12:00-13:00 木曜日:12:00-13:00			
教科書	石井正子・松尾直博 編 教育心理学、樹村房			備考				
参考資料	授業時に紹介する							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅲ		2	たけだ まさのり 武田 昌憲	3年	前期	講義・演習	教職必修 (中Ⅰ種国語)
授業概要	国語科教育法Ⅰ・Ⅱの学習を踏まえ、授業構想力の焦点化を深め、学習指導案の作成、模擬授業、及び授業研究を進めていきます。主として古典を中心に行っていきます。						
キーワード	国語科教育 中学国語 模擬授業 指導案						
到達目標	教材研究ができる。指導案の基礎が作成できる。模擬授業に慣れる。						
受講生に望む事	指導案の作り方に慣れてほしい。模擬授業についての評価が出来るようにしてほしい。毎時間の積極的な質疑応答を期待します						
事前・事後学修	[事前学修] 毎回、次回の範囲を熟読し、sつ紋事項や異見をまとめておくこと。 [事後学修] 配布資料の整理・保存と、指導案の工夫の整理、次回の補足事項や質問の整理をしておくこと。			評価方法	模擬授業及び質疑応答 50% レポート 50%		
回	授業計画			回	授業計画		
1	はじめに 順番決定 魅力のある授業について 教師の力量と基礎知識			9	模擬授業 『平家物語』「扇の的」		
2	模擬授業 『竹取物語』「今は昔」「天の羽衣」「昇天」			10	模擬授業 『奥のほそ道』「月日は」		
3	模擬授業 「故事成語」五十歩百歩、四面楚歌 蛇足等			11	模擬授業 『奥のほそ道』「平泉」		
4	模擬授業 『枕草子』「うつくしきもの」「さつきばかり」			12	模擬授業 「中国の古典の言葉」		
5	模擬授業 『徒然草』「仁和寺の法師」「弓射ること」			13	模擬授業 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』		
6	模擬授業 「漢詩」黄鶴楼、春望、絶句			14	まとめ		
7	模擬授業 『徒然草』など			15			
8	模擬授業 『平家物語』「祇園精舎」						
関連科目	国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ			参考資料			
資格	中学校教諭一種免許状(国語)			連絡先	takeda@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟4階 第6研究室		
教科書	『新しい国語 1, 2, 3』(東京書籍・3冊セット・平成27年度版) 『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科一中・高教育実習用』(蒼丘書林)			オフィスアワー	月曜日昼休み、火曜日昼休み		
				備考	高校教諭一種免許状(国語)取得希望者もできる限り受講してもらいたい		

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
国語科教育法Ⅳ		2	みやざき なおこ 宮崎 尚子	3年	後期	講義・演習	教職必修 (中・高1種国語)
授業概要	文部科学省の掲げる国語教育の目標を理解し、教科書から年間授業計画・教材研究・指導案作成・模擬授業・試験問題作成までが出来るようにする。担当者による模擬授業を展開し、その後は学生が模擬授業を展開する。一年後の教育実習を念頭に置いた仕上げとしての指導をする。授業の様子をビデオ撮影し、学生自身が自分の授業を客観的に把握できるようにする。						
キーワード	中学国語、高校国語、教職						
到達目標	科目ごとで教材研究が出来る。指導案作成が出来る。指導案の通りに模擬授業が展開できる。						
受講生に望む事	学習指導案に沿った模擬授業を展開する。 [事前学習]・模擬授業担当者は事前に個別指導を受けながら指導案を作成する。・模擬授業該当箇所の教材研究をする。 [事後学習]・模擬授業担当者は、反省を踏まえて指導案を再作成して提出する。・教材研究ノートを作成する。						
事前・事後学修				評価方法	指導案作成(80%)・模擬授業(20%)により、総合的に評価する。		
回	授業計画			回	授業計画		
1	模擬授業「評論」①「オオカミを見る目」			9	模擬授業「小説」③「字のない葉書」		
2	模擬授業「評論」②「ニュースの見方を考えよう」			10	模擬授業「小説」④「卒業ホームラン」		
3	模擬授業「評論」③「食の世界遺産」			11	模擬授業「小説」⑤「形」		
4	模擬授業「評論」④「情報検索で開ける世界」			12	模擬授業「小説」⑥「最後の一句」		
5	模擬授業「評論」⑤「絶滅の意味」			13	模擬授業「韻文」①「詩の心」		
6	模擬授業「評論」⑥「テクノロジーと人間らしさ」			14	模擬授業「韻文」②「わたしが一番きれいだったとき」		
7	模擬授業「小説」①「さんちき」			15	模擬授業「韻文」③「初恋」		
8	模擬授業「小説」②「トロッコ」						
関連科目	国語科教育法Ⅰ・国語科教育法Ⅱ・国語科教育法Ⅲ			参考資料	適宜指示する。		
資格	中学校教諭1種免許状(国語)・高等学校教諭1種免許状(国語)			連絡先	miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp		
教科書	『教育実習生のための学習指導案作成教本国語科一中・高教育実習用』(蒼丘書林) 『国語便覧』浜島書店 『新しい国語』1～3東京書籍			オフィスアワー	月12:00～13:00、木12:00～13:00		
				備考			

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
書道科教育法Ⅱ		2	くたみ たけし 久多見 健	3年	後期	演習	教職必修 (高一種書道)
授業概要	高等学校書道教育の視点に立った教育実践例を演習形式で展開していく。その中身としては、高等学校の組織を認識した上で芸術科書道の役割を確認し、教科の目標・表現・内容等について学習する。また、それを踏まえた年間指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を実施して基本的な指導法を体験習得し、次年度の教育実習に生かす。						
キーワード	教育実習、模擬授業、年間指導計画、学習指導案。						
到達目標	・年間指導計画を作成することにより自分の指導法の流れを認識する。 ・本時の学習指導案を作る上での留意点を確認し、自分らしい指導案の作成を目指す。 ・教育実習を踏まえての模擬授業を行うことにより自分の課題を見出す。						
受講生に望む事	学習指導案や模擬授業に対する意欲・独創性・向上心を持って受講のこと。模擬授業が中心になるので指導案の準備を早めに行い、事前に2度以上の指導を受けること。他の模擬授業者の指導案を事前に検討し、意見をまとめておく。模擬授業後は、それぞれ反省点をまとめ、指導を受けた点について指導案を見直し、訂正して提出のこと。						
事前・事後学修	次時の学習指導案について自分の意見をまとめ、授業後は指摘のあった点を訂正、補充する			評価方法	模擬授業（年間指導計画・学習指導案）80%および平常点20%として評価を行う		
回	授業計画	回	授業計画				
1	学習指導要領概要、高等学校の教職員組織や芸術科書道教育の現状について	9	"				
2	学習指導の実践（年間指導計画・学習指導案の作成、模擬授業の内容等について）	10	"				
3	模擬授業実践（講評・合評会実施）	11	"				
4	"	12	"				
5	"	13	"				
6	"	14	"				
7	"	15	総括（教育実習における留意点の再確認を含む）				
8	"						
関連科目	書道科教育法Ⅰを履修済であること。			連絡先	kutami@shokei-gakuen.ac.jp 武蔵ヶ丘キャンパス：大学1号館 3F 久多見研究室		
資格		オフィス アワー	月曜日 12:10～12:55 木曜日 12:10～12:55				
教科書	高等学校学習指導要領解説 芸術編（文部科学省） 書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（東京書籍）			備考	高等学校1種免許（書道）取得においては必修。		
参考資料	大学書写・書道教育（第一法規） 書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ指導資料（東京書籍）						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
生徒指導論（進路指導を含む）	2	宮川 伊十	3年	前期	講義	教職必修
授業概要	学校現場における生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践に役立てる具体的な手法を体得する。また、キャリア教育についても理解を深め、生徒の生き方や自己実現にかかわる力を身につけることをめざす。					
キーワード	生徒指導と生徒理解、実践的指導力、生きる力となる夢・希望					
到達目標	a 生徒指導の必要性や重要性について理解し、説明できる。 b 具体的な生徒指導の実例に対し、自分の考えや対応を具体的に示す資質を高める。 c キャリア教育の基礎・基本を理解し、進路指導に役立てることができる。					
受講生に望む事	身近な生活に常に目を向け、子どもたちにとってよりよい生き方とは何かを問い直し、教職の魅力を知ってほしい。					
事前・事後学修	新聞記事のスクラップ					
評価方法	定期試験による（配付資料の持ち込み可）。					
回	授業計画					
1	ガイダンス・生徒指導の意義・目的・内容					
2	生徒指導と関係法規					
3	生徒指導と教師の資質能力					
4	児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の課題					
5	生徒指導における児童生徒理解の理論と方法					
6	生徒指導と教科指導					
7	生徒指導と道德教育					
8	問題行動への組織的対応の理論と実際（ピースメソッド等）					
9	非行問題・いじめ問題の理解と対応					
10	生徒指導を巡る時事問題の事例研究（1）					
11	生徒指導を巡る時事問題の事例研究（2）					
12	進路指導とキャリア教育の意義と課題					
13	進路指導・キャリア教育の理論的背景					
14	進路指導における生徒理解					
15	生徒指導と人権教育					
16	定期試験（配付資料の持ち込み許可）					
関連科目	教育相談					
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状					
教科書	文部科学省「生徒指導提要」、毎回配付する講義資料					
参考資料	吉田辰雄著「最新 生徒指導・進路指導論」ーガイダンスとキャリア教育の理論と実践」（図書文化社）、「キャリア教育をデザインする」（文部科学省）					
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課					
オフィスアワー	授業の前後に質問を受け付ける。					
備考	・学生としてのマナーを守ってほしい。 ・体験や演習を多く取り入れるので、出席を重視する。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育相談（カウンセリングを含む）		2	佐々木 公久	3年	前期	講義	教職必修
授業概要	子どもの生活環境の変化は、激しい。生徒の中には、この変化について行けず、対人関係に適応できず、深い悩みに陥っている生徒がいる。そのような状況の中で教師が個々の生徒と適切に関わる相談活動は、教育に当たる者にとって必須である。この講義では、理論的な背景を理解する中で、種々の場面に適応できる実践的な指導力を育成したい。						
キーワード	特別活動、生徒指導、教育心理学、カウンセリング・マインド						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の意義を理解する。</li> <li>・相談活動を具体的に実践できる技量を身に付ける。</li> </ul>						
受講生に望む事	将来教師になるという強い自覚の基に、積極的に講義に臨んで欲しい。						
事前・事後学修	授業後に学習内容をまとめておくこと。						
評価方法	試験 65%、提出物・授業演習等への意欲 35%						
回	授業計画						
1	教育相談とは						
2	教師に望まれるカウンセリング・マインド						
3	教師が知っておくべき生徒情報						
4	教育相談の種類						
5	聴くスキル						
6	子どものサイン						
7	不登校の理解と対応 (1)						
8	不登校の理解と対応 (2)						
9	いじめの理解と対応 (1)						
10	いじめの理解と対応 (2)						
11	発達障がいの理解と対応 (1)						
12	発達障がいの理解と対応 (2)						
13	保護者との対応 (1)						
14	保護者との対応 (2)						
15	教育相談の総括						
関連科目	特別活動、生徒指導、教育心理学などの教育課程関連科目						
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状						
教科書	教育相談ワークブック（ミネルヴァ書房）						
参考資料	毎回配付する資料						
連絡先	武蔵ヶ丘キャンパス教務課						
オフィスアワー							
備考	ロールプレイや討論の多い授業のため、出席を重視する。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
教育実践研究	1	稲葉 浩一 宮崎 尚子 川上 知里	3年～ 4年	後期～ 前期	演習	教職必修
授業概要	本演習は、4年次に行なう教育実習に関する事前・事後指導を主軸としたものであり、ここでは教育実習に際して最低限求められる資質や能力の完成が目指される。具体的には教育実習において求められる態度、さらにそこで何をいかに学ぶかを本演習で理解・確認し、教育実習の準備をおこなっていく。さらに近隣の中学・高校への観察実習や現場経験者の講話を受けながら、学校教育現場の生の空気とそこで行われている活動への理解の幅を広めることが目指される。					
キーワード	教職に関する科目、教育実習、観察実習					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に際して最低限求められる資質や能力（専門的な基礎学力、体系的な理解力、論述する能力）を完成させる。</li> <li>・教員としての心構えや態度（学習意欲・態勢）を培い、教育実習における自己の課題を明確にする。</li> <li>・今日の学校教育現場の空気、およびそこで働くことに対する具体的なイメージを獲得する。</li> </ul>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に参加するとき、そこでの学生は「先生」となる。このことに対する強い責任感をもちつつ受講してもらいたい。</li> <li>・教育現場に出るうえで自身に欠けていること、改めるべきことなどを明確化できるようにしてほしい。</li> </ul>					
事前・事後学	毎回の授業において学んだことをノートにまとめ次回の学習に活かすこと。					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（演習への積極的な参加、発表）30%</li> <li>・レポート（観察実習記録のまとめ）70%</li> </ul>					
回	授業計画					
1	オリエンテーション					
2	第2回～5回：教育実習のために何を準備すべきか					
3	（テキスト講読及びグループディスカッション）					
4	”					
5	”					
6	外部講師講話①学校教育現場で求められることについて					
7	教育実習の内容と実習記録の方法					
8	観察実習事前指導					
9	観察実習					
10	”					
11	”					
12	”					
13	観察実習の振り返り					
14	外部講師講話②教育実習に向けた心構えについて					
15	育実習生体験報告会（次年度前期）					
関連科目	教職に関する科目、教科に関する科目					
資格	中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状					
教科書	教育実習を考える会（編）2000、『新編 教育実習の常識—事例に基づく必須66項』蒼丘書林					
参考資料	適宜授業内にて紹介する。					
連絡先	稲葉 浩一 e-mail <kinaba@shokei-gakuen.ac.jp> 宮崎 尚子 e-mail <miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp>					
オフィスアワー	初回に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分						
教職実践演習（中・高）	2	稲葉 浩一 小沢 日美子 久多見 健 宮崎 尚子	4年	後期	演習	教職必修						
授業概要	本演習は、教育職員免許法に定める「教職に関する科目」である。本演習に含まれる事項は、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項、の4点である。以上の学習をとおして実践力を習得する。とりわけ、上記①～④の事項を具体的な形で精査し、自身の教育者としての資質能力を点検するとともに今後の課題を明確化することが求められる。											
キーワード	教職に関する科目、学習指導、生徒指導、学級経営、実践的指導力											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上述の「授業概要」においてあげた4つの観点から、自己にとっての課題を明確化・言語化する。</li> <li>・自覚にもとづいて不足している知識や技能等を補い、それらの知識や技能等の定着を図る。</li> <li>・生徒指導や学級経営において有用とされる技術（教育調査技術、ソーシャルスキル等）を習得する。</li> <li>・教員として最小限必要な資質能力の全体について、教職課程の履修を通じて、確実に身に付けることができたか否かを明示的に確認する。</li> </ul>											
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習は、教職課程の他の科目の履修や教職指導の成果が各自の内に統合され、最終的に教員として必要な資質能力が形成されたことを確認するという、他の科目にはない特色を有していることを理解の上、受講すること。</li> <li>・受講生はこれまでの履修カルテに関連づけさせながら、設定課題についての分析、考察といった一連の探究プロセスと成果を期末にまとめ提出することが課せられる。</li> <li>・受講生は教壇に立つ責任を自覚し、専門性を高めるべく研鑽を積むことが求められる。また教科指導に不可欠となる取得予定免許の教科に関する知識及び教養の深化が求められる。</li> <li>・受講生は積極的な姿勢はもちろんのこと、いち社会人としての常識を備えた上で履修すること。</li> </ul>											
事前・事後学	教職課程の総仕上げとして、毎回の授業において学んだことをノートにまとめ次回の学習に活かすこと。											
評価方法	各専門教科担当が指示する課題・提出物など（40点） ・本演習への取り組み方及び期末に提出するレポート（60点）											
回	授業計画											
1	オリエンテーション（稲葉・小沢・久多見・宮崎）											
2	グループ・ディスカッション①理想とする教師像について（稲葉）											
3	外部講師による講話①学校教育の現在とこれからの展望											
4	教育実習の振り返り、年間指導計画の作成、定期試験問題・小テスト等の作成、模擬授業、あるいは各担当者が定めた課題（第4回～7回、久多見・宮崎）											
5												
6							"					
7	"											
8	ロールプレイから学ぶ生徒とのかかわり方（小沢）											
9	生徒指導・学級経営における実践的技法①：質問紙法（稲葉）											
10	生徒指導・学級経営における実践的技法②：面接法・観察法（稲葉）											
11	グループ・ディスカッション②ケーススタディ：非行等の問題への取り組み（稲葉）											
12							グループ・ディスカッション③ケーススタディ：「いじめ」とどう向き合うか（稲葉）					
13							グループ・ディスカッション④ケーススタディ：教師の社会的責任について（稲葉）					
14	外部講師による講話②学校組織の運営と地域ぐるみの教育について											
15	総括（稲葉・小沢・久多見・宮崎）											
関連科目	教職に関する科目、教科に関する科目											
資格	中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状											
教科書	各担当者が適宜指示する。											
参考資料	各担当者が適宜指示する。											
連絡先	稲葉 浩一 e-mail <kinaba@shokei-gakuen.ac.jp> 小沢日美子 e-mail <himiko@shokei-gakuen.ac.jp> 久多見 健 e-mail <kutami@shokei-gakuen.ac.jp> 宮崎 尚子 e-mail <miyazaki@shokei-gakuen.ac.jp>											
オフィスアワー	稲葉 浩一：大学1号館2階研究室にて 小沢日美子：大学1号館3階研究室にて 久多見 健：大学1号館3階研究室にて 宮崎 尚子：大学1号館2階研究室にて											
備考												

# 司書に関する科目



科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館情報技術論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	1年	後期	講義	(司書) 必修
授業概要	現代社会と情報技術の関わりを概観したうえで、図書館業務に必要な基礎的な情報技術について解説する。具体的には、図書館業務システム、図書館 Web サイト、電子資料・電子図書館、デジタルアーカイブ、最新の情報技術の図書館への応用等について、実例を挙げて解説する。					
キーワード	コンピュータ、Web ページ、電子図書館、電子アーカイブ、OPAC					
到達目標	(1) コンピュータのハードウェアとソフトウェア、ネットワーク、データベースの仕組みを理解する (2) 図書館業務システムおよび図書館 Web サイトの機能と特徴を理解する (3) 情報技術の図書館への応用に関する近年の動向について理解する					
受講生に望む事	・ 授業終了時に次回の内容を指示するので、それに準じた企業や情報サービス機関の Web サイトを閲覧し、Web ページやデータベースの情報、機能について関心を持っておくこと。 ・ 授業に該当した範囲に則って、各自、図書・雑誌・Web ページを一読し、知識を深めておくこと。					
事前・事後学	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。					
評価方法	レポート 50%、小テスト 50% (シリーズ毎に 2 回に分けて実施)					
回	授業計画					
1	司書科目における本科目の位置づけ					
2	コンピュータの仕組みと演算装置					
3	記憶装置					
4	補助記憶装置					
5	入出力装置					
6	情報技術とネットワーク					
7	データベースとデータマイニング					
8	図書館業務システム					
9	図書館 Web サイトの比較検証 (調査)					
10	図書館 Web サイトの比較検証 (発表)					
11	検索エンジン					
12	図書館で提供する電子情報					
13	デジタルアーカイブ					
14	コンピュータセキュリティと図書館					
15	まとめ 最新の情報技術と図書館					
関連科目						
資格	司書資格					
教科書	齋藤ひとみ『図書館情報技術論 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 2)』(学文社、2012年)。 今まど子編『図書館学基礎資料』(樹村房、2013年)。					
参考資料						
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟 3階 研究室 122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館制度・経営論	2	くわばら 桑原 よしや 芳哉	1年	後期	講義	司書必修
授業概要	図書館に関わる法体系及び公共図書館・大学図書館に関わる近年の政策動向について概観し、政策や社会の動向に対応した図書館制度及び経営のあり方について解説する。 具体的には、自治体行政・大学経営の動向と図書館、管理運営形態の多様化、図書館業務・組織・職員の理論と実際、サービス計画、図書館施設・設備計画、図書館ネットワーク、図書館業務・サービスの評価等について、近年の事例を紹介して解説する。 毎回、図書館に関する最近の報道事例及び特徴的な図書館の事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有化を図る。					
キーワード	図書館経営、図書館法、図書館政策、図書館ネットワーク、これからの図書館					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①我が国の図書館政策の動向 ②図書館の法的位置づけ ③図書館経営の現状と課題 特に、図書館の組織と職員、図書館の施設と設備、サービス計画、図書館評価、管理形態の多様化等に関する近年の動向について、幅広い視点から考察できることを目指す。					
受講生に望む事	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。					
事前・事後学	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	レポート 45% 中間に1回のレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 定期試験 45% 期末に定期試験を行う。 平常点評価 10% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス（図書館情報学関係研究雑誌、参考図書を紹介）、図書館経営の意義（教科書 p.1～5、p.96～103）					
2	図書館制度の概観、図書館法の解説（1）（教科書 p.8～42）					
3	図書館法の解説（2）（教科書 p.35～42）					
4	図書館に関するその他の法規（教科書 p.23～34、p.43～74）					
5	図書館政策（教科書 p.75～94）					
6	公共図書館の経営：自治体行政と図書館、公共経営としての図書館経営（教科書 p.89～94、p.104～119）					
7	図書館の組織と職員（教科書 p.120～131）					
8	図書館の財政と予算、図書館業務の理論と実際（1）具体的な業務（教科書 p.132～143、p.120～131）					
9	図書館業務の理論と実際（2）業務の効率化と専門性（教科書 p.190～195）					
10	図書館の施設と設備（教科書 p.144～148）					
11	図書館の計画とマーケティング（教科書 p.144～167）					
12	図書館整備計画の策定（図書館の地域計画）（教科書 p.144～148）					
13	図書館の経営評価（教科書 p.168～183）					
14	図書館の運営形態の多様化（教科書 p.184～205）					
15	まとめ：これからの図書館と求められる司書像					
16	定期試験 筆記試験					
関連科目	図書館概論					
資格	司書（必修）					
教科書	糸賀雅児・葉袋秀樹／編集 『図書館制度・経営論』（現代図書館情報学シリーズ 2） 樹村房、2013（ISBN 978-4-88367-202-8） ・教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。 ・授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。 ・文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
参考資料	今まどり編著『図書館学基礎資料 第12版』樹村房、2015（ISBN 978-4-88367-242-4） ※『図書館概論』で教科書として使用した図書を、本授業でも参考資料として使用します。					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館サービス概論	2	くわばら 桑原 よしや 芳哉	2年	前期	講義	司書必修
授業概要	図書館の基本的な機能とサービスの動向について概観し、社会の動向に応じた図書館サービスのあり方について解説する。具体的には、図書館サービスの種類、「貸出」を中心とした資料提供サービス、利用対象ごとのサービス、これからの図書館に求められるサービス等について、近年の事例を紹介して解説する。毎回、図書館に関する最近の報道事例及び特徴的なサービスの事例を紹介し、図書館を取り巻く問題意識の共有化を図る。					
キーワード	図書館サービス、公共図書館、資料提供、情報発信、課題解決支援					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ① 図書館の基本的な機能とサービスの考え方 ② 多様な図書館サービスの意義・目的と現状 ③ 図書館サービスの近年の動向と課題 特に、図書館を取り巻く近年の社会情勢を踏まえ、求められるサービスの方向性とその実態について、幅広い視点から考察できることを目指す。					
受講生に望む事	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館サービスの現状について問題意識を持って観察すること。					
事前・事後学	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	レポート 90% 2回のレポートの提出を求める。2回とも期限まで必ず提出のこと。 平常点評価 10% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス（図書館情報学関係研究雑誌、参考図書を紹介）、図書館サービスの意義（教科書 p. 10～17）					
2	図書館サービスの種類（教科書 p. 18～25）					
3	資料提供サービス（1）貸出サービス（教科書 p. 54～65、p. 92～113、p. 126～129）					
4	資料提供サービス（2）貸出に関連するサービス（教科書 p. 66～91、p. 114～125、p. 134～137）					
5	レファレンスサービス、情報提供サービス（教科書 p. 130～133、p. 150～168）					
6	利用対象に応じたサービス（1）児童サービス、ヤングアダルトサービス（教科書 p. 170～181）					
7	利用対象に応じたサービス（2）高齢者サービス、障害者サービス、多文化サービス（教科書 p. 182～201）					
8	利用対象に応じたサービス（3）大学図書館・学校図書館におけるサービス					
9	多様なサービス（1）集会・文化活動、他機関との連携（教科書 p. 202～211）					
10	多様なサービス（2）移動図書館、館外サービス（教科書 p. 212～215）					
11	課題解決支援サービス（教科書 p. 216～218）					
12	サービス計画と広報・PR（教科書 p. 26～45、p. 50～53、p. 230～237）					
13	図書館サービスと著作権（教科書 p. 138～149）					
14	図書館サービスと危機管理（教科書 p. 222～225）					
15	まとめ：これからの図書館と求められるサービス、職員に求められる資質と能力（教科書 p. 46～49）					
関連科目	図書館概論、図書館制度・経営論、児童サービス論、情報サービス論					
資格	司書（必修）					
教科書	小田光宏／編著『図書館サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 3）日本図書館協会発行 2010年、(ISBN 978-4-8204-0917-5) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。					
参考資料	参考図書：大串夏身／編著『課題解決型サービスの創造と展開』（図書館の最前線 3）青弓社／発行、2008年、(ISBN 978-4-7872-0038-9) 上記参考文献は、授業では直接使わないが、理解を深めるために各自で参考に読むことが望ましい。 授業では毎回レジュメ及び参考資料を配付する。また文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス論	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	講義	(司書) 必修
授業概要	「図書館は本を読んだり借りたりする場所」。一般的にはこのように思われていることも多い図書館だが、実際の図書館のサービスを細かく見てみると、それは一側面に過ぎないことがよく分かる。本講義においては、図書館が行う情報サービスの意義や特徴について、個々の事例を取り上げながら内容や手法を概観する。また、サービスを具体的にを行う際の利用者の情報探索行動やレファレンスサービスを行う際のレファレンスツールの活用方法についても解説する。					
キーワード	レファレンスサービス、レフェラルサービス、レファレンスプロセス、情報探索行動					
到達目標	(1) 図書館が行う情報サービスの意義と現状について説明できる (2) レファレンスプロセスを把握し、実際の行動に結びつけることができる (3) レファレンスツールの特徴を把握し、目的に応じた取り扱いができる					
受講生に望む事	図書館で情報サービスを利用したり、学習したレファレンスブックを実際に使用してみたい。					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	試験 (70%) + 課題 (30%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	”司書資格における本科目の位置づけ (目的)	9	レファレンス質問への対応 レファレンスプロセス、レファレンスインタビュー			
2	情報サービスの概要 定義、意義	10	情報の検索と回答			
3	情報サービスの基礎 レファレンスサービス	11	情報検索の仕組み 見出し・排列・索引、DB、トランケーション			
4	情報サービスの展開 レフェラルサービス、利用指導、カレントアウェアネスサービス	12	情報サービスの管理			
5	多様な情報サービス 読書相談、地域情報の提供、専門的な情報提供	13	情報源の特質 事実検索と文献検索			
6	情報サービスの歴史的展開	14	事実情報検索の実際			
7	情報源整備の実際	15	文献情報検索の実際			
8	利用者の情報利用に対する理解 情報ニーズ、情報探索行動	16	試験			
関連科目	情報サービス演習が実践科目なので、できるだけ前後期と連続して履修すること。	連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)			
資格	司書資格	オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50			
教科書	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』(日本図書館協会、2012年)。(2) 今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』(樹村房、2013年)。旧版でも可。ただし改訂された部分は各自で補足しておくこと。	備考				
参考資料	適宜紹介、配布する					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス演習 (A)	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	前期	演習	(司書) 必修
授業概要	情報サービス論で修得したレファレンスツールに関する知識をふまえた上で、レファレンスブックやデータベース、Web サイトを用いて実践的演習を行う。					
キーワード	情報探索、検索、データベース、参考図書、レファレンスブック、レファレンスツール、OPAC、Web サイト					
到達目標	(1) 質問内容を分析し、必要に応じてレファレンスブックやデータベースを選択することができる。 (2) 多様な情報源から回答を提示することができる。 (3) グループのメンバーと協力し、探索、まとめ、発表し、自己の再評価をすることができる。					
受講生に望む事	・探索・検索からまとめ・発表というサイクルで単元ごとに繰り返す。グループ活動が中心となるので、良好なコミュニケーションを図るよう心がけること。 ・授業に欠席する場合は、グループリーダーに事前に伝えておくことや、次回までの自分の担当箇所を確認しておくなど、メンバーに迷惑をかけぬよう常に連絡を密にしておくこと。					
事前・事後学	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。					
評価方法	毎回の課題 (40%)+ 発表 (20%)+ 小テスト (40%) *グループワークも重視する					
回	授業計画					
1	司書科目における本科目の意義と目的					
2	言語・文字の探索					
3	論理演算とトランケーション					
4	事物・事象の探索					
5	図書・雑誌の探索					
6	単館目録 (1)					
7	総合目録 (2)					
8	雑誌・新聞記事の探索					
9	シソーラス (1)					
10	シソーラス (2)					
11	前半の振り返りと小テスト					
12	歴史・日時の探索					
13	地理・地名の探索					
14	人物・団体の探索					
15	まとめ					
関連科目	・本科目は、「情報サービス論」の演習科目となっているので、「情報サービス論」を履修しておくこと。 ・情報サービス (A) と (B) は、内容につながりがあるので前後期と連続して受講することが望ましい。 情報サービス論→情報サービス演習 (A) →情報サービス演習 (B)					
資格	司書資格					
教科書	石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 長澤雅男・石井裕子『レファレンスブックス』日本図書館協会、2013年。					
参考資料	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』（日本図書館協会、2012年）。 (2) 今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』（樹村房、2013年）。 授業内でも随時配布・紹介するので、欠席した場合は各自で対応することを心がけること。					
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報サービス演習 (B)	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	2年	後期	演習	(司書) 必修
授業概要	情報サービス論で修得したレファレンスツールに関する知識をふまえた上で、レファレンスブックやデータベース、Web サイトを用いて実践的演習を行う。					
キーワード	情報探索、検索、データベース、参考図書、レファレンスブック、レファレンスツール、OPAC、Web サイト					
到達目標	(1) 質問内容を分析し、必要に応じてレファレンスブックやデータベースを選択することができる。 (2) 多様な情報源から回答を提示することができる。 (3) グループのメンバーと協力し、探索、まとめ、発表し、自己の再評価をすることができる。					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>探索・検索からまとめ・発表というサイクルで単元ごとに繰り返す。グループ活動が中心となるので、良好なコミュニケーションを図るよう心がけること。</li> <li>授業に欠席する場合は、グループリーダーに事前に伝えておくことや、次回までの自分の担当箇所を確認しておくなど、メンバーに迷惑をかけぬよう常に連絡を密にしておくこと。</li> </ul>					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。					
評価方法	毎回の課題 40%、発表 30%、試験 30% *グループでの協力を重視する					
回	授業計画					
1	情報サービス演習 A の振り返り					
2	歴史・日時の探索					
3	地理・地名の探索					
4	人物・団体の探索					
5	図書・雑誌の探索 (1)					
6	図書・雑誌の探索 (2)					
7	雑誌・新聞記事の探索 (1)					
8	雑誌・新聞記事の探索 (2)					
9	レファレンスブックのガイド・書誌の書誌 (1)					
10	レファレンスブックのガイド・書誌の書誌 (2)					
11	パスファインダーを作ってみよう					
12	総合問題 (1)					
13	総合問題 (2)					
14	パスファインダーの発表					
15	まとめ					
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目は、「情報サービス論」の演習科目となっているので、「情報サービス論」を履修しておくこと。</li> <li>情報サービス (A) と (B) は、内容につながりがあるので連続して受講することが望ましい。</li> </ul> 情報サービス論→情報サービス演習 (A) →情報サービス演習 (B)					
資格	司書資格					
教科書	石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 長澤雅男・石井裕子『レファレンスブックス』日本図書館協会、2013年。					
参考資料	(1) 小田光宏編『情報サービス論：JLA 図書館情報学テキストシリーズ3』（日本図書館協会、2012年）。 (2) 今まど子編『図書館学基礎資料：第11版』（樹村房、2013年）。 授業内でも随時配布・紹介するので、欠席した場合は各自で対応することを心がけること。					
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50					
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
図書館情報資源概論		2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	3年	前期	講義	(司書)必修 (司書教諭)必修	
授業概要	本講義は、図書館サービスを提供する際に情報源となるモノとしての資料について解説する。まず、図書館資料の概念を理解するために媒体の歴史的変遷について触れたのちに各資料の特質や保存方法を考えたい。次の図書館における資料の選択は、今日までどのような考えの基に行われてきたのかという歴史的論争を踏まえながら解説する。また、差別や犯罪を助長すると思われる資料に対する図書館の対応について議論しながら方向性を明らかにしたい。							
キーワード	図書館資料、図書館情報資源、選書、知的自由							
到達目標	(1) 図書館が扱う情報資源について特性を理解したうえで、適切な情報資源の評価・選択ができる。 (2) 図書館資料の流通・収集過程について理解する。(3) 図書館の自由の意義について説明できる。							
受講生に望む事	授業で扱った内容や教科書を丸暗記しようとするのではなく、それに関連する図書や論文を探索したり、様々な図書館を訪問したりと自主的な取り組みを期待する。							
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	毎時間の課題(30%)＋レポート(30%)＋試験(40%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1	司書資格における本科目の位置づけ			9	情報源の選択とコレクション構築			
2	図書館資料と情報資源			10	情報源へのアクセスと保存			
3	情報源の種類 印刷資料			11	出版と流通			
4	情報源の種類 非印刷資料			12	著作物と著作権			
5	パッケージ系電子出版物とネットワーク情報資源			13	著作権の制限1			
6	図書館の自由とは			14	著作権の制限2			
7	図書館の自由に関する具体的事例1			15	まとめ			
8	図書館の自由に関する具体的事例2			16	試験			
関連科目				連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)			
資格	司書資格、司書教諭資格			オフィス アワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50			
教科書	今まどり編『図書館学基礎資料 第11版』(樹村房、2014年)。 *旧版でも可。ただし、改訂された部分は各自補うよう注意すること。			備考				
参考資料				備考				

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報資源組織論	2	くわばら よしや 桑原 芳哉	3年	前期	講義	司書・司書教諭必修
授業概要	図書館で扱う情報資源（資料・情報）の組織化について、その意義と考え方を概説するとともに、その方法について学習する。具体的には、目録法と分類法、特にわが国で広く使用されている「日本目録規則」と「日本十進分類法」について、その体系および記述方法について学習する。					
キーワード	目録法、分類法					
到達目標	司書および司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①目録法の意義や考え方、記述方法 ②分類法の意味や役割機能、歴史と種類 ③日本十進分類法の体系 ④目録の書誌構造と書誌検索の仕組み					
受講生に望む事	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。 ・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。					
事前・事後学	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。また、毎回配付する復習用演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	定期試験 60% 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス	「図書館で本を探す」経験について				
2	情報資源組織	その目的・意義と概要（教科書 p.1～15）				
3	目録法（1）	意義／考え方／目録規則／記述／標目（教科書 p.16～39）				
4	目録法（2）	歴史と動向／日本目録規則 1987年版（教科書 p.40～60）				
5	主題組織法	組織化の目的と意義、方法（教科書 p.61～74）				
6	分類法（1）	基本原理／意義・役割・機能／種類／歴史（教科書 p.75～85）				
7	分類法（2）	日本十進分類法／分類規程／分類作業・所在記号（教科書 p.86～108）				
8	語による主題組織法	自然語と統制語／シソーラス／件名標目（教科書 p.109～131）				
9	情報通信技術と情報資源組織	目録の機械化／MARC／OPAC／メタデータ／ウェブページの組織化／書誌コントロール（教科書 p.132～185）				
10	日本十進分類法の実際（1）	分類の体系／分類法の原則（教科書 p.85～102）				
11	日本十進分類法の実際（2）	各類の内容<1> 1類（哲学・宗教）、2類（歴史・伝記・地理）				
12	日本十進分類法の実際（3）	各類の内容<2> 3類（社会科学）、6類（産業）				
13	日本十進分類法の実際（4）	各類の内容<3> 4類（自然科学）、5類（技術、工学）				
14	日本十進分類法の実際（5）	各類の内容<4> 7類（芸術）、0類（総記）				
15	日本十進分類法の実際（6）	各類の内容<5> 8類（言語）、9類（文学）				
16	定期試験	筆記試験				
関連科目	情報資源組織演習（A）・情報資源組織演習（B）を履修するには本講義を履修すること					
資格	司書（必修）、司書教諭（必修）					
教科書	田窪直規／編集『情報資源組織論』（現代図書館情報学シリーズ 9）樹村房、2011   (ISBN 978-4-88367-209-7) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。					
参考資料	日本目録規則 1987年版（改訂2版） 日本図書館協会 2001年 日本十進分類法 新訂9版 森 清 日本図書館協会 1995年					
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報資源組織演習 (A)	1	くわばら よしや 桑原 芳哉	3年	後期	演習	司書必修
授業概要	図書館で扱う情報資源(資料・情報)の組織化について、実務に必要な知識および技能について、演習により学習する。本授業では、日本十進分類法(NDC)による図書の分類を中心に、基本件名標目表(BSH)による件名付与についてもあわせて学習する。					
キーワード	分類法、日本十進分類法(NDC)、基本件名標目表(BSH)					
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解し、技能を習得することを目標とする。 ①日本十進分類法(NDC)の構造、分類体系 ②日本十進分類法(NDC)による適切な分類の付与 ③基本件名標目表(BSH)による件名の付与					
受講生に望む事	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。 ・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。					
事前・事後学修	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、教科書の各回の該当ページに含まれる演習問題について各自で解答作成をすること。					
評価方法	課題 60% 期末に課題の提出を求める。 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。					
回	授業計画					
1	ガイダンス 情報資源組織演習の概要(件名及び分類)(教科書 p.150～159)					
2	件名基礎演習 基本件名標目表(BSH)の階層構造、細目、規程(教科書 p.251～266)					
3	分類基礎(1) 日本十進分類法(NDC)の構成、日本十進分類法(NDC)の使い方(教科書 p.160～164)					
4	分類基礎(2) 一般補助表:形式区分、地理区分、海洋区分(教科書 p.165～174)					
5	分類基礎(3) 一般補助表:言語区分、言語共通区分、文学共通区分(教科書 p.175～177)					
6	分類基礎(4) 分類記号の付与の原則 (1) 主題分析(教科書 p.178～180)					
7	分類基礎(5) 分類記号の付与の原則 (2) 分類記号の与え方(教科書 p.180～181、p.246～250)					
8	分類基礎(6) 分類記号の付与の原則 (3) 分類規程(教科書 p.182～192)					
9	分類演習(1) 人文科学(1) 2類 歴史・伝記・地理の図書の分類(教科書 p.199～204)					
10	分類演習(2) 人文科学(2) 1類 哲学・宗教の図書の分類、7類 芸術の図書の分類(教科書 p.193～198、p.205～210)					
11	分類演習(3) 人文科学(3) 8類 言語の図書の分類、9類 文学の図書の分類(教科書 p.211～216)					
12	分類演習(4) 社会科学 3類 政治・法律・経済・社会・教育ほかの図書の分類(教科書 p.217～228)					
13	分類演習(5) 自然科学、技術 4類 自然科学の図書の分類、5類 技術・工学の図書の分類(教科書 p.229～234)					
14	分類演習(6) 産業、総記 6類 産業の図書の分類、0類 総記の図書の分類(教科書 p.235～239)					
15	分類演習(7) 総合演習(教科書 p.240～245)					
関連科目	「情報資源組織論」を履修済みであること					
資格	司書(必修)					
教科書	和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美/共著『情報資源組織演習 新訂版』(J.L.A図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) 日本図書館協会、2016 (ISBN 978-4-8204-1515-2) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。					
参考資料	『日本十進分類法 新訂9版』日本図書館協会 1995年 『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会 1999年 ※第7回以降の演習においては、『日本十進分類法 新訂9版』(教員が用意します)を実際に使用して演習を行う。					
連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考						

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報資源組織演習 (B)		1	くわばら よしや 桑原 芳哉	3年	後期	演習	司書必修
授業概要	図書館で扱う情報資源(資料・情報)の組織化について、実務に必要な知識および技能について、演習により学習する。本授業では、日本目録規則(NCR)による図書の目録記述について概説したうえで、目録作成の演習を行う。						
キーワード	目録法、日本目録規則(NCR)、書誌データ						
到達目標	司書資格取得のために履修すべき科目として、次の点について理解し、技能を習得することを目標とする。 ①日本目録規則(NCR)による図書の目録記述の概要 ②図書、雑誌(合本製本)、録音資料、電子資料の書誌データの作成						
受講生に望む事	・居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、図書館の現状について問題意識を持って観察すること。 ・図書館を利用して、「なぜこの本はこの場所にあるのか」という疑問を持った経験について、考えておくこと。						
事前・事後学修	・事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。 ・事後学修として、教科書の各回の該当ページに含まれる演習問題について各自で解答作成をすること。						
評価方法	課題 60% 期末に課題の提出を求める。 平常点評価 40% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス 情報資源組織演習の概要 目録法総則(教科書 p.16～19)						
2	目録の基礎(1) 図書の記述 その1(教科書 p.20～32)						
3	目録の基礎(2) 図書の記述 その2(教科書 p.33～46)						
4	目録の基礎(3) その他の資料の記述 継続資料、録音資料、映像資料、電子資料等(教科書 p.47～76)						
5	目録の基礎(4) 標目(教科書 p.77～91)						
6	目録の基礎(5) 排列(教科書 p.92～95)						
7	目録演習(1) 目録作成演習 I(教科書 p.104～113)						
8	目録演習(2) 目録作成演習 II(教科書 p.104～113)						
9	目録演習(3) 目録作成演習 III(教科書 p.104～113)						
10	目録演習(4) 目録作成演習 IV(教科書 p.104～113)						
11	目録演習(5) 目録作成演習 V(教科書 p.104～113)						
12	目録演習(6) 目録作成演習 VI(教科書 p.115～123)						
13	目録演習(7) 目録作成演習 VII(教科書 p.115～123)						
14	目録演習(8) 目録作成演習 VIII(教科書 p.115～123)						
15	目録演習(9) 目録作成演習 IX(教科書 p.115～123)						
関連科目	「情報資源組織論」を履修済みであること						
資格	司書(必修)						
教科書	和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美/共著『情報資源組織演習 新訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 10) 日本図書館協会、2016 (ISBN 978-4-8204-1515-2) 教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること。						
参考資料	『日本目録規則 1987年版(改訂2版)』 日本図書館協会 2001年						
連絡先	研究室(管理棟4階 研究室14) メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。						
備考	第1回～第6回は講義室で、第7回以降の演習については情報処理室で行う。						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
情報メディアの活用	2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	3年	後期	講義	(司書教諭) 必修
授業概要	学習過程において電子メディアやネットワーク情報資源の利用があらゆる学年で授業に導入されている一方で、新しいツールに対する懐疑的な見方があることも否定できない。情報リテラシー教育の必要性が望まれている昨今、学校図書館がその役割の一翼を担うことが期待されている。本講義においては、情報探索の基礎知識と加工・活用方法について学ぶだけでなく、情報資源の評価方法や電子メディアに関する著作権や個人情報保護方法やマナーについても実際の導入事例を見ながら解説をしていきたい。					
キーワード	コンピュータ、OPAC、新聞、マスメディア、メディアリテラシー					
到達目標	(1)情報検索する際に適切なキーワードを特定できる (2)各データベースやWebページの特徴を理解し、評価できる (3)ハードウェアやソフトウェア、Webサービスを駆使し、授業での活用、情報発信や管理方法など提示できる					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを重視するので、毎回、発表とディスカッションを行う。</li> <li>・随時、小試験を行うので毎時間の復習を欠かさないこと。</li> <li>・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。</li> </ul>					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。					
評価方法	発表、グループワーク(40%) + レポート(30%) + 小テスト(30% : 2回実施)					
回	授業計画					
1	司書教諭科目における本科目の位置づけ					
2	ハードウェア(1)					
3	ハードウェア(2)					
4	ソフトウェア(1)					
5	ソフトウェア(2)					
6	Webサイトとデータベース					
7	検索語・索引語					
8	論理演算、トランケーション					
9	シソーラス、類語					
10	分類・件名からの検索					
11	検索エンジンの活用と評価					
12	OPAC 単館目録と総合目録					
13	メディアリテラシー					
14	情報リテラシー：著作権、ネチケット、プライバシー保護、ウィルス対策					
15	まとめ					
関連科目	司書課程の「図書館情報技術論」「情報サービス論」「情報サービス演習」と一部、内容が重複します。					
資格	司書教諭資格					
教科書	(1) 石井保廣・工藤邦彦『情報検索演習—フリーサイトによるスキルアップ—』佐伯印刷、2014年。 (2) 今まど子編『図書館学基礎資料 第11版』(樹村房、2014年)。 *旧版でも可。ただし、改訂された部分は各自補うよう注意すること。					
参考資料	授業内に配布する					
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)					
オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50					
備考						

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書・図書館史	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	後期	講義	(司書教諭) 必修
授業概要	蔡倫による紙の改良、ゲーテンベルグによる印刷技術の開発から今日まで、図書は各国の文化を伝達する媒体として主要な役割を果たしてきた。それら図書と図書館の誕生から発展過程を、各国(地域)の政治・経済・社会・文化的特異性に留意しながら解説し、今日および将来の図書館や資料の形について考察する。					
キーワード	教区図書館、学校区図書館、ボストン公立図書館、ゲーテンベルグ					
到達目標	(1) 紙や印刷技術の誕生が人々や国の形にどのような影響を与えたのか述べることができる。 (2) 各地域・各国の図書館の発展について特徴を述べることができる。 (3) 図書の形態についてその特徴を述べることができる。					
受講生に望む事	・毎時間の授業終了時に課題を配布するので、次回までに必ず持参すること。					
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	毎時間の課題(50%) + 最終レポート(50%)			
回	授業計画	回	授業計画			
1	ガイダンス 図書・図書館の歴史を学ぶ意義	9				
2	記録メディアの誕生 文字の発達、媒体の変容	10				
3	印刷技術の誕生と図書の形態 紙と印刷術の誕生	11				
4	世界の図書館史 ヨーロッパ、アジア、アフリカ	12				
5	アメリカ図書館史 大陸会議とパブリックライブラリーの誕生	13				
6	日本図書館史1 前近代、近代、戦時体制化の図書館	14				
7	日本図書館史2 戦後の図書館改革、1950年代、1970年代の図書館	15				
8	まとめ これからの図書・図書館について	16				
関連科目		連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト { <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> } [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)			
資格	司書資格	オフィスアワー	月曜 12:00-12:45 木曜 12:00-12:45			
教科書	佃一可『図書・図書館史』(樹村房、2012年)。	備考	司書課程受講生は、図書・図書館史、図書館基礎特論、図書館情報資源特論、図書館実習のうち2科目を卒業までに履修しておくこと。			
参考資料	今まど子編『図書館学基礎資料 第11版』樹村房、2013年。*版は以前のもので構わない。					

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館情報資源特論		1	くわばら 桑原 よしや 芳哉	4年	前期	講義	司書選択必修
授業概要	図書館は、図書館種別、サービス対象、設立母体・目的、歴史的背景、地域性などによって、さまざまな資料を所蔵している。また、情報化の進展に伴い、電子ジャーナルや電子書籍などの電子情報源の提供も拡大している。図書館を取り巻く近年の社会情勢を踏まえて、図書館で扱う情報資源に関する特徴的な話題や事例を取り上げ、紹介するとともに、図書館における収集・提供に関する課題や方向性について議論することにより、図書館情報資源に関する理解を深める。						
キーワード	図書館情報資源、情報資源の特性						
到達目標	司書資格取得のために履修する科目として、次の点について理解することを目標とする。 ①図書館情報資源の特性 ②近年の図書館情報資源に関する動向						
受講生に望む事	・大学図書館のほか、居住地等の公共図書館を積極的に利用・訪問して、さまざまな資料の所在について知識を得ること。						
事前・事後学	・事前学修として、図書館情報資源に関するこれまでの学修内容について確認しておくこと。 ・事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。						
評価方法	平常点評価 100% 発表・質問等についての積極性、授業態度、授業の中で紹介した問題点や方向性に関する理解度等を評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス 図書館情報資源に関する最近の話題						
2	情報資源の特性 公共図書館・学校図書館で扱う情報資源の特性						
3	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (1)						
4	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (2)						
5	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (3)						
6	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (4)						
7	図書館情報資源に関する最近の動向：事例紹介と議論 (5)						
8	まとめ：司書（図書館職員）は、情報資源にどのように関わるか						
関連科目	図書館情報資源概論、図書館サービス概論						
資格	司書（選択必修）						
教科書	教科書は使用しない。毎回レジュメ及び参考資料を配付する。						
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。						
備考							

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館基礎特論	1	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	前期	講義	(司書) 選択
授業概要	図書館の機能としてよく、収集、組織化、保存、提供が挙げられる。本講義では、提供の部分に着目し、実際の図書館を見て、利用者に必要な空間環境を考え、仲間と協力し作り上げてゆく。それを具現化する過程において、理想の図書館と現実の図書館との間を考えるきっかけとしたい。図書館とはなにか。4年間の学びを通して各々が考えてきたものを実際の形としてほしい。					
キーワード	サービスラーニング、グループ活動、【対人基礎力】親和力【對自己基礎力】実践力					
到達目標	(1) 目の前の図書館に必要なものを捉え目標を決めることができる。 (2) 目標達成のため、必要なプラン選択をし、計画できる。 (3) グループで役割分担を決め、協力して実行することができる。					
受講生に事 望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はグループ活動が中心となる。</li> <li>・毎時間、グループ単位で企業や図書館の広報活動について調査した結果を発表してもらうので、グループのメンバーに迷惑をかけないように留意すること。</li> </ul>					
事前・事後 学修	グループで事前・事後共に日程を調整し、打ち合わせ・振り返り・準備を行っておくこと。					
評価方法	グループ活動 (50%) + 課題 (25%) + レポート (25%)					
回	授業計画					
1	ガイダンス、グループ活動					
2	イベント企画					
3	発表会					
4	学校図書館でのイベント実行 (1)					
5	反省会、グループ発表					
6	学校図書館でのイベント実行 (2)					
7	発表準備					
8	報告・発表、成果物展示					
関連科目	司書課程科目ではないが、司書を志す学生にはサービスラーニング系の授業を積極的に受講してほしい。 (例) サービスラーニング入門2					
資格	司書資格					
教科書	ガイダンス時にグループ毎にテーマを決めるので、それに則って各グループで決定する。					
参考資料						
連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122 (研究室前にポスト有)					
オフィス アワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50					
備考	・司書課程受講生は、図書・図書館史、図書館基礎特論、図書館情報資源特論、図書館実習のうち2科目を卒業までに履修しておくこと					

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
図書館実習	1	くわばら 桑原 よしや 芳哉	4年	前後期 集中	実習	司書選択必修
授業概要	<p>司書課程科目の履修により得た知識及び技術に基づき、公立図書館における実務を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習時期 8月後半～9月</li> <li>・実習を行う図書館 熊本県内公立図書館等</li> </ul> <p>提示する「実習先図書館一覧」から希望を募りますが、図書館の受け入れ人数等による調整に伴い、希望した図書館以外が実習先となる場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間 5日間程度</li> </ul> <p>4月に行う1回目の事前指導において、履修希望者数を確認のうえ、実習を受け入れてくれる図書館と調整を行いますので、履修希望者は必ず4月の事前指導に出席してください。</p>					
キーワード	図書館業務、公立図書館、図書館サービス					
到達目標	<p>司書資格取得のために履修する科目として、次の点について理解することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図書館業務の実際</li> <li>②利用者とのコミュニケーションの実際</li> </ol>					
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路として、司書（図書館職員：学校図書館等も含む）を志望する学生の履修を望みます。</li> </ul>					
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修として、実習先図書館の概要について各自で調査すること。また、利用者との対応や身だしなみなどについて、社会人としての知識を会得すること。</li> <li>・事後学修として、実習報告書を作成し提出すること。また、司書課程受講者を対象とした「報告会」において、口頭で実習の報告を行うこと。</li> </ul>					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先図書館からの評価・報告に基づく評価：60%</li> <li>・「実習報告書」による評価：40%</li> </ul>					
回	授業計画					
1	事前指導 (1) 図書館実習の概要、実習先図書館に関する説明					
2	事前指導 (2) 図書館業務の実際 (1)					
3	事前指導 (3) 図書館業務の実際 (2)					
4	事前指導 (4) 実習先図書館の現状 (1)					
5	事前指導 (5) 実習先図書館の現状 (2)					
6						
7						
8						
9	実習 公立図書館における実習（業務体験）（5日間程度）					
10						
11						
12						
13						
14	事後指導 (1) 実習報告 (1)					
15	事後指導 (2) 実習報告 (2)					
関連科目	司書課程科目全般					
資格	司書（選択必修）					
教科書	教科書は使用しませんが、これまで履修した司書課程科目の教科書等により、知識及び技術の確認を行うこと。					
参考資料						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp					
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。					
備考	スケジュールについては、1回目の授業（事前指導）で示します。1回目の授業の日時については、司書課程の前期オリエンテーションで案内しますので、履修希望者は司書課程の前期オリエンテーションに必ず出席すること。					



# 司書教諭に関する科目



科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分	
学校経営と学校図書館		2	はただ ひでまさ 畑田 秀将	4年	前期	講義	(司書教諭) 必修	
授業概要	本科目は、学校図書館の目的や司書教諭、学校司書等の使命と役割について解説する司書教諭科目の中核的・概論的科目という位置づけとなっている。まず、日本とアメリカにおける学校と学校図書館の歴史的発展と図書館思想に触れ、今日の学校教育における学校図書館の理念と教育的意義について考察する。次いで、学校図書館を取り巻く教育行政や法律との関係、学校図書館の経営・管理について具体的事例を用いながら解説する。							
キーワード	学校図書館、学校経営、学校図書館法、司書教諭							
到達目標	(1) 学校図書館法や関連する法律について理解する (2) 司書教諭や学校司書の役割について理解する (3) 今後の望ましい学校図書館組織と経営のあり方について説明できる							
受講生に望む事	・グループワークおよびディスカッションを随時行う。 ・多くの学校図書館や公共図書館を訪問するなどして見聞を広めてほしい。							
事前・事後学修	授業中に指定した図書・資料等を一読しておくこと。	評価方法	グループワーク(30%) + 授業での発言・意見(30%) + レポート(40%)					
回	授業計画			回	授業計画			
1	司書教諭科目における本科目の位置づけ(意義・目的)			8	学校図書館の組織2 予算、経営立案とプロセス			
2	学校教育と学校図書館 生涯教育・学習、教育課程、学習指導要領			9	前半の補足・まとめ			
3	学校図書館史1 欧米の学校図書館			10	経営評価1 施設・設備、情報源(学外学修:武蔵ヶ丘小学校)			
4	学校図書館史2 近代日本の学校図書館			11	経営評価2 職員、サービス			
5	学校図書館と法律1 教育基本法、学校教育法			12	学校内外の活動 ネットワーク、広報活動、集会行事			
6	学校図書館と法律2 学校図書館法、図書館法			13	司書教諭教育:大学教育、職員研修			
7	学校図書館の組織1 ヒト(司書教諭、学校司書、主任、図書館委員会、PTA、ボランティア)			14	現代の学校図書館研究:研究領域・方法、			
				15	まとめ 学校図書館の課題と展望			
関連科目				連絡先	Eメール hatada@shokei-gakuen.ac.jp Webサイト <a href="https://sites.google.com/site/hatadaweb/">https://sites.google.com/site/hatadaweb/</a> [畑田研究室] 検索 武蔵ヶ丘キャンパス管理棟3階 研究室122(研究室前にポスト有)			
資格	司書教諭資格			オフィスアワー	火曜 12:10-12:50 木曜 12:10-12:50			
教科書	ガイダンス時に話し合って決定する			備考	学外学修に伴う費用負担はなし			
参考資料	授業のなかで随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。							

科目名		単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
学習指導と学校図書館		2	くわばら よしや 桑原 芳哉	4年	前期	講義	司書教諭必修
授業概要	学校教育における学校図書館の役割を論じる際に、近年は情報リテラシーという用語をよく耳にするようになった。コンピュータとインターネットの一般家庭への普及によって、情報の加工が容易で固定化されない電子資料やネットワーク情報資源への的確な対応能力の育成が学校教育で求められている。本講義では、学習情報センターとしての学校図書館において、司書教諭が果たすべき情報活用能力の育成を中心に、その内容・方法・校内での推進計画等について具体的事例を取り上げて解説する。						
キーワード	学校図書館、学習指導、情報リテラシー教育、司書教諭						
到達目標	司書教諭資格取得のために履修すべき科目として、次の点を目標とする。 ①学校図書館や公共図書館の効果的な活用法について提言できる ②情報リテラシーについて正しい認識を持ち教授できる ③学校図書館の現状と課題に関する動向を知る						
受講生に望む事	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館及び公共図書館のホームページについて関心を持って閲覧すること。</li> <li>公共図書館及び大学図書館のレファレンスツールを積極的に利用すること。</li> </ul>						
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修として、教科書の各回の該当ページを通読し、理解しておくこと。</li> <li>事後学修として、配付した資料に掲載されている事例等について、Webサイト等により各自で確認し、理解を深めること。</li> </ul>						
評価方法	レポート 50% 期末にレポートの提出を求める。期限までに必ず提出のこと。 平常点評価 50% 発表・質問等についての積極性、授業態度等を評価する。						
回	授業計画						
1	ガイダンス 司書教諭科目における本科目の位置づけ（目的・意義）について						
2	学びの必要性と学校図書館の役割、学校教育カリキュラムと学校図書館（教科書 p. 10～47）						
3	主体的学習と情報活用能力の育成（1）情報活用能力育成の必要性（教科書 p. 48～55）						
4	主体的学習と情報活用能力の育成（2）図書館利用指導と情報活用能力の育成（教科書 p. 56～68）						
5	情報活用能力の育成：計画と方法 計画の作成と指導の方法（教科書 p. 69～92）						
6	学校図書館における情報サービス（1）情報サービスとレファレンスサービス（教科書 p. 93～99）						
7	学校図書館における情報サービス（2）学校における情報サービス（教科書 p. 99～111）						
8	学校図書館における情報サービス（3）ネットワーク情報源の活用（教科書 p. 108～118）						
9	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（1）						
10	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（2）						
11	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（3）						
12	学校図書館に関する最近の動向：事例紹介と議論（4）						
13	教職員に対する支援と働きかけ（1）教科教育における支援（教科書 p. 119～156）						
14	教職員に対する支援と働きかけ（2）総合的な学習の時間等における支援（教科書 p. 157～191）						
15	まとめ これからの学びを支える学校図書館の役割（教科書 p. 19～24）						
関連科目							
資格	司書教諭（必修）						
教科書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会・編『学習指導と学校図書館』（シリーズ学校図書館学 3巻） 全国学校図書館協議会 2010年発行（ISBN：978-4-7933-2244-0） ・教科書は必要に応じて適宜参照するので、毎回持参すること ・授業では毎回レジュメを配付する						
参考資料	文献・参考資料等については、授業時に適宜紹介する。						
連絡先	研究室（管理棟4階 研究室14） メール kuwabara@shokei-gakuen.ac.jp						
オフィスアワー	初回授業時以降に通知する。						
備考							

- 单位修得控
- 履修届控
- 管理棟平面図
- 大学校舎平面図







区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
教職に関する科目				
		合 計		

区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
司書に関する科目				
		合 計		

区分	授 業 科 目	成 績	単 位	備 考
司書教諭に関する科目				
		合 計		

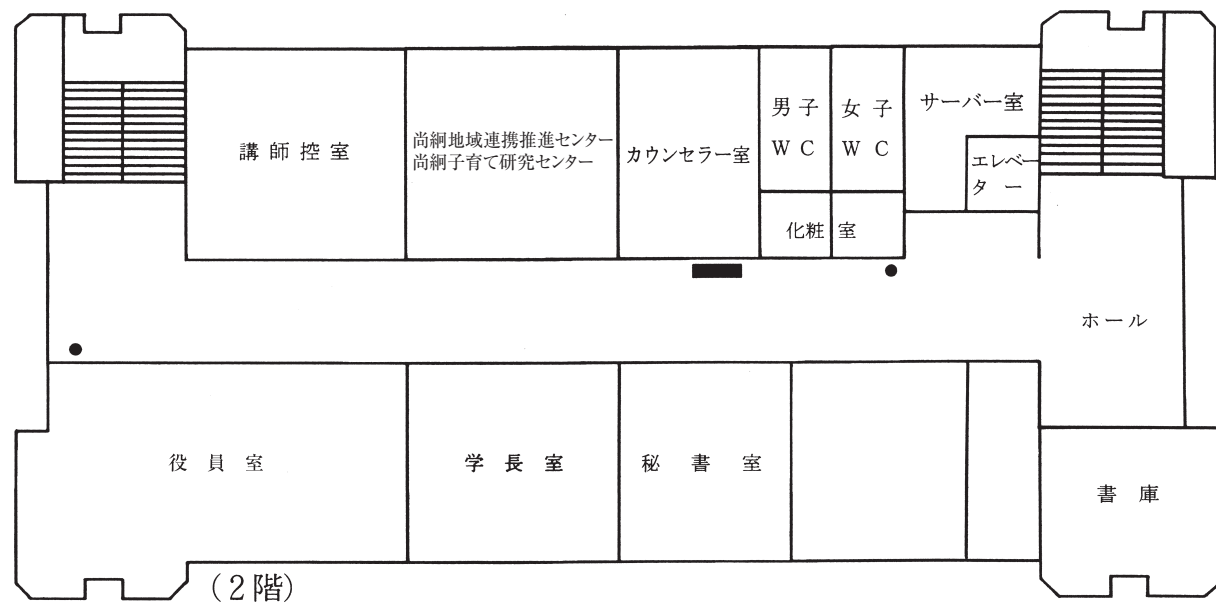
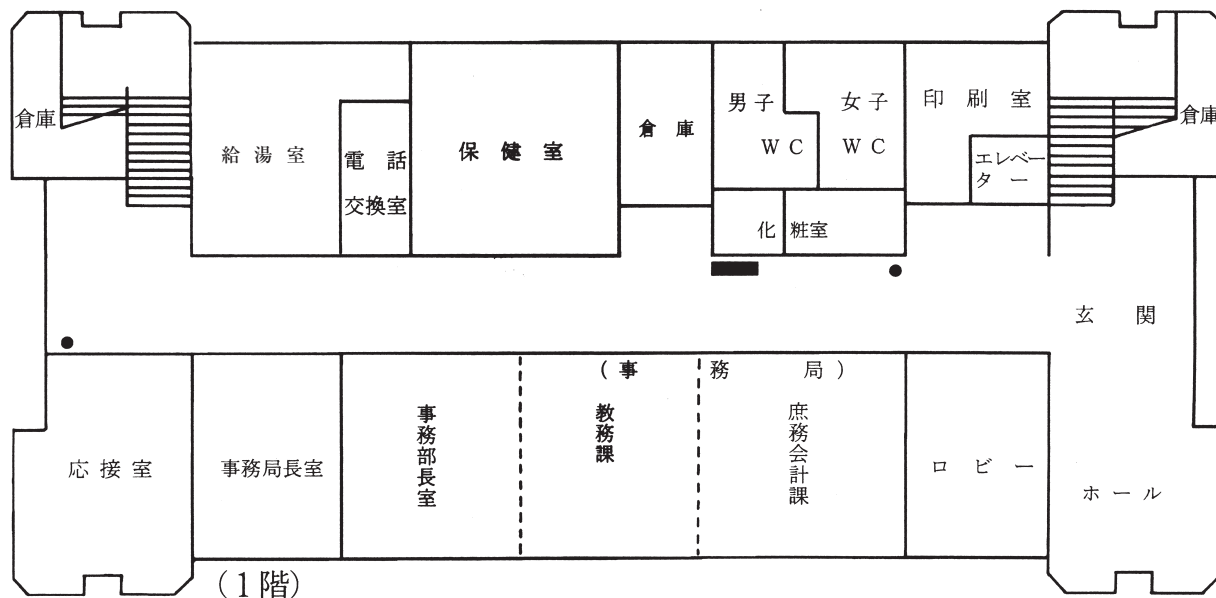
## 履 修 届 控

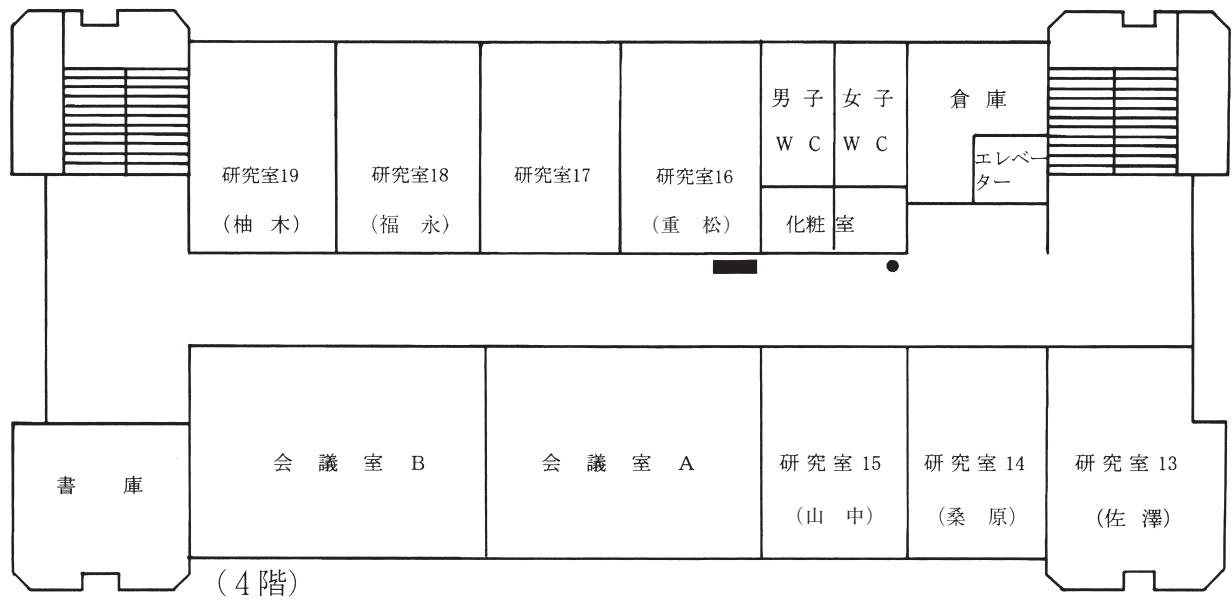
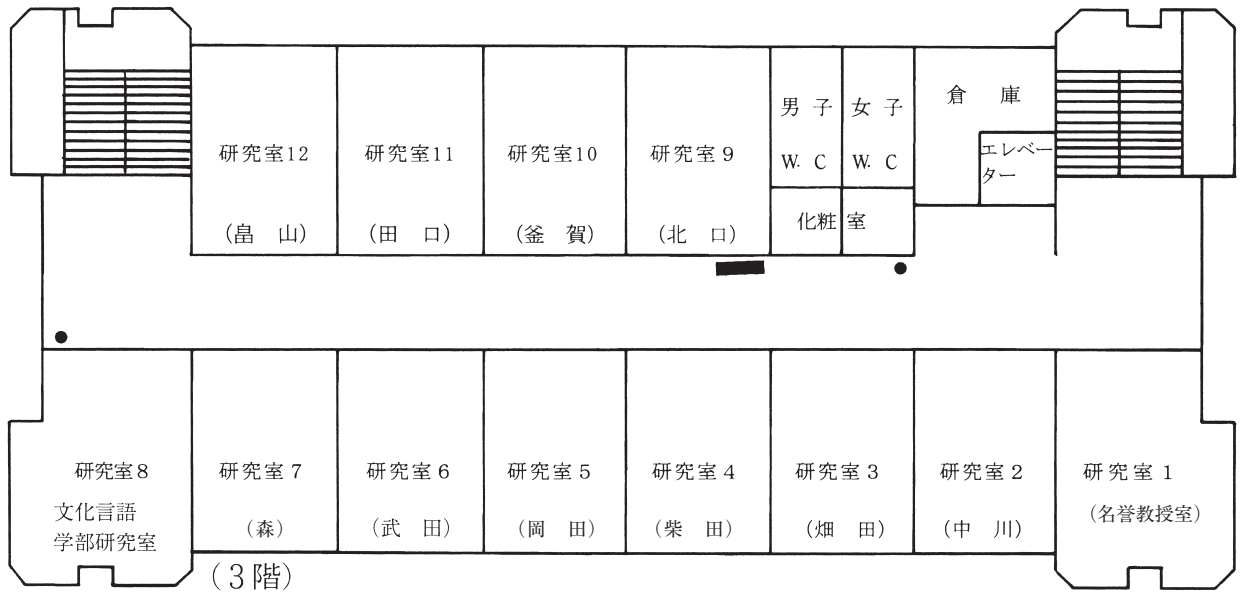
平成 年度 履修届控

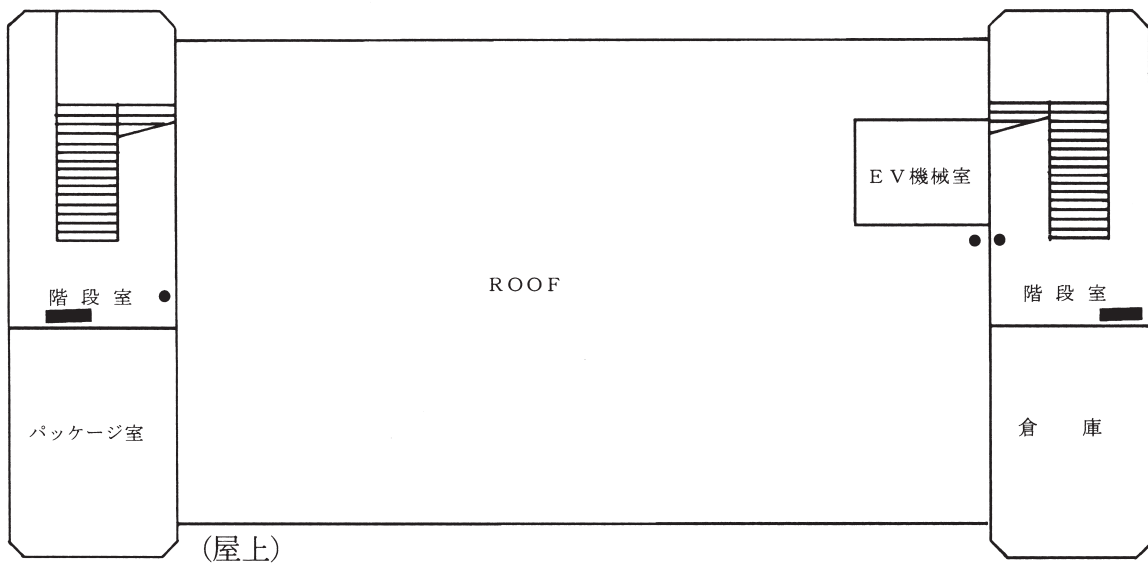
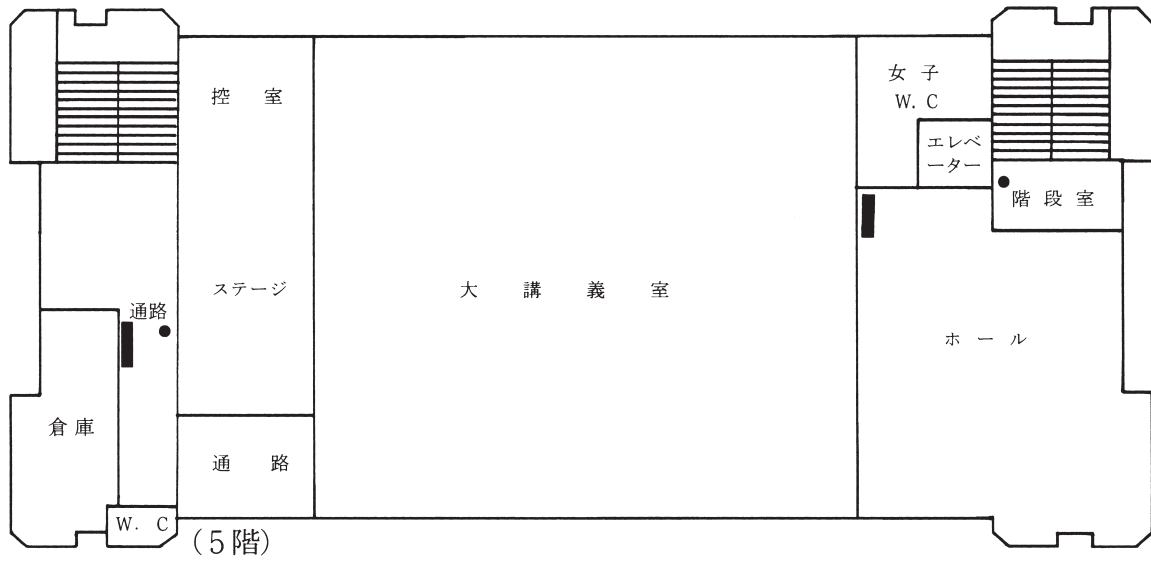
	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
月					
火					
水					
木					
金					
集中 講義					

3. 管理棟平面図

— 消火栓、火災報知機  
● 消火器







# 大学校舎平面図

- 消火栓、火災報知機
- 消火器

